

重訂清明考源目錄

著者金陵陳國屏一帆



序

自序

例言

第一章 佛教溯源

(一) 中國佛教緣起

(二) 七佛偈錄

(三) 天竺二十七祖偈錄

第二章 中華閩宗傳錄

(一) 中華初祖傳錄

(二) 中華二祖傳錄

(三) 中華三祖傳錄

(四) 中華四祖傳錄

(五) 中華五祖傳錄

(六) 中華六祖傳錄

(七) 五宗系統表

(八) 禪宗五派

(九) 十宗略說	三〇至三五
(十) 臨濟派緣起	三六
(十一) 碧峯禪師傳錄	三六至三七
第三章 清門溯源	三八
(一) 金祖傳錄	三九至四一
(二) 羅祖傳錄	四一至四五
(三) 陸祖傳錄	四五至四八
(四) 翁錢潘傳錄	四九至五七
(五) 小祖傳錄	五七至六〇
(六) 張家匹儂傳錄	六一
(七) 清水敦事錄	六二至六四
(八) 清門敦事錄	六四至六七
第四章 漕運沿革	六七
(一) 明代漕運	六七至七一
(二) 清代漕運	七一至七四
第五章 糧船制度	七四
(一) 造船計數	七四
(二) 船之尺寸	七四至七五

第六章 糧幫組織

(三) 船板計數	七五
(四) 船上對聯	七五至七六
(五) 三堂六部	七六
(六) 飛禽走獸	七七
(七) 器具別名	七七至七八

七八

第七章 糧幫分類

(一) 江蘇省二十一幫	七八
(二) 浙江省二十一幫	七八至七九
(三) 江廣十九幫	七九
(四) 湖南省十八幫	七九
(五) 安徽省十六幫	七九
(六) 松江府九幫	八〇
(七) 河南省九幫	八〇
(八) 直隸省一幫	八〇
(九) 桐船廳包四幫	八〇
(十) 山東省十幫半	八〇至八一
(一) 江淮四	八一
(二) 興武二	八一至八三 八四

(三) 興武四	八四至八七
(四) 興武五	八七
(五) 興武六	八七至九一
(六) 興武九	九一
(七) 嘉白	九一至九三
(八) 嘉海衛	九四
(九) 杭三	九四至九六
(十) 嘉興衛	九六至九七
(十一) 蘇前衛	九七
(十二) 海寧衛	九七
(十三) 紹興衛	九七
(十四) 正陽衛	九八
(十五) 常淮衛	九八
(十六) 武昌衛	九八
(十七) 南昌衛	九八
(十八) 吉安衛	九九
(十九) 德安衛	九九
(二〇) 河陽衛	九九
(二一) 鎮前	一〇〇

第八章 八省調兌

(一二二) 鎮後	一〇〇
(一二三) 九江幫	一〇〇至一〇一
(一二四) 雙鳳	一〇一至一〇三
(一二五) 甯波後	一〇三
(一二六) 江淮一	一〇三
(一二七) 杭海	一〇三至一〇四
(一二八) 河南衛	一〇四
(一二九) 廣昌衛	一〇四
(一三〇) 直德衛	一〇四至一〇五
(一三一) 長南衛	一〇五
(一三二) 東濟衛	一〇五
(一三三) 安遠衛	一〇五至一〇六
(一三四) 關山半幫	一〇六
(一) 各省派船數目	一〇六至一〇七
(二) 各省兌糧數目	一〇七
(三) 漕糧徵額折耗(附表)	一〇七至一〇九
(四) 各處運官姓名表	一〇九至一一〇
(五) 一百二十八幫半領幫當家	一一〇至一一七

第九章 香堂規範……………一一七

(一) 進幫須知……………	一一七至一一八
(二) 一般通則……………	一一九
(1.) 孝祖資格……………	一二九
(2.) 記名手續……………	一二九
(3.) 開法領衆……………	一二九至一二〇
(4.) 開法領衆表文……………	一二〇
(5.) 香堂種類……………	一二一
(6.) 香堂組織……………	一二二
(7.) 香堂職事……………	一二二
(8.) 香堂執事任滿……………	一二三至一二三
(9.) 靈前孝視……………	一二三
(10.) 寄名過房……………	一二三
(11.) 上香遞到……………	一二四
(12.) 換香收徒……………	一二四
(13.) 婦女孝祖……………	一二四至一二五
(14.) 上下稱呼……………	一二五至一二六
(15.) 下參儀式……………	一二六至一二七
(16.) 香堂參禮……………	一二七

(17)	香堂答禮	一二八
(18)	香燭格式	一二九
(19)	規訂帖式	一二九至一三〇
(20)	依字定名	一三一
(21)	指示九代	一三一至一三二
(22)	小香堂供奉牌位式	一三三
(23)	大香堂供奉牌位式	一三四
(24)	特別大香堂供奉牌位式	一三五
(25)	開大香堂香爐式	一三六
(三)	開小香堂	一三六至一三九
(四)	開大香堂	一四〇至一四六
(五)	開特別大香堂	一四七
(六)	開特別滿堂香	一四七
第十章 歌詞彙集		一四七
(一)	各種執事歌詞	一四八至一五三
(二)	各種上燭歌詞	一五五至一五七
(三)	各種上香歌詞	一五七至一五八
(四)	五枝包頭香詞	一五八至一五九
(五)	各種請祖歌詞	一五九至一六〇

(六) 各種送祖歌詞	一六〇至一六二
(七) 各種歌詞雜錄	一六二至一六三
(八) 遼碑集	一六四至一六五

第十一章 清門法規

(一) 十大幫規解說	一六五至一六八
------------	---------

(二) 十禁解說	一六八至一七一
----------	---------

(三) 十戒解說	一七一至一七三
----------	---------

(四) 十照解說	一七三至一七五
----------	---------

(五) 傳道十條	一七六至一七七
----------	---------

(六) 家法緣起	一七七至一七八
----------	---------

(七) 家法制度	一七八至一八〇
----------	---------

(八) 家法施用儀式	一八〇至一八二
------------	---------

(九) 家法十條	一八二至一八三
----------	---------

第十二章 家廟傳錄

(一) 各殿門匾對聯	一八三至一八四
------------	---------

(二) 家廟香燭分量	一八四至一九五
------------	---------

(三) 燭台分量	一八五
----------	-----

(四) 家廟內用物器具數目分量	一八五
-----------------	-----

(五) 家譜(上冊)	一八五至一九二
------------	---------

第十三章 幫中雜誌

(六) 乾隆三朝九代	一九二
(七) 家譜(下冊)	一九三至二〇九
(八) 祖師生誕紀念表	二一〇
(九) 十二庵堂師紀念表	二一〇至二一一
(十) 家譜前二十四字派增註	二一二
(十一) 家譜後二十四字派增註	二一二至二二三
(一) 天庾正供	二二三
(二) 旱碼頭孝祖	二二三至二二四
(三) 潘祖雀龜	二二四至二二五
(四) 漕斛	二二五
(五) 徐州小分支	二二五至二二六
(六) 拖駁船	二二六至二二七
(七) 漕糧經過河道	二二七
(八) 銅錢關	二二七
(九) 分水龍王廟	二二七
(十) 三位祖師成績考	二二七至二二八
(十一) 七種孝祖名稱	二二八
(十二) 幫中三位當家	二二八
(十三) 三教九流	二二八

(十四) 花頭殿子	二一八
(十五) 過兩神戲	二一九
(十六) 太平繪	二一九
(十七) 祖爺草鞋	二一九
(十八) 小祖娘結	二一九
(十九) 橫幫公所	二一九
(二〇) 半幫船	二一九至二二〇
(二一) 三家祖師夫人姓氏籍貫堂名	二二〇
(二二) 各幫所名	二二〇
(二三) 五幫五所	二二〇至二二一
(二四) 三把鎗匙三杆名稱	二二一
(二五) 三木四柱	二二一
(二六) 三個鐵錨地點	二二一
(二七) 原有船廠名稱地址	二二一
(二八) 翁錢潘三祖祠堂	二二一
(二九) 三家祖爺墓制	二二一至二二二
(三〇) 半節大桅	二二二
(三一) 幫中三從四德說	二二二
(三二) 運糧三不到及三開對三宮	二二二
(三三) 三鋪鑰三開	二二三

第十四章 山海河洛溯源

(三四) 船上三堂及三老四少	一二一
(三五) 僧道八司	一二一
(三六) 幫中十大	一二一
(三七) 新立五戒	一二三
(三八) 老堂六處領慈孝祖	一二三
(三九) 糧船行時風浪	一二三
(四〇) 潘祖遺像	一二三
第十四章 山海河洛溯源	一二四
(一) 二十四條半河	一二四至一二一
(二) 七十二道半閘	一二一至一二一
(三) 七十二個半碼頭	一二一至一二三
(四) 五洲	一二三
(五) 九江	一二三至一二五
(六) 八河	一二六
(七) 天下第一山	一二六至一二七
(八) 四大名山	一二七至一二八
(九) 九州	一二八
(十) 三山	一二九
(十一) 三個半島	一二九至一四〇
(十二) 五嶽	一四〇至一四一

(十三) 三江	二四一
(十四) 四洋	二四一至二四二
(十五) 五湖	二四二
(十六) 四海	二四二至二四三
(十七) 二十四州	二四三
(十八) 四衛四碼頭	二四三
(十九) 三關五壩	二四三
(二十) 三關六操	二四四
(二十一) 七汶九灣	二四四
(二十二) 八塔七橋	二四四
(二十三) 上下八府	二四四
第十五章 問答要義	二四四至二五〇
第十六章 各項切口	二五〇至二七〇
第十七章 芻言	二七〇至二八一
第十八章 近代家裏知聞錄	二八一至三一三

重訂 加註 清門考源目錄終

第一章 佛教溯源

(一) 中國佛教緣起

佛教始祖名曰釋迦牟尼原名悉達。乃北印度迦毗羅城主。淨飯王之子。母耶摩夫人。生於中國黃帝紀元二千一百四十年。時在周靈王十五年。四月初八日。(即基督紀元之前五百五十七年)於十六歲。娶妻。名耶輸多羅。生一子。十九歲。入雪山。修行六年。在迦耶山間。菩提樹下。大有所悟。遂西出說法。以普度衆生。超凡成佛爲旨。從者甚衆。信徒中。有大迦葉。阿難陀。舍利弗。須菩提。富樓那。目犍連。迦旃延。阿那律。優婆塞。羅睺羅。十人。世稱之爲佛門十哲。傳道凡四十餘年。頗受世人信仰。至周赧王四十年。圓寂於跋陀河。之遮羅雙樹下。時年八十。後世尊爲釋迦文佛。亦號如來。乃佛教鼻祖。迨至漢武帝。己未年。遣張騫使西域。始與塞國通。由此得悉。西方尚有佛國。丙寅年。武帝起柏梁台。作承露盤。再使西域。天竺。才與中國通。迨至漢明帝八年。己丑歲。帝夢金人。左手持弓。右手執二箭。搭於絃上。旁身向帝射擊。帝驚醒時值三更迨至五鼓上朝。詢問羣臣吉凶。張壽奏曰。帝夢意義。似佛字之形。且金屬西方之像。向帝作射狀。必有西來之意。主公何不迎之。以應吉兆。帝嘉其奏。命使至天竺。以求佛法。釋氏弟子。慨然應聘。至是。中國始有佛教。首建寺院。繼而造廟立庵。由此男僧女尼。普及各地。傳至晉宋。佛教更盛。皈依弟子日衆。遂置僧官。維持宗教綱紀。

(一一) 七佛偈錄

過去莊嚴劫 毘婆尸佛 身從無相中受生 猶如幻出諸形像
第九百九十八尊 幻人心識本來無 罪福皆空無所在

第九百九十九尊 尸棄佛 起諸善法本是幻 造諸惡業亦是幻
身如聚沫心如風 幻出無根無實性

第 豐千尊 毘舍浮佛 假借四大以爲身 心本無生因境有
前境若無心亦無 罪福如幻起亦滅

現在賢劫 第一尊 拘留孫佛 見身無實是佛身 了心如幻是佛幻
了得身心本性空 斯人與佛何殊別

第二尊 拘那含牟尼佛 佛不見身知是佛 若是有知別無佛
智者能知罪性空 坦蕩不怖於生死

第三尊 迦葉佛 一切衆生心清淨 從本無生無可滅
卽此身心是幻生 幻化之中無罪福

第四尊 釋迦牟尼佛 法本法無法 無法法亦法
今付無法時 法法何曾法

(三) 天竺三十七祖偈錄

第 九 祖	第 八 祖	第 七 祖	第 六 祖	第 五 祖	第 四 祖	第 三 祖	第 二 祖	第 一 祖	天竺
伏 默 蜜 多	佛 陀 難 提	婆 須 蜜	彌 遮 迦	提 多 迦	優 婆 毘 多	商 那 和 修	阿 難	摩 訶 迦 葉	
受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名	受得眞實法 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名 眞理不無名

第十祖 脇尊者

眞體自然眞因眞說有理
領得眞眞法亦行亦無止

第十一祖 富那夜奢

迷悟如隱顯明暗不相離
今付隱顯法非一亦非二

第十二祖 馬鳴大士

隱顯卽本法明暗元不二
今付悟了法非取亦非離

第十三祖 迦毘摩羅

非隱非顯法說是眞實際
悟此隱顯法非愚亦非智

第十四祖 龍振尊者

爲明隱顯法方說解脫理
於法心不證無瞋亦無喜

第十五祖 迦那提婆

本對傳法人爲說解脫理
於法實無證無終亦無始

第十六祖 羅睺羅多

於法實無證不取亦不離
法非有無相內外云何起

第十七祖 僧迦難提

心地本無生因地從緣起
緣種不相妨華果亦復爾

第十八祖 伽耶舍多

有種有心地因緣能發萌
於緣不相礙當生生不生

第十九祖鳩摩羅多

性上本無生爲對求人說
於法既無得何懷決不決

第二十祖闍夜多

言下合無生同於法界性
若能如是解通達事理境

第二十一祖婆修槃頭

泡幻同無礙如何不了悟
達法在其中非今亦非古

第二十二祖摩拏羅

心隨萬境轉轉處實能幽
隨流認得性無喜復無憂

第二十三祖鵞勒那

認得心性時可說不思議
了了無可得得時不說知

第二十四祖師子比丘

正說知見時知見俱是心
當心即知見知見即于今

第二十五祖婆舍斯多

聖人說知見當境無是非
我今悟眞性無道亦無理

第二十六祖不如蜜多

眞性心地藏無頭亦無尾
應緣而化物方便呼爲智

第二十七祖般若多羅

心地生諸種因事復生理
果滿菩提圓華開世界起

第二章 中華闡宗傳錄

(一) 中華初祖傳錄

天竺第二十八祖 菩提達摩西天竺國。香至王第三子也。姓刹帝利。本名菩提多羅。後遇二十七祖。般若多羅。到本國。受王歡迎供養。知尊者。(二十七祖)密迹。因試令與二兄。辨所施二寶珠。發明心要。既而尊者對達摩曰。汝於諸法。已得通量。夫達摩二字者。有通大之義也。汝宜改名達摩。因之改菩提多羅爲菩提達摩。旋即達摩告尊者曰。我既得法。當往何國而作佛事。願垂開示。尊者曰。汝雖得法。未可遽遊且至南天竺。吾滅後六十七年。當往震旦。設大法藥。直接上根。慎勿速行。衰於日下。達摩又向尊者曰。彼有大士。堪爲法器否。千載之下。有留難否。尊者曰。汝所化之方。獲善者提。不可勝數。吾滅後六十餘年。彼國有難。水中文布。自善降之。汝至時刻。南方勿住。彼唯好有爲功業。不見佛理。汝縱到彼。亦不可久留。聽我偈曰「路行陸水復遙羊。獨自悽悽闊渡江。日下可憐雙象馬。二株嫩桂久昌昌」復演八偈。皆預識佛教隆替。「事具寶林傳及聖賢集」達摩恭稟教義服勤左右。垂四十年。未嘗廢闕。迨二十七祖涅槃。本國有二師。一名佛大先。一名佛大勝多。本與達摩同學佛陀跋陀小乘禪觀。佛大先既遇般若多羅尊者。捨小取大。與達摩並化。時號二甘露門。而佛大勝多更分途。而爲「六宗」。所謂六宗者。第一宗是「有相宗」。第二是「無相宗」。第三是

「定慧宗」。第四是「戒行宗」。第五是「無得宗」。第六是「寂靜宗」。各封已解。別展化源。聚落崢嶸。徒衆甚盛。達摩喟然而歎曰。彼此一師。已陷牛跡。况復支離繁盛。而分六宗。我若不除。永無邪見。言已。微現神力。乃至第一「有相宗」所問曰。一切諸法。何名實相。彼衆中。有一尊長。薩婆羅答曰。於諸相中。不互諸相。是名實相。達摩曰。當何定耶。薩婆羅答曰。於諸相中。實無定。若定諸法。何名爲實。達摩曰。諸相不定。便名實相。你今不定。當何得之。薩婆羅答曰。我言不定。不說諸相。當說諸相。其義亦然。達摩曰。汝言不定。當爲實相。定不定故。卽非實相。薩婆羅答曰。定既不定。卽非實相。知我非故。不定不變。達摩曰。汝今不變。何名實相。已變已往。其義亦然。薩婆羅答曰。不變當在。在不在故。故變實相。以定其義。達摩曰。實相不變。變卽非實。於有無中。何名實相。辨論至此。薩婆羅心知聖師。懸解潛達。卽以手指虛空。此是世間有相。亦能空故。當我此身。得似否。達摩答曰。若解實相。卽見非相。若了非相。其色亦然。當於色中。不失色體。於非相中。不礙有故。若能是解。此名實相。薩婆羅及有相宗徒衆聞已。心意朗然。欽禮信受。達摩又瞥然匿跡。至第二無相宗所。問曰。汝言無相。當何證之。彼衆中。有智者。波羅提答曰。我明無相。心不現故。達摩曰。你心不現。當何明之。波羅提答曰。我明無相。心不取捨。當於明時。亦無當者。達摩曰。於諸有無。心不取捨。亦無當者。諸明無故。波羅提答曰。入佛三昧。尙無所得。何況無相。而欲知之。達摩曰。相既不知。誰云有無。尙無所得。何名三昧。波羅提答曰。我說不證。證無所證。非三昧故。

·我說三昧。達摩曰。非三昧者。何當名之。汝既不證。非證何證。波羅提問達摩辯析。即悟本心。禮謝懺悔往惡。達摩記曰。汝當得果。不久證之。此國有魔。非久降之。言已忽然不現。波羅提及諸無相宗衆歎呼不已。達摩又至第三定慧宗所廢去問曰。汝學定慧。爲一爲二。彼衆中有婆蘭陀者。答曰。我此定慧。非一非二。達摩曰。既非一二。何名定慧。婆蘭陀答曰。在定非定。處慧非慧。一卽非一。二亦不二。達摩曰。當一不一。當二不二。既非定慧。約何定慧。婆蘭陀答曰。不一不二。定慧能知。非定非慧。亦復然矣。達摩曰。慧非定故。然何知哉。不一不二。誰定誰慧。婆蘭陀聞之。疑心冰釋。達摩又至第四戒行宗所問曰。何者名戒。何云名行。當此戒行。爲一爲二。彼衆中有一賢者答曰。一二二一。皆彼所生。依教無染。此名戒行。達摩曰。汝言依教。卽是有染。一二俱破。何言依教。此二違背。不及於行。內外非明。何名爲戒。賢者答曰。我有內外。彼已知竟。既得通達。便是戒行。若說違背。俱是俱非。言及清淨。卽戒卽行。達摩曰。俱是俱非。何言清淨。既得通故。何談內外。賢者助之。卽自慚服。達摩旋至第五無得宗所問曰。汝云無得。無得何得。既無所得。亦無得得。彼衆中有寶淨者。答曰。我說無得。非無得得。當說得得。無得是得。達摩曰。得已不得。得亦非得。既云得得。得得何得。寶淨答曰。見得非得。非得是得。若見不得。名爲得得。達摩曰。得既非得。得得無得。既云所得。當何得得。寶淨聞之。頓除疑網。達摩又至第六寂靜宗所問曰。何名寂靜。於此法中。豈靜誰寂。彼衆中有尊者答曰。此心不動。是名爲寂。於法無染。名之爲靜。達摩曰。本心

不寂。要假寂靜。本來寂故。何用寂靜。尊者答曰。諸法本空。以空空故。於彼空空。故名寂靜。達摩曰。空空已空。諸法亦爾。寂靜無相。何靜何寂。尊者聞達摩指謨。豁然開悟。既而六衆。咸誓歸依。由是化被南天。聲馳五印。遠近學者。靡然嚮風。經六十餘載。度無量衆。後值異見國王輕毀三寶。每對衆臣僚云。我之祖宗。皆信佛道。陷於邪見。壽年不永。運祚亦促。且我身是佛。何更外求。善惡報應。皆因多智之者。妄構其說。至於國內耆舊。爲前王所率者。悉從廢黜。達摩知己。歎彼德薄。當何救之。又念無相宗中二首領。其一名波羅提者。與王有緣。將證其果。其二名宗勝者。非不博辯。而無宿因。時六宗徒衆。亦各念言。佛法有難。師何自安。達摩遙知衆意。卽彈指應之。六衆聞之。云此是我師達摩信譽。我等宜須速行。以副慈命。言已。至師所。禮拜問訊。達摩曰。今一葉翳虛。孰能剪拂。宗勝答曰。我雖淺薄。敢憚其行。達摩曰。汝雖辯慧。而道力未全。宗勝自念。我師恐我見王。作大佛事。名譽顯達。映奪尊威。縱彼福慧爲王。我是沙門。受佛教旨。豈難敵也。言訖。潛行至王所。廣說法要。及世界苦樂人天善惡等事。王與之往返徵詰。無不詣理。王曰。汝今所解。其法何在。宗勝答曰。如王治化。當合其道。王所有道何在。王曰。我所有道。將除邪法。汝所有法。將伏何人。此時。達摩不起於座。應知宗勝義墮。遽告波羅提曰。宗勝不棄我教。潛化於王。須臾卽屈。汝可速救。波羅提恭稟師旨。願假神力。言已。雲生足下。至王前。默然而住。此時王正問宗勝。忽見波羅提乘雲而至。愕然忘其問答。卽曰。乘空之者。是正是邪。波羅提答曰。我非邪正。而來

正邪。王心若正。我無邪正。王雖驚異。而驕慢方熾。即擯宗勝。令出。波羅提曰。王既有道。何擯沙門。我雖無解。願王致問。王怒而問曰。何者是佛。波羅提答曰。見性是佛。王曰。師見性否。波羅提答曰。我見佛性。王曰。性在何處。波羅提答曰。性在作用。王曰。是何作用。我今不見。波羅提答曰。今見作用。王自不見。王曰。於我有否。波羅提答曰。王若作用。無有不是。王若不用。體是難見。王曰。若當用時。幾處出現。波羅提答曰。若出現時。當有其八。王曰。其八出現。當爲我說。波羅提即說偈曰。『在胎爲身。處世名人。在眼曰見。在耳曰聞。在鼻辨香。在口談論。在手執提。在足運奔。』偏現俱該沙界。收攝在一微塵。識者知是佛性。不識呼喚精魂。王聞偈已。心即開悟。乃悔謝前非。咨詢法要。朝夕忘倦。迄於九旬。時宗勝既被斥逐。退藏深山。念曰。我今百歲。八十爲非。二十年來。方歸佛道。性雖愚昧。行猶瑕疵。不能禦難。生何如死。曾訖。即自投崖。俄有一神人。以手捧承。置於巖石之上。安然無損。宗勝曰。我忝沙門。當與正法爲主。不能抑絕王非。是以捐身自責。何神祐助。一至於斯。願垂一語。以保餘年。於是神人。乃說偈曰。『師壽於百歲。八十而造非。爲近至尊故。熏修而入道。雖具少智慧。而多有彼我。所見諸賢等。未嘗生珍敬。二十年功德。其心未恬靜。聰明輕慢故。而獲至於此。得王不敬者。當感果如是。自今不疎怠。不久成奇智。諸聖悉存心。如來亦復爾。』宗勝聞偈。欣然。即於巖間安坐。時異見王復問波羅提曰。仁者智辯。當師何人。波羅提答曰。我所出家即髮羅寺。烏沙婆三藏爲授業師。其出世師者。即大王叔。菩提達摩是也。王聞師名。驚

默思久之。曰、鄙薄忝嗣王位。而遷邪背正。忘我尊叔。遽赦近臣。特加迎請。達摩隨使而至。爲王懺悔往非。王聞規誡。泣謝於師。又詔宗勝歸國。大臣奏曰。宗勝被誅投厝。今已亡矣。王告師曰。宗勝之死。皆自於我。如何大慈。令免斯罪。達摩曰。宗勝今在巖間。石上宴息。但遣使召之。當卽至矣。王卽遣使入山。果見宗勝端居禪寂。宗勝蒙召。乃曰。深愧王意。貧僧誓處巖泉。且國王賢德如林。達摩是王之叔。六衆所師。波羅提是法中龍象。願王崇仰二聖。以福皇基。在使者復命未至時。達摩謂王曰。知取得宗勝否。王曰。未知。達摩曰。一請未至。再命必來。良久使還。果如所語。達摩遂辭王曰。當善修德。不久疾作。吾且去矣。經七日。王乃得疾。國醫診治。有加無瘳。貴戚近臣。憶達摩前語。急發使告達摩曰。王疾殆至。願叔王慈惠。速來診救。達摩卽至王所。慰問其疾。時宗勝再承王召。卽別巖間。波羅提久受王恩。亦來問疾。達摩曰。當何施爲。令王免苦。達摩隨卽令太子爲王。宥罪施恩。崇奉僧寶。復爲王懺悔云。願罪消滅。如是者三。王疾有間。達摩心念籌且緣熟。行化時至。乃先辭祖塔。次別同學。後至王所。慰而勉之。常勸修日業。維持三寶。吾去非晚。一九卽還。王聞師言。涕泣交頤曰。此國何罪。被土何祥。叔王既有緣。非吾所能止。唯願叔王不忘父母之國。事畢早還。王卽具大舟。實以衆寶。躬率臣寮。送至海埔。達摩汎重溟。經三週寒暑。才達於中南海。時在南北朝梁武帝二十六年（西曆五二七年）卽大通元年丁未歲九月二十一日。廣州刺史蕭昂具鼎禮迎接。奏聞。武帝覽奏。遣使齎詔迎請。於十月一日。達摩至金陵。武帝問曰。朕卽位已來。遣寺寫經。度僧

不可勝記。有何功德。達摩曰。此但人天小果。有漏之因。如影隨形。雖有非實。武帝曰。如何是真功德。達摩答曰。淨智妙圓。體自空寂。如是功德。不以世求。武帝又問曰。如何是聖諦第一義。達摩答曰。廓然無聖。武帝曰。對朕者誰。達摩答曰。不識。武帝不領悟。達摩知機不契。是月十九日。潛行。武帝聞之。即率臣寮追至江邊。達摩乃現神力。已立在一枝蘆葦之上。飄飄搖搖過江而去。忽見灘上有草鞋一隻和尋視脚跡。確係達摩之物。役人於此處築一水閣。名曰草鞋閣。（另一筆記云。達摩至江邊。四顧無舟。只有一灘蘆葦。遂合掌向西念三句阿彌陀佛。就折下一根蘆葦。視之。一花五葉。當曰。東土禪宗。從此五派相傳。遂將蘆葦丟在江面。跳身站立蘆上。飄飄搖搖。過江北去。）留有偈曰。『西來北往不計秋。爲法求人到神洲。一蘆渡江北魏去。震旦從此佛法留。』遁於十一月二十三日。屆於洛陽。當後魏孝明十年也。寓止嵩山少林寺面壁而坐。終日默然。人莫之測。謂之壁觀婆羅門。時有僧神光者。曠達之士也。久居伊洛。博覽經書。善談玄理。每嘆曰。孔老之教。禮術風規。莊易之書。未盡妙理。近聞達摩大師住止少林。至人不遙。當造玄境。乃往彼。晨夕參承。師（達摩）常端坐面牆。莫聞海勵。神光自惟曰。昔人求道。敲骨取髓。剝血濟飢。布髮掩泥。投崖飼虎。古尚若在。我又何人。其年十二月九日夜。天大雨雪。神光堅立不動。遲明積雪過膝。達摩憫而問曰。汝久立雪中。當求何事。神光悲淚答曰。惟願和尚慈悲。開甘露門。廣度羣品。達摩曰。諸佛無上妙道。曠劫精勤難行。能行非忍而忍。豈以小德。小智。輕心。慢心。欲冀真乘。徒勞勤苦。神光聞師嘉勵。潛取利刀。自

斷左臂。置於師前。達摩知是法器。乃曰。諸佛最初求道。爲法忘形。汝今斷臂吾前。求亦可在。達摩遂因與易名曰。慧可。神光曰。我心未寧。乞師與安。達摩曰。將心來。與汝安。神光答曰。覓心了。不可得。達摩曰。我與汝安心竟。後魏孝明帝。聞達摩異跡。遣使齎詔徵求。前後三至。達摩不下少林。孝明帝彌加欽倚。就賜摩納袈裟三領。金鉢。銀水餅。紺帛等。達摩固讓。三返。帝意彌堅。達摩乃受之。自爾緇白之衆。倍加信向。迄九年。已欲西返天竺。乃命門人曰。時將至矣。汝等。盡各言所得乎。時門人道副對曰。如我所見。不執文字。不離文字。而爲道用。達摩曰。汝得吾皮。尼總持曰。我今所解。如慶喜。見阿閼佛國。一見更不再見。達摩曰。汝得吾肉。道育曰。四大本空。五陰非有。而我見處。無一法可得。達摩曰。汝得吾骨。最後慧可乃禮拜之。依位而立。達摩曰。汝得吾髓。乃顧慧可而告之曰。昔如來以正法眼。付迦葉大士。展轉囑累。而至於我。我今付汝。汝當護持。并授汝袈裟。以爲法信。各有所表。宜可知矣。慧可曰。請師指陳。達摩曰。內傳法印。以契證心。外付袈裟。以定宗旨。後代鴻濛。髮慮發生。云吾西天之人。言汝此方之子。憑何得法。以何證之。汝今受此衣法。却後難生。但出此衣。并吾法偈。用以表明。其化無礙。至吾滅後二百年。衣止不傳。法周沙界。明道者多。行道者少。說理者多。通理者少。偈符密證。千萬有餘。汝當闡揚。勿輕未悟。一念迴機。便同本得。聽吾偈曰。『吾本來茲土。傳法救迷情。一花開五葉。結果自然成。』達摩又曰。吾有楞伽經四卷。亦用付汝。卽是。如來心地要門。令諸衆生。開示悟人。吾自到此。凡五度中毒。我常自出。而試之。

。澄石石裂。緣吾本願南印。來此東土。見赤縣。神州有大乘氣象。遂踐海越漠。爲法求人。際會未盡。如愚若訥。今得汝傳授。吾意已移。言已。乃與徒衆。往禹門千聖寺上三日。有期城太守楊街之。早慕佛乘。向達摩問曰。西天五印。師承爲祖。其道如何。達摩曰。明佛心宗。行解相應。名之曰祖。街之問曰。此外如何。達摩曰。須明他心。知其今古。不厭有無。於法無取。不賢不愚。無迷無悟。若能是解。故稱爲祖。街之曰。弟子歸心三寶。亦有年矣。而智慧昏蒙。尙迷真理。適聽師言。罔知攸措。願師慈悲。開示宗旨。達摩知其懇到。卽偈曰。『亦不覩惡而生嫌。亦不覩善而動憎。亦不捨智而近愚。亦不拋迷而就悟。達大道兮過量。兩佛心兮出度。不與凡聖同躋。超然名之曰祖。』街之聞偈。悲喜交集。曰。願師久住世間。化導羣有。達摩曰。吾卽逝矣。不可久留。根性萬差。多逢患難。街之曰。未審何人。弟子爲師除得。達摩曰。吾以傳佛秘密。利往迷途。害彼自安。必無此理。街之曰。師若不言。何表通變觀照之力。達摩不獲已。乃爲偈曰。『江槎分玉浪。管炬開金鎖。五口相共行。九十無彼我』。街之聞語。莫究其端。默記於懷。禮辭而去。按達摩之所識。雖當時不測。而後皆符驗。時魏氏率釋。譚焉如林。光統律師。流支三藏者。乃僧中之鸞鳳也。覩達摩演道。斥相指心。每與達摩論議。是非紛起。達摩還振玄風。普施法雨。而偏局之量。自不堪任。競起害心。數加毒藥。至第六度。以化緣已畢。傳法得人。遂不復救之。端居而逝。卽後魏孝明帝。太和十九年。丙辰歲。十月五日也。其年。十二月八日。葬於熊耳山。起塔於定林寺。後三歲。魏宋雲。奉使西城。遇過達摩於慈嶺。見手攜

復履。翩翩獨遊。宋靈問師何往。達摩曰。西天去。又謂靈曰。汝主已厭世。雲開之茫然。別師東邁。賢復命。即明帝已登遐矣。追奉莊即位。雲具奏其事。帝令啓墳。惟空棺。一蓑革履存焉。舉朝爲之駭歎。奉詔。取遺履。於少林寺供養。至唐開元十五年。丁卯歲。爲信道者。竊在五台山。華嚴寺今不知所在矣。初梁武帝過達摩。因緣未契。及開化行魏邦。欲自撰達摩碑而未暇。後聞宋靈事。乃成之。代宗諡達摩爲圓覺大師。建塔曰空觀。

攷查達摩至吾中國廣州時在（西歷五二七年）至民國二十五年丙子歲（西歷一九三六年）止共計有千四百零九年矣。而達摩祖師涅槃。確是。時在梁武帝三十二年。即大一年。值魏孝明帝之二十一年。（西歷五百三十六年）古歷年建丙辰歲十月初五日。爲眞確日明。按傳燈錄所載。後魏孝明帝太和十九年丙辰歲十月五日達摩逝世。此中有誤。編者以世界大事記考査。幾點列下。（一）太和是魏明帝之闕號。就太和考査。推算太和十年。是丙辰歲。而相隔後魏孝明帝時。有二百四十四年之遠。（二）後魏宣武帝時。在齊永元二年。（西歷五百年）宣武帝崩於梁武帝。天監十四年乙未歲。（西歷五百十五年）而後魏孝明帝。立胡太后稱制。是在（西歷五十六年）。（三）就後魏孝明十九年推考。此年確是甲寅歲。（四）傳燈錄載自達摩涅槃年在魏孝明帝丙辰年（西歷五三六年）推至宋景德元年（西歷一〇〇四年）止。計得四百六十七年。（五）編者以古歷甲子紀元推算。併以西歷參考。自（西歷五百三十六年）至今中華民國二十五年丙子歲（西歷一九三六年）止。則

蓮華道場已有一千四百年矣」

二 中華二祖傳錄

中華第二祖慧可大師。武牢婁氏子也。父名寂。未有子時。嘗自念言。我家崇善。豈無令人。禮之既久。一夕忽異光照室。其母因而懷妊。及長。遂以照室之瑞。取名曰光。自幼志氣不羣。博涉詩書。尤精玄理。而不事家產。好遊山水。後覽佛書。超然自得。即抵洛陽。龍山香山。依寶靜禪師出家。受具於禾穰寺。浮游講肆。徧學大小乘義。年三十二。却返香山。終日宴坐。又經八載。於寂默中候見一神人。謂將欲受果。何滯此耶。大道匪遙。汝其南矣。光知神助。因改名神光。翌日覺頭痛如刺。其師欲治之。空中有聲曰。此乃換骨。非常痛也。光遂以見神事白於師。師視其頂骨。即如五峯秀出矣。乃曰。汝相吉祥。當有所證。神令汝南者。斯則少林達摩大師必汝之師也。光受教造於少室。其得法傳衣事跡。已見前篇。自初祖達摩少林託化西歸。大師繼闡玄風。博求法嗣。至北齊天嘉二年。辛巳歲。有一居士。年踰四十。不言名氏。車來殷禮。而問二祖曰。弟子身纏風恙。請和尚懺罪。師曰。將罪來與汝懺。居士良久云。覺罪不可得。二祖曰。我與汝懺罪竟。宜依佛法僧。居士曰。今見和尚。已知是僧。未審何名佛法。二祖曰。是心是佛。是心是法。法佛無二。僧寶亦然。居士曰。今日始知罪性不在內。不在外。不在中間。如其心然。佛法無二也。二祖深器之。即為剃髮。云是吾寶也。宜名僧璨。年三月十八日。於光闕寺受具。自茲疾漸愈。執侍經二載。二祖乃告曰。菩提達摩。遠自竺乾。以正法眼藏

。將付於吾。吾今授汝并達摩信衣。汝當守護。無令斷絕。聽吾偈曰。『本來緣有地。因地種藕生。本來無有種。華亦不曾生。』二祖大師付衣法已。又曰。汝受吾教。宜處深山。未可行化。當有國難。僧璨曰。師既預知。願垂亦誨。師曰。非吾知也。斯乃達摩傳般若多羅隱記云。心中雖吉。外頭凶。是也。吾校年代。正在於茲。當諦思前言。勿罹世難。然吾亦有宿累。今要酬之。善去善行。俟時傳付。二祖付屬已。卽於鄴都隨宜說法。一音演暢。四衆歸依。如是。積三十四載。遂翫光混跡。變易儀相。或入諸酒肆。或過於屠門。或習街談。或隨厮役。人問之曰。師是道人。何故如是。二祖曰。我自調心。何關汝事。又於樊城縣。匡救寺。三門下。談無上道德。聽者林會。時有辯和法師者。於寺中購涅槃經。學徒聞師闡法。稍稍引去。辯和不勝其憤。輿謗於邑宰翟仲侃。仲侃惑其邪說。加二祖以非法。二祖怡然委順。識真者。謂之眞債。時年一百七歲。卽隋文帝。開皇十三年。癸丑歲。三月十六日也。皓月供奉。問長沙岑和尚古德云。『了即業障本來空。未了應須償宿債。』只如師子尊者。二祖大師。爲什麼得償債去。長沙云。『大德不識本來空。』彼云。如何是本來空。長沙云。業障是。又問如何是業障。長沙云。本來空是。彼無語。長沙便示一偈云。『假有元非有。假滅亦非無。涅槃償債義。一性更無殊。』後葬於磁州。陰陽縣。東北七十里。唐德宗諡二祖爲大祖禪師。

考索隋文帝。開皇十三年乃辛酉歲也。如云癸丑。則在開皇五年。卽（西歷五八九年。）著者以開皇五年癸丑歲推算迄至中華民國二十五年丙子歲（西歷一九三六年）止。已有一千三百四十七年矣。

(三) 中華三祖傳錄

中華第三祖僧璨大師者。不知何許人也。初以白衣謁二祖。既受度傳法。隱於舒州之皖公山麓。後周武帝破佛法。往來太湖縣。司空山。居無常處。積十餘載。時人無能知者。至隋文帝。開皇四年壬子歲。有沙彌道信。年始十四來禮。三祖曰。願和尙慈悲。乞與解脫法門。三祖曰。誰縛汝。道信答曰。無人縛。三祖曰。何更求解脫乎。道信於言下大悟。服勞九載。後於吉州受戒。待奉尤勤。三祖屢試以玄。知其緣熟。乃付衣法。偈曰『華種難因地。從地種華生。無若人下種。華地盡無生。』三祖又曰。昔慧可大師。付吾法後。往鄴郡行化三十年。方終。今吾得汝。何滯此乎。卽適羅浮山。優游二載。却旋舊址。逾月士民奔趨。大設壇供。三祖爲四衆廣宣心要訖。於法會大樹下。合掌立終。(卽隋煬帝大業二年。丙寅十月十五日也。『西歷六〇五年』)迨至唐玄宗。謚三祖鑑真禪師。建覺寂之塔。

初唐河南尹。李常素仰祖風。清得玄旨。天寶乙酉歲。遇荷澤神會問曰。三祖大師。葬在何處。或聞羅浮不遇。或說終於山谷未知孰是。會曰。僧璨大師。自羅浮歸山谷。得月餘。方示滅。今舒州見有三祖墓。李常未之信也。李常謫爲舒州別駕。因詢問山谷寺。衆僧曰。聞寺後。有三祖墓是否。時上座慧觀對曰。有之。李常欣然。與寮佐同往瞻禮。又啓壇取眞儀閣維之。得五色舍利三百粒。以百粒。出已俸建塔焉。百粒。寄荷澤神會。以徵前言。百粒隨身。後於洛中私第。設齋以虔之。時有西域三藏。憐那寺

等在會中。李常問三藏。天竺禪門祖師多少。慧那答曰。自迦葉，至般若多羅，有二十七祖。若敍師子尊者。傍出達磨四世，二十二人。總有四十九祖。若從七佛，至此僧璨大師。不括橫枝。凡三十七世。李常又問會中耆德曰。嘗見祖圖。或引五十餘祖。至於支派差殊。宗族不定。或但有空名者，以何爲驗。時有智本禪師者。六祖門人也。答曰。斯乃後魏初，佛法淪替。有沙門曇曜。於紛紜中，以素絹單錄。得諸祖名字。或忘失次第。藏衣領中。隱於巖穴。經三十九載。至文成帝卽位。法門中興。曇曜名行俱崇。遂爲僧統。乃集沙門重議結集。日爲付法藏傳。其間小有差互。卽曇曜抄錄時，怖懼所致。又經一十三年。帝令國子博士黃元真，與北天竺三藏佛陀，屬多吉弗烟等。重究梵文。甄別宗旨。次敍師承。得無牴牾也。

老三祖逝世時。迄至中華民國二十五年丙子歲。（西歷一九三六年）止已有一千三百一十一年矣。

（四）中華四祖傳錄

中華第四祖道信大師者。姓司馬氏。世居河內。後徙於廬州之廣濟縣。生而超異。幼慕空宗諸解脫門。宛如宿習。既嗣祖風。攝心無寐。臘不至席者，僅六十年。於隋煬帝，大業十年。領徒衆抵吉州。值盜圍城。七旬不解。萬衆惶怖。四祖愍之。敕令念摩訶般若。時賊衆望雉堞間。若有神兵。乃相謂曰。城內必有異人。不可攻也。稍稍引去。唐高祖武德七年，甲申歲。四祖却返廬。住破頭山。學侶雲臻。

• 一日往黃梅縣。路逢一小兒。骨相奇秀。異乎常輩。四祖問曰。子何姓。小兒答曰。性即有。不是常性。四祖曰。是何姓。小兒答曰。是佛性。四祖曰。汝無姓也。小兒答曰。性空故。四祖默識其法器。即俾侍者至其家。於父母所乞令出家。父母以宿緣故。殊無難色。遂捨爲弟子。以至付法傳衣。偈曰。『華種有生性。因地華生生。大緣與信合。當生生不生。』遂以學徒委之。一日告衆曰。吾武德年中。遊廬山。登絕頂。望破頭山。見紫雲如蓋。下有白氣。橫分六道。汝等會否。衆皆默然。弘忍曰。莫是和尙。他後橫出一枝佛法否。四祖曰善。後唐太宗。貞觀五年。癸卯歲。太宗憶四祖道味。欲瞻風彩。詔赴京師。四祖上表遜謝。前後三返。竟以疾辭。第四度命使曰。如果不起。即取首來。使至山諭旨。四祖乃引頸就刃。神色巖然。使異之。回以狀聞。帝彌加欽慕。就賜珍綸。以遂其志。迄唐太宗永徽二年。辛亥歲。閏九月四日。〔西歷六五一年〕忽垂誡門人曰。一切諸法。悉皆解脫。汝等各自隱念。流化未來。言訖安坐而逝。壽七十有二。塔於本山。翌年四月八日。塔戶無故自開。儀像如生。而後門人。不敢復閉。代宗諱四祖爲大醫禪師。慈雲之塔自圓寂。

考自四祖涅槃。日迄至中華民國二十五年。丙子歲〔西歷一九三六年〕止計有一千二百八十五年。

（五）中華五祖傳錄

中華第五祖弘忍大師者。蘄州黃梅人也。姓周氏。生而岐嶷。童時。逢一智者歎曰。此子闕七種相。

不逮如來。後遇道信大師。得法嗣。化於破頭山。咸亨中有一居士姓盧。名慧能。自新州參謁。五祖問曰。汝自何來。盧答曰。嶺南。五祖曰。欲須何事。盧答曰。唯求作佛。五祖曰。嶺南人無佛性。若爲得佛。盧答曰。人即有南北。佛性豈然。五祖知是異人。乃訶曰。看槽廠去。盧禮而退。便入碓坊。服勞於杵臼之間。晝夕不息。經八月。五祖知付授時至。遂告衆曰。正法難解。不可徒記。吾嘗持爲己任。汝等各自隨意述一偈。若語意冥符。則衣法皆付。時會下七百餘僧。上座神秀者。學通內外。衆所崇仰。咸共推稱云。若非尊秀。曷敢當之。神秀竊聆衆譽。不復思惟。乃於廊壁書一偈云。

「身是菩提樹。心如明鏡臺。時時勤拂拭。莫遣有塵埃。」

五祖因經行忽見此偈。知是神秀所述。乃讚歎曰。後代依此修行。亦得勝果。其壁本欲令處士盧珍繪榜伽藍相。及見題偈在壁。遂止不畫。各令誦念。盧在碓坊。急聆誦偈。乃問同學是何章句。同學曰。汝不知和尚求法嗣。令各述心見。此則神秀上座所述。和尚深加歎賞。必將付法傳衣也。盧曰其偈云何。同學爲誦。盧良久曰。美則美矣。了則未了。同學訶曰。庸流何知。勿發狂言。盧曰。子不信耶。以一偈和之。同學不答。相視而笑。盧至夜密告一童子。引至廊下。盧自秉燭。令童子於秀偈之側。寫一偈云。

「菩提本非樹。心鏡亦非臺。本來無一物。何假拂塵埃。」

五祖後見此偈云。此是誰所作。亦未見性。衆聞師語。遂不之顧。迨夜乃潛令人。自碓坊招盧行者入室。

• 告曰、諸佛出世。爲一大事。故隨機小大而引導之。途有十地、三乘、頓漸等旨。以爲教門。然以無上微妙。秘密圓明。藏實正法眼藏。付於上首大迦葉尊者。展轉傳授。二十八世。至達摩居於此土。得慧可大師承襲。以至於吾。今以洪寶。乃所傳袈裟等。均付於汝。善自保護。無令斷絕。聽我偈曰。

「有情來下種。因地果還生。無情既無種。無性亦無生。」

盧居士跪受衣法。啓曰。法則既授。衣付何人。五祖曰。昔達摩初至。人未知信。故傳衣以明得法。今當隱何所。五祖曰。達摩卽止。遇會且藏。盧禮足已。捧衣而出。是夜南適。大衆莫知。弘忍大師。自得。於此衆議。盧行者名慧能。尋訪既失。懸知彼得。卽共奔逐。弘忍大師。既付衣法。復經四載。至唐高宗上元二年。甲戌歲。（西歷六七四年）忽告衆曰。吾今事畢。時可行矣。卽入室安坐而逝。壽七十有四。建塔於黃梅之東山。唐代宗皇帝。謚五祖爲大禪禪師。法雨之塔。自五祖滅度。迄至中華民國二十五年。丙子歲。（西歷一九三六年）止。有一千二百六十二年矣。

（六）中華六祖傳錄

中華第六祖慧能大師者。俗姓盧氏。其先范陽人。父行瑫。武德中左。宦於南海之新州。邊占籍焉。三歲喪父。其母守志鞠養。及長。家充貧寒。師樵採以給。一日負薪至市中。聞客讀金剛經。悚然問其客

曰。此何法也。得於何人。客曰。此名金剛經。得於黃梅弘忍大師。六祖遽告其母。以爲法尋之意。直抵韶州。遇高行士。劉志略結爲交友。尼無盡藏者。卽志略之姑也。常讀涅槃經。經師暫聽之。卽爲解說其義。尼遂執卷問字。六祖曰。字卽不識。義卽請問。尼曰。字尙不識。曷能會義。六祖曰。諸佛妙理。非關文字。尼驚異之。告鄉里耆艾云。能是有道之人。宜請供養。於是居人競來瞻禮。近有寶林古寺舊地。衆議營繕。俾師居之。四衆雲集。俄成坊。六祖一日忽自念曰。我求大法。豈可中道而止。明日遂行。至昌樂縣西山石室間。遇智遠禪師。六祖遂請益。智遠曰。觀子神姿爽拔。殆非常人。吾聞西域。菩提達摩傳心印於黃梅。汝當往彼參決。六祖辭去。直造黃梅之東山。卽唐咸亨。高宗二十年庚午。淺也。弘忍大師一見。默而識之。後傳衣法。令隱於懷集。四會之間。至高宗二十六年。卽儀鳳元年。丙子。正月八日。居南海。遇印宗法師於法性寺。講涅槃經。六祖寓止廊廡間。暮夜風飄剝檣。聞二僧對論。一云旛動。一云風動。往復酬答。未會契理。六祖曰。可容俗流。輒預高論否。二僧允之。師曰。風旛非動。動自心耳。印宗竊聆此語。悚然異之。翌日邀六祖入室。徵風旛之義。六祖具以理告。印宗不覺立云。行者定非常人。師爲是誰。六祖更無所隱。直敘得法因由。於是印宗執弟子之禮。請受禪要。乃告四衆曰。印宗具足凡夫。今遇肉身菩薩。卽指座下盧居士云。卽此是也。因請出所傳信衣。悉令瞻禮。計七天。至正月十五日。會諸名德。爲之剃髮。二月八日。就法性寺智光律師受滿分戒。其戒壇。宋朝求那跋陀三藏之所置也。三藏記云。後嘗有肉身菩薩。在此壇受戒。

又梁末。真諦三藏於壇之側。手植二菩提樹。謂衆曰。却後一百二十年。有大開士於此樹下。演無上乘。度無量衆。六祖具戒已。於此樹下。開東山法門。宛如宿契。翌年丁丑歲二月八日。忽謂衆曰。吾不願此居。要歸舊隱。時印宗與緇白千餘人。送六祖歸寶林寺。韶州刺史韋據請於大梵寺。講妙法輪。并受無相心地戒。門人記錄。目爲壇經。盛行於世。然返曹谿兩大法雨學者。不下千數。唐中宗（復位）神龍元年乙巳歲（西歷七〇五年）降詔云。朕請安秀二師。宮中供養。萬機之暇。每究一乘。二師並推讓。云南方有慧能禪師。密受弘忍大師衣法。可就彼問。令遣內侍薛簡馳詔迎請。願師慈念。速赴上京。六祖上表辭疾。願終林麓。薛簡曰。京城禪德皆云。欲得會道。必須坐禪習定。若不因禪定。得而解脫者。未之有也。六祖曰。道由心悟。豈在坐也。經云。若見如來。若坐若臥。是行邪道。何故。無所從來。亦無所去。若無生滅。是如來清淨禪。諸法空寂。是如來清淨禪。究竟無證。豈況坐耶。簡曰。弟子遍京。主上必問。願師慈悲。指示心要。六祖曰。道無明暗。明暗是代謝之義。明明無盡。亦是有盡。簡曰。明喻智慧。暗況煩惱。修道之人。儻不以智慧照破煩惱。無始生死。憑何出離。六祖曰。若以智慧照破煩惱者。此是二乘。小兒羊鹿等機。上智。六根悉不如最。簡曰。如何是大乘見解。六祖曰。明與無明。其性無二。無二之性。即是實性。實性者。處凡愚而不滅。在賢聖而不增。住煩惱而不亂。居禪定而不寂。不斷不常。不來不去。中間及其內外。不生不滅。性相如如。常住不遷。名之曰道。簡曰。師說不生不滅。何異外道。六祖曰。外道所說不生不滅者。將滅止生。以生顯滅。滅猶不滅。生

說無生。我豈不生不滅者。本自無生。今亦無滅。所以不同外道。汝若欲知心要。但一切善惡都莫思量。自然得入清淨。心體湛然常寂。妙用恆妙。隋蒙六祖指教。豁然大悟。禮辭歸京。表奏六祖之語。有薛譔能祖師。并賜祿絹袈裟絹五百疋。寶鉢一口。於是年十二月十九日。敕改古寶林寺爲中興寺。三年十一月十八日。又敕韶州吏。重加崇飾。賜額爲法泉寺。六祖舊居爲國恩寺。一日六祖對衆曰。諸

善知識。汝等各個淨心。聽我說法。汝等諸人。自心是佛。更莫狐疑。外無一物。而得建立。皆是本心生萬種法。故經云。心生種種法生。心滅種種法滅。若欲成就種智。須達一相三昧。一行三昧。若於一切處而不住相。彼相中不生憎愛。亦無取舍。不念利益成壞等事。安靜閑坐。虛融澹泊。此名一相三昧。若於一切處行住坐臥。純一直心不動。道場真成淨土。名曰一行三昧。若人具有二三昧。如地有種。能含藏長養成就。其實一相一行。亦復如是。我今說法。猶如時雨。專潤大地。汝等佛性。譬諸種子。遇茲霑洽。悉得發生。承吾旨者。決獲菩提。依吾行者。定證妙果。先天元年。又告徒衆曰。吾忝受吾師弘忍大師衣法。今爲汝等說法。不付其衣。蓋汝等信根淳熟。決定不疑。堪任大事。聽吾偈曰。『心地含諸種。普雨悉皆生。頓悟菩提已。菩提果自成。』

六祖說偈已。復曰。其法無二。其心亦然。其道清淨。亦無諸相。汝等慎勿觀淨及空其心。此心本淨。無何取捨。各自努力。隨緣好去。六祖說法利生。經四十載。其年七月六日。命弟子往新州。國恩寺。

建報恩寺。仍令倍工。又有蜀僧名方辯者。來謁六祖云。晉皇祖。六祖正色曰。試覩看。方辯不領旨。乃塑六祖真像。高七寸。曲盡其妙。六祖觀之曰。汝善塑性。不善佛性。酬以衣物。方辯禮謝而去。六祖於唐玄宗開元元年。七月一日。謂弟子曰。吾欲歸新州。汝速理舟楫。時大衆哀慕乞師且住。六祖曰。諸佛出現。猶示涅槃。有來必去。理亦常然。吾此形骸。歸必有所。衆曰。歸從此去。早晚却遇。六祖曰。葉落歸根。來時無日。弟子又問師之決限。傳受何人。六祖曰。有道者得。無心者通。弟子又問曰。後莫有難否。六祖曰。吾滅後。五六年。當有一人來取吾首。聽吾記曰。『頭上養親。口裏須餐。遇滿之難。楊柳爲官。』又云。吾去七十年。有二菩薩。從東方來。一在家。一出家。同時異化。建立吾宗。締緝伽藍。昌隆法嗣。言迄。往新州國恩寺。沐浴訖。跏趺而化。異香襲人。白虹屬地。壽享七十六歲。時在唐玄宗。開元元年。（卽唐武后。先天第二年。）癸丑歲。八月初三日。逝世。（西歷七一三年）其時。韶。新兩郡。各修靈塔。道。俗莫決所之。兩郡刺史。共焚香祝云。香烟引處。卽六祖之欲歸焉。時鑪香騰踊。直貫霄谿。是年十一月十三日入塔。前韶州刺史韋據撰碑。六祖之門人。憶念取首之記。遂先以鐵葉。漆布。固護祖師頸。塔中有達摩所傳信衣。（西域屈胸布也。緝本綿華心織成。後人以碧絹爲裏）。中宗賜摩訶寶鉢。方辯塑真。及遺具等物。主塔侍者尸之。唐玄宗。開元十年。壬戌歲。八月三日。夜半。忽聞塔中。如鼓鐵索聲。僧衆驚起。見一孝子從塔中走出。尋見六祖頸有傷

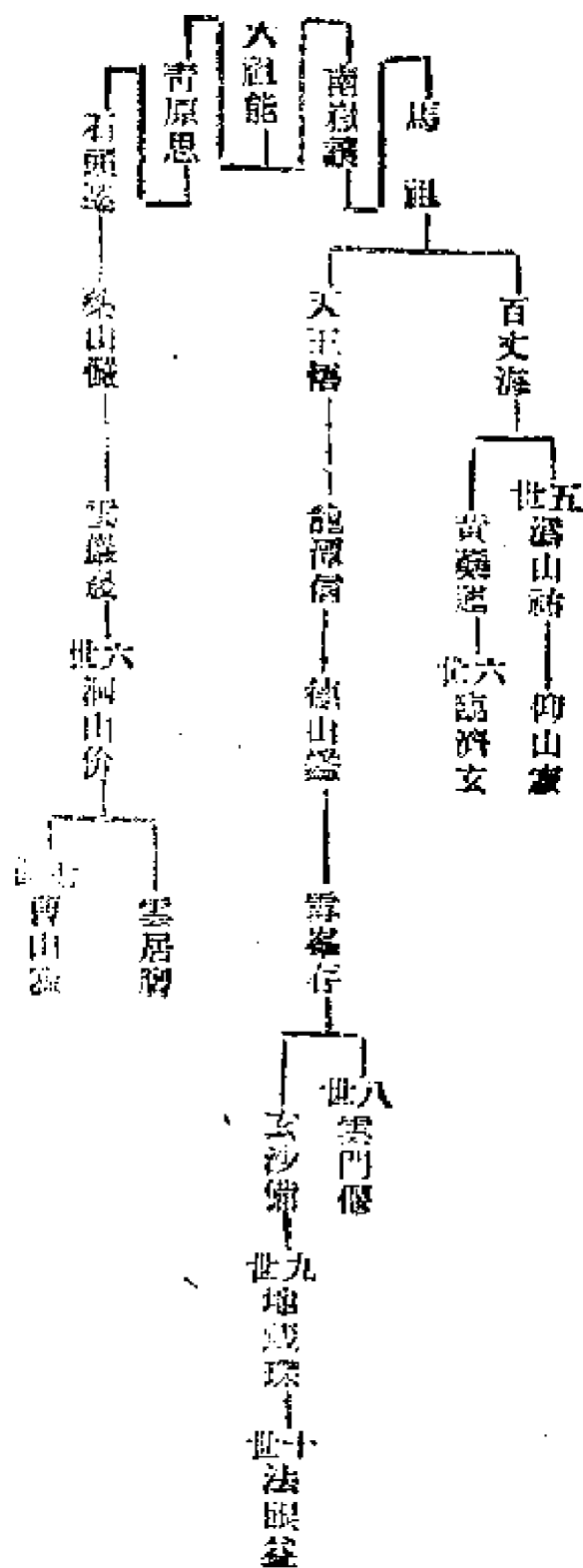
具。以賊事聞於州縣。縣令楊侃。刺史柳無忝。得牒切加擒捉。五日於石角村。捕得賊人。送韶州鞠問。賊云。姓張名澤淵。汝州梁縣人。於洪州開元寺。受新羅僧。金大悲錢二十千。令取六祖大師首。歸東海供養。柳守聞狀。未即加刑。乃躬至曹谿。問六祖高足。令報曰。如何處斷。報曰。若以國法論。理須誅。但以佛教慈悲。冤親平等。况彼求欲供養。罪可恕矣。柳守嘉歎曰。始知佛門廣大。遂赦之。

（爾後。甚有名賢贊。述及。檀施珍異。文繁不錄。）

唐肅宗。上元元年。庚子歲。肅宗遣使。就請衣鉢。歸納供養。迄至唐代宗三年。即永泰元年。乙巳歲五月五日。代宗夢六祖大師。贈衣鉢。七日敕刺史楊城云。朕夢感慈能禪師。詣傳法袈裟。却歸曹谿。今遣鐵國大將軍劉崇景。百數而送。朕謂之國寶。卿可於本寺如法安置。專令僧衆。親承宗旨者。嚴加守護。勿令遺墜。後或爲人偷竊。皆不遠而獲。如是者數四。憲宗。謚六祖爲大鑒禪師。塔曰。元印靈照。宋太祖九年。開寶元年。戊辰歲。王師平南海。劉氏殘兵作梗。大鑒禪師之塔廟。鞠爲煨燼。而真身爲守塔僧保護。一無所損。尋有制興修。功未竟。會太宗即位。留心禪門。頗增壯麗焉。

考亮六祖逝世。迄中華民國二十五年丙子歲。（西歷一九三六年）止。計有一千二百二十三年矣。

七 五宗系統表



(八) 禪宗五派

傳至六祖慧能禪師。皆以衣鉢相傳。自六祖。此宗直指人心。見性成佛。不立文字。號曰頓門。又名心宗。至是六祖祇傳道法。不傳衣鉢。禪門故無七祖之稱。六祖後收弟子二人。一名懷讓。一名行思。由此佛教禪門分宗。派別爲五。一曰臨濟。二曰曹洞。三曰雲門。四曰法眼。五曰禪仰。後法眼宗滅。流入高麗。近代日本佛教。卽宗於此是也。而禪仰傳至五代。石晉之時已亡。惟臨濟。曹洞。雲門。三派迄至近世尙存。而以臨濟宗派爲最盛行。茲將五派分述於後。以資閱者參考。

(一) 臨濟派 臨濟派乃佛教禪宗之一派。源出於六祖弟子懷讓傳馬祖。馬祖傳百丈。百丈傳黃檗。黃檗傳臨濟。義玄禪師。住鎮州。潞沱河側。其說題。三玄三業。用棒喝。三玄者。體中玄，句中玄。玄中玄，是爲三玄門。三玄中。又各有三要門。卽言前之旨理。究竟在說智。方便。三者是也。臨濟宗至宋時。又有楊岐。黃龍兩派。其傳特盛。爲方會。慧南。二禪師所創也。禪宗五家合此一派。世稱爲五家七宗。(二) 曹洞派 曹洞派亦是佛教禪宗之一。源出於六祖之弟子行思。傳希遷。希遷傳藥山。藥山傳雲巖。雲巖傳良價禪師。住端州。洞山。在洞山。傳本寂禪師。住撫州。曹山。其說立五位。君臣。以爲宗要。五位者。正中偏。偏中正。正中來。偏中至。益中到。是也。君爲正位。臣爲偏位。正爲空界。偏卽色界。此乃曹洞宗派之源。

(三) 雲門派 雲門宗亦佛教禪宗之一。源出六祖弟子行思傳希遷。希遷傳天皇。天皇傳龍潭。龍潭傳德山。德山傳雪峯。雪峯傳文偃禪師。住廣東。雲門山。每有人來問。均以一字答之。其時人謂之一字關。罕有知其旨趣者。此乃雲門宗之史略。

(四) 法眼派 法眼宗亦佛教禪宗之一。源出於六祖弟子行思。七傳至雪峯。雪峯傳玄沙。玄沙傳羅漢。羅漢傳文益禪師。住金陵。清涼院。嘗舉義嚴，和地中六種義。並說三界唯心。萬法唯識。世謂之法眼宗。後傳入高麗，此卽法眼派之由來。

(五) 潯仰派 潯仰派亦佛教禪宗之一。源出六祖弟子懷讓。傳馬祖。馬祖傳百丈。百丈傳靈祐禪師。

住潭州。潯山。在潯山傳慧寂禪師。住袁州。仰山。其韻答有暗機。有義海種種變現。人莫能測。此傳至後晉石影塘時亡。此乃潯仰派之始末。

(九) 十宗略說

(1.) 律宗 (一名南山宗，有另立頭陀行者，此宗)

佛住世時。以佛爲師。佛滅度後。以戒爲師。戒有大小乘之別。大乘則宗「梵網戒本等」。小乘則宗「十誦四分等」。大則七衆同遵。小則專制出家。以出家爲住世僧伽。非嚴淨毗尼。無以起人天服敬也。唐道宣律師。盛宏此宗。著述甚富。時人稱爲南山宗。近代寶華山。三昧律師。專以此法。軌範僧徒。師資相傳。代有聞人。夫戒。定。慧三學。次第相須。未有不持戒。而能驟得定。慧者。而學者往往置之何也。蓋律學檢束身心。持之者。違背凡情。隨順聖道。不持者。違背聖道。隨順凡情。安見其脫生死關。斷輪迴路也。楞嚴經中。優波離尊者云。「我以執身。身得自在。次第執心。心得通達。然身心一切通利。斯爲第一」。後之學者。其以是爲法焉。可耳。

(2.) 俱舍宗 (一名有宗)

世親菩薩。造俱舍論。在聲聞對法藏內。最爲精妙。專宏有宗。源出毗婆沙論。陳真諦三藏譯出。并作疏釋之。佚失不傳。唐玄奘法師。重譯三十卷。門人普光作記。洪寶作疏。大爲闡揚。當時傳習。有專門名家者。遂立爲一宗焉。後來通方大士。莫不詳覽。及至今日。則無人問津也。竊以大小二乘。不可

偏廢。如此妙典。豈可終秘瑣園耶。有志之士。其亦捐心焉。可耳。

(3.) 成實宗

成實論。譯於姚秦。羅什三藏。其中真明二空。立二種觀。(謂空觀。)(無我觀。)(有二十七賢聖。以初階位。其小乘中。尤爲優長。六朝名德。專習者衆。別爲一宗。至唐。而漸衰。後世則無聞焉。夫古人崇尚之典。必有可觀。好學英賢。試取而閱之。亦知一家門徑也。

(4.) 三論宗 (一名性空宗)

中論。百論。十二門論。是爲三論。破外道小乘。以無所得。而爲究竟。正合「般若真空」之旨。故亦名曰「性空宗」。文殊師利。實爲初祖。馬鳴。龍樹。清辨。等。菩薩繼之。鳴聲遍什。至秦。盛宏此道。時學者宗之。生嚴繼教。並肩相承。生公門下。覺濟大師。展轉傳持。以至唐。之吉藏。專以此宗。提振學徒。三論之旨。於斯爲盛。天台亦提中論。是教廣行於世。而習三論者。歸矣。吉藏。有疏。若干卷。今從日本。傳來。或者。此宗其再興乎。

(5.) 天台宗 (一名法華宗)

陳。隋。間。智者大師。居於天台山。後人。因以山名宗。稱爲山家。蓋自北齊。慧文禪師。悟龍樹之旨。以授南嶽。慧思。思傳之智者。而其道大顯。以五時八教。判釋東流。一代聖教。歸無不盡。正宗法華。寧及餘經。建立三止。三觀。六即。十乘。等法。爲後學津梁。其著述。有三大。五小等部。展

轉演轉。不可具述。智者大師。親證法華三昧。見靈山一會。儼然未散。其說法之妙。從旋陀羅尼流出。無有窮盡。人間其位居何等。乃曰。「圓五品」耳。臨捨壽時。念佛生西。可見佛力超勝。非思議所及。云登五品。已不能測其權實。而猶以西方爲歸。世之我慢貴高。不學無術者。其亦稍知愧乎。

(6.) 賢首宗 (一名華嚴宗)

華嚴爲經中之王。秘於龍宮。龍樹菩薩。乘神通力。誦出略本。流傳人間。有唐杜順和尚者。文殊師利化身也。依經立觀。是爲初祖。繼其道者。雲華。智儼。賢首。法藏。以至清涼。澄觀。而綱目備舉。於是。四法界。十玄門。六相。五教。經緯。於疏鈔之海。而華嚴奧義。如日麗中天。有目共覩矣。後之學者。欲入此不思議法界。於諸祖撰述。宜盡心焉。

(7.) 慈恩宗 (一名法相宗) 奘師。雖生已。不別立宗。其徒著述。仍以極樂爲勝也。

天竺。有性。相。二宗。性宗。卽是前之三論。相宗。則從楞伽。深密。密嚴。等經。流出。有瑜伽顯揚諸論。而其文約義豐。莫於成唯識論也。以彌勒爲初祖。無著。天親。護法。等菩薩。相繼宏揚。唐之玄奘。至中印度。就學於戒賢論師。精通其法。歸國譯傳。是爲「慈恩宗」。

窺基。慈沼。皆周。次第相承。論疏流傳日本。今始取回。宋以後。提倡者。漸希。至明季。而大振。著述甚富。皆有可觀。此宗以五位。百法。攝一切教門。立三支比量。摧邪顯正。遠離依他。及徧計執。證入圓成實性。滅末法。救弊之良藥也。參禪習教之士。苟研究此道。而有得焉。自不至顛預佛性。儼何如。爲

法門之大幸矣。

(8.) 禪宗(一名心宗)

禪宗者。實非外道二乘。四禪。四空。九次第定。及五度之禪。透佛圓極心宗。最上乘。第一義禪矣。禪也者。淨智妙圓。體自空寂。非智所知。非識所識。不依經法所詮。不依修證所得。超越聖凡格量。遠離思惟分別。言語道斷。心行處滅。弗歷階級。不假功勛。弗涉名相。不立文字。直指心原。頓令悟人。所謂教外傳者也。昔日世尊。在靈山會上。拈花。普示大眾。在會。人。天。悉皆茫然。唯金色頭陀。破顏微笑。世尊曰。吾有正法眼藏。涅槃妙心。實相。無相。之旨。今付囑汝。汝當護持。金色頭陀者。摩訶迦葉也。爲禪宗。第一祖。二十八傳。而至菩提達摩。爲東土。初祖。摩。傳慧可。可傳僧璨。璨傳道信。信傳弘忍。五代統一。未分支派。忍下分南嶺。北嶺。二支。大鑑。慧能禪師。弘揚頓宗。大通。神秀禪師。宣演漸宗。漸宗。行於北地。不久消息。頓宗。盛行於南地。次及於北。後有五家之別。所云五家者。臨濟。潯仰。雲門。法眼。曹洞也。今略示。分派。次第。六祖。下出二流。一爲。南嶽懷讓。一爲。青原行思。讓。傳馬祖。道一。一下分二派。一爲天王。道悟。一爲百丈。懷海。海。下又分二派。一爲。黃檗。希運。一爲。潯山。靈祐。希運之弟子曰。臨濟義玄。是「臨濟宗」開祖。靈祐之弟子曰。仰山。惠寂。承此二師之風者。是名「潯仰宗」。而天王。道悟一流。之有龍潭。崇信。德山。宣鑑。雪峯。義存。次第相承。至雲門。文偃。是爲「雲門宗」。義存之弟子。玄沙師

備。備傳地藏，紅珠。珠傳法眼，文益。是爲「法眼宗」。而行思。出石頭，希遷。遷，出藥山，惟儼。儼，出雲岩，曇晟。晟，出洞山，良价。价之法子。（雲居，道膺。）（曹山，本寂。）是爲「曹洞宗」。茲禪宗，以直指「本心不立文字」爲極致。以「見性成佛」爲主要。不同餘宗。凝滯區區名言句義，而爲極則也。

（9）密宗（一名真言宗）

如來滅後；七百年時。龍猛菩薩。開闢天竺鐵塔。遇金剛薩埵。受職灌頂。祕密法門。方傳於世。金剛薩埵。親承大日如來，卽毗盧遮那佛也。龍猛，授之密智。唐初，善無畏三藏，東來。是爲唐方初祖。又有金胎智，不空，及一行惠果，皆係金剛阿闍梨。大闡密教。此宗，以毗盧遮那。成佛經。金剛頂經等；爲依。立十住心，統攝諸教。建立，曼荼羅。三密相應，卽凡成聖。其不思議力用。惟佛能知。非因位所能測度。至於祈雨、治病、等法。其小焉者耳。然此法門。非從，金剛阿闍梨。傳受；不得入壇行道。此方，久已失傳。惠果之道。行於日本，至今不絕。西藏，喇嘛。亦崇密乘。今時學者。直持誦，準提，大悲，等咒。至心誠懇。亦得密益。欲知其中奧妙。須閱，大日經疏釋。及顯密圓通。大藏秘要等；便悉。

（10）淨土宗（一名蓮宗）——有立般舟行者，此宗所攝

以果地覺。爲因地心。此念佛，往生一門。爲圓頓教中之捷徑也。四生，六道。蒙佛接引。與上位菩薩

，同登不退。非佛口親宣。誰能信之。既信他力。復盡自力。古德所謂，萬修萬人去矣。華嚴經，末。普賢以十大願王。導歸極樂。故淨土宗。繼以普賢。爲初祖也。厥後，馬鳴大士。造起信論。亦以極樂爲歸。龍樹菩薩。作十住智度等論。指歸淨土者。不一而足。東土。則以遠公爲初祖。其發覺，道綽，善導，三師。次第相承。宋之永明。明之蓮池。其尤著者也。以念佛明心地。與他宗無異。以念佛生淨土。惟此宗獨別。後人喜提唯心淨土。自性彌陀之說。撥置西方彌陀。以謂心外取法。欲玄妙。而反淺陋矣。豈知心外無境。境外無心。應現無方。自他不二。現娑婆。而頓倒輪迴。汨沒四生，六道，之中。現極樂。而涼清自在。解脫於三賢，十聖，之表。彼修唯心淨土者。直須證發性身，方能住法性土。非入正定聚。登初住位。不可。其或未然。仍不免隔陰之迷。隨業輪轉耳。此宗，以觀想持名，兼修爲上。否則，專主持名。但須信願切至。亦得往生也。

「出世三學。以持戒爲本。故首持律宗。佛轉法輪。先度身聞。故次之以小乘二宗。東土學者。羅什之徒。首稱興盛。故次以三論宗。建立教觀天台方備。賢首闡華嚴。慈恩，宏法相。傳習至今。稱爲教下三家。拈花一脈。教外別傳。灌頂一宗。金剛密授。故列於三家之後。以上各宗。專修一門，皆能證道。但根有利鈍。學有淺深。其未出生死者。亟須念佛生西。以防退墮。卽已登不退者。正好面觀彌陀。親承法印。故以淨土終焉。」

(十) 臨濟派緣起

臨濟派。自六祖，傳法南嶽懷讓。懷讓，傳祖馬道一。道一，傳百丈懷海。懷海，傳黃蘗希運。希運，則傳臨濟義玄。義玄，以「三玄三要」（詳後注）爲無上法門。大爲沙門所推重。後傳法方會。方會，傳黃龍，惠南。惠南乃創臨濟派也。（臨濟源流決）「南嶽惠讓道一海。運玄獎照詔不住。念昭圓會端演勤。略華傑於先範具。」傳至十九世碧峯金性禪師。乃演派二十字。「性，空，原，明，朗，鑑，智，本，虛，玄，能，包，羅，萬，有，故，統，御，大，千，」傳至二十七世。至碧峯下。突窻第三世。北平西山。鵝頭禪師。乃演派二十四字。「清淨道德文成。佛法歸仁智慧。本來自性圓明。行理大通無學。」

（十一）碧峯禪師傳錄

金祖諱碧峯。號金性禪師。湖南，乾州，石氏子。母張氏。嗜善不怠。有一僧授與觀音像。囑曰。能謹事之。當生智慧之兒。未幾即生金祖。（時在元代順帝年間）日光貫屋。金祖幼年多病。因之歸釋。依雲寂溫公剃髮。受具後。窮性相學。言辭落落。如同貫珠。聞者聳動。一日金祖嘆曰。三藏玄言。皆標月指。如來心法。果如是乎。遂棄其所學。習禪觀見。嘗雲海公。海公問曰。萬法歸一。一歸何處。金祖答曰。不契。遂疑之。三年三日。攝蔬於園。忽凝坐久之。海公問曰。子定耶。金祖答曰。定動不關。海公曰。定動不關是甚麼人。金祖以筐示之。海公非之。金祖撲筐於地。拱手而立。海公又非之。金祖低頭不語。海公把住云。道，道。金祖擲海公脇下仆之。海公猶未之可。爾後工夫益切。遁巖明。

柏葉爲食。臘不至席者三年。每一坐七日乃起。一日聞伐木聲。忽悟。汗如雨下。命根始斷。乃曰。妙喜。謂大悟十八。豈欺我哉。後歸白之海公。海公方可之曰。無用和尚云。坐下出三虎一彪。爾其彪耶。爾緣在北。當請朔方。必弘吾道。金祖北遊至五臺。棲於靈鷲臺。檀信爭奉。逢歲餽。檀信恐其餽。所施益多。金祖恐民饑。止而不受。施者不解。金祖遁去乃息。歲旱。元帝詔祈雨。金祖入城祈禱。大雨千里。元帝贈金祖千金。金祖不受。元帝益敬。賜號寂照圓明大師。金祖每聞已過。必稽首感懷。嘗曰。生我者父母。教我者師友。甯無生我。不可無教。我生而無聞。等於牛馬者有之。生而有聞至於聖賢者有之。是以師友之德。父母之德矣。蓋父母生其身。師友能生其子聖賢者也。世有喜愛倭已。而惡宣其過者。乃下愚人也。明洪武元年。戊申歲。明帝詔見金祖於奉王殿。金祖應對。稱上日。帝命金祖居天界。日接天籙。訓唱法義。賜以紫衣金鉢。金祖歸寺後。一日示疾。著衣危坐。唱別。弟子智信請留一語。金祖曰。三藏法寶。尙爲故紙。吾言何爲。怡然而逝。茶毗得舍利若干。五色藻爛。齒舌金珠皆不壞。門人收之。建塔文岫山。普光寺。金祖嘗依華嚴。制爲佛事。梵音哀婉。凡四十二奏。盛行於世。四方學者。於茲灌頂。受業在五台。文岫山。普光寺。卽今黎谷寺也。明太祖洪武年。敕修賜詩以旌之。詩曰

「沙門號碧峯。五臺山愈巖。固知業已白。此來石壁空。能不爲禪縛。區區幾越功。處處食常住。善世語應鴻。神出詣靈鷲。浩瀚佛家風。雖已成正覺。未入天臺叢。」

一朝脫殼去。人言金碧翁。從斯新佛號。靈水浴蛟龍。飛錫長空吼。隻履挂高松。年逾七十歲。玄關證悟終。果然忽立化。飄然陵蒼穹。寄與碧峯翁。是必留神宗。

第三章 清門溯源

自滿清，愛新覺羅氏。入主中國起。第一代世祖，順治，名福臨。其祖努爾哈赤。起於長白山。爲建州部長。於明萬曆十一年癸未，稱滿洲漢。常侵遼東，不均得逞。復於四十四年丙辰，稱帝。建元天命。是爲清之太祖。四十六年，戊午，陷撫順，明萬曆帝命。楊鎬經略遼東。由此明、清，三十年戰爭開始。四十七年，己未，楊鎬敗績。滿洲滅葉赫部。于明天啓元年，辛酉，侵占瀋陽。旋定都於遼陽。天啓七年丁卯，又侵伐朝鮮；朝鮮則降滿矣。此時，清太祖薨。太宗皇太極立。明崇禎元年，戊辰滿兵侵察哈爾。二年己巳。大舉入寇。四年辛未，陷大陵城。明將孔有德。反明降滿。崇禎九年丙子，滿洲改國號爲大清。崇禎十年，丁丑，朝鮮反滿，朝貢大明，清帝親征朝鮮，復又降清。崇禎十一年，戊寅，清兵犯北京，當即敗出關外。崇禎十七年，甲申。我中國，國運不昌。李自成倡亂，率闖軍陷北京。崇禎自縊。山海關總兵吳三桂，借清兵勦亂。不料清太宗薨，清九王多爾袞，雄才陰狠，竟宣賓奪主。于十月迎清世祖福臨入北京，建元順治，則自爲攝政王矣。由斯侵略至清康熙二十二年，癸亥止。中華漢族之大好山河，遂完全歸於滿人掌理矣。時各被壓迫民族中，雖常有秘密結合，誓志反清。然終歸於失敗。

。迨至康熙四十二年，癸未，黃淮兩河堤工告成。清帝親閱堤工後，即下詔，命各省地方官督辦漕運。河漕從此開始，但流弊滋多，民間糾紛時起。因之漕河各岸夫役，結合一團體，曰糧米幫。糧米幫組織，始於康熙四十五年。此時漕運繁盛，由之百弊叢生。八旗官兵日益驕橫，漢軍綠營，亦受惡化。助紂爲虐。其強暴越與旗兵相埒。諸如：假公濫拉民夫，封船供差，強劫財物，形如土匪。人民莫不憤怨。至是漕江民夫，乃首先創立糧米幫。以團結自衛。繼而山東，河南，揚州，鎮江，以及漕河各口岸船夫民丁，起而效法，相繼結幫，清廷亦因徵發民夫，怨聲載道，不徵民役。漕運危艱。爲苟安一時計。祇得放棄干涉。默認民丁夫役結幫可以試行。由此糧米幫得半公開於社會。未幾，糧米幫一部份中份子。日滋驕橫。恃械私鬥。同時旱荒不雨，糧船常逾限期。飢荒之局。逼成搶米。風潮迭起。漕運軍衙派兵鎮壓。處理失當。引起軍民交惡。鉤心鬭角。控案日多。清廷乃發飭主管漕運總督，負責妥予辦理之。其時我陸祖。乘機遺竊錢潘三祖下山。向清廷官吏活動。乃完成以教治幫。以幫力量。潛謀排滿與漢。至此清門之名。遂宣揚於世界矣。

（一）金祖傳錄

明代永樂朝。文淵閣大學士金幼孜號碧峯。應天府。（即南京）麒麟門外。三十里。金家堡人氏。幼失父母。從村義塾讀。公好學不倦。文武兼精。不獨四書五經六韜三略通曉。而對拳棒刀鎗各項武藝頗高。爲人正直無私。金祖生於元順帝十四年甲午歲。洪武時中進士。仕燕王於北平。後隨軍南伐。都督糧台。

遼王正位南都。任工部左侍郎。自永樂遷都北京。戰爭時起。成祖親征北漠。命金祖部將糧運。未幾遼東征平。成祖凱旋回朝。金祖遂將糧米千石。密屯塞外兩狼山間。建寺留僧。監視關外滿蒙各族行動。金祖自返國後。鑒及世道不良。爭奪無止。頓起厭棄紅塵之念。仰慕達摩。即行上表辭朝。隱於棲霞山中。紫雲洞修煉。金祖自持清高。並不拜師求戒。亦不與俗僧爲伍。又不知道士接近。每日靜坐。口念阿彌陀佛不已。惟於日出月昇之時。出步至山巔煉氣。這日忽見一老僧。先至山巔。盤座石上。金祖奇之。默忖老僧蹤跡可疑。金祖仍向日光呼吸。忽聽哈哈。哈哈。笑聲一陣。金祖轉身欲問。老僧先言道。你這位逐日煉功於此。可欽可敬。不過可惜。仍難逃輪迴之苦。金祖久欲與之談話。刻聞此語有因。當即進前一揖道。未識長老上下。僧答曰所信。金祖問從何至此。僧答由西域來。金祖又問何方而去。答五台山而去。金祖問何時至山巔。答日出而至。敢問道者。是金碧峯否。金祖問之一驚。問長老由何而到。答達摩示我。云棲霞山。山巔有一似僧非僧。似道非道。之俗裝者。乃明臣金純也。爲西域菩提轉世。現立半明半暗之間。命我指引真途。如往五合皈依佛門。即可超凡成佛。僧人故不辭跋涉而至。金祖聞言。即行跪于山巔。求度。老僧忽然不見。金祖起立。四方探望。只見天上一道金光。向西北飛去。心方覺悟（按此達摩祖師。親來點化。）至是金祖離洞下山。往五合求戒。皈依佛教。拜佛門禪宗之臨濟派。三十六傳。猶頭禪師爲師。取法名曰清源。即隱于北台之紫霞洞內。靜坐修道。數年後。嶺下語錄甚多。皆精深妙。非常僧所能識。一日忽然召集合山僧衆。訓話道。我俗緣已滿。即日就

要脫去臭皮囊西去。今特留下偈語。語錄。傳流後世，以待將來。有一羅清到此。授之可也。說罷，便念偈曰：「初祖始來沒字傳，神光中土有遺言，宗分南北皆歸正，道無東西一教行；隱居深山千載餘，潛心古洞悟參禪，有緣人受有緣法，師弟相間不記年。」金祖將偈念畢，便閉目垂眉圓寂而去。按金祖（爲清門第一代始祖）先時收有二位弟子，一林祖諱山。道號靜修，福建連江人，二陳祖諱雲。道號靜覺，廣西桂林人，自金祖圓寂後，即由二人相繼主持。就將金祖留下之偈語語錄，藏在佛龕之內。林陳二祖未幾圓寂（生平無傳。故從略）後至羅祖征番到五台焚香。住持方丈恨修。將金祖所留下偈語經典符錄，獻于羅祖，羅祖一看，修道之心遂決，即在金祖佛座前三拜。承接金祖法脈。遵遺囑。取道號曰淨清。（淨清字派。乃二十四字之第二字，自此一代一字，以字相傳，按字取名，後人無敢與前人字派相犯，此乃區別長幼之道，系統由此不紊，故前後二十四字，均不同者，乃取字義易于識別也。）

（二）羅祖傳錄

羅祖諱清道號淨清。甘肅蘭州府。渭源縣東鄉。羅家莊人。父名天文。母秦氏，皆力行修善。兄弟五人。羅祖居二，相貌清奇，舉閱豐富，十二歲入學門，十七歲中嘉靖恩科舉人，後賜進士出身，擔任監察御史，戶部侍郎，未幾父顏犯獲東，倭奴乘機渡海。入寇江浙沿海各岸，嘉靖帝乃命嚴繼光屯師舟出。又命曾銑總督三邊軍務，忽俺答乘機入寇焚掠。京東各郡。俟明皇發兵往剿，俺答早潛載財物出關而去。

，由此明廷幾易主將。外寇再行猖獗，土番番乘機侵邊，嚴嵩因棄羅祖不爲所用，乃保羅祖往嘉靖，即授羅祖副都督，征討土番，羅祖領旨，即行選吉祭旗，出師北征，百官送至郊外，羅祖領兵直抵番邊，與番將清道兒血戰，不幸被困於兩狼山下，絕糧三天，殺馬充腹，羅祖乃焚香拜佛禱告求救，忽來一和尚云。寺後石崖下有糧，爲本朝碧峯禪師北征時，留存於此，內有碑誌，羅祖大喜，乃鑿開石壁，果見白米滿倉，當門有一石碑上刻，「刃自征夫飲，功爲大將成，仲君如伴虎，功臣皆狗烹，痛爾爲誰苦。預儲救急糧，速歸原來路，五台去參禪，」下著正統丙辰歲次。五台僧人清源識，羅祖望畢，感德不已，遂下令全軍，焚香叩謝活命之恩，翌晨，羅祖身先士卒，率兵衝營，番營主將被斬，直追到治平城下，番主拜牙郎出城納降，永世不叛明室，羅祖遷石碑偈語，就接受降書，慨允罷兵，旋即返師回京，途經五台，即上山探訪清源禪師蹤跡。北寺方丈恨修禪師出見，即將金祖一生史蹟，詳述無遺，並將遺文偈語經典，一併由佛龕中取出，即于羅祖參閱，羅祖翻閱，手不釋卷，愛之如寶，忽見經中夾一紙條，上書此物統贈羅清，羅祖深爲驚喜，苦不知緣因，恨修禪師道，清源禪師現已成佛，明會爲永樂朝臣，後皈依佛門，在永樂年間，曾與道教之張天師鬥法，大獲勝利，嘉靖帝封爲護國禪師，吾佛門得免世人輕視，未遭滅教之禍，此皆清源禪師之功，清源禪師爲西域菩提轉世，是神宗臨濟派。三十六世鵝頭禪師弟子。因志願普度衆生，就提倡普門開放，建立一個清門，以廣普度，（所謂代裴修行）不易服，不受戒，免去許多障礙。考其意義，是重修性，不重修形，戒人之心貪，不戒人之食祿而已，現

無人承受其傳。實可惜也。羅祖深感活命之德，一聞此言，乃領會玄機，自願承嗣清門之宗，即由俱修領至金祖塔下。（後人有鑒前率祖，即模于此，）即拜金祖爲師。適遺屬取名淨清，從此羅祖皈依清門，又在五台齋僧三天，回京復旨，到京之時，未及辭朝。即被嘉靖賜武士綁出五門問斬，幸得朝臣，竭力保奏，將羅祖赦回，打下天牢，羅祖始知被嚴嵩父子陷害，更無黨功名，迺在牢中，日夜拜佛誦經，（金祖時來點化，辟殺煉丹之法，）羅祖又在牢中，編著定國天書五部，迄萬曆登極，已在天牢十二年矣，忽吐蕃國，差使臣哈美利至京。獻石函天書一本。（名謂願邦，）萬曆宣上金殿，問其來由。哈美利首道，石匣中有天書一本，就要中國有人能識得此匣中天書文書，併要以同樣文字作一覆書，就可息爭，否則願邦倒國，要中國歲貢彼邦，如不遵行，就要刀兵相見，哈美利說明來由，並言限期二十一天，逾之當以輪輸等語，萬曆及朝臣聞之，均怒不可言，但爲體義牽制，不便無理治罪，祇得含羞忍耐，命送金台寶館暫住，以待識寶之後，再行覆文，香臣下殿去後，萬曆遍訊羣臣，何人能打開石匣，讀識此天書，連問三次，朝臣無一人應命，接連三日，仍無人能識，（此時嚴嵩父子早死，不能請他一題，）忽見三朝老臣，禮部天官吳江，出班保奏道。天牢中編清博學廣聞，素識滿蒙回藏文字，必能識得此寶，萬曆隨命宜羅清上殿。使者到牢宣召，羅清道，會誓至死不仕，使者勸慰再三，羅清才對使者說，「果要我出牢職責，不難。但要依我三件大事，一要「上不見天，日月星辰」，二要「下不見地，泥土磚石」，三要「身不穿俗家衣服」，並請在午朝門外，搭起一座三丈六尺高的板台，以便識寶，識寶之後，

即行歸山修道，如此我方可用半。使者照言回奏，萬歷件件依從，派人佈置一切，旋即趕置完善，萬歷帶了一件八卦道袍，至牢中欽賜羅祖，就領羅祖由天橋走出牢中，步行至午門板台，沿途上搭五色彩棚，下用紅氈墊底，上用珍珠傘罩頂，下用黃金葉鋪路，羅祖上了板台，請萬歷宣番臣，番臣到了板台，即將天書呈上，羅祖一看，對番使道：此書名曰石函天書，番臣答道是的，羅祖即將石匣用法打開，取出天書細看一篇，奏道：此天書中所說，均是修仙煉道的秘訣，是達摩祖師所著，用石匣藏在熊耳山石壁之內，不知何以落在番人手中，此書是用倉頡古文所寫，與世界各項種族文字，都不相同，萬歷點頭，羅祖遂將石函天書的文字朗誦，番臣閱得目定口呆，連連叩首。萬歷一見情形大笑，即命將番臣解出斬首，羅祖便連忙跪奏道：兩國相爭，不斬來使。赦回，由臣訓戒，使番邦知我國文臣武將很多，再作申斥番王的上諭一道，使番邦從此不敢輕視天朝，萬歷依奏，將番臣赦回說道：回報你邦狼主。天朝人才甚多，若不悛改前非，年年進貢來朝，天兵立時討伐，那時玉石俱焚，不要後悔，先行將你警戒，作個榜樣。說罷即令御林軍，將番臣耳鼻割下。遂出午門。吳江見諸事已畢，即奏萬歷道：羅清在牢中十二年，編著定國天書五部，所講都是治世修道大法，今又立此大功，應請加恩賜爵，萬歷准奏，着六部公議，羅祖聞言，即行奏道：臣已皈依佛門，不敢再貪洪福，將昔日征番被困，絕糧遇救等事奏聞。並奏道：臣已拜五台清源禪師爲師，伏乞聖恩，成全臣志，則永感天恩非淺，萬歷仍然不允，羅祖即將定國天書再呈帝覽，求祈開恩，帝展開天書，祇見第一部正心修身，是教人自立根基，務本勤學，第二

部齊家治國，是教人力行孝，弟，忠，信，禮，義，廉，恥，八個字。是成聖成佛之基，第三部學道參禪，是教人却慾避邪，煅煉德行，可保萬世不朽之體，第四部普渡衆生，是教人力學超凡成佛之法，力行捨己利人，救濟衆生之道，第五部築池，上部，是說往返瑤池之樂。下部，是講修仙學道以及呼風喚雨之法。萬歷帝閱罷，深悉去志已堅，不可再留。但大功未酬，心中不安，遂降旨追封金祖爲金光佛，封羅祖爲定國真人，吳江又奏請將番邦石匣天書賜予羅祖。以滋獎勵，俾資紀念，帝忻然准奏，即賜予羅祖，羅祖感恩不已，即行出朝，往五台山。北寺拜訪恨修禪師，兩人相見，舊雨重逢，更加親近，恨修即將金祖遺留經典寶物，檢交羅祖收執。並將棲霞山紫雲洞鑰匙交羅祖。遂偕至後寺紫霞洞中，即命羅祖在金祖得道之處修煉，羅祖自得遺傳經典，道法猛進，諸如駕雲騰霧，移山倒海諸法。悉爲平常法術。由此時與恨修禪師參道，（恨修爲鵝頭禪師之師弟，鵝頭禪師法名恨海，乃佛教禪宗臨濟派之三十六世祖師，即金祖之導師也，）羅祖至是道成，爲清門第二代傳字派之祖爺矣。

（三）陸祖傳錄

陸祖諱遠號道元，江南鎮江府丹徒人氏，（有謂廣東揭陽縣人，）生於萬曆廿年，自幼愛讀武經，頗精技擊，曾任江右總兵，自崇禎殉國，南都繼亡，即隱於茅山學道，後慕羅祖和番定回之功，欽仰能通滴回蒙藏言語文字，又爲佛教禪宗嫡系，故趕到五台山求道，連訪三次，均未遇，這日羅祖朝南海·天台·天竺·龍虎各山，順至金陵訪道，途經三江口。化蘆葦爲舟渡江，陸祖目見，暗道此即羅祖，今天巧遇

，必是天緣。遂用水遁之法，追蹤趕上，跪於北岸之邊，叩求傳道，羅祖一見，知是陸祖，故作不知，竟駕金光回到五台山紫雲洞中，陸祖已借土遁趕到，洞門已閉，陸祖就在洞口跪求不已，歷三日夜不起，忽見一童子啓門出曰：「考祖云爾若誠心求道，須跪至紅雪齊腰，請穿穿膝，那時老祖方可度你，否則永無見面之日，更談不到收你爲弟子也。」陸祖聞言，明知以此爲難，當即懇求童子。代爲哀求，童子此時已進洞緊閉雙扉，陸祖無法，只得跪而不起，時值冬天，天氣寒冷，陸祖就在農田之中，取了許多稻草，裹住身體，復行跪在洞口。呼師傅慈悲慈悲，是晚大雪紛紛，寒侵肌骨，陸祖竟已凍僵，惟心口一點熱氣而已，翌晨風息，樹間羣鳥覓食，祇見雪集盈尺，在天空亂飛，忽天開日出，雪化稻草現出，羣鳥飛至爭食，穀盡及人，竟啄陸祖之肉，鮮血淋漓，染紅腰間，而雪，蘆根，爲日光所照，竟生芽穿入陸祖膝蓋，紅雪化水而流，陸祖仍跪洞口直挺未倒，至午太陽當頂，陸祖復甦，一見身上情形，大喜，樂而忘痛，歡呼師傅，已應前言之兆，乞啓門，羅祖至是出洞，向陸祖道：「儒子可教，即扶起陸祖。攜手入洞，賜號道元，是爲清門教。」第三代道字派，陸祖從師學道數十年，至崇禎時，羅祖入化，陸祖遂接宗傳道，於清初，雲游至新疆甘肅一帶，見回民與漢人爲宗教爭執械鬥，陸祖爲人類謀幸福，就訪察起禍之因，得悉回民奉穆罕默德爲聖，喜白愛黃，故食牛吃羊。並用鴉爲大獻之禮。漢人喜紅愛綠。所食魚肉。以猪爲盛，並利用狗守戶，由此回漢時起衝突，漢人信仰儒，釋，道，三教甚深，徧地建設寺廟，庵，堂，內塑泥木之神鬼像，祀奉如儀，香烟爲之不斷，每年更有迎神賽會之舉，大爲回教徒所妬

意，回教是以教治國，所謂天下回回是一家，教主就是國王，自唐太宗，夜夢纏頭金人始，回教由西域傳入中國，就在長安。（唐朝國都又名西京。）建有清真寺。至唐明皇時，安樂山造反。回兵三千入援殺賊。替唐室靖難。明皇始留回兵。常住中原，並令闡揚回教。由此歸化。就成了中國的回民。（其風俗，習慣，儀式，規律，等項。另詳「中國各密黨會野乘」由此雜居中國內地。年久日長。中國西北方面回民雲集。而南，北，東，西各省。無處沒有回民蹤跡。於國家組織上說。仍爲華民。如論宗教大有區別。不料一般無識的回漢兩族人們。竟鬧出種族糾紛。和宗教上的明爭暗鬥。所以中國西北上回漢爭執。時常發生。滿，蒙，藏，亦時起民族與宗教的械鬥。而四圍邊疆。蠻，獠，苗，匈奴，韃靼，回紇，西羌，大戎，契丹，吐蕃，突厥，倭奴，等族。統在漢族領導之下。各種族雖受王化。一時相安。無奈。時被歐洲的民族斯拉夫。與東方大和民族（即日本）藉機械力量侵略。這時中國。因感鞭長莫及。亦就不能時時保障。與安慰他們。後來。迄至清末。都被英，俄，日，法，吞併去了。（諸如安南，琉球，暹羅，西魯，屬了斯拉夫族的法國。回紇，西喀，均爲英國領地。高麗，扶桑，併與日本。韃靼等族。又被俄國勾誘與鼓勵。時謀獨立。這許多國。素來附屬中國。時與漢族立予半合半離的地位。皆因宗教或民族關係。爭奪帝王地位而起。）陸祖見回漢爭執甚烈。即向清廷條陳。用宗教感化之策。撥亂求治。大爲康熙嘉納。就授陸祖爲西北宣化法師。陸祖奉旨趕至甘肅新讓各地。竭力宣化。未幾風平浪息。遂訂「回漢約法」。回民入漢人之屋。以漢人習慣爲主。而漢人入回民之宅。應遵回教風俗行之。兩不

相犯。各守其制。至是回漢息爭。邊疆相安。陸祖卽行回京。文武羣臣迎接入朝。陸祖奏明宣化回民經過。康熙大喜。令六部議官以滋慰勞。陸祖奏道。此非臣之功。乃聖上之德。以及我師羅祖之教也。不敢貪天之功。乞放歸山得隨師學道。則志願償也。康熙聞奏贊仰不已。足見你師徒。爲國爲民忠義可嘉。就封陸祖爲靖國真人。加封羅祖爲一清佛祖。陸祖謝恩畢。卽回五台修煉。康熙五十七年陸祖再下山訪道。行至山陝邊界。見有羅祖教傳道。當往一視。乃一中年道士。當與談道。乃知名玄真子。是羅祖征番時之先鋒官許鉄山。因痛羅祖被害。憤而出家學道。從師崑崙派野鶴真人。後爲感報羅祖知遇起見。卽立一個羅祖教。以示永感恩德。廣行宣傳羅祖平生忠義。並云羅祖得邀天恩。已成雷部正神。又痛詆嚴嵩之奸。已被天譴。死後變了三世。四脚之獸云云。此時山陝間。信仰羅祖爲之立碑造廟。陸祖聞之大笑。嘆曰。世人何多謬論。雖云忠義可以成神。奸邪卽變厲鬼。是鼓勵忠臣孝子。方法惟羅祖事。不過太失真矣。陸祖至是向玄真子道。羅祖已成佛於五台。請以後勿再言成神。余乃羅祖之弟子道元。雲遊訪道至此。不揣冒昧。敢此相告。玄真子不信。陸祖已不再駁。卽行南遊。後來玄真子訪得真情。卽行皈依清門。羅祖教日漸消滅。(羅祖教名。見於清初名人筆記。教徒甚多。)陸祖行至杭州。見山清水秀。地正人賢。信仰佛門人多。而每達初一十五兩日。香烟特盛。天竺靈隱諸寺。均被一般俗僧利用。無非依佛穿衣吃飯。那知皮之不存毛豈生焉。嘆世人信佛求神。祇知求名求利。竟將國家存亡不顧。能不痛心爲之一哭。乃擇武林門外寶華山。劉氏庵內。講經說法。一時風傳。聽經日衆。(按劉氏庵。

迨至乾隆時改稱皇氏。』陸祖在生享壽一百十二歲。雍正七年。已酉歲圓寂。」

(四) 翁錢潘三祖傳錄

翁祖諱岩字福亭江蘇常熟縣人。祖居山東東昌府聊城縣鼓樓街。後遷居河南南陽府北門外把子橋。乃秀才出身。後棄文習武。即從河南嵩山少林寺僧，習學武技。喜與綠林交往。後入天地會。爲會務奔走頗力。由此行蹤不定。到處爲家。性質剛毅。不善令詞。

錢祖諱堅字福齋江蘇武進縣人。遷居安徽徽州府歙縣北門外張公橋。爲人精明勇敢。從父經商。又移住開封。至十六歲父母相繼去世。無心承業。乃習拳術。入天地會。與翁同隸。張嶽部下。

潘祖諱清字宜亭浙江杭州武林門外啞吧橋人氏。移住安慶。後遷居河南開封府城中。人頗忠義勇爲。承父母餘蔭。很有財產。幼年讀書。時以詩詞歌賦自豪。兼習武藝。技術亦是不惡。平生嗜好交遊。人都以小孟嘗稱之。正是「門下客常滿。盃中酒不空。」翁錢二人。奉張嶽之命。往安慶訪潘。三人一見。頗有相見恨晚之慨，遂結成異姓手足。潘祖遂爲天地會會友。自此秘密黨會中咸知其人。而地方人士。亦頗樂與結交。潘後見會務不振。乃議出門訪友徵求同志。錢祖道。現今許多志士。被一般文人所賣。那般賊人。皆成了清廷功臣。這樣下去。恐你我均要同歸於盡。非積極的力謀出路不可。或者還有推翻清廷之日。否則吾漢族。永作胡兒的奴隸。如要恢復山河期亦無矣。豈不負了祖師遺教。言至此景。三人抱頭痛哭。遂議決。同往各處訪道。途聞道元祖師在杭州講經傳道。三人旋往杭州。至劉氏庭畔經。一晤陸祖所說。皆是出世超凡成佛之道。不由心

中就萬分欽佩。遂要求收爲弟子。陸祖見三人虔誠學道。慨然允之。唯須各回原籍。戒口三年。期滿再至五臺紫雲洞奉祖。三人遵命回籍。光陰迅速。不覺三年戒口期滿。綫綫二祖。遂到潘祖家中會齊。同往五臺山訪師。曉行夜宿。饑餐渴飲。行了將近一月。才到五臺縣境。先過齊路嶺。循溪水經天地莊北。越白頭庵村過白雲寺到千佛洞。復西行三里。即到岸台山下。三位祖師逾緣上台。經過燈寺。道路漸峻。十里來到南台絕頂。拜文殊舍利塔間眺半時。即在岸台四面尋訪陸祖修道之處。苦無蹤影。而天色漸晚。三位祖師。只好暫在台北一座古廟中。歇宿一宵。次晨鼓勇下台。平坦數里。循西嶺西北。行到金閣嶺又循山左。西北行至度化橋。此地有一峯矗立。位於中台下。兩旁流泉淙淙。風景幽絕。三位祖師遊覽半時。復向西十里。登西台之頂。望見羣峯。前後縱列橫抱。三位祖師不敢怠慢。即在西台前後左右。尋覓陸祖洞府。亦無蹤跡。此日即在西台旁之閼魔巖下。（按閼魔爲西台勝境）一座巖洞內住宿。次日從台北下。過八功德水。經維摩閣見諸閣橫架空中。下又不用石柱。三位祖師歎道。此非神力不克臻此。復從寺東北行。十五里至中台。望南台之龍泉反若更近。三位祖師直趨台。南登龍蟠石。見孤峯下墜。爲景幽危。（按此處傳爲文殊放光攝影處）三位祖師隨下。再在四處尋訪陸祖住所。仍始終不見。三位祖師一同商議道。吾等既來此處。必須見師一面。否則永不歸去。于是三人乃重鼓勇氣。從東北下行。竭力尋覓。抵華嚴嶺。越嶺又走十餘里。始抵東台。三祖先在台下。四處尋訪。仍歸不見。乃登右相眺望。即在台上。一座半披頂。露宿一宵。次日下台西北行。再過華嚴嶺。奔走二十餘里。乃抵北

台。三位祖師。先登台眺望。上台之後。向東南西三面一覽。並非十分幽勝之境。潘祖卽向翁錢二祖說道。師尊修煉之所。必在台北無幾。說罷三人便同向北面走去。見台北寺院甚多。風景亦較三面大優。乃向台北而下。行不二三里。卽見迎面有一所極幽勝的古庵。庵外立着一人。遠望好像陸祖。三人精神大振。奔過去一看。果是這元禪師。忙趕步上前叩見。陸祖扶起三人。同至寺中。抬頭一看。祇見上面佛座上。供着一座牌位。上寫禪門正宗羅祖上淨下清之靈位。陸祖率領三人。向牌位行三叩大禮。後陸祖便在當中禪椅上座下。受了三人拜師大禮。三人禮畢。陸祖遂道。你們三人。尙有轟轟烈烈事業未作。祇能暫在此山修煉。學些道法。俟將來機會一到。爲師再派你們出山。建立大業。說罷便賜翁祖道號爲德憲。錢祖道號爲德正。潘祖道號爲德林。又引三人。到後洞打座。（據傳。羅祖閉關入寂之處。卽在此洞。後面洞內。）每逢三六九日。陸祖必率三祖。向內洞石門行禮。後人有詩曰。

「達摩西來無字傳。神光東渡有遺言。登台說法天花墜。兼渡江中步步蓮。退隱深山數十年。但求洞內學神仙。金甌接續成大道。羅公紫府煉青天。陸祖五台傳秘法。潘家門下子孫賢。後裔盡忠皆爲國。人臣報效幾千年。」

那時正值清廷康熙駕崩。雍正帝嗣位。陸祖便教翁錢潘三位祖師來到面前說道。現在你們清福已滿。大運將到。清廷現對清運苦無辦法。你們下山。投効清廷。趁機可將舊有的糧米捐。聯合組織一個大團體。表面使清廷運糧無弊。實際可解決多數人們生活。借此可樹立復國基礎。爾三人下山之後。務要將

道義精神。灌入邦中子弟腦內。至要至要。近世道德。有真有假。現在你們。要用權術去應付。不可逞氣用事。俟勢力充足。再謀恢復山河。就不難矣。設逆流倒使。妄動干戈。必致招禍惹殃。遺恨千年。你三人務要謹慎從事。下山去罷。三人聽畢。如夢方醒。叩謝教育之恩不盡。遂即拜別下山。直向河南趕行。這日翁錢潘三位祖師。行至河南開封潘祖家中。先行招集各地天地會頭目會議。說明宗旨。請予贊助。當時有一部份願附驥尾。便推翁錢潘三位爲首領。組成了一個道友會。供達摩祖師爲始祖。碧峯祖師爲第一代祖師。羅祖爲第二代祖師。陸祖爲第三代祖師。組織既定。（此時尙無師徒名目。祇互稱爲弟兄而已。）事漸擴大。一般舊羅祖教徒。望風加入。此時已到雍正二年。直至翌年。雍正帝通令各省。掛榜招賢辦理漕運。翁錢潘三位祖師。得到這個消息。心中大喜。便到撫署揭了黃榜。那時河南撫台。田文鏡是杭州人。（初爲杭州布商）與潘祖爲原籍同鄉。三位祖師。見了田巡撫。說了來歷。便條陳整頓漕運辦法。田巡撫大喜。當與漕督同本上奏。雍正帝當下旨諭。飭三位祖師歸漕河總督張大有節制。並聽命于勘視河工欽差何國宗指揮。三位祖師。便辭別了田巡撫。來到清江浦。請見張漕台及何欽差。何張二人。即命三位監造糧船。並督理漕河修堤工程。三位祖師。覆謝張何二人轉奏。請恩准許開幫收徒。以便統一糧務。清廷批准所請。三位祖師便先去聯絡舊有的糧米幫。教他們統行歸附。一般糧米幫徒。因衣食之計。全都情願歸依。所謂老安堂普安堂者。就是新舊區別。三位祖師辦好糧米幫。以後便開始建設船廠。勸工添造糧船。規定大小尺寸。繪成圖樣。擇日興工。三位祖師親自監督工場。不

滿數月已告完工。共造新船。九千九百九十九隻半。（所謂無半不成幫。半隻乃是脚划子。）「舊船一律不用。後給姚小姐」。船既造成。三位祖師。再開辦濬河工程。先請何欽差。奏發山東六郡民夫。十六萬九千人。用銀一百十萬兩。開濬河道。三位祖師。以南旺之間。地高數丈。乃運河之背。水淺涸膠。難行重載。特築壩於東昌之代村。抑汶水無東流。盡入南旺湖。湖深水廣。行運乃宜。又疏通衛河。遠海豐。由大沽入海。修築壩堤於汶上縣。橫互五里。抑汶水入南旺。分水勢十分之四。南流以屬徐沛。十分之六。北流以達臨清。又相地勢高下。增築水閘。以便啓閉。臨清地降九十丈。爲閘十有七。而達於漳御。自分水至沽頭。降百十六丈。爲閘二十有一。而達於淮河。會通淮浦之水。直達長江。閱五十里而南北之運始通。至是佈置完善。三位祖師。週大開香堂。廣收徒弟（是年十二月初九日。至廿九日。黃河澄清三千里。後人指爲清幫開幫之瑞。）錢祖收徒八人。（按八仙之數）錢祖收徒二十八人。（按二十八宿之數。）潘祖收徒三十六人。（按三十六天罡之數。）三家祖師共收徒七十二人。（按七十二地煞之數。）衆徒弟又收徒弟。清幫遂立。（按清幫之名稱。爲幫外人所稱。）當時清幫仍自稱爲糧米幫。不過以清門之教義治幫耳。）三位祖師。自分帶承運。八省調兌後。又到五台求師指教。陸祖即將祖傳二十四字字派。給三位祖師。以作傳統家譜。並向三位祖師道。爾等回去之後。應將本宗歷史與家譜。時時宣示大家。免致曲解真理。三位祖師聽訓已畢。遂即領了家譜。回到幫中。設立香案。掛起祖像。先行宣佈佛門的歷史。然後將家譜打開。將譜中二十四字。「清淨道德。文成佛法。能仁智慧。本來

自性。圓四行理。六時無舉。」一一詳加解釋。（按此二十四字乃彌勒禪師所演。）三位祖師。即向衆弟子道。自此以後。吾中各弟子。均依家譜字派起名。以分大小。不可紊亂。三位祖師又到杭州。在武林門外。寶華山（又名保朝山）。修建家廟及十二座家庵。就在家廟內。設立承運漕糧事務所。三家祖師。公議規訂十大帮規。香堂儀式。孝祖規則。五戒十條。家法禮節。等項規則。統令後人世世遵守。至是粮船南來北往。通行無阻。而弟子亦復興旺。這日翁錢二祖。向潘祖道。請三弟代行帮務。小見二人。擬同往口外。朝哪王廟敬香拜佛。順到五台訪師。潘祖云。要去一同去。何能留我一人領帮。翁錢二祖。又道。國家皇根要緊。不能三人同去。候至來年。你再去朝佛見師不遲。潘祖見翁錢去志甚堅。祇得允從。至是弟兄三人分別。潘祖一人領帮行運。翁錢二祖即行起程。往口外走去。一查哪王廟乃是蒙古最大最有名的叢林。廟中爲喇嘛僧所主持。原來蒙古青海西藏一帶。自元朝後。佛教極盛。佛教徒在彼地漸成一特殊階級。全地政權。統歸僧侶掌握。實行以宗教治國之制。凡僧徒所至之處。人人歡迎。其教稱爲喇嘛教。爲佛教眞言宗（即密宗）之一支。其政治與宗教之首領。名爲活佛。據云。能世世轉生。永掌職位。所謂眞言宗者。本爲佛教中。最富有神秘色彩之一宗。傳入蒙藏後。精通法術之喇嘛。益先後產生有紅黃二派。（紅教僧徒。衣皆紅色。黃教僧徒。衣皆黃色。蒙古人以紅黃二色爲貴。惟僧徒可用。餘人只可衣藍黑等雜色。惟最忌穿白）。黃教爲正。紅教爲邪。但法術則均有獨到之處。蒙古之風俗。凡人有病。必往喇嘛寺中。請喇嘛誦經企禱。或求賜符籙金丹仙方診治。據云。極爲靈驗。凡一

切婚喪喜慶等事。亦必到喇嘛寺請喇嘛祈禱佛判斷吉凶。求佛賜福消禍。蓋蒙古全地人民。幾無人不信佛教。誦經拜禮視爲常禮。至每逢諸佛誕辰。及得道等節期。即各地人民均集中於廟。廟中如設市場。百貨商品整然集成。鋪滿遍地求售。蒙古寺廟均極高大。廟外空場。動廣至數百畝。一般人民多用牛皮或布搭爲帳篷。所謂蒙古包。以便夜宿。至於敬神拜佛。禮儀極爲隆重。擊鼓鳴鐘。僧民分兩邊列行肅立。秩序森嚴。遂即出神賽會。前列爲裝神之喇嘛。(戴五色面罩。裝作羅漢神將天兵等狀。手持器械。跳躍如演戲劇)。中爲活佛。活佛座十六人或三十二人所抬之大轎。再後爲隨侍活佛之大喇嘛。前呼後擁。旗傘神器儀仗鮮明。馬匹駱駝列隊整齊。香煙繚繞。音樂齊奏。(其所奏之神樂。爲大鑼大鼓。喇嘛所用五金響器。音節調奏擊耳。與國內音樂完全不同。)威儀之盛。內地神會無能與比。以上是蒙古的宗教風俗大略情形。』且說翁錢兩祖。將幣務全交潘祖一人統領之後。即往口外朝佛。不料一去將近二載。音信全無。潘祖即行派人往口外尋覓。回報毫無消息。潘祖不得已。親自又趕赴哪王廟尋訪。據廟僧云。並無道裝之人來過。復在廟之近處尋覓。但見黃沙白垠。人馬駱駝往來很少。潘祖無法。忙奔往五台山。拜見陸祖。叩訊二兄下落。陸祖云。渠等二人。已有極好結局。無庸尋訪。爾可回去。整頓幣務。現我俗緣將滿。正要閉關入寂。爾來甚好。茲特賜你天書兩部。(即定國天書。及石函天書。)藏經一部。天書可學道法。藏經可超度衆生。自今日起。吾關閉洞府。不再出問世事。說罷。便催潘祖下山。潘祖只得含淚題命。領了經書出洞。回頭一看。只見洞門已閉。推之不開。乃在洞外痛哭一場。『或

云。潘祖乃修道之人。於死生別離。發慘極點。何怪俗子傷悲痛哭。不知佛道亦不外乎人情。潘祖與翁錢情深義重。豈有忘情而不哀哉。『潘祖祇得含悲忍痛下山。回到杭州。禮佛誦經。追薦翁錢二祖四十九天。諸事完畢。又用翁錢二祖肉身。未能尋得。只好將二祖遺下衣冠等物。代替肉身。招魂安葬。葬於武林門外。家附之旁。派徒數人。常住廟中。歲時致祭。以慰幽魂。而表義節。一切安葬手續辦妥。衆弟子乃公請潘祖一人。統帶三房。潘祖遂將糧幫事務。重新整頓。並將運糧事務所合併。以總其責。』迨至乾隆十六年。乾隆遊巡江南。路過杭州。見王降祖辦理運糧事務。井井有條。深加贊賞。隨賜王祖家法。盤龍棍一條。事實帶中不肖之徒。又賜扁額對聯。嘉獎忠義。』至雍正十三年六月六日。糧船行至黃河楓林閣下。天上忽起烈風。飛沙走石。黃河內波浪揚地掀天。糧船震盪不甯。潘祖座船。中間大桅。被風吹折。(半節大桅有典詳後。)較小之船多被掀翻。一時號洶呼救慘聲四起。潘祖見狀。懷慘已極。竟急得噴血氣絕倒地。衆弟子一見大驚。連忙把船設法入港。將潘祖扶起一看。竟已神歸太虛。無法施救。衆弟子聞訊。一齊趕至潘祖座船內。人人痛哭失聲。衆弟子一面辦理善後。一面點查糧船數目。已損三分之一。死傷人員約在百名左右。其餘糧船及用具等物。損失更難計數。『按後來清門有糧船三不到之說。三不到者。楓林閣不到。(因潘祖在此歸天肇成巨變。)銅雀鎮不到。(因關外多險。黑風口不到。(因水淺河狹。』糧幫遭此事變。運河一帶文武官吏。聞噩。均派專員趕到楓林渡查看。並事慰問弔弔。各帮當家集議。公推王伊(即王降祖)繼任。統領糧幫事務。王祖率領各幫糧船。

開往通州卸糧。其損壞之船。則由大房弟子司馬秋。二房弟子姜四保（又名玉培）。三房弟子宿慶祥。三位小祖。督工修理。潘祖靈極。推派大房弟子潘如虎。二房弟子冉秀。三房弟子姚發（字文銓）潘祖嘗僱三位小祖護運回杭。後全諸弟子，以及各幫子孫，服孝三年。公葬於杭州武林門外。寶華山麓。墓前對青龍山，千佛頂。左有五龍潭。右有聚寶嶺。後有三仙洞。金靈洞。（墓影見前。墓治詳後）。潘祖靈極下葬後。王降祖提議重修家廟。增添家譜字派。爲四十八字。俾子孫興盛。擴充光榮。衆議贊同。撰定二十四字續訂譜中。（詳後）。幫務辦理完畢。各歸各地而去。從此王降祖統領幫務。「按潘祖生於康熙三年。在雍正十三年六月六日過方。享壽七十二歲與翁錢兩祖。同隸陸祖會下。爲清門德字派。第四代祖師。」

小祖傳錄

王降祖。名伊。字德降。又號降祥法名文宣。浙江杭州人。迺潘祖開法領衆之首徒。秉性謙和。素以恆敬待人。深得幫中信仰。自潘祖過方。（人死之謂）承繼。統領幫務。旋即開法領衆。共收弟子九千七百八十四人。均是當時良善子弟。生平操作。建涼亭。立路碑。修家廟。築航路。以及整頓幫規。增訂家譜。續撰「萬，象，依，皈，戒，律，傳，寶，化，度，心，同，普，門，開，放，廣，照，乾，坤。代髮修行」（即下二十四代之字派。）「在王降祖生於康熙四十年辛巳歲。死於乾隆卅九年甲午歲。六月十九日在杭過方。在生享壽六十三歲。爲潘安堂弟子。清門第五代文字派祖師之第一位云云。」

蕭降祖。名隆山。字玉德。法名文祥。山東東昌府聊城縣人。爲清祖之關山門弟子。性剛直。喜行俠義事。與王降祖二人行止如一。清祖視之爲左右臂。開法領衆。共收弟子三千六百五十一人。於乾隆五十八年。十一月初四日過方。爲清門第五代祖師中之一位。

姚小祖。單名發。法號文銓。浙江杭州人。爲清祖之舊僮。伶俐俊秀。事主忠實。清祖愛之如子。遂收爲弟子。將編餘之糧船。一百六十四隻。賜給裝運香末。隨覽經營雜貨。自清祖過方後。守墓三年。朝夕痛哭。每餐必先呼師。而後食。三年孝滿。人已老瘦似癯。未幾投靈雲寺削髮爲僧。〔查姚小祖亦文字派弟子。清門第五代祖師中之一位。〕「曾中開拜師。曰孝祖者。卽指此義而定名。」

宿小祖。名慶祥。法號文調。安徽宿州人。爲清祖得意弟子之一。平生未娶。祇牧周三長爲錢子。承歡膝下。秉性忠恕。嗜酒愛棋。每飲醉。痛罵吳三桂不止。嘗與人談文天祥。史可法。必至淚流。因而人稱宿小祖。爲瘋當家。清祖過方後。守墓三年。孝滿。還天竺。削髮爲僧。〔查宿小祖。亦福安堂弟子。爲清門第五代祖師中之一位。〕

潘小祖。名如虎。字青山。法號文道。浙江武林人。爲清祖之族姪。翁祖開山門之首徒。胸襟沖淡。儒雅能文。管理幫中文習公積。自三家併一之後。受精河總督禮聘入幕。幫中從此凡事。多往請益就教。而潘小祖很能誠信待人。並不辭勞瘁。後幫人都稱爲香仲連。〔查潘小祖。乃翁佑堂弟子。爲清門文字派。第五代祖師之一也。〕

丹小祖。名秀。字玉華。法號文德。四川成都紅沙岡人。移居江蘇武進縣城內。爲錢祖開法領衆之首徒。忠厚老誠。博學能文。頗得錢祖寵愛。而翁潘二祖。亦深器重之。與潘小祖。同掌文書函牘事務。王文字派祖師之一位。

姜小祖。名四保。字玉培。法號文講。河南懷慶府人。爲錢祖得意弟子之一。性質剛強。武藝絕倫。每喜與漕運官吏之作威作福者尋仇。不畏強禦。務使慾心斂跡而已。錢祖時加教誨。云「強凌弱。衆暴寡。勢利天下。豈自今日始。惟有堅毅卓立之精神。方足敵之。昔聖賢豪傑。有是精神。臨難不畏。逢敵不懼。不亢不卑。而成大業。吾觀爾之言行。雖有堅毅卓立之精神。惜尙欠謙退之道。要知剛極則折。柔極則靡。有剛無柔。則謂強矯。有柔無剛。則謂卑弱。設能剛柔併用。兩不成名。余不信耳。切莫自滿。引人妬忌生禍。爾宜戒之。」姜祖遵訓。望慾懲忿。果見性平氣和。嗣後。果名成業立。而一生連疾病皆無云云。「按姜小祖是錢佑堂文字派之弟子。爲清門第五代祖師之一位。」

朱小祖。名敏全。字光明。法號文英。別號金毛獅子。江西南昌人。遷居浙江。杭州武林門外。青龍山。打獵爲業。精武術。喜交游。好行俠義事。爲翁祖弟子之一。與二房弟子黃象。三房弟子劉玉誠。石士賢。爲金蘭交。（釋中稱翁。錢。潘爲三老。朱。黃。劉。石爲四少。）共同參加天地會。潛謀反清。事敗。遁陝甘。不知所終。

黃小祖。名象。字潤生。法號文雄。別號玉麒麟。江蘇丹徒縣人。爲錢祖弟子之一。通文達武。教授拳術爲業。性情緘默。懷大志。慣交游。凡綠林豪傑。無不結交。嘗至甘露寺。臨江憑弔。後與石、朱、劉、潘謀舉義。事敗。遁陝甘間。不知所終。

劉小祖。名玉誠。字興漢。法號文俊。別號通臂猿猴。山東青州府人。爲綠林豪俠之士。在北方頗著聲譽。慕潘祖道義。往求以師徒之禮相見。潘祖先拒。三年後收爲弟子。遷居杭州青龍山。與朱、黃、石爲異姓兄弟。因之參加秘密。從事反清。後事敗。與朱等同遁陝甘間。不知所終。一書中云。徒訪師三年。即因此也。」

石小祖。名士賢。法號文傑。別字鐵骨金剛。原籍臺灣。隨父遷居杭州城內。爲潘祖得意弟子之一。性剛猛。精拳術。好作不平鳴。因犯殺人罪。逃匿江蘇巴斗山。與蔡盜爲伍。盜首名半節寶塔王懷志。未幾被清廷六合縣官吏捕殺。羣盜舉石小祖繼王爲首。乃立公道約法三條。銘刻石碑爲戒。(一)不劫殘廢孤獨。以及婦女孺子。(二)不劫來往小本客商。以及僧道。(三)不劫忠臣孝子。以及善士居士。在周圍四十里之內。不准有強奪搶劫等事。如犯之。殺不赦。因之附近居民。均呼石小祖。爲公道大王。未幾勢力雄壯。即邀朱、劉、黃、三位小祖到山。共同舉義。藉替王懷志復仇。派蔡盜潛進縣城。殺官劫獄。樹旗反清。江督聞警。派兵往剿。石小祖等。屢戰皆敗。潰退歸山。清軍緊追。將山包圍。石小祖等。破圍逃往陝甘。不知所終。一查朱爲翁佑堂弟子。黃爲錢保堂弟子。劉、石乃潘安堂弟子。均爲潘

門第五代之祖師。幫中每開香堂。必置一爐香於門外。傳云。卽供奉小祖之義。『小祖者。朱。黃。劉。石。四少也。此項典故意義。不外乎紀念民族英雄。統希幫中老少。詳察其意。莫以謬言見棄。幸甚。』

强家四傑傳錄

直隸倉州。有强氏兄弟四人。爲山東濟右幫。當家林莖之高足。父名永年。保鏢爲業。母家車氏。乃湖南幫當家車雲冲胞妹。祖居天津。嗣因糧幫改組。兄弟四人。相繼統帶桐船。各領一幫。行運於漕河江海之間。慣行俠義之事。廣結志士英雄。門前常置木桶兩具。一盛裝雜糧。一盛裝麵粉。任桑梓貧人取用。每逢歲底。兄弟四人。皆藏銀兩。遍覓危急之人週濟。當時世人。稱讚强家兄弟爲四傑。强林行一。法名仁英。性質謙和。統領桐船包頭幫。駐在山東膠州。强深行二。法名仁雄。英武冠世。統領三幫。駐在山東鄆城。强鳳行三。法名仁俊。允文允武。性質剛毅。統領三幫。駐在山東城武。强魁行四。法名仁傑。勇猛好鬥。有人呼之曰張飛。兄弟四人。待母甚孝。可爲幫中孝義模範云云。『查强氏兄弟。乃潘安堂法字派。湖南頭幫。領帶當家林莖祖師之會下。爲清門第九代。仁字派祖師。生平收弟老（徒弟之別名）甚多。均是當時孝義之士。可謂滿庭桃李。子孫興盛。』

清水教舉義事錄

清水教者。白蓮教之一支派也。首創者。山東義民王倫。人極精明。果敢。祖居兗州。壽張縣。石佛口。地方。其祖王好賢。世傳白蓮教。傳至王倫。以符法替人治病。秘授神武異術。往來漕河。見糧米

勢力雄厚。而一般人義氣又重。乃生羨慕之心。遂與幫中結識。旋立清門教。聯誼合作。潛行廣收弟子。若爲己用。其所謂清水教者。其意義取佛經云。「清淨莊嚴」。清字。及「十功德水」水字。定爲教名（見彌陀經）從此幫與教相混。（世人稱之曰清幫。或者由於此。）潛伏勢力。更易伸張。王倫素和傾覆清廷之志。因之潛謀舉義更急。乃於乾隆三十九年間。乘清廷征伐金川之際。大倡有四十九天。水火兵災。凡願入教信佛者。得免慘死。不信者。難逃浩劫。因此一般愚夫愚婦。從者日衆。事被壽張知縣沈齊發所聞。派差往捕。王倫遂於八月二十八日拒捕。當夜率衆襲城。殺死知縣。連陷堂邑陽穀。清廷聞警。派兵往剿。王倫掠餉棄城。分趨臨清東昌。盡占清河要隘。豐收清軍。清廷迺派大學士舒赫德督師。額附那多旺爾濟。左都御史阿恩哈。率兵三千。並帶健銳火器營（如近代機械化部隊一樣）三百名。星夜往剿。又簡命吉林索倫。善射騎兵五百名增援。並命清河總督姚立德。分兵防堵。此時義軍合兵。圍攻臨清之山東巡撫余積。甚急。清援軍四至。內外夾擊。義軍在火器猛烈之下。死尸枕藉。數萬健兒。無一幸免。王倫遭擒。解京被斬。臨刑。尙痛罵胡兒不休。清水教至此。四散分逃。而清廷更嚴飭查拿一切秘密會黨。但是。金丹八卦教。大乘教。白陽教。白羽會。燒香會。三香會。震卦教。坎卦教。離卦教。如意門。義和門。天理會。清門教。等秘密團體。相繼應運而生。所謂「禁者自禁。起者則起。」迨至嘉慶五年。庚申歲。八卦教劉子協。宋之清。繼起倡義。與清軍流動戰於川。湘。鄂。豫。陝。甘之間。未幾已被清廷擊潰。而劉子協。宋之清。均被擒殺。十八年。癸酉歲。山東金丹八卦教。教主林

清。與河兩八卦教教主李文成。締結共同反清。約期舉義。林清垂覺。恐在山東舉事。愈爲清廷激厲。南北各省防營會攻。徒黨必不能勝。反將數十年經營心血。盡付流水。由此與高雲生計商。實用珍奇寶貴物品。賄通高廣福。劉金兩太監。誘之入教。旋令就宮中殺死嘉慶及皇太子等。俾利號召。劉。高至此俯首聽命。卽於九月十六日。劉金領帶預伏京師之二百名教徒。直犯宮闈。而高廣福領帶小太監數人。於宮門響應。林清則率徒黨座候於黃村。指揮各處教徒同時舉義。乃截段清廷援師。使其鞭長莫及。馬腹之計。不料教徒頭戴白巾爲號。而劉金又誤進東西華門。被侍衛親破。急將降宗門緊閉抵禦。此時嘉慶。在木蘭未回。侍衛報警。皇二太子（卽道光）登垣抗敵。用槍連擊登垣黨徒。不中。而黨徒已至樓頂。二皇子用槍柄猛擊。黨徒墜地。審視槍無子彈。情急智生。乃取衣扣銅鈕。和藥裝進槍堂。再擊黨徒。則應聲倒地。劉金。高廣福心慌。率衆攻武英殿之際。京師警衛官兵。早已趕到。卽將劉。高以及黨徒生擒活捉。嚴刑訊供。乃知林清所謀。當派劉金率同化裝侍衛。往黃村誘捕林清。車行中途。卽將林清捆解進京。訊明斬首。劉。高二太監。以及徒黨一併梟首。京師民心乃定。此時河南李文成。已將滑縣知縣強克捷。偵悉八卦教徒約。於九月十七日夜。在南門外關帝廟講事。計有三十六個主教。皆是李文成的徒黨。旋即挑選精幹親兵二百名。往捕。當場將李文成脚筋斬斷。其餘黨徒。用刀穿通肩骨。鎖拿回城。囚於獄。滑縣城廂。附近教徒。聞信立變。傾巢萬人。羣攻縣署。殺死知縣強克捷。救出李文成。遂占領全城。號令各地黨徒響應。而糧米幫一部分人附和。將糧米供給義軍應用。清廷飛檄。調陝西

提督馬成龍軍。由襄陽，荊州。（因勸劉子協駐於鄂）回師河南。會勸教軍。馬成龍日夜催軍。進駐道口鎮。始克桃源縣。繼至滑縣。圍城數月不下。據傳說云。「教軍張宏有呼風喚雨。撒豆成兵。種種玄妙幻變之術。」馬成龍攻城之軍。後有道者趙玄真。別號清靈真人。投馬軍報効。與張宏戰。以法破法。竟將張宏擊斃。猛力攻城。義軍此時。尸橫遍野。血流成河。李文成痛大勢已去。知無法可逃。乃用乾柴。堆集室內。自行縱火焚燒而死。可謂壯烈極矣。（事見清史筆記。及白蓮教傳與東華錄。）

清門教舉義事錄

清門教。乃糯米幫直出。橫生之一系。清代嘉慶年間。中國秘密集會結社的組織。普遍全國。分門別類。指不勝屈。除詳窮外。尚有紅陽教。天地會。三合會。哥老會。三點會。桃源黨。扇子會。手帕會。金錢黨。七首會。帶子會。清門會。大刀會。小刀會。虎尾鞭。如意門。義和門。金鐘罩。釘燈罩。雙刀會。哥弟會。清門教。理門教等。皆是。這不過就當時赫赫有名。堂堂有勢的。略舉幾個罷了。這些黨會之中。惟清門教與清水會。是清門直系。橫出分支。別立的組織。與清門教淵源甚深。據傳說云。其原始清門潘安堂。習字派濟前幫當家。陶仲明的弟子。王正紀者。法號慧明。（慧字派）山東兗州人。性豪俠。富資產。廣交天下義士。尤樂聞神仙道術。因是僧道盈門。來蹤去跡。異常秘密。仲明見此情形。中心很為危懼。此時八卦教。與清軍流動戰於川，陝，豫，鄂之際。（因勸正紀曰：「勿負祖德。勿騙子孫。個人身敗名裂。固不足道。戚友之連帶受累。非同小可。思之重思之。」正紀聽了這一席話

。默默不言者。良久又良久。仲明很想聽正紀回話，是不是可以聽了這番忠告。而改變了態度，思想，行爲。但正紀自始至終。終是低頭沈思，默無一語。仲明知道他成見很深。不可言喻。遂將幫務移交於首徒孫慧本，而自己則隱名隱姓。隱居於深山大澤之中。正紀自仲明去後。遂創立清門教。宣揚教義。廣收徒弟。其人數多至萬人以上。而勢力亦日見澎漲。可是正紀又恐勢力單薄。復與各秘密黨會等。互相聯絡。遂舉義於滑縣。登高一呼。而從者數萬人。按當時王正紀所定之流動戰略。原期沿黃河北上。直指燕京。一舉而下之。不料清廷聞驚。飛詔各路防營。用包圍的戰略。重重包圍，使他呼應不靈。首尾不接。以毫無訓練，與經驗的烏合之衆。安能抵得住，久歷疆場。百戰餘威之師。於是全軍覆沒。而正紀亦被擒獲。解至北平。立即正法。當行刑的時候。正紀面帶笑容。毫無畏懼之色。旁觀者。都爲之踴躍不已。清廷自經此變。很爲震怒。遂下令全國。嚴查正紀餘黨。結果。探得正紀爲糧米幫子弟。而當時糧米幫之首領。則爲孫慧本。處境之危險。不問可知。慧本聰明過人。很識時務。知此事要免去嫌疑。避去禍害。非經濟運官吏方面下手不可。遂竭盡智能。用靈手腕。百般的逢迎漕運官吏。果然慧本得到他的稱頌。遂化凶爲吉。免去全幫株連之禍。真可謂一髮千鈞。而間不容髮。糧米幫在乾隆時間。本係公開之組織。自漕運事變後。清廷對於該幫。查禁森嚴。稍涉嫌疑。就難免殺身之禍。因之人人有談虎色變的景況。故子孫頗減許多。幾乎無人再敢問津。從此以後。糧米幫又入於秘密活動的時代。故本幫對帮中系統上「本來自信」四代無多記載。

迨至「太平軍興」糧運復盛。北方糧船。大多爲清廷服務。而南方的糧船。則又多被太平軍改充水師。杭州家廟祠堂。又被亂軍焚毀。致清幫勢力。有形無形。消滅殆盡。眞所謂皮之不存。毛將焉附。同治元年。胡耀臣者。（福州人爲清門信字派弟子）在廈門。立清水會。與七首會劉麗川。在上海獨立。惜乎各處實力。都不大充足。而組織方面。也不大嚴密。因之。不旋踵而自歸於消滅。恰如曇花之一現。人多惜之。但經此一番舉動。而民族革命之思想。傳播於民間者不少。中山先生。於武昌起義。一舉而推翻清廷者。未始不得力於清代諸秘密黨會。爲民族革命思想之先事播種。

（按清水教。清門教兩組織。揭反清復明旗幟。呼民族革命口號。時爲嘉慶。道光年間。事見吳正庸筆記略載。而拙著中國秘密黨會野乘。及洪門秘笈均詳道其事。）

自太平軍失敗。清廷力謀維新。改防營。練陸軍。設學堂。開工廠。築鐵路。造輪船。種種設備。皆求適合於潮流。這是清朝收攬人心。避免再起革命風潮的一種手段。清運廢掉。清幫當然裁撤。在清廷心裏。以爲消滅幫人的一種釜底抽薪的辦法。但是。事實上則不盡然。因幫雖被清廷裁撤。而幫中分子。依然存在。不過從前依附於幫幫者。而現在則改隸於各省府縣的衙署中。爲下層工作的供差。或緝捕等職務。事實上仍能秘密進行。其民族革命的偉大工作。外表上好象爲清廷効勞。因此世人。有誤會清門組織。爲保清集團。而將先賢爲民族革命而犧牲之義舉。完全忘却。這真是冤哉枉也。老實說。清門對於民族革命。無論何時。何地。何役。都有他不可磨滅的功績。換句話說。就是無論那一次革命。都

有清門的中堅份子參加其內。庚子之亂。戊戌之變。以及辛亥革命之成功。清門中都犧牲不少的良好份子。晚近徐寶山，揚州的獨立。王金發紹興的舉義。陳英士上海起義。而劉勳參與戎機。其他如白寶山。馬玉仁。張仁奎。劉海峯。趙德成。王普等。以及長江各省府縣。水陸碼頭。革命領導之下。無處不有清門老少參與其間。其豐功偉績。直可以驚天地。而動鬼神。中華民族革命史上。都應該大書而特書一筆。豈可湮沒而不問麼？這些史蹟的造成。飲水思源。完全胚胎於諸先烈義舉的肇端啊。

第四章 漕運沿革

(一) 明代漕運

自元代。江浙海盜張萬戶。塞邗歸正。獻書元廷。詳述海上險易。由此海運。年獲糧米祇七十萬石。迨至洪武中。航海侯張赫。漕侯朱壽俱以海運功封。運米仍然七十萬石。此乃海運之始。

永樂元年三月。濬陽中屯衛。軍士唐順言衛河之源。出衛輝府衛輝縣西北八十里。大行蘇門山下。其流自縣城北。從衛輝城下。入大名清縣界。迤邐抵直沽入海。南距黃河陸路五十餘里。若開衛河距黃河百步置倉廩。受南京所運糧餉。轉至衛河交運。則公私交便。帝命臣議復。俟民力稍甦進行之。

四年秋七月。北京軍儲不足。乃命平江伯陳瑄。任總兵。帥舟師海運。歲運百萬石糧。當時建百萬倉于直沽尹兒灣。城天津衛。集兵萬人戍守。至是令江南糧米。一由海運。一由淮運。由淮河入黃河至陽武

轉陸運至衛輝。再由衛河入白河。至通州。此乃海陸兼運之源。八年以舊額。糧運二百五十萬石。不足國用。特令江浙。湖廣。數省。各府自行督運。歲米增至三百萬石有奇。

洪武中。濟寧至臨清。河岸衝決。河道淤塞。故於陸路置八遞運所。每所僱用民丁三千。車二百輛。日久民困其役。百弊叢生。又於奏章內。見濟寧同知潘叔正言。會通河道。四百五十餘里。其淤塞者。三分之一。浚而通之。不獨山東人民。免轉運之勞。實國家可收無窮之利。廷臣據此奏帝。乃於九年春二月。命工部尙書朱禮都督周長侍郎金純。擇日開工。首先徵發直隸山東徐州民丁。又調應天鎮江各府民丁。併力開浚。對民丁時加慰勞犒賞。同時河南河水爲患。帝又遣侍郎張信往視。察得祥符縣魚王口。至中潞下二十餘里。有舊黃河岸。與新河面平。浚而通之。俾循故道。則水勢可殺。遂繪圖奏於朝。帝命徵發河南民丁十萬。資興安伯徐亨工部侍郎蔣廷瓚金純相度開浚。統歸宋禮兼督。○六月會通河成。以汶泗爲源。汶水出齊陽。泗水出袁州。至濟寧而合。置天井閘。以分其流。南流通于淮。而新河別居其西。北流由新開河。道東昌入臨清。共計三百八十五里。自濟寧至臨清。僅十五閘。以時啓閉。又在齊陽築堤城壩。遏汶水盡入清河。宋禮以會通河源于汶泗。夏秋霖潦泛溢。則馬常泊之流亦入焉。汶泗合流。至濟寧分爲二河。一入徐州。一入臨清。河流深淺。舟楫通塞。繫乎泊水之消長。泊水夏秋有餘。冬春不足。非經理河源。汲引別水以益之。必有淺澀之患。今汶河上流。自齊陽縣已築壩堰。使其水盡入新河。東平州之東境。有沙河一道。本汶水支流。至十里口。通馬常泊。比年流沙淤塞河口。宜即

時開濬。况沙河至十里口。故道俱存。不必施工。河口當濬者僅三里。河身宜築堰者。計一百八十丈。帝從之。十年春正月。衛河水溢。河岸倒塌。帝命宋禮相度措置。四月宋禮奏復。云自衛河東北。至舊黃河十二里。內五里係舊河。有溝渠。五里係古路。二里係平地。今開河泄水。以入舊黃河。則至海鹽大沽入海。帝命俟秋成爲之。九月工部主事蘭芳。繪圖呈請用木筏編圍。裝大石沉水底。再用木椿訂網。以土壤之。以石實之。橫木貫樁上。再以石塊疊之。其堤可固。永無坍塌之患。帝從之。果見功效。宋禮愛其才。薦擢爲侍郎。十一月浚鎮江京口新港甘露三港入江。十三年三月。下罷海運之詔。命平江伯陳瑄。于江西湖廣造平底淺船三千艘。以從河運。歲米三百餘萬石。初南方漕米北運。舟至淮安過壩。渡淮輪輓甚難。卽鑿河二十里。自清河口引淮西管家湖之水。由鴨陳口入淮。以通漕舟。就管家湖築堤五十里。以便引舟。置移風清江福興新裝四閘。以時啓閉。又浚儀徵瓜州以通大江。更築高郵湖堤。堤內鑿渠。再拆鑿呂梁。百步二洪。以平水勢。並開泰州白塔河以通大江。高郵湖堤內。鑿渠亙四十里。卽在淮濱作常盈倉五十區。貯江南輸稅之糧。至此徐州濟寧臨清德州皆建倉。以便轉輸。將源來積貯蘇州之太倉歲糧。並魯東袁州之糧。送濟寧倉。以河南及山東之西部糧。送臨清倉。分別交收。浙江并直隸衛。分軍官於淮安運至徐州。京衛官軍於徐州運至德州。山東河南官軍於德州舟運到通州。名爲支運。年凡四次。河淺攔舟處。濱河置舍。五百六十八所。置線夫。（捐糧）俾導舟至可行處。緣河堤兩岸。鑿置糧樹。以利行人。又增置淺水船三千餘艘。海運遂罷。十四年。方設淮安清河福興徐州之沽頭金溝。

山東之谷亭魯橋等關。各置官。於是漕運始達通州。宣宗宣德五年三月。變支運法益耗。改用充運。法行之既久。耗亦納官。則失初意矣。七年。因呂梁上洪地險水急。漕舟難行。於在舊洪西岸鑿渠置閘。渠深二尺。寬五丈有奇。夏秋有水。可以行舟。（漕糧入庾）憲宗成化四年初。正統間漕米入庾。有始銳至。是帝詰銳米。戶部執曝揚之數。取米一石。其銳曝之餘九斗六升。乃以升為耗。江南巡撫周忱。經理運道。在武進奔牛呂城設置閘閘。俾漕舟由京口出江。最為便利。景泰年間。壩閘漸頹。水道淤塞。改從蔡涇孟廣出江。因迫於海洋。漕舟多覆溺。天順年間。巡撫崔恭。咨請從周忱故道。增設五閘。至是成之。七年間。罷瓜淮之充運。并改四倉之支運。令充各附近水次。其瓜淮者於原耗外。益以脚米四倉。無故耗者准量給耗米。又復在軍云。尋復定充運改充之額。淮河以南四百萬供京師。淮河以北八百萬供邊境。別貯額外米於臨德。曰預備米。以備漕米之撥補也。先是宣德間。定耗例。二米一他物。乃仿洪武時。附載土物之意。用以資君便民。至成化年間。遂起為充法。則悉從本色。聽軍易用。然多滯不便。世宗嘉靖七年。通會河成。糴運從河入省。輕費銀十一萬。給軍三分之一。并令三年後量減加耗。以寬惠民。初弘治年中。議定折耗銀曰輕費。凡輕費之銀。官給之大抵米。以備遠涉。及顯加之耗。銀以備儲儲鋪墊之用。要之正米無缺而止。正外諸羨。盡歸旗卒。官無利焉。一時軍卒饒逸。漕運於斯為盛。亡何。漕撫李憲請將賣餘貯庫。聽來年缺者。貸償之。帝可其奏。著為令行之。嘉靖初。以漕河總兵楊宏奏輕賣隨軍人緩急有濟。若貯漕庫非法也。大學生費宏言衛軍終歲勤勞。給京軍幸有羨

。宜與之詔皆給軍。軍雖然。久之戶部言輕費之費。倉爲甚。管雀員之嗜。蠹蟲之吮。雖禁不可止也。上曰禁革。上曰扣除。不如其已。請令運官備列倉費前規。聽官給領之。而給軍遂革。至是通惠河成。遂有是命。八月。浚治清江浦。復舊乃由江汜入之道。神宗萬曆七年。復築高家堰。降慶年間。高家堰廢。淮水填民田。於是議復築之。由新莊至越城長一萬〇八百七十丈餘。堰成淮水復由清口匯黃河入海。而黃浦不復衝決矣。又以通濟閘逼近淮河。舊址坍塌。改建於車羅城之北。仍改用濬河口斜向西南。使黃河之水不得直射。因發拆新莊閘。又改福興閘於壽州廠適中處所。其清江板閘照舊復修。又議修復五壩。惟信字壩久廢不用。智禮兩壩加築。仍舊車盤船隻。仁義兩壩。與清江閘鄰相。恐有衝沒。故即移築天妃閘內。復命官修揚州高寶運河。減水閘四座。加高閘石九座。自是實應諸河堤岸相接。九年於淮安府城南。運河之旁。自舊楊家湖歷武家墩。開新河一永濟河。十一年建清江浦外河石堤。長二里。磯嘴七座。又建西橋石壩。長九十八丈。以禦淮河之衝。又議由昭靈寺南。黃河出口。置羊山內華山。梁山接境山下。開河置閘。以避咸港之溜。十二年。揚州高寶運道石堤之東。傍堤開新河三十餘里。以避槐樹樓一帶之險。曰弘濟河。至是濬河工竣。諸閘。壩。堤。完成。由此江。河。湖。海。諸水。各得其歸。不獨漕運無阻。而濬河兩岸居民亦無危矣。

(二) 清代漕運

黃河之患。無代無之。(俗諺所謂。黃河。與官吏。道路。爲中國之三大憂。)元代以前。河自爲河。

治之尙易。元代以後。河兼漕運。治之較難。明代二百餘年。治河名僅徐有貞，劉大夏，潘季馴，三人而已。清初。河淮同流。淤沙漸積。順治十五年。河決淮安山陽。康熙元年。河決原武。祥符。河道總督。朱之錫。上緩急十事。開治河之先路。十六年。河水四溢。以靳輔。爲河道總督。專任治水之事。時淮。黃。兩河。四潰而不入海。從徐州府之楊山。至海口兩岸。潰決七八十處。而洪澤湖之高家堰。決口至三四十所。霍家壩。則成四道之河。清水潭則久成潰流之。高郵。寶應。鹽城。興化。泰州。如皋。七州縣地方。皆漂沒於水。成爲一片汪洋。而溝口運河。反淤塞變爲陸地。江蘇。屬之山陽患之。靳輔。熟睹情形。創「蓄清敵黃」「東水攻沙」之法。以爲「溝口」以下。不濟築。則黃。淮。二水無所歸。溝口以上不鑿引河。則淮水之流不暢。高堰之決口不盡封塞。則淮水派分。無刷河之力。黃河必納淮。而下流之清水潭亦危。且於黃河南岸。不築堤防。則高堰危險。北岸不加防範。則山東必受衝激。故築堤岸。疏不流。塞決。但有先後。而無緩急。今不爲一勞永逸之計。屢築屢圯。安有底止。」遂請濬河築堤。建壩。立閘。以防上流漲淤。以制下流衝決。所謂「寓濬于築。一舉兩得」者也。在任數年。進行不懈。及康熙二十六年。靳輔請於高家堰之外築重堤。而巡撫于成龍。又奏下河宜挑不宜修。重堤宜修不宜築。彼此意見不合。尙書佛倫等。會勘上下河道。知高郵等七州縣。水患皆洪澤湖水。注高郵。寶應。邵伯三湖。流入漕河。故七州縣民田被淹沒。故治下河。必先濬上流。廷臣。多主張靳輔之議。而廣熙。頗以于成龍爲是。後御史郭琇。參靳輔治河無功。偏聽幕客。陳漢。阻撓下河開濬。而尙

嘗王曰藻。亦以靳輔屯田之請。有累於民。疏請停止。遂罷靳輔職。于成龍繼任。卒無成效。其後張鵬翮。陳鵬年等。則皆宗於靳輔之遺規也。康熙六次南巡。均幸閱黃淮諸河堤岸。併召地方耆老。細問民情。返京後。諭戶部曰。『朕廬念河坊。屢行親閱。凡自昔河道之源流。治河之得失。按圖考績。靡不周知。粵。從明季寇氛。決黃灌汴。而洪流橫溢。歲久不治。迄於本朝。在河諸臣。未能悉心修築。以致康熙十四五年間。黃淮交散。海口漸淤。朕乃特命靳輔。爲河道總督。靳輔自受任以後。斟酌時宜。相度形勢。興壩堤壩。廣疏引河。排衆議而不撓。竭精勵以自效。於是黃淮故道。次第修復。而漕運大通。其一切經理之法具在。雖嗣後河臣互有損益。而規模措置。不能易也。至於開創中河。避黃河一百八十里。波濤之險。因而漕輓安流。商民利濟。其有功於漕運民生。至大且遠。朕每蒞河干。徧加諮訪。沿淮居民。感頌靳輔治績。衆口如一。久而不衰。』由此可見。靳輔治河。實爲清朝第一人耳。清康熙四十三年。帝謂大學士等曰。『前南巡多由舟行。官民羣集兩岸迎駕。頃西巡。皆由陸路。凡臨幸郡邑。官民無不扶老攜少。歡騰道左。每請問及之。又令在輿輿左右。備諮地方之利弊。彼皆抒誠陳奏。是以風俗人情。靡不洞悉。朕巡幸七省。察習民俗豐裕。江浙。則較三十八年時。更勝。山東。近因水旱。大異曩昔。河南百姓。生計甚艱。此二省之民。深廬朕懷。又聞各省火耗。俱是加一錢。糧最少者。惟有甘肅。通計正額。共二十八萬有奇。加耗亦止二萬八千。州縣官。錢糧既少。加耗無幾。不敷用者。宜或有之。其餘賦額皆多。如一州縣。正額有二三萬。加耗卽至二三千。宜敷用矣。而州縣。

仍有銀難告者。其故安在。朕隨地諮訪，督撫雖有不受餽遺者。然餽藩臬者若干。餽道府若干。豈可盡云廉吏乎。一觀此康熙巡幸情形。州縣之賦用。江浙豐富。魯豫饑饉。益可知。至官吏貪黷。清代無世無時無之。但是廉區官吏固有。不過少數。革命之起。雖說不宜乎。

第五章 糧船制度

(一) 造船計數

共造一萬一千二百五十四隻。(前有九十隻亦在其中)。統歸江淮泗總督領導。分成一百二十九幫。後於八省調兌時。又改成一百二十八幫半。改用糧船九千九百九十九隻半。下餘半幫。無得用處。賜與潘祖門下書童。姓姚。諱發。上文下銓。看他爲人心地忠厚。將半幫賜與他。在幫中做點生意。無物可販。祇得隨帶末香。以此爲業。初起之時無太平。停修之船。後來日久。船有朽壞等情。故用太平。停修也。

(二) 造船尺寸

國船一隻。長十二丈八尺。(按一年十二月八節)。寬二丈四尺。(按二十四季。又說按二十四節氣)。深一丈八尺。(按十八尊羅漢)。尾船一隻長九丈五尺。(按九江五湖)。寬深與大船同。小船長七丈五尺。深寬同大船一樣。大桅高十八丈零四尺。(按天下十八省。四京)。大桅圍圓。四尺八寸。(按四時八節)。小桅高。十三丈零九尺。(按內地十三省九江)。桅圍圓。三尺六寸。(按三十六天監

（一）大桅頂。名曰來鳳柱。桅杆長一丈二尺。船篷名曰金翅大鷄。頭道篷。三十六折。（按三十六天罡）
（二）道篷二十八折。（按二十八宿）。三道篷十八折。（按內地十八省）。

（三） 船板計數

每船用板。共三百六十五塊。（按天上三百六十五度）。用釘七千七百七十二根。（按七十二地煞）。
大船用釘。十萬八千支。（按天上十萬八千星斗）。（船上有連釘。天上有連星）。若問有多少釘眼。
有釘則有眼。無釘則無眼。查三百六十五塊船板。計有障板十二塊。天花板。三十六塊。鳳林板十八塊。
如意板四塊。佔艙板四十六塊。蕩浪板七十二塊。分水樹八塊。（每塊一丈二尺八寸五分）。（按一百二十八顆半）。
五葦板五塊。陞官板五塊。艙板六十四塊。艙板十八塊。艙門板八塊。跳板大小三塊。
陰艙板二十四塊。杆頭板四十八塊。抱桅板兩塊。（此按天上三百六十五度）。又云（按每年三百六十五日。有人說多了十天。豈知有月大。有月小。有閏年。有閏月。三年兩頭閏。以十日爲度）（另有三塊板。不在數內）。
頭頂黃板。身背掌板。脚踏跳板。（有板有眼。是牽板）。（有釘無眼是跳板）
（有板一個眼。是分水矧子板。又有三塊板不在內。登雲板。香板。錢板也。）

（四） 船上對聯

糧船通用對句 「糧船不離清河內。漕灣曲曲到天津。」 又對句 「皇糧運貢流千古。萬葉舟船水上行。」 又對句 「順風平浪到廣德。如意走蓬定太平。」 又對句 「三關五壘容易過。五湖四海任

舟行。」（船頭）「順風無浪行千里。舵後生風送萬程。」（船門）「頭頂黃雀抱桅板。身背牽板爲正名。」（桅杆）「身臥輪中間風浪。如意答道定太平。」（船後）「九曲三灣處舵轉。五湖四海任舟行。」（又聯）「大將軍二將軍八面威風。三將軍四將軍卦印封侯。」

（五）三堂六部

（大三堂）經堂（北五台山哪王廟）香堂（杭州城天王寺）祠堂（杭州皇氏廟）。（中三堂）副執堂（執堂師）。家堂（護法師）。正杆堂（巡堂師）。（下三堂）燒灶堂。進香堂。走杆堂。（又三堂名稱）前堂燒香堂。中堂羅漢堂。後堂拜師堂。（三堂詩讀）「前有燒香世代傳。中船羅漢也安全。三堂行盡三峽水。拜師仙帳已高懸。」（大六部）鐵錨及舵因其鋒利故曰吏利部。其把因能護船身故曰戶廉部。船篷及端把繮繩因先理而後用故曰理禮部。纜與嚙嚙兵之嚙字同音故曰濱兵部。跳板專爲人來往行走故曰行刑部。牽板及篙子因拉牽及撐篙形似灣弓故曰弓工部。又稱引見部。傳道部。掌簿部。用印部。司禮部。監察部謂之六部。（小六部）。旗布部。油布部。後粉布部。端把布部。門帘布部。船門布部。（正六部）。吏部（靠把）。戶部（絞關）。禮部（鐵錨）。兵部（跳板）。刑部（牽板）。工部（牽繩）。（副六部）。篷（吏部）。油（禮部）。端把（戶部）。門帘（工部）。旗（兵部）。篙（刑部）。（又云）。纜（兵部）。牽（工部）。篙（刑部）。絞關（吏部）。端把（禮部）。靠把（戶部）。六部詩讀「吏部爲官定要求。兵刑工禮運糧舟。戶部各船皆有此。九廟四相永無休。端把牽繩

響鑼用。木篙背靠水中流。跳板能行千佛子。古來佳作鏡人收。」

(六) 飛禽走獸

(正七飛禽) 旗(仙鶴)。篷(大鷗)。雀桿(孔雀)。櫓(燕翅)。艙門(鸚鵡)。桅頭(烏鴉)。船梢(鳳凰)。(附七飛禽詩讀)「旗子大鷗雀桿櫓。後舵艙門共豹頭。仙鶴大鷗孔雀燕。鳳凰鸚鵡烏鴉收。」(副七飛禽) 雀杆(家雀)。斗子(烏鴉)。旗子(鳳凰)。鳳帶(雙林)。船篷(大鷗)。(插櫓) 燕子。棹(喜鵲)。(附七飛禽詩讀)「金鷄仙鶴豹中王。孔雀金翅烏大王。猩猩蜈蚣多算上。七禽擺列船中央。」(八走獸) 船頭(虎面)。二鎗(羊角)。梢燈(獅尾)。大刀(象鼻)。紋綽(麒麟)。鐵鎚(豹狼。亦作狼頭)。鐵鎚(狸貓)。雙拐(狗尾)。(亦作狗脚) 又云香爐(大吼)。(八走獸詩讀)「紋綽梢燈頭鎚刀。雙拐雙角共鐵鎚。麒麟獅狼老虎象。狸貓山羊接天鰲。」老虎象犛牛白羊。麒麟獅子走獸王。百脚飛貓並大吼。八獸安放船中央。」(對聯云)「獅象麒麟吼。虎貓狼兔獐。」

(七) 器具別名

虎頭牌(獅子頭)。百脚頭(鐵鑄狗腰)。順裁三顆柳(三條大桅)。倒裁兩行桑。又叫(兩個大和尚)。(即是將軍柱)。四大美(前後花板窗戶)。百鳥朝鳳(一個阿咪咩)。錦上添花(一個摩訶薩)。船有朝天吼(三個洞) 船頭上大香爐脚。船上土地廟(在機堂左邊)。狗食盆(在艙門右邊)。(又叫

石鉢）逕上掛旗劉海戲金蟾。又叫（八卦旗）又云雞冠鹿爐（即是鈴子）。寸木不見天（鈴鈴上梢子）。船上桅舵護柱。金剛腿。（桅梢子）一塊板鋸成兩半邊（夾桅板）。抱桅（身芽圍）。鐵桅孤（老大）。青頭淪（又叫大螺。又叫方榔）。偷頭青（棒）。卜的（吊桶）。石灰簍內翻眼齒（交斗）。黃荳芽子（桅上如意頭子。又叫鹿鬚。又叫如意棍）。有板無釘（坐板神龜）。有釘無板（竹篙）。有眼無釘（牽板）。有釘無眼（跳板）。一脚失十脚空（亦是跳板）。三釘一眼。一眼三釘。（即是大桅上烏鴉釘）。船上一寸二分木不見天。又名鐵鑄副將。（非大風不用）船上有三個木頭不見天（乃梢梢子。棹梢子。桅梢子）。一朝柳（桅頭倒此）。左右按的龍帶（是獎子）。船前爲食。船後爲賴。三根木頭一根釘（桅桿）。倒栽一顆將軍柱（舵柄）。一條紅龍分九洲（舵）。霸王逼死雙夾木（絞關）。倒栽一顆柳（桅上掛旗橫杆）。鐵鑄重九十九斤。（按家湖九十九間半）。大鐵鑄重一百二十八半。（按一百二十八幫半）。練條圍子共九千九百九十九個半。（九千九百九十九隻半船）。船上十八窗。船下十八倉。船上共有五位花姑娘。（狸花貓五條）。

第六章 糧幫組織

（一）江蘇省二十一幫

江甯府七縣前後三幫。鎮江府四縣前後二幫。常州府八縣前後三幫。蘇州府九縣前後三幫。揚州府八縣前後三幫。淮安府六縣前後三幫。徐州府八縣前後二幫。通州（南通縣）一幫。海州一幫。共計二十一

幫。派船一千六百三十八隻。

(二) 浙江省二十一幫

杭州府八縣一州前後二幫。嘉興府七縣前後二幫。湖州一府七縣前後二幫。嚴州府六縣前後二幫。金華府八縣前後二幫。衢州府五縣前後二幫。處州府十縣前後二幫。溫州府五縣一幫。台州府六縣前後二幫。寧波府五縣二廳前後二幫。紹興府八縣一廳前後二幫。共計二十一幫。派船一千五百三十八隻。

(三) 江廣十九幫 (江西兩廣)

桂林府七縣二州前後三幫。平樂府七縣一州前後三幫。梧州府五縣前後二幫。柳州府七縣一州前後二幫。慶遠府四縣四州一幫。泗城府二縣一州一幫。百色廳一縣一州一幫。南寧府三縣五州一幫。潯州府四縣一幫。鬱林州四縣一幫。鎮安府一縣四州一幫。歸安府一縣一幫。太平府二縣一州一幫。共計十九幫。派船一千四百九十二隻。

(四) 湖南省十八幫

長沙府十縣前後五幫。寶慶府四縣一州一幫。衡州府七縣一幫。永州府七縣一州前後二幫。郴州府五縣一幫。桂陽州三縣一幫。岳州府四縣一幫。澧州府五縣一幫。南州府五縣一幫。永順府五縣一幫。辰州府四縣一幫。沅州府三縣一幫。清州府三縣一幫。共計十八幫。派船一千三百八十六隻。

(五) 安徽省十六幫

安慶府六縣前後二幫。廣州府四縣一州一幫。滁州一幫。和州一幫。徽州府六縣前後二幫。舊國府六縣前後二幫。汝州府三縣一幫。廣德一州一幫。國陽府五縣二州一幫。潁州府六縣一州一幫。泗安州三縣一幫。六安州三縣一幫。太平府三縣一幫。共計十六幫。派船一千二百五十八隻。

(六) 松江府九幫

松江府七縣一廳前後六幫。太倉州前後三幫。共計九幫派船六百八十八隻。

(七) 河南省九幫

開封府十四縣一州一幫歸。德府八縣一州一幫。河南府十縣一幫。南陽府一縣一幫。彰德府七縣一幫。衛輝府九縣一幫。懷慶府八縣一幫。汝寧府八縣一州一幫。鄭州。許州。汝州。光州。一幫。共計九幫。派船七百零二隻。

(八) 直隸祇一幫

正定府十三縣。共計一幫。派船一百八十七隻。

(九) 桐船蕪包四幫

膠州一幫。鄆城一幫。城武一幫。觀城一幫。共計四幫。派船三百零十隻。

(十) 山東省十幫半

濟南府十五縣一州一幫。東昌府九縣一州一幫。泰安府六縣一州一幫。武定府九縣一州一幫。兗州府十

縣一幫。沂州府六縣一州一幫。曹州府十縣一州一幫。登州府九縣一州一幫。萊州府三縣一州一幫。青州府十一縣一幫。臨清州半幫。共計十幫半派船八百零半隻。

「考查山東十幫半內。調出之半幫。卽臨清半幫。名曰蘭山半幫。蘭山乃山東之縣名。（現名臨沂）歸協辦棹後。而半隻船。亦在棹後。所謂蘭州。蘭州。藍山。皆出於口傳誤會。茲特糾正。以上共計一百二十八幫半。謂之正幫。共計糧船九千九百九十九隻半。其乾隆御賜與小祖之半幫。均不在正幫數內。傳說如此。尙希 先賢後昆 教正。」

第七章 糧幫分類

（一）江淮四頭幫（在江蘇二十一幫之內）

（一）江淮四頭幫（頭二三江淮四屬統領。）江淮四頭幫在無錫兌糧。平常打八卦旗。初一十五打杏黃旗。進京打黃色龍旗。出京打淡黃色鳳旗。金頂金絲盤龍桑枝雀桿。上紅下黑。三道紫金箍。清門錫壺頂。陰陽紫金所。如意頭子。劉海戲金錢。雙披紅花。頂四飄帶。兌糧蘇州閶門外滾龍橋太子碼頭。用梢後水。運船九十隻。五隻太平。九隻停修。七十六隻進京。船名太平舟。船長十丈零三尺。寬一丈三尺。尾至六尺爲度。大桅高九丈三尺。初風吹斷三尺。作斷桅之說。二桅高六丈三尺。精船運行時。祇用一條桅。裝的天子親王府糧。雀桿乃雍正天子御賜。旗子乃正宮娘娘親賜。古來祇有八十三隻半。（半隻足脚划）八隻停修。七十五隻進京。然後分添。才有九十隻。用龍鳳大票。（按古例太平船隨大

幫進京。停修船入廠修理）

（二）江淮四梢後幫頭（五六七八九梢後屬領）七星佐桿。所有頂帶旗所兌糧用水船名。與江淮酒頭幫相同。滿運船八十四隻。四隻太平。八隻停修。七十二隻進京。裝的東宮太子糧。幫頭無正印官。歸江淮四梢後署統。龍鳳小票。古來運糧分八幫。由滑州過方之後。方才并成五幫三所。當家三人。（詳後）

（三）江淮四滿運船八十三隻半。一隻香伙。一隻老堂。三隻太平。四隻停修。半隻信船。七十六隻上綱。進京打龍旗。出京打鳳旗。平常打杏黃旗。初一十五打日月龍鳳旗。桑枝陰陽雀桿。上紅下黑。金瓜頂。寶塔斗。灣鈎如意頭。劉海戲金蟾爲記。船是花頭花尾。上有天花板。兌糧蘇州閶門外太師碼頭。屯糧鐵龍寺紫金碼頭。大船兌糧。一千二百二十五石。小船兌糧。八百十五石。二八折扣。作糧四百另八石。琥珀陰陽紫金所。吃長流水。拋崑山柴。

（四）江淮四。爲首幫滿運船八十三隻半。一隻香堂。一隻老堂。二隻太平。四隻停修。半隻信船。七十五隻上綱。進京打龍旗。出京打鳳旗。平常打杏黃旗。初一十五打日月龍鳳旗。桑枝陰陽雀桿。金瓜包頂。寶塔斗。又名灣鈎如意頭。劉海戲金蟾爲記。雙結紅圓帶。底壓金錢。船是花頭花尾。大船兌糧一千二百二十五石。小船兌糧八百二十五石。二八折扣。兌糧三百六十五石。兌糧蘇州閶門外。靠太師碼頭。屯糧鐵龍寺。靠紫金碼頭。龍鳳大票。

（五）江淮四。滿運船八十三隻半。一隻香伙。一隻老堂。二隻太平。四隻停修。半隻信船。七十五隻

上壩。運糧朝北。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五。打龍鳳旗。平常打杏黃旗。桑枝陰陽雀杆。上紅下黑。三道灣。雙龍帶。寶塔斗。金瓜頂。下墜金錢爲記。幽銘珊瑚。灣鈎如意頭。劉海戲金蟾。船是花頭花尾。所是琥珀陰陽紫金所。兌糧蘇州府閘門外。太師碼頭。大船上糧。一千二百五十石。小船上糧。八百二十五石。六扣。坐糧三百六十五石。屯糧鐵龍寺。轟船紫金碼頭。吃的長流水燒的峨山柴。龍鳳大票。

(六)江淮四滿運船。八十三隻半，一隻香火。一隻老堂。二隻太平。四隻外委。(桐船藤包)四隻。三隻停修。半隻信船。米在香火船上。前半所四十八隻。後半所二十隻。船頭朝北。進京打杏黃旗。初一十五打日月龍鳳旗。幽銘。陰陽紫金旗。金瓜頂。陰陽雀杆。劉海戲金蟾爲記。兌米半蘇半常。蘇州閘門。常州西門。屯糧鐵牛寺。轟船紫金碼頭。吃長流水。燒峨山柴。

(七)江淮四滿運船。八十三隻半。一隻香堂。一隻老堂。二隻太平。四隻停修。半隻信船。七十五隻上壩。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五打日月龍鳳旗。平日打杏黃旗。上有四字。天庾正供。雙龍帶。下墜金錢。桑枝陰陽雀杆。上紅下黑。金瓜頂。寶塔斗。灣鈎如意頭。劉海戲金蟾爲記。船是花頭花尾。上有天花板。兌糧蘇州府閘門外太師碼頭。屯糧鐵龍寺。紫金碼頭。大船兌糧一千二百五十石。小船兌糧八百十五石。二八折扣。作糧四百零八石。琥珀陰陽紫金所。吃長流水。燒峨山柴。

(八)江淮四滿運船。八十三隻。四隻太平。二隻停修。一隻香伙。一隻老堂。七十五隻上壩。進京打

龍旗。出京打龍鳳旗。每日行船打烏龍八卦旗。如意陰陽紫金所。上有劉海戲金蟾。桑枝雀杆。上紅下黑。頭船裝二百五十石。名曰崑山洞。兌米蘇州閶門外四擺渡。卸米通州順常平倉。

二 興武二

(屬松化九幫內)

滿運船。七十二隻半。十二隻停修。一隻香火船。五十九隻行運。兌糧蘇州閶門外。第二太子碼頭。帶糧下通州。白旗紅鑲邊。玉色單飄帶。陰陽八卦旗內現太極圖。名謂珊瑚樹。劉海戲金蟾。朝天一柱香。鸕鉤如意頭。上紅下黑。火燒雀杆。葱白鴨蛋頂。琥珀應天房。行船打蜈蚣旗。初一十五打八卦旗。停船打五色旗。小花旗。進京打丹鳳旗。出京打杏黃旗。吃的長流水。燒的崑山柴。龍鳳牛頭。江淮泗的分支。

三 興武四 (屬松江九幫)

(一)興武四滿運船。五十六隻。分三所。每年換一回。八隻停修。四隻頭船。四十八隻行運。上紅下黑。火燒雀杆。雙紅飄帶。旗名珊瑚樹。後船鸕棍子。外掛蝙蝠爲記。頭船打杏黃旗。後船打紅旗。上寫(通濟吉慶)四字。所是琥珀陰陽紫金所。兌糧松江府青浦縣。及溧陽縣十二隻船。兌糧一千三百六十一石。吃長流水。燒崑山柴。丹鳳旗。船之別名絲綢子。

(二)興武四滿運船。五十六隻。八隻停修。四十八隻行運。上紅下黑。火燒雀杆。紅飄帶。頭船打杏黃旗。腰船打白旗。紅月亮。板梢打紅旗。上寫四字。(通濟吉慶)。琥珀陰陽紫金所。兌松江府七

縣米。四擺渡調齊。吃長流水。燒嶠山柴。

(三)興武四滿運船。四十八隻。八隻停修。四十隻上塢。分二所。興武六拉二十一隻半。興武四拉十八隻半。松江兌米。調嶠山。打杏黃旗。紅月亮。上紅下黑雀桿。每逢初一十五。二十七三天。打十三太保燈籠。琥珀陰陽所。

(四)興武四滿運船。五十六隻半。八隻停修。四十八隻半上塢。進京歸三所。錢保堂拉去十隻。走船打素白旗紅鑲邊。回來空船。打杏黃旗。陰陽亮月。上紅下黑。火燎雀桿。幽銘琥珀陰陽紫金所。調兌松江府七縣玉石碼頭。每船兌米。一千三百五十六石。四擺渡調齊。無窩子。吃的長流水。燒的嶠山柴。

(五)興武四滿運船。五十八隻。一隻香火。一隻老堂。錢保堂拉去十隻。八隻停修。三十八隻上塢。分三所。一年一換。頭船平常打紅旗。初一十五打杏黃旗。上紅下黑。火燎雀桿。旗名珊瑚樹。入陰陽紫金所。外掛蝙蝠爲記。後船打白旗灣棍子。鑲紅邊。半個紅月亮。兌糧松江府。九隻調兌南匯縣。每船兌糧一千二百五十石。共兌糧六萬石。無有窩子。吃的長流水。燒的嶠山柴。

(六)興武四滿運船。五十八隻。一隻香火。一隻老堂。八隻停修。四十八隻行運。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五打杏黃旗。陰陽月亮。上紅下黑。火燎雀桿。大木灣阿朗所。分三所。琥珀陰陽紫金所。調兌松江七縣。窩子那裏有。那裏兌。每船兌糧。一千二百五十石。共兌糧六萬石。兌糧白旗紅鑲邊。半個月亮。吃長流水。燒嶠山柴。

(七)興武四滿運船。五十八隻。分三所。一年一週換新。頭船二房錢祖拉去十隻。八隻停修。四十隻上壩。進京白旗紅月亮。香火船初一十五打杏黃旗。上紅下黑。火燎雀杆。後船打紅旗。上寫(通濟吉慶)。名珊瑚樹。後船滿棍子。掛蝙蝠爲記。兌糧浙江杭州府諸暨縣。調兌江蘇溧陽縣。十二隻。每船上糧一千三百六十一石。所是琥珀陰陽紫金所。吃的長流水。燒的嵎山柴。

(八)興武四滿運船。五十八隻。十隻停修。四十八隻上壩。所分三所。一年一換。頭船打杏黃旗。腰船打紅旗。香火船在十九號。初一十五燒香打白旗紅纓邊。上紅下黑。火燎雀桿。上有四子。(通濟吉慶)。船兌松江七縣米。(秀水石門嘉興嘉善平湖海鹽海寧)等七縣。琥珀陰陽紫金所。松江兌糧每船一千二百五十石。共六萬石。吃長流水。燒嵎山柴。

(九)興武四滿運船。五十八隻。分三所。一年一換。二廳爺拉去十隻。八隻停修。四十隻上壩。頭船幽銘珊瑚樹。後船舵河郎。上紅下黑火燎雀杆。行走雙龍帶。頭船打白旗紅月亮。木板梢。紅旗上有四字。(通濟吉慶)。外掛小白蝙蝠爲記。琥珀陰陽紫金所。兌糧松江府七縣。那裏有。那裏兌。不足調溧陽十二隻每隻。兌糧一千三百六十一石。杭州四擺渡口調齊。吃長流水。燒嵎山柴。

(十)興武四幫頭。白旗紅纓邊。玉色飄帶。紅黑月亮。龍鳳旗。初一十五進京打五色日月龍鳳旗。出京打杏黃旗。過黃河打紅孩兒。金鼻琥珀雀杆。玉色飄帶。頭三星斗。琥珀陰陽所。船七十九隻。兌糧七十四隻。裝白糧六千六百六担有零。運糧一萬三千二百担。三隻太平。二隻停修。在淞江領票。至湖北

東門外。小石灘兌糧。

(十一)興武四滿運船。五十六隻。三隻太平。二隻停修。五十一隻朝北。進京打白旗紅纓邊。當中紅運旗字。出京打太平旗。白旗紅纓邊。中間太極圖。玉色雙飄帶。四鈴鐺。飄帶上有八個字。(四方都見。萬福來朝)。金斗銀葫蘆。五花雀杆。上紅下黑。金斗上有四個字。(天地三才)。船是鴨蛋式前爲吞江。後爲測海。回來船灣蘇州。閶門外二擺渡。兌糧淞江西門外。石門橋下。卸糧天津。通州壩。小紅孩碼頭。糧堆與不合。初一十五燒香打龍鳳旗。虎溝陰陽所吃梢後水。燒到處柴。

(四) 興武五

(屬松江九幫)

(一)協辦興武五幫頭(二三四協辦屬領)硃紅雀杆。銀田素白飄帶。大紅旗。(四方都見)。紅洪湖。雙林所各所能領。兌糧湖州東門外。小紅橋。用九江八河五湖四海水。船五十三隻半運糧。三隻太平。五隻停修。四十八隻半進京。裝糧不定。因船常調動。糧有撥應正票。與江淮酒相同。領導各所各縣。乾隆欽賜。撥領龍虎半票。

(二)興武五滿運船。七十七隻。十二隻停修。六十五隻行運。白旗紅纓邊。玉色單飄帶。陰陽太極圖。起名珊瑚樹。劉海戲金蟾。朝天一柱香。灣鉤如意頭。上紅下黑。火燎雀杆。葱白鴨蛋頂。虎珀應天所。兌糧蘇州閶門外。第二太子碼頭。帶糧下通州。行船打蜈蚣旗。初一十五打八卦旗。住船打五色小花旗。進京鳳旗。出京打杏黃旗。吃長流水。燒鍋山柴。

(五) 興武六

(屬江蘇二十一幫)

(一) 興武六滿運船。六十九隻。二祖爺拉去三十三隻。下剩三十六隻。四隻停修。四隻太平。二十八隻上塢。進京打紅旗白鑲邊。陰陽月亮。錫拉頂。雙披紅。有四字(通漕吉慶)。硃紅雀杆。芽芽蒲蘆。紅孩爲記。雙鎖號。出京打龍旗。初一十五打杏黃旗。二祖爺留下琥珀應天所。本房紅孩天英所。兌糧在蘇州閶門外。太師碼頭。每船兌糧。一千七百五十石。囤糧老牛寺。吃的隨河水。燒的嶗山柴。

(二) 興武六本幫。江淮四分幫興武六。歸松江九幫之內。第六幫船。三十六隻行運。六隻停修。二隻香船。廿八隻上塢。所名紅孩應天所。船頭優銘。大本灣阿郎。前爲吞江。後爲鎮海。別名鴨蛋照日頭。上紅下黑。虎皮雀杆。雙鳳帶。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五打日月龍鳳旗。平常打紅旗白鑲邊。上有四字(通漕吉慶)。銀頂。雙如意。走水水次松江。兌蘇州閶門外。楓橋太子碼頭。裝的正官糧。雙鳳票。調兌黃泥庵。十三隻半。卸糧天津紫竹林小紅橋。屯糧蘇州阜門外。鐵龍寺。吃梢後水。燒嶗山柴。

(三) 興武六滿運船。六十九隻。三家祖帶去三十三隻。下剩三十六隻。四隻停修。四隻太平。二十八隻上塢。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五打杏黃旗。平常打紅旗白鑲邊。陰陽月亮。上紅下黑。火燎雀杆。廣錫寶頂。劉海戲金蟾。雙紅鳳帶。上有四字。(通漕吉慶)。三顆樹。大本灣阿郎。亞油葫蘆爲記。用琥珀應天所。蘇州閶門外。太師碼頭。調兌嶗山縣。共計一千七百二十五石。屯糧在天津小

紅橋碼頭。吃梢後泛花水。燒燭山柴。

(四) 協辦興武(頭二三四幫)錫頂。素白雙飄帶。簾越紅雀桿。紅旗白鑲邊。旗中白月亮。虎溝陰廬所兌糧蘇州。閩門外。大石碼頭。用梢後水。船名絲網子。裝的西宮糧。協辦梢後無正官，歸興武六署統，用丹鳳票。

(五) 興武六幫頭(七八九興武六屬統領帶)雀桿上紅下黑。金頂雙飄帶。四鈴鎗。湖北應天紫金所上爲嘔嘔葫蘆。上紅下黑。進京打龍鳳旗。初一十五打黃旗白鑲邊。太極圖爲記。糧船三十六隻。兩隻太平。三隻停修，三十一隻進京。船名紅繡鞋。裝的正宮糧，兌糧在蘇州閩門外。太平碼頭。卸糧在北通州。小紅橋地方。用雙鳳票試驗。

(六) 興武六滿運船。六十九隻。長房翁祖拉去三十三隻。下剩三十六隻。四隻停修。四隻太平。二十八隻上壩。進京打紅旗。出京打黃旗紅鑲邊。紅月亮。硃紅雀桿。金絲芽芽葫蘆爲記。雙所號。前半所陰陽紫金所。後半所洪海應天所。香火船在十九號。每船兌糧，一千七百二十五石。兌糧蘇州閩門外太師碼頭。吃的梢後翻花水。燒的嵒山柴。

(七) 興武六滿運船五十六隻。八隻停修，六隻太平。調兌四十二支上壩。頭船打銀葫蘆爲記。外帶灣阿郎。雙如意。打白旗紅鑲邊。陰陽月亮。琥珀應天所。兌米蘇州閩門外單橋口。卸米通州壩小紅橋。香火船在十九號。吃的擺渡水。燒的嵒山柴。

(八)武興六滿運船五十四隻上壩。六隻停修。本所紅旗應天所。船頭大木灣阿郎。進京打龍旗。出京打鳳旗。平日打白旗紅旗邊。上寫四字。(通濟吉慶)。寶珠頂。金色雙如意。走水水次松江。兌蘇州楓橋米。調兌黃泥港十三隻半船。吃的長流水。燒的楊山柴。

(九)興武六滿運船。五十四隻。四十八隻上壩運糧。本所紅旗應天所。船頭大木灣阿郎。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五打日月龍鳳旗。平日打白旗紅旗邊。上寫四字。(通濟吉慶)。金寶頂。雙如意。水次松江配橋。蘇州調兌。黃泥港十三隻半。吃長流水。燒楊山柴。米歸蘇州。

(十)興武六滿運船。六十九隻。四隻停修。四隻太平。二祖爺代拉三十三隻。下剩二十八隻上壩。進京打紅旗白旗邊。出京打紅旗陰陽月亮。雙鳳帶。錫鴨蛋頂。孔雀桿。芽芽葫蘆爲記。雙所說。二祖爺留下半所。琥珀陰陽應天所。兌糧蘇州閶門外。太師碼頭。每船上較。一千二百二十五石。屯糧老牛寺。靠船紫金碼頭。吃逢河水。燒楊山柴。

(十一)興武六。平常打白旗紅旗邊。黑白月亮。黑鳳帶。初一十五打龍旗。進京打淡黃旗。出京打五色旗。黑雙鳳帶。雀桿銀瓶。上紅下黑。鳳帶黑斗幽銘。湖北應天所。派船五十二隻半。歸幫四十九隻半。出運半隻乃是脚划。二隻太平。二隻停修。清江漕台領票。清河縣兌糧。燒楊山柴。吃梢後水。

(十二)興武六。船五十二隻半。八隻停修。四隻太平。半隻香火。四十一隻朝北。進京打白旗紅旗邊。(天庾正供)。出京打杏黃旗。初一十五。燒香打白旗紅旗邊。上紅下黑雀桿。金芽芽葫蘆。寶珠頂。

。雙懸帶。幽銘對海獄金蟾。船行在汜水過年。松江府川沙廳華亭縣裝糧。蘇州閶門外。太子碼頭兌糧。天津通州蠟卸糧。吃的長流水。燒的嶠山柴。

（十三）興武六清運船六十九隻。二祖爺帶去三十三隻。現有三十六支。四支停修。四支太平。二十八隻行運。兌糧蘇州太師碼頭蔡家市。大紅旗。白月亮。雙懸帶。珠紅雀桿。大錫頂。三披紅。琥珀金絲如意頭。劉海戲金蟾爲記。吃長流水。燒嶠山柴。雙鳳樂。船之別名紅龍莊。

（六）興武九（松江九幫）

興武九幫頭。大二三。三房合幫。如意紫金鎖。派船七十二隻。三隻太平。三隻停修。六十六隻運糧朝北。進京龍旗。出京鳳旗。朔望日扯金紅旗白月亮白鎖邊。船名金老虎。（雀桿旗號詩）「龍鳳杏黃九曲降。印花素白五湖湘。相俟日光照四海。興前月色映千幫」。

（七）嘉白（浙江二十一幫）

（一）嘉白爲總幫。進京引見面君領賞。嘉興。白糧幫。分派白糧船。一百零八隻。抗三分去四十二隻。下剩共船六十六隻。十二隻停修。五十四隻朝北運糧。香火船在十九號。初一十五掛十三太保燈籠。進京打龍旗。出京打鳳旗。平日打正白旗紅浩月紅鎖邊。象鼻陰陽紫金所。吃長流水。燒嶠山柴。共兌七縣米。由秀水石門嘉興嘉善桐鄉平湖海鹽等七縣兌糧。吃石門橋的水。燒隨河柴。共兌糧六萬六千六百石。船之別名。黑竹鎗。

(二) 奉旨新河(有幫無所)銀頂紅白花雀桿。銀紅雙飄帶。紫白旗子。初一十五打御賜龍旗。盤龍雀桿。金稍子。(天庾正供)。後賜免糧秀水縣。用水也在其中。滿運船六十六隻。二隻太平。四隻停修。六十二隻進京。船名石稍子。裝的白糧。半途小票。後貼龍鳳大票。

(三) 嘉白總幫。共船二百六十六隻。嘉興衛拉去七十二隻。嘉海衛拉去四十六隻。杭三幫拉去四十二隻。時常打白旗白號。初一十五。打日月龍鳳旗。進京打御賜龍旗。出京打白旗。雀桿上紅下黑。幽銘紫傘所。派船七十二隻歸幫。六十六隻出運。六隻停修。嘉興湖州兩府領票。東門外小紅橋。玉石碼頭。免糧。

(四) 嘉白爲總幫。用水在浙江。滿運船六十七隻。一無停修。二無太平。免糧浙江嘉興府秀水縣西門外玉石碼頭。調兌石門縣南門外東橋下。每船上糧。一千八百二十石。半糙半白。火燎雀桿。上紅下黑。頭船當家姓王上會下甲。打白旗紅月亮。雙飄帶。腰船當家姓鍾上士下保。打印花旗。本色飄帶。老堂船當家的。姓黃單字榮。打金花杏黃旗。上有圓字。(天庾正供)。紅月亮。二根紅飄帶。初一十五。掛十三太保金絲燈籠一對。有蓮家錫葫蘆爲記。鹽望左監所。是號珀陰陽靈秋所。吃西精後翻花水。燒的嶺山柴。

(五) 嘉白。精運船。六十六隻。一隻老堂。一隻香火船。二隻太平船。八隻停修。五十四隻上碼。頭船當家。姓王上會下甲。桅上安火燎雀桿。上紅下黑。進京打龍旗。出京打鳳旗。平日打白旗紅雙邊。

紅港月。腰船當家姓鍾上士下保。平日打印花旗。本色鳳帶。老堂船當家姓黃單字榮。平日打杏黃五爪龍旗。初一十五。掛十三太保金絲紗燈一對。香火船在十九號。當家的。王李二姓。王上德下泉。李上金下山。平日打白旗。上有四字。(天庾正供)。兌糧嘉興府秀水縣石門橋。上糧共兌七縣米。嘉興嘉善桐鄉石門平湖海鹽秀水等七縣。共兌六萬六千六百石米。前白後紅。調兌秀水縣西門忠義橋。石門縣南門外。吃的平望水。燒的到處柴。蘇州府靈門外停修。湖北寄所。

(六)嘉白滿運船。六十六隻。八隻停理。五十四隻上糧。一隻香火。一隻老堂。二隻太平。初一十五掛十三太保金絲紗燈一對。進京打龍旗。出京打鳳旗。平日打白旗紅月亮。紅鑲邊。橋上。安火旗官棹。上紅下黑。兌糧浙江嘉興府秀水縣。石門橋上糧。共兌七縣米。嘉興嘉善石門桐鄉秀水平湖海鹽等七縣。共兌糧六萬六千六百石米。當家姓王上會下甲。腰船當家。姓鍾上士下保。香火船在十九號。當家姓黃單字榮。吃的長流水。燒的到處柴。蘇州靈門外停修。湖北寄所。專運白糧。用的半邊小票。

(七)嘉白。滿運船。六十六隻。十二隻停修。五十四隻行運。香火船在十九號。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五。打杏黃旗。平日打白旗紅鑲邊。紅月光。夜掛十三太保燈籠一對。下墜趙家錫葫蘆。烏油貼金錢。雀棹上有(天庾正供)四字。頭船當家。姓王上會下甲。腰船當家。姓鍾上士下保。老堂船當家。姓黃單字榮。兌糧嘉興府。外七縣。嘉興嘉善秀水平湖桐鄉石門海鹽等七縣。秀水縣老北門外。石門橋碼頭兌糧。每船上糧。一千七百五十石。吃的石門橋下水。燒的是嶧山頂上柴。歸浙江廿一帶。

(八) 嘉海衛 (浙江二十一幫內)

(一) 嘉海衛。滿運船四十六隻。三十八隻行運。十隻停修。平日打白旗白號。陰陽月亮。初一十五。打白旗紅纓邊半個月亮。本船輪油雀桿。金鈎如意。又名打金棍。幫中混號死藤膀子。兌糧浙江嘉興府石門桐鄉二縣。每船兌糧一千二百二十五石。總兌糧四萬五千石。頭船當家。姓李上彥下林。腰船當家。姓王單字春。靠船太子碼頭。屯糧老牛寺。交糧通州蠡十八里小紅松碼頭。問幫不問所。問所海林所。吃長濟水。燒岷山柴。飲賜鳳票。船之別名石楠子。

(二) 嘉海衛。滿運船。四十六隻。十隻停修。三十六隻上蠟。平日打白旗白號。帶陰陽月亮。初一十五打白旗紅纓邊半個月亮。烏油雀桿。金鈎如意頭。兩銘大金棍。外打黃亮蝦。混號石人膀子。兌糧湖州嘉興兩府。石門桐鄉二縣。每船上糧。一千二百二十五石。屯糧老牛寺。靠船紫金碼頭。所名海林所。頭船當家。姓李上彥下林。腰船當家。姓王單字春。吃的梢後翻花小。燒的五湖四海柴。

(三) 紹後嘉海衛幫頭 (尾幫) 銀頂素白雀桿。銀紅雙蓮帶。月白色大方旗。中心紅日。金衙所。閏月掛八卦如意所。一塊白玉八卦旗。雀桿如意頭子。定海四幫。海襄所。兌糧石門同鄉兩縣。日用。梢後水。所滿運船三十六隻。二隻太平。五隻停修。三十一隻進京。船名蒲鞋頭。裝的伴黨糧。飲賜大驛所。八卦如意所。後賜定海所。龍虎小票。

(九) 杭三 (浙江二十一幫內)

(一) 杭三滿運船。四十二隻。七隻停修。三十五隻上塢。進京打紅旗白蠟邊。陰陽月亮。上紅下黑。火燎雀桿。幽銘打欄阿郎。帶雙蝙蝠爲記。進京船長房拉去二隻。八個窩子。二房拉九隻。三十六個窩子。本房潘祖拉二十四隻。二百二十七個窩子。共老窩子。二百七十一個。兌糧嘉興老北門外玉石碼頭。每船上糧。一千四百二十五石。香火船在十九號。進京歸朱楊二家所管。前半所當家姓郭。後半所當家姓毛。所是琥珀紫金所。昇房拉紫金一所。二房拉紫金二所。本房潘祖拉紫金三所。吃的長流水。燒的崑山柴。船名萬年青。

(二) 杭三幫頭。滿運船五十九隻。錢祖爺拉去二十三隻。四隻太平。四隻停修。二十八隻上塢行運。平常打大紅旗。陰陽月亮。錫蛋頂。雙披紅。硃雀桿。芽芽葫蘆。紅孩爲記。雙所號。錢祖爺留下後所號。琥珀應天所。本所紅孩應天所。兌糧蘇州關門外太師碼頭。每船兌糧。一千七百五十石。屯糧老牛寺。吃的遼河水。燒的崑山柴。

(三) 杭三滿運船。四十二隻。七隻停修。三十五隻行運。歸三位祖爺所拉。長房拉二隻。八個窩子。二房拉九隻。三十六個窩子。本房拉二十四隻。二百二十七個窩子。共老窩子二百七十一個。分三所。琥珀陰陽紫金所。旗號白旗紅蠟邊。陰陽月亮。上紅下黑。火燎雀桿。如意金頂。外掛小蝙蝠爲記。前半所當家姓郭。後半所當家姓毛。管香火船朱楊二家。香火船在十九號。兌糧嘉興老北門外。石門。平望玉石頭碼。

(四) 杭三船隻。滿運船四十二隻。七隻停修。三十五隻行運。進京歸三房所拉。長房拉二隻。八個窩子。次房拉九隻。三十六個窩子。本房拉二十四隻。二百二十七個窩子。共計老窩子二百七十一個。進京打白旗紅鑼邊。上紅下黑。火燎雀桿。有外號滿京浪。外代小鉄錐爲記。香火船第十九號。歸朱楊兩家管。兌糧在嘉興老北門外。玉石碼頭。兌糧一千二百二十五石。

(五) 杭三幫頭(原系三家公領之幫。有一二三四五六七八八幫。後改隸三房。)杭三歸浙江省二十一幫之內。乃嘉白分支。船四十二隻。七隻停修。三十五隻朝北。歸三家祖師拉窩子。本房祖師。二百七十一個窩子。進京頭船打白旗紅鑼邊。陰陽月亮。上黑底紅。火燎雀桿。幽銘打黃壳蝦。琥珀陰陽紫金所。前半所當家姓郭。後半所當家姓毛。香火船十九號。管香火船的是米楊二家。兌糧在浙江。嘉興府北門外。靠船老窩子。吃長流水。燒礪山柴。

(十) 嘉興衛(浙江二十一幫)

(一) 嘉興衛滿運船。六十三隻。三隻太平。三隻停修。五十七隻上棚朝北。調兌浙江嘉興府西門外三里橋兌糧。兌四萬四千零八十石。交糧通州壩。各船回到松江府華亭縣。東門外大碼頭。進出京打日月方旗。雙飄帶。芽芽葫蘆。雀桿上紅下黑。用松江府華亭縣水。燒礪山柴。交糧旗上有四字正真正供。

(二) 嘉興衛滿運船。六十三隻。太平三隻。停修三隻。五十七隻行運。進京白旗紅鑼邊。月白飄帶。出京打八卦旗。陰陽月亮。初一十五打大白旗半個月亮。金葫蘆。銀雀桿。所是羅機所。本幫兌糧。嘉

興西門外三里橋。

每船裝糧。一千一百十九石。行船吃的長流水。

（三）老塘嘉興衛帶頭（白糧分幫）無頭無雀桿。豎金棒。（又稱仙人膀子）掛如意雙紅墜子。印花紅

旗。林溪所。兌糧嘉興府嘉興縣。用秤後水。（一作岷山水）糧船三十三隻。兩隻太平。四隻停修。二

十七隻進京。印飛虎半票。後改八卦如意。所龍虎小票。

（十一）蘇前衛（江蘇二十一幫）

蘇前衛滿運船。六十六隻。五隻停修。二隻快船。一隻香火。五十八隻行運進貢。

頭船打龍頭旗。腰船

三眼。打白旗紅旗。陰陽月亮。後船打龍尾旗。南漕伍長姓薛。上下下。家長姓薛。上下下。吃揚子

江中長流水。燒陸河柴。

（十二）海寧衛（浙江二十一幫）

海寧衛滿運船。三十九隻。一無太平。二無停修。進京打白旗紅旗。陰陽月亮。出京打白旗紅旗。鳥

油雀桿。幽銘金鈎如意頭。所是海寧所。本幫兌糧。浙江播波府白米。又兌鎮海。象山。二縣漕糧。每

船兌米。九百六十九石。吃遼河水。燒的五湖四港柴。歸浙江二十一幫。

（十三）紹興衛（浙江二十幫）（即紹前）

紹興衛滿運船。七十二隻。在江西排造。鳳林趕堂。象鼻毛眼。六個金剛。船桅上有朝天斗。滿天星的

雀桿。所是海寧所。雙披大紅。有金花一對。印花旗。初一十五打日月龍鳳旗。本船兌米。紹興。山陰

縣。每船兌米。一千二百石。吃泛花長流水。燒到處柴。(浙江二十一幫。嘉白分支。)

(十四) 正陽衛(武昌衛分支)

正陽衛滿運船。三十九隻。停修二隻。香火船一隻。太平船三隻。三十二隻行運。進京打紅旗白鑼邊。半個月亮。所是天黃所。本幫兌糧。鄧陽府。保康。鄧西二縣。每船兌糧。一千另五十一石。吃的江河湖海水燒的竹山柴。

(十五) 常淮衛(江淮四分支)

常淮衛滿運船。六十九隻。十二隻停修。三隻老堂。五十四隻行運。常打正紅旗。陰陽月亮。初一十五。打八卦旗。雙紅氍毹。上紅下黑。陰陽雀桿。金寶塔頂。如意頭。所是海寧所。本幫兌糧。江南常州府江陰宿遷宜興三縣。每船兌糧。一千一百二十九石。吃的長江水。燒的金山柴。歸江蘇二十一幫。

(十六) 武昌衛(湖南十八總幫)

武昌衛滿運船。一百十二隻。河陽衛分去四十九隻。下剩七十三隻。九隻停修。三隻太平。六十一隻行運。頭船打杏黃旗。(天庖正供)。上掛平升三級。如意金鈎。硃砂雀桿。寶塔頂。所是鹽屈所。本幫兌糧。在武昌府漢陽縣。調兌石門嘉興共二縣米。每船兌一千七百五十石。吃的泛花水。燒的秀山柴。

(十七) 南昌衛(江廣十九幫總幫)

南昌衛滿運船。七十二隻。十隻停修。六十二隻行運。平常打正紅旗。白鑼邊。八卦月亮爲記。上紅下

黑陰陽雀桿。初一十五。打龍旗雙紅氈帶。所是紫金所。本幫屯棧。南昌府北門外報恩寺。兌米南昌新運武寧三縣碼頭。兌糧一千三百二十五石。腰船兌糧。七百六十二石。靠船在南昌。吃的糧食在江水。燒的九江八河到處柴。歸江廣十九幫。

(十八) 吉安衛 (南昌衛分幫)

吉安衛滿運船。三十五隻。四隻停修。一隻老堂。五隻香火船。二十五隻行運。頭船打杏黃旗。火燎雀桿。所是紫金所。下繼金錢。雙披紅。後船打大紅旗白氈帶。後船當家。姓周上廷下德。打一對日月龍鳳旗。頭船貼金花。趕堂所。是烏金欄江所。本幫兌米。吉安府。吉安永安吉水三縣。每船兌糧。一千二百十石。吃的五湖四海水。燒岷山柴。

(十九) 德安衛 (江廣十九首幫)

德安衛滿運船。六十四隻。九隻停修。二隻太平。五十三隻行運。進京打雙鳳旗。(天庾正供)。出京打一對青角旗。陰陽月亮。初一十五。打紅旗白月亮。上紅下黑陰陽雀桿。所是海寨所。本船兌糧。在德安府德安應山二縣。每船兌糧。一千一百二十石。吃的五湖四海水。燒的船到處柴。

(二十) 河陽衛 (湖北幫)

河陽衛滿運船。四十九隻。七隻停修。四十二隻行運。進京打紅旗白銀邊。八卦陰陽月亮。出京打一對印花旗。硃砂雀桿。寶塔頂。金錢如意頭。所是玲曲所。本幫兌糧。在湖北漢陽府夏口漢陽孝感等縣。

漕糧兌米。十六里岳陽驛。每船兌糧。一千一百零九石。吃的長流水。燒的景山天門柴。

(二二) 鎮前 (即鎮江) (江淮四分幫)

(一) 鎮前滿運船。六十五隻。九隻停修。五十六隻行運。頭船進京。爲天子船。打綉花大紅緞子旗。白纓帶。幽銘金鈎。銀雀桿。後船打大白旗紅月亮。初一十五。打紅旗白纓帶半個月亮。所是紫金所。本船兌糧鎮江府丹陽桐溪二縣。天子船兌糧。一千一百一十石。後船兌九百六十七石。吃的長流水。燒的青山柴。

(二) 鎮前幫 (江淮泗稍後分幫) 金頂銀雀桿雙龍抱柱，獅子滾繡球，打杏黃旗。四條月白纓帶。幽銘雙令海。丹書所。兌糧鎮江。前後糧船轉頭。揚州天寧寺，滿船行運八十三隻。

(二三) 鎮後 (江淮四分幫)

鎮後滿運船。五十七隻。與武四調兌溧陽。十二隻停修。四十五隻行運。進京白旗陰曆月亮。上有四字。(天庚正供)。大錫頂。如意鈎。火燦雀桿。兌糧鎮江府丹陽丹徒桐溪三縣。天子船兌糧。一千一百一十石。後船兌九百六十七石。吃的長流水。燒的青山柴。

(二四) 九江前 (江廣十九幫南昌衛分支)

九江前滿運船。五十三隻。翁祖爺拉去五隻。本房老香堂三隻。一無停修。二無太平。四十五隻行運。打白旗紅纓帶。盤龍四字(天庚正供)。出京打白旗陰曆月亮。寶塔頂。陰陽雀桿。所是陵廐所。靠船

雙所頭。本船兌九江府德化交民二縣糧。每船兌糧一千一百零九石。吃的江河水。燒的到處柴。

(二四) 雙 鳳 (安徽十六幫)

(一) 雙鳳頭幫 (以下五幫頭係大二房所有) 鳳字頭幫。龍頭鳳尾幽銘。七星雀桿。口御盛芝草望月。挑如意石匾。童子騎仙鶴登云。五彩酒金葫蘆。葫蘆口上。插五桿小黃旗。銀紅鑲邊。雙鳳帶。旗心五彩點金。丹鳳來朝。杏黃鳳帶。雙鳳眼左望日。右望月。鳳凰站在金斗頭上。披金花大紅雀桿頂上。插五枝五色小方旗。白鳳帶。釘迎風響鈴。派船六十三隻半。後在蜈蚣開港十八幫。計八十一隻半。三隻停修。六隻太平。三隻半香火。六十九隻出通朝北。鳳陽府鳳陽縣。離城四十五里。西南三編領船。湖州府德清縣南門外停修。兌蘇州常州宜興糧隻蘇州閶門外二擺渡。常州東門外大馬頭。兌糧若不足。宜興找零。鳳陽府。鳳陽縣十八里。臨淮關兌銀。常州西門外停船。等齊進京打蜈蚣旗。出京打龍鳳旗。初一十五打紅色八卦旗。白鑲邊。白鳳帶。正月十五日上元節開船。十二月二十日停船。吃各方水。燒各方柴。

(二) 雙鳳幫頭鳳字長幫。操白船八十三隻。七十七個撐字。六隻白糧。半蘇半常。停船蘇州閶門外太子碼頭。常州西門外接官廳碼頭。三年兩頭兌。三年兩調。一年蘇州兌。一年常州兌。蘇州不夠。常州兌。常州不夠蘇州兌。若再不夠宜興找零。調兌宜興荆溪兩縣。江陰宜興停修。蓋造是活的。行船打龍旗。住船打鳳旗。同香紫金所。七隻太平。七隻停修。七十六隻進京。每船粟半。七百六十五担爲一票。

。雀桿旗號詩一首（招海二三四幫）『龍鳳杏黃九曲降。印花素白五湖池。梢後日光照四海。與前月色映千紅』。

（三）雙鳳領船八十三隻。六隻停修。六隻太平。七十一隻朝北調兌。上打日月龍鳳旗。中有金鈞如意頭。下有百寶珍珠傘。雀桿上有七星主旗。白旗紅繡邊。五色小旗。雙龍帶。是兩銘。進京打龍旗。出京打鳳旗。初一十五打雙旗。名曰行龍坐鳳。三年二調兌。三年頭兌。調兌宜興。停修廣德兌糧牛蘇牛。前幫蘇常。後幫鳳陽府。兌糧直隸順天府。起票安徽鳳陽府。領船天津紫竹林紅孩碼頭取水脚。所是陰陽陽紫金所。

（四）雙鳳幫。滿運船。八十三隻。十隻白粮。三隻停修。兩隻外委。六十八隻正戰。前半所四十七隻。後半所二十一隻。同上壩。走船打龍旗。靠船打鳳旗。後幫打七星八卦旗。上有四字（通漕吉慶）四通漕。火療雀杆。硃砂貫頂。平日打白旗繡紅邊陰陽月亮。四角二龍戲珠。調兌時三年二調。行船行不調。兌米蘇州閶門外。常州兌龍門所。是陰陽紫金所。

（五）雙鳳滿運船。四十九隻。三隻停修。三隻太平。二隻香火。十一隻行運。進京打大紅旗。月白龍帶。出京打大白旗。陰陽八卦月亮。初一十五打杏黃旗。上有四字。（天庾正供）。上掛平升三級。雀桿下墜雙披紅。金鈞爲記。行船，吃長流水。灣船，吃的梢後泛花水。燒的三江柴。

「按當初。有一老堂船。桅桿旗上。用金線盤成彩鳳一對。受天地之靈氣。日月精華。變化成形。每當

運糧。船行蜈蚣嶺閣下。損壞船隻。不知何故。以後雙鳳船。住在此處。至半夜三更。有一蜈蚣精來在水面作怪。二鳳一見。即下水相鬥。約有二個時辰。二鳳將蜈蚣擒住。後二鳳累死一隻。剩下一隻。此後雙鳳船。改名爲單鳳吉祥。以後糧船行運。由蜈蚣嶺過。平安無事矣。」

(二五) 甯波後

甯波後正供船。五十七隻。一無白糧。二無撥運。三無停修。兌糧在浙江嘉興府秀水縣。四門樞。每船兌糧。一千三百六十五石。通行走船。打素白旗。上有四字。(三星共照)。五色雲鑲邊。船卸旗。上紅下黑。火燎雀桿。吃的是梢後翻花水。燒的是一河二岸柴。歸浙江二十一衙之內。

(二六) 江淮一

江淮一幫頭。鳳字頭幫分幫。東寶所派船八十隻。五隻太平。五隻停修。七十支運糧朝北。進京五彩旗。出京龍鳳旗。金頂如意雀桿。淡黃飄帶。兌糧鹽城阜甯二縣。走兌淮安府糧。

(二七) 杭海二三四幫(因一幫失傳故缺)

(一) 杭海二幫頭 鳳林南齊所。派船七十二隻半。四隻太平。二隻停修。二隻半香火船。六十四隻運糧朝北。進京滾龍旗。出京丹鳳旗。初一十五日打太極旗。又扯杏黃旗。平時打五方五色旗。兌蘇州糧山糧。裝到杭州接官廳碼頭。又裝常州府八縣。蘇州府九縣。糧米三年兩頭裝。三年兩不裝。兌崑山糧六萬八千零十三石。

(二) 杭海三幫頭 山海所派船五十二隻。二隻太平，二隻停修。四十六隻運糧朝北。進出京。均扯紅旗。月白雙龍帶。金頂紅雀桿。掛如意葫蘆。免糧杭州北門外。船名雙魚舟。

(三) 杭海四幫頭 南齊所派船六十八隻。三隻太平。六隻停修。五十九隻運糧朝北。進京龍鳳旗。出京杏黃旗。初一十五兩日打滿花紅旗白月亮。白龍邊。白鳳帶。免石門縣南門外杭家河糧。

(二八) 河南衛

河南衛幫頭(河南九幫調出)大房分幫。通濟所。派船四十三隻。三隻太平。一隻停修。三十九隻運糧朝北。進京丙丁旗山京王癸旗。住船五方旗。初一十五打太極旗。免糧開封府祥符縣。二萬四千零六石。船名通江舟。

(二九) 廣昌衛

廣昌衛幫頭(江廣十九幫調出)大二三房合幫。福官所。派船一百五十三隻。十隻太平。十三隻停修。一百三十隻進京。進京打西方月亮大白旗。出京打蜈蚣旗。頭幫珍珠旗。尾船八卦旗。朔望日打五彩對金旗。滾龍金雀桿。五色龍帶。掛白猿偷桃。免糧南昌府。豐城縣奉新縣安義縣星子縣。經過呂家灣大碼頭。免糧十萬零三千零五十石。由湖北過豫陝經大名府。至北通州卸糧。江西湖廣各處。均可裝運。船名廣湖舟。

(三十) 直德衛

直德衛 大房分幫。順風所。派船七十八隻。頭船紅旗。後船黑旗。左船青旗。右船白旗。中船黃旗。朔望日打金紅旗。烏鴉雀桿。紅纓帶。兌糧河間府。四萬一千零零五石。至大興縣卸糧。船名運天舟。直隸一幫。全在其中。

(三二) 長南衛

長南衛幫頭大三三房合幫。八卦所。派船二百七十八隻。十五隻太平。十五隻停修。五隻半香火船。二百四十三隻運糧朝北。進京打龍鳳旗。出京打八卦應天杏黃旗。初一日打五彩方旗。船頭銀合海。後有銅如意。金頂銅雀桿。平常打大紅旗。白纓邊。兌糧長沙府湘陰安化瀏陽湘潭茶陵常德武岡各縣。兌糧二十萬五千七百石。船名八聚舟。

(三二) 東濟衛

東濟衛幫頭(山東十幫半調出)大房分幫。泰陽所派九十九隻。十一隻太平。八隻停修。八十隻運糧朝北。進京打東方青雲旗。出京打龍鳳旗。初一日打中央杏黃旗。平時打珍珠應天旗。幽銘麒麟吐番。兌糧長清曲阜寧陽魚台四縣。走濟寧大碼頭。安邱縣靠船。宛平縣卸糧。船名壽仙子。

(三三) 安廬衛

安廬衛合幫頭(安徽十六幫調出)大三房合幫。積善所。派船一百二十五隻。五隻太平。十隻停修。一百十隻運糧朝北。進京打杏黃旗。出京打黑纓邊。朱雀大紅旗。頭船金雞。尾船鳳凰。幽銘仙鶴含松。

盤龍銀雀桿。酒金白製帶。分廬州合肥無爲定遠巢縣四縣糧。走鳳陽府。會同雙鳳船。至順天府。卸糧。船名保清舟。

(三四) 蘭山(半幫)

蘭山半幫。歸山東十幫半內。是江淮酒分支。船三十二隻半。在通州留下五隻。供奉小祖香火。還有二十七隻半。船內又去兩隻停修。祇餘二十五隻半朝北。五彩潮水彩畫雀桿。錫頂。打藍旗綉紅八卦。初一十五兩天。打月藍色旗。上有(天叟正供)四字。一根白飄帶。東平所。兌糧在山東蘭山縣兩縣。每船裝糧四百八十石。吃長流水。燒嶧山柴。

「老翁佑堂。(所謂大房)所領各幫。尚有單鳳雙龍。乾字一二三四五六七八等幫名稱。而錢保堂(所謂二房)所領。亦有雙鳳單龍杭字一二三四五六七八等幫名目。要知。均在一百二十八幫半之內。不過名稱上稍有差異耳。現已事過景遷。雖然有據可查。但是查之又何益於事。故本書不載其詳。祇略述其大概而已。統希閱者原諒。」

第八章 八省調兌記錄

(一) 各省派船數目

江蘇二十一幫。派船一千六百三十八隻。浙江二十一幫。派船一千五百三十八隻。江廣(江西兩廣)十九幫。派船一千四百九十二隻。湖南十八幫。派船一千三百八十六隻。安徽十六幫。派船一千二百五十

八隻。浙江府九幫。派船六百八十八隻。河南九幫。派船七百〇二隻。桐船瀾包各二幫。派船三百〇十隻。山東十幫半。派船八百零半隻。直隸一幫。派船一百八十七隻。以上乃正幫一百二十八幫半。共計派船九千九百九十九隻半。其外各分幫，以及後來乾隆御賜船隻。都在正數之外。

(二) 各省兌糧數目

浙江兌糧。六十一萬一千七百二十三担。寧台兌糧米。五十萬一千零五十二担。江蘇安徽共兌糧米。一百四十二萬七千三百六十二担。江西共兌糧米。五十六萬七千二百二十四担。兩湖共兌糧米。八十萬一千七百六十五担。湖州御米共兌。六萬六千六百担。河南共兌糧米。三十七萬五千八百二十四担。山東東平共兌糧米。九萬五千八百二十四担。又安徽河南山東直隸四屬共兌米。九十九萬零八百二十四担。通共兌米。五百四十三萬八千一百九十八石糧。外用脚銀。十四萬五千五百三十九兩。此係正式之數。糧船每隻。最少裝糧三百担。分析耗十担。作鼠耗。此是初運之數。

(三) 漕糧徵額折耗(附表)

漕糧。徵於各省。以輸送北京。供官兵俸餉之用者也。有正兌改兌白糧改徵折糧之分。各省原額米三百三十萬石。以運輸於京師之倉者爲正兌。各省原額米七十萬石。以運輸於通州之倉者爲改兌。自歷年折改荒闕。至乾隆十八年。實徵正兌米。二百七十五萬。改兌米五十萬各有奇。(以是年奏銷冊爲準。)其隨時裁留國緩者無定數。白糧出於蘇松常太嘉湖六府。原額糧米二十一萬餘石。乾隆二年。以民間輸納

白糴。費用較重。乃定實祭所需二千餘石外。其餘王公官員俸米。禁城兵丁。內監食米減半。以糴米抵給。於是實徵白糴。不過十萬有奇。改徵出於特旨無常。例如雍正十一年。改徵山東河南黑豆十二萬石。乾隆間。屢有改徵。以抵額徵之米。折徵之目。有四。一曰永折米。江蘇等省。通州三十六萬石有奇。(每石折銀五錢五分至八錢)。一曰灰石米。明初有給軍辦運灰石之米。順治十七年。改徵解部。(每石徵銀一兩六錢)二者本額糴而徵折色。一曰減徵。河南州縣有折徵。於此而酌撥。代徵本色於彼者。以水次遠近別之。一曰民折。官辦。其制不同。有先動正項購運而價徵還者。有民戶折納。而後官爲辦運者。有撥運別縣耗米。而從民折納者。茲將各省漕額列表於左。

正兌正糧米麥豆等耗

額改兌正糧耗

糧

石

石

石

石

附

記

山東	一七、五三二四	四、三〇三二	八、三五八〇	一四、一七六	山東河南除正改兌糧外有
河南	一一、五六九八	三、一〇一〇	五、六二二二	九五五七	截存蘇州之糧各二萬八千
江蘇	二八、八〇七六	一〇、三三〇五	一〇、一〇六四	二、五八二五	五百石又江南白糧正米六
江安屬	一〇四、〇〇三三	四一、六〇五三	九、四八三二	二、八四四九	，九四四七石浙江正米三
蘇松屬	五八、五三八五	四一、六〇五四	二、九三六五	一、一七四六	，五五三石耗米江蘇州每
浙江	三五、一二三七	一八、六一五六	一五、一三七九	八、〇二三一	石加徵三斗浙江四斗共三
江西	九、四二四六	三、七六六六			萬四千五百八十二石九斗
湖北	九、五五一	三、八二〇四			有奇
湖南					其總徵之額可以類別如下

正兌正米耗	石	米	正兌正米耗	石	米	正兌正米耗	石	米	共	石計
二五七、八三三三	一〇四、三〇一四	四三、五五〇八	一五、六二六〇	四二一、三六一五						
正兌正麥耗	麥	改兌正麥耗	麥							
三、四五六八	九〇六七	二、二〇五八	三七六六							
正兌正豆耗	豆	改兌正豆耗	豆							
一七、一四五六	三、八三三一	五、八五八四	九九五九							
右表道光九年之定數歷朝增減不一大概皆視為少其總數當不外原額四百萬石左右也										
麥豆惟徵於河南山東二省	共計麥六、九四五九、豆	二八、八三三〇								

(四) 各處運官姓名表 (初開辦行運時代)

勘規河工欽差	何國宗	立邦	河南南陽	前錢領運千總	雷保壽	吉林
漕河總督部堂	張大有	通詳	裕州	高郵衛掌印守備	耿相山	山東
通州左哨領運千總	張起鳳	安徽		嘉海衛掌印守備	歐陽執	福建
通州左哨領運千總	章林成	河南		近畿衛守備	李進寶	湖北
通州右哨領運千總	金殿榮	浙江		江淮四鎮總一帶領運千總	姚起順	超黨
山東守備	金克鈞	光鈞	湖北	興武衛守備	吳紹方	漢平
濟寧衛守備	項明元	松江		興武四衛守備	葉奎文	杭州
					王榮榮	江金陵

南門考源

揚州一二幫領運千總	陸祥正祥淮安	河南二幫領運千總	鄒朝元四川
江蘇一二幫領運千總	胡少生紹昇四川	臨清衛掌印守備	金紹珠湖北
前領運千總	吉達大漢正紅旗漢	山東後二幫領運千總	趙昇宏旗人
後領運千總	姚寶燕軍人	通州二幫領運千總	朱萬年天津
東昌掌印守備	楊檢甘肅	湖北一二幫領運千總	凌保文四川
濮州衛河駁西灣守備	車增元甘肅	單州二一幫左右領運千總	顏國寶江蘇寶興
平山前後二幫領運千總	金昆蘇州		

清乾隆三十年。增設船廠總督。以一滿一漢主共事。賜有驗糧牌。又設糧運文武官一百二十九名。各省置督糧道十員。派衛官四十八名。

(五)一百二十八幫半領幫當家

幫名	船名	領幫姓名	字派別號	籍貫
江淮一	艇艇舟	蕭二成	法悟	浙江杭州府城內
江淮二	鮮魚嘴	郝長春	法覺	江蘇徐州銅山縣
江淮三	滿天星	張雲山	法性	浙江紹興府
江淮四	太平舟	姚大鵬	佛仁	山東東昌聊城縣
江淮五	混海蛟	劉鐵三	半截黑塔 劉三爺	山東東平州

江淮六 江淮七 江淮八 江淮九 蘇州前 蘇州後 常州前 常州後 鎮江前 鎮江後 揚州前 揚州二 揚州三 淮安頭 淮安二 淮安三 興武衛 興武二 興武三 興武四

順風舟 雙金環 鐵拐子 玲瓏舟 三眼獸 鳳尾舟 蓮環舟 遲風舟 繫龍舟 得勝舟 萬年松 趕浪舟 銀錢子 繫獅子 金担子 大酒鞋 火燒雲 將軍舟 太保舟 絲網子 清門考源

秦三世 邱林 何文章 諸葛謙 薛永林 洪振江 王可斌 范雲亭 何元 黨海振 朱金科 岳德俊 馬 肅 馬變成 仁 慧 岳文生 白徽龍 于玉春 冠大元 沈合成

洪宜 仁忍 法輝 法本 仁茶 仁順 仁福 仁亭 法立 仁量 法光 倫立 法朗 洪寬 仁海 仁寬 法四 法龍 仁耐 法正

浙江紹興 江蘇揚州 江蘇徐州銅山縣 河南順德府 山東東昌聊城縣 江蘇蘇州齊門七洪家鎮 江蘇無錫王家木橋 山東登州 江蘇丹陽縣 山東武城縣 山東曹州府 河南鞏縣 直隸倉州 江蘇清江 江蘇揚州 河南黃山 山東寬州府 安徽南宿州 江蘇徐州沛縣 江蘇揚州江都

興武五	興武六	興武七	興武八	武興九	嘉海衛	嘉興衛	杭海衛	海鹽衛	金衢衛	杭三幫	嘉白精	湖白頭	湖白二	湖白三	真波前	真波後	紹興衛紹前幫	紹後幫
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	--------	-----

一柱香	紅繡鞋	三顆樹	分火燕	金葫蘆	石梢子	飛虎舟	常勝布	鐵仙鶴	掃靈舟	大金花	萬年青	黑竹桿	橄欖舟	牛背子	樹掛子	大浪頭	雙擺子	回子旗	金剛舟
于占鰲	化元龍	江守	史小元	郭成玉	李彥林	張友和	曹玉文	馬玉翔	王海泉	程玉泉	毛文禮	王會甲	陳警泉	李大海	司馬林	張月林	孔祥麟	王潤章	門瑞雲
法源	法良	仁守	仁元	法三	法中	法佑	法信	仁靜	倫常	法祥	法禮	法安	法寶	仁毅	仁昌	仁松	仁懷	法章	仁良

大父棍

山東濟寧	浙江嘉興	江蘇常熟	山東臨清州	江蘇徐州銅山縣	直隸青縣李家營	直隸青河	江蘇海州	安徽南宿州	江蘇徐州沛縣	浙江紹興府	山東兗州府	山東武定府海豐縣	直隸武清縣	山東登州福山縣	江蘇西	山東臨清州	山東兗州府	浙江杭州西門內	山東濟南武城
------	------	------	-------	---------	---------	------	------	-------	--------	-------	-------	----------	-------	---------	-----	-------	-------	---------	--------

漣州前	滁州後	滁州前	廬州三	廬州二	廬州頭	池州幫	寧大幫	興安衛	建陽衛	宜州衛	江後幫	江前幫	處後幫	處前幫	台後幫	台前幫	溫後幫	溫前幫
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

清門考源

叮叮鑼	江環子	百子圖	蓮花舟	雙牛子	保清舟	乾坤舟	懶頭舟	馬鞍子	黃旗杆	飛鳳舟	順風駒	隔雲舟	月芽子	菱角壳	一條龍	破浪舟	狀元舟	金磚子
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

白文光	彭金舟	左 驕	張天成	龍在泉	洪 俊	熊世莫	于鴻賓	胡玉章	謝環雪	姜毓冲	程 斌	戴 秋	岳 芳	岑 石	趙 友	尙全增	翁松濤	黃如龍
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

倫本	仁義	仁林	法宗	仁戰	法果	倫信	仁賓	法永	洪倫	法懸	仁斌	倫正	仁成	法慶	倫興	仁全	法空	仁雲
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

安徽臨淮關	安徽南宿州	河南開封	安徽巢縣	江蘇淮安高郵	湖南岳州	安徽懷遠縣	安徽蕪湖	湖北新堤	河北孝感	江西南昌	山東臨清州	湖北岳州	直隸東光縣	河南安寧	直隸青縣盤古村	山東曹州府	江蘇蘇州	江蘇丹陽
-------	-------	------	------	--------	------	-------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	---------	-------	------	------

泗州後	蕪平前	蕪平後	長南衛湖南頭	南湖二	湖南三	湖北頭幫武昌衛	湖北二幫河陽衛	湖北三幫正陽衛	象州衛	鍾州衛	九州前	九州後	德安衛安福所	撫州所	壽州所	吉安衛	廣昌衛廣信所	鉛山所
藍芝舟	黑斗子	大鈴鐘	平浪舟	大紅孩	醒獅舟	加官舟	雞冠子	威武舟	萬里舟	子午針	壓浪舟	寶刀弓	龍頭舟	太子舟	千斤舟	江湖舟	分水箭	軋油鏢
莫雲清	龔三全	樂雲翔	李天熊	崔玉章	方振存	蘇全增	商元峯	于元德	宇文明盛	吳維江	魯秋山	范雲升	賂世增	楊見萌	朱海翔	周廷德	許相三	佟信仟
仁忠	仁海	仁雲	仁降	倫忠	智本	仁協	仁芝	仁孝	仁文	仁維	法慈	法心	法見	法盛	仁翔	仁榮	仁國	佛質
江蘇徐州	安徽滁州	直隸大名府	江西九江	直隸河間府	浙江杭州	湖北武昌湖南	江西贛州	江蘇徐州豐縣	湖北黃陂縣	山西汾陽	河南信陽州	山東東昌府	安徽正陽關	直隸河間府	湖北黃陂	安徽鳳陽府	安徽六安	直隸通州霸南鄉

永德所 南昌衛 南後所 靖江所 武進所 無錫所 丹陽所 慧山所 圖山所 廬山所 虞山所 葭山衛 崑山衛 常熟衛 常陰衛 太倉衛 陽城衛 劉河衛 常淮衛

龍眼舟 振武舟 掃清舟 雙擺尾 一願松 破浪舟 滿江紅 流星趕月 一篷風 浪裏鵬 蜈蚣旗 雙肖子 萬年青 金蟬壳 海上馬 飛鳳舟 大長龍 海中鯨 大牌子 清門考源

寶元江 何樹清 彭萬興 蘭三保 黑龍標 史燕岐 洪連山 刁景川 牛大化 張耀漁 李德賢 李樂三 黃月亭 仇子臣 何玉鐸 張三喜 方秋 水源 黃武杰

法化 仁發 智立 仁果 仁進 仁超 倫體 仁章 法剛 法治 仁章 仁享 法元 仁輝 仁鐸 仁喜 法仁 仁源 法真

山東曹州李家窩 江蘇徐州祁集 江西龍虎山沙岡 山東臨朐縣 陝西 江蘇徐州 湖南長沙龍家堤 山東 山東濟南武城縣牛莊 直隸天津楊柳清家後 山東臨清州 江蘇 河南榮陽縣 河南開封府 山東曹州府 江蘇銅山縣南關外 山東兗州府 山東濟寧州

清門考源

雙州幫	絲綢子	潘佐賢	仁過	江西南昌
鳳州幫	花手巾	洪振海	佛性	湖南岳州
汝義前如汝衛	龍尾巾	黃玉農	法相	山東臨清州
汝義後固始衛	平底舟	薛方林	仁和	山東東昌聊城
信陽衛	通江舟	王元章	法全	浙江杭州西門內
安山衛	西牛子	唐 雲	仁田	河南汝寧唐寨
光州衛	朝天頂	劉振海	仁雨	湖北孝感縣
淮寧所	金翅大關	牛元盛	倫偉	山東濟南武縣城
沈邱所	紅移舟	呂淦興	仁高	河南榮陽縣城南李嶺
商水所	白玉袋	海文澡	仁富	直隸天津縣芳鎮
息縣所	千里馬	尹樹魁	仁海	山東武定府
固河漕	河 泊	石耀明	仁依	直隸天津北倉
濟前幫	天官舟	翁玉欽	佛禪	山東濟南府
濟後幫	八葉舟	周成源	仁壽	山東濟寧府
濟左幫	壽仙子	張澤東	仁本	浙江寧波
濟右幫	金喇嘛	林 蘆	法保	安徽潁州
臨前幫	雙展翅	蕭均合	法象	山東臨清州
臨後幫	老倉龍	郭進堂	倫毅	山東兗州曲阜縣東關
東平幫	紅葫蘆	萬馬元章	佛功	未 詳

憲文

東昌幫	金鈴	王恩榮	仁榮	山東兗州魚會
德州頭	長風舟	高世昌	智超	直隸東關
德州二	鴨屁股	修遠	倫靜	直隸焦河
桐船麻包頭幫	追風舟	強林	仁英	直隸天津倉州
桐船麻包貳幫	趕月舟	強深	仁雄	全上
桐船麻包叁幫	破浪舟	強闊	仁俊	全上
桐船麻包肆幫	迎潮舟	強魁	仁傑	全上
麻山半幫	穿江舟	馬合義	佛覺	陝州

「查以上一百廿八幫半。幫名船名。以及領幫當家姓名。字派。別號。籍貫。均見戶部漕運通則。向有所謂南漕北漕朝南朝北上水下水香伙腰船太平停修老堂等船。名稱甚多。總而言之。以一百廿八幫半論定。以上各幫名稱爲是。其他名稱縱有。亦不過號外之呼耳。是否有當。尙希閱者。教正」

第九章 香堂規範

(一) 進幫須知

- (一) 須嚴守秘密。事前。不得洩露開香日期。以及香堂地址。給與幫外人知道。
- (二) 須絕對服從主香者之指導。不得稍有違背指導人之一切正當意旨。
- (三) 須謹守本幫一切規則。遵重禮制。香堂上縱令千拜萬拜。不得稍有怒容。以及嫌煩悔憤態度。

(四) 須服長衣。尤要清潔整齊。不得短衣拖鞋。露胸赤脚。乘醉帶病。(患神經病者)闖進香堂。有觸清淨莊嚴之佛地。

(五) 開香時依法肅立。不得有東瞻西顧。扶肩搭背。搖頭擺脚。指東畫西。怒形怪樣。竊視縱鼻。放窻穿脫。吐痰咳嗽。哼哈揮涕。交頭接耳。呼張喚李。嬉笑咀罵。自由行動。等項不規則行為。

(六) 開香時。香堂門口不准有自由進出。以及放仔空子。(不在幫的人)親近竊聽。喧嘩吵鬧等事。

(七) 開香時。凡有來賓。須先簽名報告。由知客師。招待於客室。該來賓不得擅闖香堂。如須香堂參祖時。呈報主香人。(收徒者)經許可後。方得入堂。依法先行參祖後。退立右廂。以維秩序。

(八) 開香時。不論何人。一律脫去馬褂背心除却眼鏡帽子。須垂手低頭恭立觀禮。不准插嘴多言。

(九) 開香時。如遇非常事故發生。(不論地方官署。有何公事到臨。以及火災等事)凡在香堂者。須靜立勿動。悉聽主香人。(收徒者)處理應負。總以不失人格。不壞幫規爲主旨。(諺云。好漢作事好漢當。不累他人遭連殃)。

(十) 開香時。香堂中如有發生急病者。或舊病復發者。得由主香人(收徒者)派人送往醫院診治。或送回該宅自理。但是香堂仍然照開。凡在堂老少弟子。不得藉詞退出香堂。或發生自驚自擾不幸事端。(以上十條。爲香堂最關緊要事項。除第九條之外。凡有違背規訂者。重者斥革幫籍。介紹人與引進師同受處分。輕者聲斥。處罰跪香一枝。統希開法領案。●投師求益者。注意爲禱。

(二) 一般通則

一 孝祖資格

孝祖資格 例定。不論年齡，籍貫，職業，宗教。以及富，貴，貧，賤。「謬云。窮安甯，富道情」。凡身家清白。品行端正。持有事業者。皆得爲本幫弟子。惟須有本幫同仁一位之介紹。按照記名上香手續辦理。纔爲之合法。

二 記名手續

記名手續 例定。記名人請求介紹人。(介紹人無大小者。不論字派大小。都可介紹。並非香堂上之引進師也。引進師。由本師聘請之。傳道引進名列三師。關係三霄九代)。此點闕者。注意。(代投小帖。(幫中俗稱小條紙。))俟本師同意。乃擇期開記名小香。在開小香堂時。即更投正式拜帖。(詳後)上過小香。即是記名弟子。名謂連毛僧。(詳後)俟上大香後。(上過大錢糧)乃爲正式弟子。從此。有開法領衆之資格矣。

三 開法領衆

開法領衆 適首次收徒之名稱。又謂開山門也。須先請示本師屆時齋戒沐浴。恭請本師開法。香堂佈置。按照大香堂辦理。此日由本師主香。而本人(開山門者)站在香堂下面。須先挑高肩担子一付。左手

執方便鐺。右手拿雲笏。身披袈裟。足登雲履。頭頂家油。口呼（沾祖師靈光。鉢樹不開花。安齊不分家。祖師恩德大。弟子某某。於某年某月。某日某時。開山門。收徒弟。傳留後世）。遂即口念老祖開堂歌曰。「我佛如來法東流。前人世界後人收。師傳收我心歡喜。後人收人在後頭。」誦畢。進至蒲團前。左右執堂師接去高肩担子。開山門者即行下跪參祖。（三拜九叩）復求本師開示領衆大法。本師即將心要慈悲。代申開山門表文一道。（詳後）繼向堂上三拜九叩。以謝本師栽培之恩。續謝傳道。引進兩師。扶植之德。（參祖用若干叩拜。以大香堂為例。）乃起立於本師座右。（依法開山門者之前人。座於香案之前。）至此。命開山門者之率視弟子。堂前參祖。餘事均如大小香堂儀式無異爾。

四 開法領衆表文（即開山門表）

一花現瑞。五葉流芳。佛法廣於西乾。潛心宗於東震。仰啓

聖聰俯垂

昭鑒。中華民國 省 縣 地方弟子 謹於 年 月 日恭逢

聖誕。雲集幫中三老四少。於

祖師堂下。虔誠頂禮。仰叩

洪慈。俯垂明證。弟子 與本幫。第 代 字派 恭上錢粮祈求

祖爺。願慈風於末世。揭懸日於中天。法輪常轉。普賜禪祥。風調雨順。國泰

民安。如斯祈禱。均沾靈光。

讀曰

瑪瑙共珊瑚。碑礪琥珀珍珠。琉璃殿上獻真如。祥雲滿太虛。不動地菩薩垂加護。霞光耀虛無。八難罪業盡消除。福祿資扶

中華民國

年

月

日弟子

等公叩

五 香堂種類

香堂種類 大別有二。一曰小香堂。一曰大香堂。凡記名者。以小香堂內舉行記名禮節。凡上大錢銀者。以大香堂內舉行孝祠典禮。此爲古制所訂之例也。近代世人與時並進。香堂佈置繪境遇而變遷。現今爲三種組織。一曰臨時小香。其行爲簡明便利起見。不論香堂地址大小。記名人數多寡。隨時隨地。祇用香燭一份。上供三家祖師牌位一座。行禮如儀。就算記名。師徒之分乃立。二曰正式小香。此項小香堂組織。略具規模。須引進傳道兩師在焉。指導一切（詳小香堂條）依法定儀式舉行。三曰正式大香堂。其組織規模宏大。佈置莊嚴。而各項禮節隆重。執事人亦多也。此爲幫中最大之典禮。（詳大香堂條）四曰特別大香堂。與正式大香堂略同。所異者多設幾爐香。多供幾位祖師。以及多下幾參禮。多幾種職事歌詞而已。五曰特別滿堂香。更事擴大。組織無非是極盡鋪張之能事。若博一日之繁盛而已矣。

六 香堂組織

香堂組織 古例：設於深山古廟之中。或擇庵堂寺院巨屋大廈之內。朝南設立神壇。懸燈結彩。（近代稱中每藉喜慶壽事期中舉行）上供祖師牌位。（詳表）案獻香花供菓。清茶三盃。檀香一爐。方式燭台三對。如法安置。（詳香燭格式）香爐三座。（詳香燭格式）距神案九步。設蒲團一個。再九步至香堂門。堂前鋪紅氍一條。（俾記名或孝祖弟子人多之用。）或用拜墊若干個。堂口設火盆一個。以備焚化黃表佛袋錢糧牌位所用。香堂門左面設香燭一份。以供小祖。右面設香燭一份。以供老官。（船上舵工）此一爐香。近代無形廢去。又有香堂前天井中。供香七十二枝。云是供奉三家小祖。共有七十二位。此是古制。云云。

七 香堂職事

香堂職事 計有十二：一曰當家師。（收徒者自任）二曰講經師。（傳道師兼任）三曰陪堂師。（引進師兼任）四曰執法師。五曰護法師。六曰巡堂師。七曰執堂師。八曰散香師。九曰抱香師。十曰福德師。十一曰知客師。十二曰站堂師。以上十二師爲香堂之職事。另有主香者一人。爲香堂中之領導。由例收徒者自任。如遇收徒者之前人。或長上在香堂時。理由該長上主香。（按主香者。即先行上香。或下參洗 equal 等事之第一人也）。

八 香堂各執事任務

香堂各執事任務 當家師總司香堂內外一切事務。講經師管理（訓練宣傳）。傳道授戒。以及指導一切處

行事項。陪堂師協理香堂內外一切事務。執法師管理刑規。以及執行一切紀律事項。護法師任務特重。担負香堂全部安全之責。巡堂師負糾察任務。執堂師爲香堂司儀。兼香燭照管。凡一切無人負責者。統行屬之。散香師主管記名或孝祖諸弟子之信香收發。以及指導上香上燭下參等事。抱香師協助散香師工作。接燭接香插燭插香等事。福德師主管庶務。督廚辦齋。知客師招待來賓。站堂師護衛站班。此是香堂職事任務之大略。

九 靈前孝祖

靈前孝祖 古例有之。必須在前人未過方之前。會上小香記名者爲合法。尤須在未安葬之前爲宜。設因人事所不能抗者。而未趕到靈前孝祖。如未逾三年。得請師娘主持。並請本門師伯師叔。公開設靈。補行孝祖典禮。如逾三年。殊不宜也。

十 寄名過房

寄名過房 是一種不祥不利之事件。大凡前人過方。而本人尙在。無依無靠之際。因生存與出路問題。不得已而過房。寄名於另一前人麾下。論理事出無法。情可憫恕。惟近代人心不古。專以多師爲榮。竟忘一徒不拜二師之旨。能不嘆息。著者管見。茲訂一法補救。尙希先賢後昆。有益教之。如雖本人尙未開法領衆。（即未上大錢糧。）本師過方。無法靈前上香時。得在本師同參諸前人中。請一位師伯代上大錢糧。即過房寄名爲乾子。同時多多趕香。俾得見習幫中一切儀註。（略云。三家不分二。同是一根

生。一師皆是師。一徒皆是徒。代香代傳法。免得利別家。仍用過方前人之三代幫名。此是雙方利益。如另投別幫別家。則有欺師滅祖之罪。而又惹幫中之譏笑評彈。豈不羞哉。

十一 上香遲到

上香遲到 凡已記名弟子。屆開香日期。忽因事遲到者。得聲明遲到緣由。由介紹人或引進師負責領進香堂。在堂口如法淨面漱口。不論在何班中即行插入行禮。不得因遲到草率從事。避免參祖。如已經惹過三幫九代。祇好下次開香再行參加典禮。

十二 換香收徒

換香收徒 是同一香堂。而各收弟子之謂。此是從權就簡。而便利徒少者之補救方法。假定。張某開香堂收弟子。上香手續完畢。（先期取得同意）李姓繼之收徒，此時。祇換五枝香。惹惹三幫九代。可矣（諺云。換香不換燭。都是親骨肉。）若有記名者。（過房寄名亦同此例）則換用整股香。亦不須換燭惟參祖則殿後。（凡寄名過房不傳三幫九代）此乃古之定例。不得紊亂有壞幫規。統希慎重。

十三 婦女孝祖

婦女孝祖 古制。本無女人孝祖之例。要知婦女。隨夫貴賤。既然夫為幫人。其妻天然已為幫中之婦。何必另再投師。自民族革命成功。女權提高。近代婦女謀人事上競爭。乃有投師求益以爭雌雄但是。仍無破例收徒。而與其夫別樹一幟。惟近代男女社交公開。幫中。乃有婦女拜寄父。收寄兒。收寄女之舉。

因之引起許多糾紛。著者嘗見。幫中老少不宜有此妄舉。雖云潮流如此。幫中婦女。祇宜拜年高德重之寄父寄母。絕對不可拜幫中青年男子爲寄父。或收幫外青年爲寄子。以及收婦女爲徒弟茲爲禦防不肖之徒。藉此別生枝節。有辱我祖立幫之旨。仰各審慎幫中有道之士。當不以著者言之遲耳則幸甚矣。

十四 上下稱呼

上下稱呼 大房之稱呼師傅曰老官。師娘曰娘娘。師爺曰師太。師太曰爺爺，（所謂先太後爺）徒弟曰侍奉。徒孫曰法師。重孫曰老法師。二房之稱呼。師傅曰老官。師娘曰老娘。師爺曰師太。師太曰爺爺。（與大房一樣。先太後爺。）徒弟曰某姓三。（假如。王姓。曰王三。李姓。曰李三）。徒孫曰某小三。重孫曰某小小。師之同參兄弟曰親阿叔。（即親師叔。）三房之稱呼。師傅曰師傅。對人或自稱師傳曰前人。師娘曰師母。師爺曰爺仔。師祖曰師太。徒弟曰弟老。徒孫曰小弟老。重孫曰宋弟老。平輩互稱曰老大。稱呼人師。應稱貴前人。稱人之師爺應稱貴師爺之類。自稱則曰卑幫。卑前人。之類是也。此爲昔日稱呼之定例。近世文化昌明。土語俗話見棄。應改稱。適合潮流確當之名義。方不失之大雅。翁錢潘三房應統一稱呼。（本三家不分二的意思）。師太。師爺。師傅。三代遵古制稱呼。毋須改喚。惟師對徒。宜呼老林賢。賢契。徒對師。應稱夫子曰恩師。同山同參悉改同門兄弟稱呼應改喚師兄弟。平輩互稱則曰道友。或曰同志。稱長上曰師伯師叔。呼晚輩曰賢甥老樣。小老弟之分。（小老弟爲徒孫也。）關於大爺。小爺。老頭子。老個。小個。老的。小的。老師太。老大。等詞。一律廢之。

未識稱中老少。意見如何。故誌以待教正。（諺云。有親就親。有友就友。非親非友。才就安肯道友。又云。若敘班輩。須到香堂。按照字派。以分大小。祇認師徒稱呼。不認父子喊叫。例定。父子不同一個幫頭。師徒不對面座席。此理又不可不知也）。

十五 下參儀式

下參儀式 須平心定氣。目不斜視。低頭恭腰。面帶笑容。臉對香案。平目垂手。恭身肅立。身忌東張西望。搖頭指手。擠眼縱鼻。冷笑擺腳。吐痰咳嗽等事。聽到執堂師口呼（下參）二字。即行左腳上前



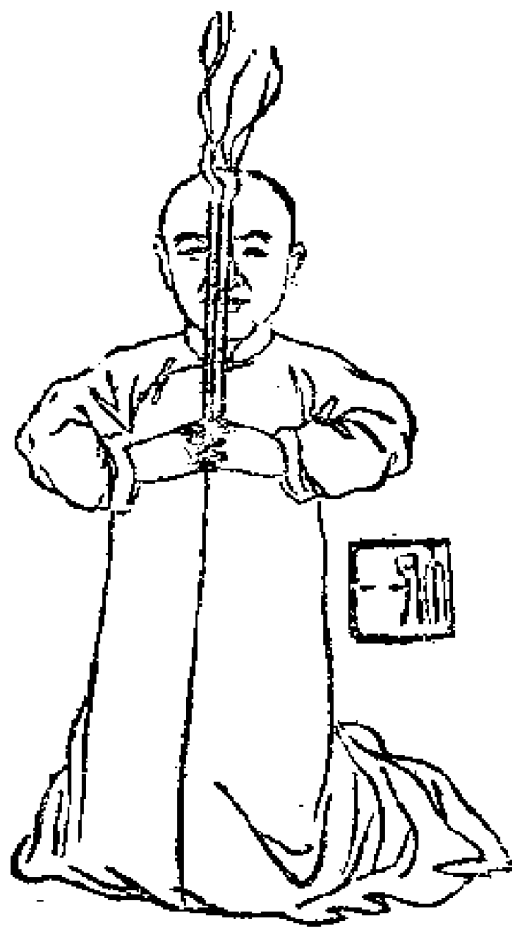
式 燭

一步。右後將腿徐徐跪下。左手同時置左膝。右手繼而加於左手上。俟右腿落地後。雙手同時撤回垂於腰下。雙手均用掌形。五指朝下併攏。緊身靠邊。左脚同時撤後。左腿跪下。雙腳併齊。抬頭平視。向下一拜。左手先落地。掌心朝下。指尖對右。同時右手伸掌。加於左手掌上。指尖

向左。頭頂雙手手背。即行抬頭。同時撤雙手回腰間。再伸左手。扶左膝蓋。右手加左手上面。伸腰先起右腿。繼起左腿。雙腿起全。雙手回原。仍然恭身肅立。（惟上過錢粮。而收過弟子者。則將兩手分開。其已收有徒孫者。兩手掌心至地後。一翻手而掌心向上。名曰「雙掌接佛」。此是舊體制。下參之儀式）。

十六 香堂參祖

香堂參祖 首向西天佛祖一參。西天歷代佛祖一參。中華闡宗達摩始祖一參。二三四五祖。共行一參。



上香儀式

六祖一參。臨濟祖一參。臨濟宗歷代祖師一參。清門金祖一參。羅祖一參。陳祖一參。林祖一參。陸祖一參。翁祖一參。錢祖一參。潘祖一參。王降祖一參。蕭隆祖一參。衆位小祖一參。朱黃劉石四小祖一參。十二庵堂師一參。清門歷代祖師一參。本師太一參。本師爺一參。本師一參。傳道師太一參。傳道師爺一參。傳道師一參。引進師太一參。引進師爺一參。引進師一參。

。香堂中諸執事老少爺們一參。三家諸前人一參。先進山門諸位老大一參。共計三十六參。設若再多者。任收徒者之自便。古云『千拜萬拜。不及真心誠意一拜。』

十七 香堂答禮



下參儀式

香堂答禮 在參祖時，凡未下參者，一律面斜向上。作恭身形式。而不移動。此乃禮制所規訂。記名弟子。或奉祖弟子。以及帶中小爺們。道喜下參時。均須答禮。口稱沾祖爺靈光。以示謙恭。又有一種報名下參規訂。比如『弟子某某。與某某師傅。（或師爺師太師叔師伯）下參。凡受參者。均須答稱。沾祖爺靈光。爺們不必太為客氣。』如在本師家中上香。須請師娘出來見禮。行三參。如在外面記名奉祖。則次日。到本師家中。

或待他日見師娘面時。稍行見面禮。此又不可不知也。

十八 香燭格式

香燭格式 三家均用方式燭台三對。太房香堂。燭台擺成一字形。二房香堂。燭台擺成外八字形。三房香堂。燭台擺成裏八字形。三家均以燭台之台角直對台角。如法設置香案上面。用以分別。今日之香堂。是何房香堂之表示。香爐（三家均用方形）三座。直線安置於三對燭台之中。第一爐名曰佑民香。爲大房翁佑堂之主香。用香七枝。按（虔。誠。崇。信。恆。修。持）七個字。分前三枝。後四枝。插於爐內。（前三云三老。後四云。四少。）此是第一爐香意義。第二爐名曰保國香。爲二房錢保堂之主香。用香六枝。按（清。心。境。悟。真。諦。）六個字。分前三。後三。插於爐內。（前三云儒釋道。後三云智仁勇。）此是第二爐香意義。第三爐名曰平安香。爲三房潘安堂之主香。用香五枝。按（敬。學。戒。吃。怕。）五個字。分五方。插於爐內。中間一枝香。又名主香。此香關係收徒者之興衰。藉中深爲注意此香。燃炷插置。所謂五枝包頭香者。亦卽此香也。香用紅紙包裹。看當前香燭是何種儀式。卽知是誰家香堂。

十九 規訂帖式

卽拜師帖。應詳書三代。及年齡。籍貫。職業。親往本師處拜謁呈遞。請候察訪。（卽師訪徒三年之意。）然後擇期奉祖。方爲正辦。近來帖式固然草率。且多謬誤。殊非敬師之道。茲規定帖式。如下。

帖套式

某姓
老夫子大人

帖正面第一頁

正

第二頁

受業門生 姓名 字 年 歲 省 籍 人
年 月 日 時 生 職 業
曾祖 諱 某某
祖 諱 某某

第三頁

父 名 某某
諱 某某
受業門生 姓 某某 某某 謹叩
通訊住址 某某地方

第四頁

中 華 民 國 年 月 日

帖面或寫願列門牆四字亦可惟現在有人寫天庾正供四字殊不可解

小帖式
(俗謂)
(小條紙)

志願版依弟子某姓某名某字號
某省某縣人某某職業
介紹人某某

二十 依字定名

吾道自鵝頭禪師演派二十四字。專爲後人依字定名。故自金祖至第六代的道號。均是如此。卽世人定字命名。亦莫不然。何以近時。各人所占字派。單曰某字班。而於字派下。空無一字。令人費解。現擬由本師在其徒字派下。選擇一字賜爲道號。以待前人演派本旨。免爲他人譏笑淺陋。

二十一 指示九代

尊師崇祖。既爲吾人注重。自當永記不忘。惟本師上代。以及引進傳道兩師之上代。非由各師。詳細指示不可。乃近代。新孝祖者。備侍在香港孝祖行禮時。耳聞口頭宣告。而又在匆促時間。試問能否記得清楚。況宣告時。未詳細說明。是以每多祇知本師一人。其上代爺爺師太一概無知。至引傳兩師上代。更無由而知。殊欠鄭重其事。茲擬在香港未淨面漱口之前。預由本師。及引傳兩師。各將自己上代。依式寫明俟禮畢交給新孝祖者收存謹記。又可作爲證書。茲特議定格式。如下。

證書格式
第一頁

夙
夜
敬
止

第二頁

引進三代代頭

師傳○○○	字	省	縣	職業
師爺○○○	字	省	縣	職業
師太○○○	字	省	縣	職業
本幫○○○	幫	通	船	隻
太平○○○	修	修	修	隻
旗○○○	所	進	京	旗
吃○○○	水	燒	柴	

備考 其他一切事項	規 幫 大 十									
	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
	不准欺欺凌弱	不准開闢放水	不准以卑爲尊	不准擾亂幫規	不准引法代跳	不准江潮邪道	不准奸盜邪淫	不准打劫前鏡	不准欺師滅祖	不准欺師滅祖

頭 幫 代 三 道 傳									
吃	旗	太	本	師	師	師			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			

清 門 考 源

受 業		收 存	
中 華 民 國		年 月 日	

頭 幫 代 三 師 本									
吃	旗	太	本	師	師	師			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			
○	○	○	○	○	○	○			

一 三 一

二十二 小香堂供奉之牌位式

茲將舊式牌位，及嘗見擬改新式牌位，併列於右，以供明達研究。

舊式		擬改新式	
四海龍王之靈位	天地君親師之靈位	金羅陸祖之靈位	老官之靈位
翁錢潘三位祖爺之靈位		歷代佛祖之靈位	小祖爺之靈位
		翁錢潘祖爺之靈位	(此位供香堂門口)

此乃長房孝祖式。若二房孝祖。錢祖居首三房孝祖潘祖居首。(或橫寫。以中間為主。)(說明)天地君親師五字牌位。在帝制時代。家家供奉。緣以天地而外。自當以君爲尊。現國體已經改革爲民主制度。(宜添設中華民國萬歲牌位一座)君字牌位宜廢。況香堂規則祇認師弟。不認父子。而親字牌位亦不應供。在香堂之內。尊師崇祖。原爲最要問題。然既已設翁錢潘三位祖師牌位。中間何須再設師位。既然天地君親師牌位有抵觸。不若改設歷代佛祖牌位。較爲確當。況吾道根本於佛教。再者四海龍王牌位。當年因船行江海。設位供奉。現今幫運已廢。何必再設。擬改設金羅陸三代老祖牌位。俾後人得知吾青門。翁錢潘三祖字派之上。尙有清淨道三代老祖。且金祖係由運糧。皈依佛教。而爲清門始祖。當與佛供奉一堂。統系貫串。否則重幫輕道。未免忘本。更與前人尊師崇祖宗旨不合。似宜更正。

二十三 大香堂供奉之牌位式（計十七牌位）

安清不分遠合近

◀ 義氣千秋 ▶

民國萬歲
義氣始祖
歷代佛祖

弘忍祖師
僧璨祖師
印可祖師
道信祖師
慧能祖師

金祖

陳祖
羅祖
林祖

陸祖

錢祖
翁祖
潘祖

三家歷代過方前人

三祖傳留到如今

二十四 特別大香堂供奉之牌位式

荷葉蓮蓬白藕同根生

臨濟宗歷代祖師

天竺二十七位佛祖

西天七位老佛祖

中華民國萬歲

中華禪宗六位祖師

清門始祖金碧峯禪師

陳祖

翁祖

繆祖

陸祖

潘祖

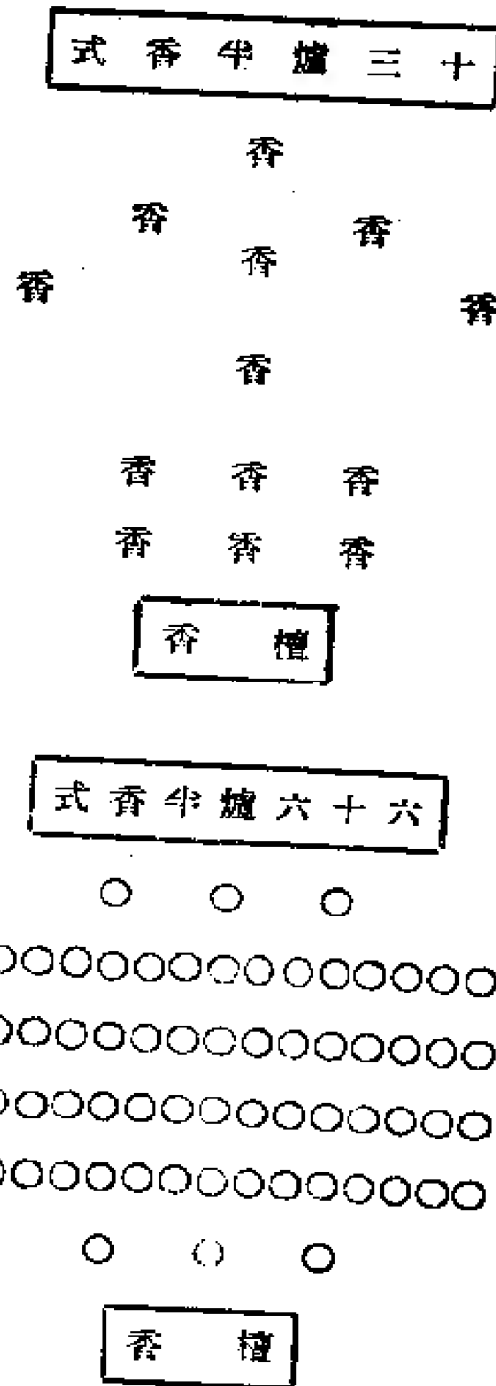
清門歷代祖師

林祖

錢祖

安青洪英理教是一門

二十五 開大香堂香爐式(二種)



(三) 開小香堂

○半爐另設門外

○半爐另設門外

小香堂儀式亦有二種。一極簡便。一稍具規模。其簡便者。隨地隨時皆可舉行。為近世所通用者。名之謂記名香。其儀式。祇寫一張「翁錢潘三位祖爺之靈位」(此點有個過節。大房香堂翁祖寫在第一位。如橫寫。即在當中。如三房。潘祖即在當中。如是二房錢祖即在當中。此點不可不知也。)祇用香燭一份。錢糧黃表各若干。就算完備。先由收徒者。叩頭參拜。(三拜九叩)繼則記名奉祖者。向本師太。

本師親。本師。各行三拜九叩。『如在本師家中。應向師母三拜九叩。如在外闕記名。亦應以見師母面時爲限，補行三拜九叩』。再向引進師行三拜九叩。傳道師行三拜九叩。『如無引進傳道兩師。何來三幫九代。近世人祇知有本師。不知有引進傳道。豈不是怪事。試向（三幫那三幫。九代那九代）。聲明此義。當不能認引進傳道。爲路上人也。』俟禮行畢。本師。傳道師。引進師。各師傳授本幫幫名。本身。字派。（記名香按例如此。）其傳道引進兩師與本師一樣慈悲。後即叩頭送祖完事。此之謂簡便小香是也。其稍具規模者。略有所佈置。香堂地址。雖然不論大小。但是亦不能隨便。人數雖不在多寡。然非數十人不足以壯觀瞻。故不如簡便小香堂。因人少就簡而便利多矣。

茲將小香堂儀式詳述於下。首由收徒者。撰訂日期。並請傳道引進各一人。辦理小香堂事務。記名弟子等。即於該日沐浴更衣。隨同引進者。到香堂地方上香。而收徒者。事前按照本章第二節各條預備。至預定時期。一律脫去背心馬褂。除去帽子眼鏡。魚貫走進香堂。洗面漱口。肅立兩旁。靜候請祖。略派職事。（不用亦可）。惟引進傳道不可缺其一。用黃紙寫牌位三張。一書『歷代佛祖之蓮位』。一書『金羅陸三位祖師之蓮位』。一書『翁錢潘三位祖師之蓮位』。供奉案上。用燭台三對。香爐三座。如法置於案上。（詳燭格式）香案又置檀香一爐。（用與不用。在收徒者佈置。）至是。即行點燃香燭。申表請祖。（概由傳道師代。）面外跪。誦請祖詞。詞曰。『香牒跪塵埃。『焚香朝五台。弟子請祖恭臨壇把道開。』三叩起身。向內至香案。前一參三叩。跪誦繼繼祖歌曰。『阿彌陀佛善門開。金銀財寶玉

橫合。珍珠瑪瑙結寶蓋。祖師牌位懸起來。誦畢上燭。左右執堂師二人。燃炷一對斤燭。分左右送與上燭者。上燭者左手接右邊燭。右手接左邊燭。作交叉形。雙手懷抱。左手燭置右方。右手燭置右方。口誦。上第一對燭歌曰。『頭對神燭紅通通。英雄豪傑出群中。雀樺之上落彩鳳。船艙以內臥蛟龍。』上第二對燭歌曰。『二對金燭元又元。祖師台前放光明。上照日月共星斗。下照安齊萬萬年。』上第三對燭歌曰。『三對蘇燭六朵花。五支抱頭中間插。自從老祖傳人世。自古迄今不分家。』上小祖爺燭歌曰。『四對蘇燭燭生花。燭報平安喜氣加。天生小祖行福運。安齊萬代不分家。』在誦畢頭對燭之後。左右執堂師上前接燭。左插於左。右於插右。插畢復將燃炷之第二對燭。送與上燭者。上燭者如前法接燭。作式誦歌。左右執堂師如法接燭插燭。再送第三對神燭。上燭者如前法接燭。作式誦口上小祖燭歌詞。誦畢三參起身再轉向內跪。下參上香。抱香師（或執堂師）將燃炷之香七枝。送與上香者。上香者雙手接香。口誦上第一燃炷香歌曰。『頭頂七枝香。寶燭分兩廂。今天沾雨露。福壽求無疆。』抱香師接香。依法插香於爐內。繼送燃炷之香六枝。遞與上香者。上香者雙手接香。口誦上第二爐香歌曰。『二爐香烟供正中。三義堂前聚英雄。祖爺昔日興福運。傳下安齊俠義風。』抱香師接香。依法插於爐內。再送燃炷之香五枝。遞與上香者。上香者雙手接香。口誦上第三爐香歌曰。『雙手捧起五妙香。臨濟宗風潛安堂。前人造下新世界。安齊道義萬古傳。』誦畢起身外跪。抱香師

送燃炷香一股。名曰「一把抓」遞與上香者，上香者雙手捧香口誦。上小祖香歌曰：「風流小祖道法高。一無神股二無廟。每逢香堂門外站。我與小祖把香燒。」誦畢起身。請收徒者參祖。次及香堂各職事參祖。依字派大小。及資格深淺。以分參祖先後。此日如有前輩在堂。收徒者理應讓讓。前輩先行參祖。以示敬上愛下。殿後傳記名弟子等。齊至堂前。按人數多寡。分行列。一齊跪下，傳道師教授下參儀式。（詳前）參畢。散香師分發信香。給記名弟子一人一枝。謂之捧香慈悲。本師向小爺們問道。你們還是情願進幫的。還是朋友所勸的。還是妻子所迫的。衆小爺們答道。自己情願的。本師又曰。不來不怪，來者受戒。幫中各事都要看重。不可看輕。幫規重似軍令。自此以後。要謹守前規。珍重禮儀，忠心報效國家。安分守己。然後。慈悲本身姓名。字派。籍貫。出身。職業。本幫幫名。慈悲完畢。致訓詞。詞曰：「訓爾後生。仔細聽真。吾道宗旨。信義爲尊。三不二。枝葉同根。親疏遠近。從來不分。爾今受戒。潔已修身。和平處世。忠厚待人。國法須遵。幫規宜守。作詞訓誡。毋負諄諄。」詞畢，乃請傳道師慈悲。傳道師即將姓名。字派。籍貫。職業。本幫幫名等事。慈悲完畢。致訓詞。詞曰：「投師學道未落髮。五湖四海補雲納。走遍天涯訪朋友。三山五岳到處家」誦畢。請引進師慈悲。引進師即將本身姓名。字派。籍貫。職業。本幫幫名。慈悲完畢。致訓詞。詞曰：「人講禮義有先。樹以花果爲園。仁義能行天下。英雄寸步難前。安青本在義氣。師徒前世有緣。不過借道交友。會用必能安全。」詞畢乃退。即命記名弟子。一律起身。分立左右。仍請上香闖人。申表送祖。送祖人面朝外跪。下三

參。口誦。送祖歌曰：「祖師生長在杭州。武林門外把道修。三位祖師頭裏走。弟子這頭在後頭。」至此。小香堂完畢矣。

(四) 開大香堂

大香堂者。即上大香也。又名上大錢糧。此乃幫中正式之香堂。規模宏大。禮節莊嚴。茲將特點。分別詳述如下。先由主香人。(收徒者)按照本章一二兩節。辦理香堂。一切應行事項。俟佈置完善後。適請主香人(不論何人兼充均可)開壇請祖。面向外跪。申黃表三張。下三參。跪誦諸祖歌曰，
請達摩佛祖師歌曰。(達摩祖師道德廣。奧妙無窮胸中藏。普度衆生超仙界。收來弟子祖增光)

請金祖師歌曰。(滿天紫氣祥雲生。我祖殿試受皇封。一塵不染歸山去。世代傳流子孫興)

請羅祖師歌曰。(羅祖修行棲霞山。紫雲洞中把身安。紅江渡口師徒會。一蓬渡江把道傳)

請陸祖師歌曰。(陸祖修行五台山。翁錢潘祖拜台前。蒲團打座傳聖訓。開幫行運傳萬年)

請翁祖師歌曰。(翁祖原籍住東昌。拜師訪友道士裝。雲游四海心相應。懸起牌位顯靈光)

請錢祖師歌曰。(一張黃表天下遊。領旨河務工程修。九曲灣灣哪王廟。辛苦跋涉把祖求)

請潘祖師歌曰。(處事無奇俱率真。哪王廟內把道尋。得受藏經開覺路。化游西方在廟林)

請小祖師歌曰。(小幫本是護法神。佛祖面前他爲尊。弟子請你門外座。看經守卷萬萬春)

以上爲簡明適當之請祖辦法。尚有分請二祖。三祖。四祖。五祖。六祖。以及清門。陳祖。林祖。

• 王降祖。蕭隆祖等。並有請天地君親師。或政府法令。歷代佛祖。歷代前人。等等。未免冗長。著者嘗見。宜簡便爲安。請祖歌詞誦畢。下三參起身。朝內跪在堂前。讀誦懸掛諸祖歌詞。

懸達摩祖歌曰。(風送香烟到嵩山。始祖蒲團正參禪。玄機一動凡塵下。腳踏祥雲進香堂。)

懸金祖歌曰。(一支信香到五台。迎接金祖下山來。安濟子弟多義氣。萬朵蓮花遍地開。)

懸羅祖歌曰。(羅祖修道五台山。大明朝中把道傳。說退番兵數百萬。功成身退學參禪。)

懸陸祖歌曰。(陸祖虔心把戒求。師徒相訪幾十秋。紅字江口悟真道。安濟興旺名才留。)

懸翁祖歌曰。(翁祖本是傳道尊。陸祖名下入佛門。五台山上歸真道。千年萬載受香烟。)

懸錢祖歌曰。(一支長香跪堂前。錢祖堂上受香烟。九爐大香都點上。五支抱頭插中間。)

懸潘祖歌曰。(遠望杭州青龍山。海水滔滔波浪翻。三家祖師蓮台座。弟子虔誠把禮參。)

懸小祖歌曰。(三家共議出門開。衆位小祖進幫來。珍珠瑪瑙遮寶蓋。金銀財寶堆樓台。)

誦畢懸祖歌詞。即行三參。起立右邊。即行上燭(儀式詳前)上燭者。即至堂前。下參。

「執堂師如法送燭。接燭。插燭。而上燭者。亦如法接燭作式。均詳載前條。(見小香堂)本段恕不重述。惟上燭歌詞。稍有不同。故誌)。上燭者跪誦。

上第一對燭歌曰。「一對神燭左右分。萬姓歸宗入清門。今天香堂師傳拜。他日收徒徒收孫」。上第二對燭歌曰。「二對神燭放光毫。祖師建台樂逍遙。今天香堂傳大道。後代更比前代高」。

上第三對燭歌曰。『三對神燭亮輝煌。風調雨順永平安。仁義道德行天下。千古相傳安滑幫』。

將堂上三對燭上齊。轉身外跪。下三參。即行口誦

上小祖燭歌曰。『護法神燭火焰熊。紅光照耀透蒼穹。自從下山舉義後。世稱民族大英雄』。

（按上四對燭手續。與小香堂上燭。毫無差異。希閱者參閱前條）。上燭畢即行上香。其一切手續。與小香堂同。惟詞則異。分舉於下。

上頭爐香歌曰。『一爐大香一蓬鬆。開船行運要順風。百世流芳子孫展。英雄豪傑出幫中』。

上二爐香歌曰。『二爐大香空中搖。開船行運在清朝。皇糧正供留千古。千枝萬幫水上飄』。

上三爐香歌曰。『三爐大香瑞氣飄。三山五嶽訪英豪。縱有黃金五百萬。不如滑門路一條』。

將堂上三爐香上齊。即轉身外跪。口誦

上小祖香歌曰。『四爐香烟意義深。巴斗山上有家門。兄弟四人虎穴闖。開成時勢造英雄』。

以上四爐香上齊之後。即舉行參祖大禮。其儀式與小香堂同。（詳前）繼傳孝祖弟子等。至堂前參祖。參祖後。仍須跪而待命。（此時散香師。早將信香一把燃炷在手。）

捧香慈悲。由散香師與抱香師二人。左右分立將信香按孝祖弟子人數。分發。一人一枝教授捧香之法。

『雙手合掌。將香夾在掌心。平胸端正。香與鼻直對。順目。平視信香。腰挺。脚齊。細耳靜聽慈悲。

』此時巡堂師視察一週。如有錯誤。當即糾正。散香師即誦散香歌曰。『三姓原本是一家。香烟結成忠

蓮花。今天上香多吉慶。敬請法師慈悲他。」爾畢。退立右邊。堂上各職事。相繼出而致詞。茲定一例。分述於下。抱香師誦五子抱頭香歌曰

「五枝包頭插中央。家內美名天下揚。衆家祖師蓮台座。義氣不過安清霜。五枝包頭香五根。敬天敬地敬雙親。今天香堂把戒受。三幫九代爲根本。五枝包頭當中插。香烟繚繞如蓮花。紅花綠葉白蓮藕。三教原來是一家。敬天敬地保吉祥。食王水土敬君王。父母堂前應敬孝。拜師敬親禮所當。求福求祿命該。延年益壽修得來。人逢喜事精神爽。君子求道不求財。舉仁學義學綱常。學禮學智逞豪強。與朋友交要學信。修仙學道理相當。金木皆在五行中。世上無火穀不生。天地無水難生命。萬物皆在土中生。一怕生來二怕老。人若病時添煩惱。天下誰人死不怕。世間惟有苦難熬。」又誦頌詞曰。「五枝包頭插中間。祖爺傳留五句言。金丹舍利無價寶。安清義氣傳萬年。」

查「雙手插香。名曰雙陪香。左手插右邊名曰值堂香。右手插左邊名曰陪堂香。中間一枝曰主香。五支香。按的「敬求吃學怕」五個字。傳云。敬的天地君親師。求的四季平安福。吃的金木水火土。學的仁義禮智信。怕的生老病死苦。（近代改求字爲戒字。戒的好盜邪淫殺。比較求的四季平安福五字。爲值堂而合體。著者故併誌。以供閱者研究。）

各執事訓詞

執堂師歌曰。「三星拱照山門開。三家祖爺供起來。滿堂弟子都興旺。法師度人上五台。」

護法師歌曰：「麒麟門外金家村。功成身退入佛門。棲霞山下成正果。始創安清第一人。」
執法師歌曰：「乾隆御賜棍一根。保障幫規家法名。誰人如把幫規犯。香堂責打不容情。」
當家師歌曰：「你要不來我不怪。你要進幫就受戒。既是佛門好弟子。莫仗前人惹禍災。」
抱香師歌曰：「陰門善門不招揚。陽門禪門放靈光。我身不離三寶殿。長存彌陀一片腸。」
站堂師歌曰：「遠望杭州青龍山。五湖四海通糧船。三家祖爺香堂座。弟子上前把禮參。」
知客師歌曰：「法師領衆山門開。弟子堂前領下差。老少爺們堂下站。恭候祖師帶法來。」

（此係。爲晚輩在前人香堂中當差。適用之。）

知客師歌曰：「香堂設在黃氏庵。明末清初立幫幫。陸祖傳法登寶殿。掌旛寶蓋站兩邊。」
陪堂師歌曰：「聖佛壇前傳道場。古今傳流救人。方三位祖師大業創。全靠歷代老祖光。」
禪德師歌曰：「大樹根深業更多。千枝萬葉永不修。若能粗細來團結。土能變金無外憂。」
誦經師歌曰：「阿彌陀佛桃李栽。教主修心在蓬萊。傳流聖道千百載。後人世界前人開。」
外巡查師歌曰：「身家不清休進幫。已事不明道不傳。冒充安靜處處有。盤問三代犯憂愁。」

你不來時我不怪。進了山門要受戒。信義兩字存在心。一生忠孝不懈怠。」

內巡查師歌曰：「冒充安靜處處有。問起三代犯焦愁。縱然混進香堂口。查出仍趕門外頭。」

以上各師訓詞之後。（每一師訓詞。即立於堂前。詞畢退回原位。散香師。即請奉祖之本師（收徒者）

慈悲。此時收徒者。即行向孝祖衆人慈悲。本身三代。『即師太。師爺。本身。』姓名。籍貫。職業。字派。別號。住址。以及本幫幫名。船隻數目。旗號。所名。與十大幫規。凡幫中一切事項。均須慈悲清楚。旋誦歌曰。『佛生西域法東流。前人田地後人收。後人收得心歡喜。還有後人在後頭。』本師慈悲已後。引進師繼之慈悲。將本身三代姓名。以及本幫幫名。船旗等事。如同本師一樣的詳細分述清楚。即誦一歌曰。『一條大河把人攔。河寬水深永不乾。引進好比船擺渡。無人引進難到岸。』引進師誦歌畢。又說道。『祖爺傳流到如今。前人慈悲後人聽。仁義二字行天下。無理寸步都難行。』至是引進師退列右邊。傳道師即上前誦歌曰。『祖師立下傳道場。勸人行善立綱常。三家祖爺基業創。老少爺們都沾光。』誦畢。即將本身三代姓名。以及本幫幫名。船隻數目。旗號等事。與本師引進師一樣詳述。並慈悲切要。應世處事心法。按例言引進無大小。傳道有高低者。並不是說引進人地位而無大小。是指引進人無學識。也可做引進師。現代有人誤會。如地位無大小。何以稱師。傳道有高低。就是學問有好壞耳。近代更有傳道師在香堂中。所訓語詞。頗多荒謬絕倫。無怪現今子弟。動輒滋事。殊與吾道宗旨相背。茲特作詞改正。詞曰『既願皈依受戒。須將私慾全拋。一身謹慎爲宜。莫把念頭錯了。知足免尋煩惱。能忍方是英豪。救危濟急勿辭勞。才是祖爺靈光普照。』誦詞畢。退列左邊。由執堂師上前。將各孝祖者手掌內之信香。一律收固。共同捆在五枝包頭香爐內。將收回之散香。包在五枝包頭香一轉。緊緊靠攏。名曰。『一心一德』。繞在擁護主香。(主香乃本師之香。)又可謂。精誠團結。至是。乃

命孝祖者。叩三參起立。旋即送祖。仍由請祖者担任。面朝外跪。申表口誦

送達達始祖歌曰。「奉送始祖回西方。安清義氣永流傳。今天栽下桃李樹。子孫興盛滿庭芳。」

送金祖歌曰。「奉送金祖回五台。下次開香再請來。佛祖留下乾坤袋。代代相傳把法開。」

送羅祖歌曰。「奉送羅祖回仙山。萬里乾坤袖中藏。祇待雲飛風虎會。安清弟子定家邦。」

送陸祖歌曰。「奉送陸祖回洞府。藏真露假走江湖。借道求賢訪明主。不愧清門大丈夫。」

送翁祖歌曰。「奉送翁祖回仙山。安清道義天下傳。師徒相共如父子。同心同德基業昌。」

送錢祖歌曰。「奉送錢祖回仙山。定國安邦走四方。廣收弟子天下闢。功成名立子孫昌。」

送潘祖歌曰。「奉送潘祖回杭州。安清道義永傳流。三家祖師雲中走。弟子跪送在後頭。」

送小祖歌曰。「奉送小祖回仙山。下次開香再請還。祈求靈光多保佑。朝中弟子永敬香。」

至是將錢糧（詳後）黃表祖師牌位。均皆焚化。行三參乃起立。口稱道喜。大香堂則完畢矣。

香堂口錢糧。重二斤。十三兩。五錢。四分。五厘。三毫。三。傳云。是個比方。適按南北兩京。天下十三省。五湖。四海。五嶽。三山。三江。而言。其實不然。上錢糧有兩種意義。一孝祖者。從此開法。可以領衆大收弟子。一本師乘機。可得一點收入。俗云。錢糧者。國課也。等於收稅一樣。不過人格問題。各有高低。賢愚當局難免。凡在幫者。祇有一次錢糧可上。而終身收此錢糧則無量數矣。凡連毛僧（未上錢糧者）。閱此一段。能不大快而特快上大香碼。

(五) 特別大香堂

特別大香堂者。較普通大小香堂稍擴大也。餘無何項異點。茲將擴大情形。分述於下。一增香至十三爐半香。(詳特別大香堂表。)二增加開壇詞。鋪簾席詞。接駕爐詞。上檀香詞。敬換爐詞。獻茶詞。請牽繩詞。焚佛袋詞。以及頂門。叫門。開山門。開鑰匙。止靜。趕香。回香。道喜。等詞。其餘無所闕特別耳。(以上各項歌詞。詳香堂歌集專章。)

(六) 特別滿堂香

特別滿堂香者。是供奉西天七位老佛。西香七爐。天竺二十七位佛。西香二十七爐。中華禪宗六位祖師香六爐。臨濟宗歷代祖師香一爐。中華民國萬歲牌位香一爐。本門(清門)歷代祖師(至大字派止)香二十一爐。天地日月星香一爐。(前天地君親師)朱黃劉石四顯香一爐。(此爐供於香堂門口。名謂半爐。總共以上。計香六十六爐半香。其儀式佈置。及一切辦理手續。與特別大香堂同。此即所謂特別滿堂香也。『按天地君親師牌位早不適用理。由是吾國體已改民主制。君字宜廢。而又另立民國萬歲牌位供奉。故改供天地日月星。以天地恩厚爲父母。日月光明爲業師。以星斗之多爲良友。著者不敏。統希教益。爲無量隨祝。』(香堂規範完)

第十章 香堂歌集

清門考源

(一) 各種執事歌詞

(一) 開壇詞。「冬日短來夏日長。誦亭祖師造糧船。船底船榜檀香木。珍珠瑪瑙玉欄杆。若問糧船有多大。古今無人能說全。東至東洋扶桑國。南至南海落鰲山。西至西域雷音寺。北至關外飲馬泉。五台有顯桃李樹。金祖伐木作桅杆。定國天智羅祖著。陸祖講經皇室庭。翁錢潘祖多仁義。三家併一子孫昌。遠際祖師船上供。歷代祖師供兩廂。三位祖爺船中座。衆家小祖立兩旁。前人老官分左右。衆家子弟手捧香。三老四少船頭站。弟老侍俸把纜拉。頭船運的皇糧米。二船運的軍家糧。三船纜把衆姓度。上了糧船把道傳。富貴貧賤皆一樣。何分公侯伯子男。一進山門都姓潘。沾祖靈光走四方。千里不需柴米帶。家裏義氣重如山。有緣不須把船趕。無緣苦求也安然。過橋容易趕船難。無渡何能到彼岸。安青貴在奉義講。師弟相處禮爲先。祖爺造下新世界。子孫興盛億萬年」。

(二) 止靜詞。「今天香堂大典。切莫接耳交言。朝祖須按秩序。必要同起同參。老少各整衣帽。祖師家法謹壇」。(又詞)「弟子朝祖跪堂前。山門大開度有緣。今天設下香堂典。三老四少列兩邊。安青本是仁義教。進了山門學聖賢。仁義道德無價賣。香堂規則禮爲先。止靜不准談笑話。香堂之內莫亂言。三老四少要原諒。新進弟子好結緣。倘有故意香規壞。依法懲戒不徇情。諸位如聽金石語。道德仁義是福田」。

(三) 趕香堂詞。「家裏錢氣傳四方。奉祖敬宗一爐香。弟子今天把香趕。朝祖禮畢殺家常」。(又詞

(一)「得太平來得太平。未從進門先報名。三幫九代講一遍。姓名幫諱都報清」。(又詞)「奉師嚴命趕香堂。雲游天下把道傳。今天老大喜氣廣。參把祖爺再敘談」。

(四)叫門詞。「三老四少站滿堂。聽我從頭說端詳。家住杭州潘姓。朝祖拜佛黃氏庵。東至東洋扶桑國。西至川邊峨嵋山。南至雲南天邊外。北至山西五台山。那裏有香那裏趕。聞香趕到貴香堂。全堂老少莫多講。弟子上前把祖參」。

(答詞)「喜揚揚來笑揚揚。承蒙老大趕香堂。衆位祖師蓮台座。大家都沾祖爺光」。(又詞)「懷抱殘氣趕香堂。三幫九代腹中藏。我今開了善門鎖。初次聞香要沾光」。

(五)開山門鑰匙詞。「一把鑰匙貴如金。行走坐臥不離身。開天開地開智慧。我替弟老開山門」(按此對晚輩而言。如是平輩。則曰老大。長輩則曰前人。此又不可不注意。)

(六)開禪門鑰匙詞。「弟子跪塵埃。如意鑰匙開。開開順風鎖。永遠福星來」。

(七)開空門鑰匙詞。「雙膝跪塵埃。太平鑰匙開。開開廣足鎖。財喜滿庭階」。

(八)開堂門鑰匙詞。「弟子跪塵埃。定海鑰匙開。開開平浪鎖。福祿財星來」。

(九)開道門鑰匙詞。「今天開了進道門。留與弟老收賢人。多收忠臣和孝子。忤逆奸邪莫引進。佛門開放多昌盛。子孫興旺億萬春」。

(十)開山門詞。「儒釋道教共三分。羅祖傳下一條根。今天弟老來受戒。爲的推行五字真」。

(十一)開壇詞。「歷代祖師座神洲。國內海外把人收。承運渣糧有用意。留與子孫報國仇」。

(十二)傳道詞。「安清臨濟派。三帶與九代。祇傳五字真。不用衣鉢戒」。

(十三)引進詞。「祖師仙駕升蓮台。護法執堂兩邊排。三老四少堂前站。弟子引進後賢來」。

(引進人又說詞)弟子某某。今作引進人。引進某某進幫。而某某身家清白。品行端正。在某某老大會下孝祖。如查出某某身家不清。品行不端。有不正當行爲。均歸引進人擔負完全責任。統希三老四少。贊許。慈悲慈悲。)

(十四)上檀香詞。「黃金寶鼎焚檀香。香烟繚繞透上蒼。今天前人逢喜事。架世子孫大吉昌」。(又詞)「雙手捧起真檀香。滾滾香烟佈滿堂。三老四少堂前站。家裏義氣代代昌」。

(十五)上座香詞。「香烟飄飄如蓮花。五字抱頭當中插。自從潘祖留下後。王降祖爺開的法」。

(十六)護法香詞。「四大護法一齊來。弟子上香善門開。廣戒沐浴來保駕。師傳請祖座蓮台」。(又詞)「雙手共舉護法香。五湖四海把名揚。弟子叩頭香堂上。奉請祖師顯靈光」。

(十七)小祖燭詞。「寶燭一對。光照乾坤。氏庵中。第一賢人」。

(十八)小祖香詞。「信香一舉。供獻門外。潘門家風。萬代不改」。

(十九)上香詞。「一爐香煙繞天台。安清祖師臨濟派。二爐香烟透九天。今日師徒來結緣。三爐香烟透九霄。同參兄弟如同胞。四爐香烟透雲端。隔幫調衛莫敝幫。五爐香烟透天空。三老四少樂融融」。

·香香都有英雄將。燭燭光明壽無疆」。

（二十）請牽繩詞。「一丈二尺紅絨繩。拉運皇糧有大功。五燭六蠟皆完畢。弟子前來拉牽繩」。（又詞）「紅絨牽繩三丈三。還有三尺拴金錢。十八羅漢兩邊站。中間兩極老壽星。白鶴童子來引路。後跟劉海戲金蟾。金錢落在吉祥地。富貴榮華億萬年」。（又詞）「紅絨牽繩三丈六。桌面之上盤一盤。一盤南斗與北斗。二盤福祿壽三星。三盤金龍擺玉柱。四盤魁星占鰲頭。五盤財神來進寶。六盤渭水姜太公。七盤梅山亡國恨。八盤勸王鄭成功。九盤金祖羅祖和陸祖。十盤翁錢潘祖興家邦。前盤八仙有意義。後盤悟空鬧天宮。左盤劈山把母救。右盤桃園兄弟破黃巾。上盤乾坤日月尊。下盤三五定太平。公門爲業加官祿。農工商人發財源。桌案上面盤盤現。三老四少把禮參」。

（二一）接駕爐詞。「欽賜接駕爐。慰勞運糧功。今逢香堂典。供奉增光榮」。

（二二）扎根爐詞。「晏安蓋渡。一花五葉。潘門後裔。子孫發達」。

（二三）供菓詞。「虔誠供奉菓三盤。歷代祖師壽無疆。三姓弟子堂前站。洗手焚香把祖參」。

（二四）獻茶詞。「清泉三碗似淨瓶。楊柳枝上雨濃濃。衆姓弟子求保佑。佛光普照人人興」。

（二五）鋪簾席詞。「香案桌子設中央。三老四少站兩旁。漱口淨面供完畢。簾席鋪地滿香堂」。

（二六）止靜詞。「今天擺香堂。諸位喜氣揚。老少分長幼。依序列兩廂。衆位休說話。不許眼亂張。內有執堂師。外面派巡查。香堂要肅靜。不許亂喧嘩。那位犯幫規。立時請家法」。

(二七) 焚佛發詞。『黃表焚堂前。祖師歸西天。老少多吉慶。家家喜氣添』。

(二八) 道喜詞。『寶燭輝煌彩雲起。普門開放收弟子。前人今日添喜事。我與師父來道喜』。

(二九) 用家法詞。『身披袈裟。頭頂家法。站在堂前。替祖傳話。爾既在幫。應講道德。犯了幫規。爲犯國法。請爾參祖。明候發落』。(又詞)『師傅口諭。命我執刑。無仇無恨。順手平心。打輕打重。莫恨在心。今天如此。後好懲人』。(又詞)『香板一尺三。產在五台山。羅祖親手造。定爲鎮山寶』。(又詞)『香板一舉龍抬頭。再不改過是下流。一打你不仁。二打你不義。三打你無禮。四打你無智。五打你無信。六打你不忠。七打你不孝。八打你無恥。九打你不廉節。十打你犯了幫規』。(又詞)『家法本是一條棍。乾隆欽賜與潘門。棍上刻有四個字。打死毋論是何人。通諭各省文武官。家法打死無罪名』。

(三〇) 求助詞。『沙灘無水難行舟。急得雀棒亂點頭。家裏義氣拖一把。仰粘老少好開舟』。

(三一) 頂香爐詞。『走進香堂把頭抬。師傅老官站兩旁。那位前人領弟老。香爐讓我頂回杭』。(又詞)『翁錢二祖我不管。潘門香堂我要趕。三老四少請開站。黃金寶爐送給咱』。

(回詞)『家裏義氣重如山。請你不必開香堂。三老四少都在此。有何意見好商量』。(又詞)『進了佛門義氣在。上過錢糧受過戒。你今頂香我不怪。還出三幫與九代』。

(三二) 上戒香詞。『三祖傳流安青幫。家裏義氣千秋長。香堂門裏討慈悲。弟子我散受戒香』。

（三三）起戒香詞。「三拜九叩禮要端。祖師面前來上香。有緣千里得皈依。無緣相隔萬重山」。

（三四）香案前跪讀詞。「天地三光。祖爺耀光。潘祖聖會。王降祖恩德。各位師爺。各位前人。各位

老大。各位弟老。各位小爺們。今南贛部洲」。中華民國年 月 日 省 縣某某處

地方。設立吉祥道場。爲僧者削髮誦經。爲俗家代髮修行。爲安青幫者手捧一段長壽香。五湖四海把名揚。三老四少大吉昌。在家裏供奉五個字。乾隆三年三月三日。三下江南。座江淮泗頭船。路

過江寧府句容縣。下船游玩。距城十八里。有一劉王廟。二門以內。有透龍牌一座。乾隆御筆。賜

七言詩一首」。詩曰「義氣千秋果不差。一樹不開兩樣花。紅花青葉白蓮藕。三教原來是一家」。

（三五）壓壇詞。「家裏義氣傳萬秋。青門開放把人收。仁義道德天下走。五湖四海任君游」。又詞

「三分安青七分交。交情在人氣量寬。寬能讓後福大。大可成仁美名傳」。又詞「師傅領進門。交情在於人。仁義行天下。自大步難行」。

（三六）內巡堂詞。「進了安青臨濟派。上過錢糧受了戒。雖無衣鉢爲憑證。要報三幫與九代」。

（三七）外巡堂詞。「叫聲老大你莫忙。師傅請你到客堂。有話亦當下次講。候我稟明進香堂」。又

詞「跳板好比一條龍。一頭高來一頭平。老大君把跳板上。當心失脚墜江心」。

（三八）有問無答詞。「弟子代髮出家。一脚門裏一脚門外。在香堂口。師父慈悲的明白。惟我弟子。

記不清楚。要請老大。原諒原諒」。或答不上所問之時。以用此詞回答。

- (三九)護法問詞。「安得道義按宗統。全憑字派分低高。萬姓歸宗成大道。報濟香頭把祖朝」。
- (四〇)請戒香詞。「弟子跌跪在香堂。誠心虔意請戒香。祖師面討討慈悲。四季平安保吉祥」。
- (四一)上家法燭詞。「手舉一對燭。光輝照滿屋。老少多吉慶。祖師留後嗣」。
- (四二)上家法香詞。「弟子上香拜師尊。開幫行運度人心。安齊不分遠和近。犯了幫規一樣行」。
- (四三)請家法詞。「雙膝跪在地塵埃。師父訓徒座蓮台。誰人要把幫規犯。我把家法請下來」。
- (四四)供家法詞。「弟子跪在桌案前。祖師牌位按序懸。家法本是黃香板。犯了幫規不循情」。
- (四五)頂家法詞。「頭頂家法面朝天。師父老官站兩邊。擾亂幫規違義理。定請家法不稍寬」。
- (四六)收弟子者詞。「三位祖師座蓮台。傳留大道育英才。弟子遵規傳衣戒。佛光普照山門開」。
- 又說「弟子潘某。收某某弟子進幫。祈求各位三老四少。慈悲慈悲」。
- (四七)焚錢糴詞。「三分錢糴香堂前。瑞氣繚繞喜氣添。合家老少多吉慶。富貴榮華億萬年」。
- (四八)散香堂詞。「途祖一畢。各自回程。合家老少。福壽康寧」。

(二) 各種上燭歌詞

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 一對神燭舉手中。 | 弟子堂前笑融融。 | 三聚祖爺蓮台座。 | 沐手焚香拜當空。 |
| 二對神燭左右飄。 | 家門義氣勝同胞。 | 三老四少堂前站。 | 徒弟法孫代代高。 |
| 三對燭燭六朵花。 | 上玄抱頭當中樞。 | 自從祖師傳人世。 | 自古迄今不分家。 |

一對喜燭左右分。	三老四少根根深。	師父老官全在此。	安青龍傳萬萬春。
一對紅燭照堂前。	朱劉黃石萬萬年。	執堂護法兩邊站。	衆位弟子把禮行。
一對喜燭整三雙。	三家祖爺立中央。	三老四少兩邊站。	滿堂弟子把祖參。
一對寶燭兩邊排。	在幫弟子請進來。	九曲三灣哪王廟。	千山萬頂北五台。
一對寶燭圓溜溜。	總幫船名太平舟。	三家祖爺運糧米。	七十二個半碼頭。
一對喜燭搭天橋。	銀光輝煌透九霄。	法師今天收弟子。	千古傳流仁義高。
一對寶燭如月明。	糯米幫船有聲名。	一百二十八幫半。	萬國九洲皆可行。
一對喜燭敬祖師。	修身養性悟玄機。	參透佛法真命理。	超凡入聖不化泥。
一對寶燭照仙山。	祖爺洞內練金丹。	各位同道皆到此。	在幫之人均平安。
一對寶燭喜氣佳。	天保九如燭生花。	諸公九世同居住。	各處安傳是一家。
一對喜燭照輝煌。	小祖離了黃氏庵。	只因今朝香堂會。	寶座安在大門旁。
手捧喜燭往外行。	小祖外邊笑盈盈。	各位老少兩邊站。	靜候弟谷將祖請。
一對神燭圓又圓。	案上銀台列兩邊。	上照日月共星斗。	下照安傳百世傳。
一對神燭照九州。	好似明月正中秋。	世間好事忠和孝。	前人慈悲後人收。
一對喜燭列兩傍。	照見弟子開香堂。	抱香弟子領執事。	法師收人美名傳。

一對寶燈紅通通。	祖爺一見下山峯。	五湖四海隨人走。	九江八河處處通。
一對喜燭放光華。	五支抱頭五支花。	祖爺還糧留下後。	安青墓代不分家。
一對寶燭照滿堂。	祖爺得道在西方。	諸位老少堂前站。	全沾一世老祖光。
一對喜燭放光明。	我祖世居杭州城。	啞叭橋下傳大道。	鳳林開前脫殼行。
一對喜燭結彩霞。	糴米幫船走天涯。	珍珠瑪瑙作寶蓋。	三位祖師是一家。
一對神燭放靈光。	好是紅日出扶桑。	漢族民國新世界。	威風烈烈鎮中央。
一對神燭似佛燈。	天地三光日月星。	啞叭橋前家堂廟。	蓮衣結蕊賀安青。
一對神燭喜氣揚。	白衣大道潘爺堂。	臨濟宗派留下後。	歡天喜地樂無量。
一對神燭照乾坤。	今日師父開善門。	執堂護法兩邊站。	靈前新收孝祖人。
一對神燭紅又紅。	祖師面前放光明。	雀桿以上飛彩鳳。	船艙底小走蛟龍。
一對神燭照佛傍。	仙風吹動玉爐香。	弟子雙手來獻上。	四季平安免災殃。

(三) 各種上香歌詞

頭爐香煙繞中恭。	長江運河是我家。	安清義氣安地下。	清煙散入五侯家。
二爐香來往上升。	祖師得道杭州城。	啞叭橋前家堂廟。	子孫香烟值萬春。
三爐香來入雲煙。	子孫今到香堂前。	三家祖師連台座。	弟子上香把禮參。

一爐大香一盞盤。	開結行運要順風。	百世流芳子孫盛。	英雄豪傑出幫中。
二爐大香空中搖。	開幫行運在清朝。	皇權正供留千古。	千幫萬船水上飄。
三爐大香瑞氣飄。	三山五嶽訪英豪。	縱有黃金五百萬。	不如安甯路一條。
一爐大香透雲中。	孝祖學道口同心。	福如東海長流水。	壽比南山不老松。
二爐大香霧騰騰。	祖師得道杭州城。	我等敬禮風光好。	皈依佛門百世榮。
三爐大香望上升。	子孫興旺滿堂春。	黃河九曲隨舵轉。	順風順水好登程。
一爐大香爐內栽。	數對明燭兩邊排。	各位祖爺臨堂座。	幫中弟子下跪來。
二爐傳香到運台。	師祖一見喜心懷。	腳踏祥雲把山下。	衆家弟子迎祖來。
三爐大香瑞氣飄。	安甯赫赫振雲霄。	跟隨祖師人的站。	五湖四海把名標。
五湖四海把名揚。	謹送師柩回家堂。	臨濟宗派續念四。	敬送王祖一爐香。
家裏義氣喜揚揚。	雙膝跪跪在香堂。	護法小祖門外站。	弟子送上一爐香。
清香一爐透九天。	小祖牌位供傍邊。	莫怪弟子不義氣。	此是祖傳在外面。
雙手接香往外行。	護法弟子把祖迎。	小祖座在山門迎。	收入法師講道情。
香烟繚繞透上蒼。	五子抱頭插中央。	皈依弟子須緊記。	翁錢無有此爐香。
手捧大香重如山。	五枝包頭插中間。	惠明山下得的道。	謹留糧船太平船。

一炷信香透九霄。

青峯嶺下學道高。

皇王駕前靈光現。

杭州家廟樂逍遙。

佛楔西地法東流。

前人世畀後人收。

前人收人心歡喜。

後人收人在後頭。

英雄豪傑立兩傍。

三老三少趕香堂。

我請小祖門外站。

弟子今日上錢糧。

(四) 五枝包頭香 (香五枝。均用紅紙包頭。五枝，按敬求學吃怕五字。)

(一) 敬的。天地君親師。(二) 求的。福祿壽財喜(本係四季平安福)。因五字不能分五項。恐後來錯誤。故改此五字)。(三) 學的。仁義禮智信。(四) 吃的。金木水火土。(五) 怕的。生老病生苦。

。(按生非人所怕。係佛家惡生之說。放生亦在怕列。)以上(敬求學喫怕)五字爲古制。以後改爲「敬戒行禮師」五字。云是謂改良之說。茲將五字分而言之。(一)敬天地君親師。(二)戒奸盜邪淫殺。(三)行仁義禮智信。(四)禮佛法廣路途。(五)師萬姓歸一宗。此五字。未能盡善。藉中仍以前

說傳世。五枝包頭香詞「五枝包頭插中間。祖爺傳留五句言。金丹舍利同仁義。釋儒道教萬萬年。」

(又詞)「五枝包頭插中央。家內美名天下揚。衆家祖師蓮台座。義氣不遜安青幫。」

(又詞)「五枝包頭香五根。敬天敬地敬雙親。今天香堂把戒受。三帮九代爲根本。」

(又詞)「五枝包頭當中插。香烟霧霧如蓮花。紅花綠葉白蓮藕。三教原來是一家。」

(又詞)「敬天敬地保吉祥。食王水土敬君王。父母堂前應敬孝。拜師敬親禮所當。」

(又詞)「求福求祿命裏該。延年益壽修得來。人逢喜事精神爽。君子求道不求財。」

〔又詞〕「學仁學義舉綱常。」

學禮學智逞豪強。

與朋友交要學信。

修此學道理相當。

〔又詞〕「金木皆在五行中。」

世上無火穀不生。

天地無水難生命。

萬物皆在土中生。

〔又詞〕「一怕生來二怕老。」

人若病時添煩惱。

天下誰人死不怕。

世間惟有苦難熬。

（五）各種請祖歌詞

〔一〕請達摩始祖詞。『達摩一渡渡江村。佛法西來東土興。我請始祖香烟受。開法領衆代代興。』

〔二〕請神光二祖詞。『神光二祖降香堂。香烟繚繞達西方。幫中老少皆叩拜。子子孫孫大吉昌。』

〔三〕請僧璨三祖詞。『僧璨三祖降凡塵。大發慈悲度衆生。全堂弟子皆叩拜。普門開放萬萬春。』

〔四〕請道信四祖詞。『道信四祖降凡塵。保佑鄉中永太平。今天齋戒虔誠拜。佛光普照億萬春。』

〔五〕請弘忍五祖詞。『弘忍五祖離東山。祥雲瑞氣滿香堂。今天皈依皆安善。替祖傳法代代昌。』

〔六〕請慧能六祖詞。『慧能六祖降香堂。代髮修行萬古傳。清門老少多義氣。子子孫孫福壽長。』

〔七〕請懷讓祖師詞。『懷讓祖師臨濟宗。闡門佛法度英雄。我今請祖香堂座。普門開放收子孫。』

〔七〕請金祖詞。『碧海梧桐起鳳毛。祖師開道在明朝。清門始祖誰不曉。子子孫孫代代高。』

〔九〕請羅祖詞。『羅祖本是傳道仙。生於明朝嘉靖年。赴服回王功勞大。萬代千秋受香烟。』

〔十〕請陸祖詞。『陸祖本是得道尊。紅字江口歸佛門。講經說法天花墜。翁錢潘祖才拜門。』

〔十一〕請翁祖詞。『翁祖爲國苦奔波。求師訪友到杭州。與幫承運立基礎。安肯忠義傳千秋。』

- (十二) 贈錢祖詞。「錢祖學富五車書。三友同師開運河。功成身退朝山去。哪王廟內拜彌陀」。
- (十三) 請潘祖詞。「潘祖立志基業創。開法領衆興精幫。子子孫孫抱義氣。代代人大吉昌」。
- (十四) 請小祖詞。「小祖本是護法尊。隨師侍奉甚殷勤。千秋萬代受香烟。每逢香堂門外站」。
- (十五) 請王降祖詞。「南北運河賴米幫。誰人不知王得降。自從楓林承先業。領幫行運美名傳」。
- (十六) 請潘降祖詞。「開口拜師本姓潘。徒承師志立朝房。跟隨老祖真勞苦。萬代千秋受膠香」。
- (十七) 請天地君親師詞。天文地理道無邊。三皇治世君在先。孝敬雙親爲第一。師傅教訓恩如天。

(六) 各種送祖歌詞

- (一) 送天地君親師詞。「乾坤無私人民歡。父母恩德重如山。爲徒敬師孝義講。敬人人敬有循環。全堂老少都叩拜。焚化牌位大吉祥。下次開香再行請。世代永傳大地香」。
- (二) 送達摩始祖詞。「送祖回西方。聖影永無疆。老少皆吉慶。帶福回家鄉」。
- (三) 送神光二祖詞。「神光祖師佛法高。梁王皈依樂逍遙。我今送祖西天去。幫中老少樂陶陶」。
- (四) 送僧瓊三祖詞。「僧瓊祖師道德高。苦海度人不辭勞。我今送祖西方去。幫中老少永逍遙」。
- (五) 送道信四祖詞。「我送道信祖。佛駕回天竺。清門子孫昌。忠義傳千古」。
- (五) 送弘忍五祖詞。「弘忍祖師回黃梅。佛號傳留增光輝。今天香堂開智慧。老少帶福把家回」。
- (六) 送慧能六祖詞。「我送六祖回西方。從此不用衣鉢傳。三幫九代爲憑證。普門開放子孫昌」。

- (七) 送懷讓祖師詞。「懷讓祖師駕回山。幫中老少喜非常。祖德靈光高萬丈。臨濟宗派萬古傳」。
- (八) 送金祖詞。「滿堂香燭瑞氣生。金祖昔年受皇封。五台山上立宗派。師徒相傳代代興」。
- (九) 送羅祖詞。「一元復始佛在西。大法東土度世迷。羅祖傳下定國計。以教濟國把家齊」。
- (十) 送陸祖詞。「道元祖師根基深。師徒相訪有六春。修真悟道棲霞地。送祖回山子孫興」。
- (十一) 送翁祖詞。「一張黃表化香堂。奉送翁祖回仙山。今天香堂多吉慶。下次請祖再焚香」。
- (十二) 送錢祖詞。「一張黃元四四方。奉送錢祖回仙山。今天香堂多吉利。安齊子弟世代昌」。
- (十三) 送潘祖詞。「一張黃表焚當陽。奉送潘祖回浙杭。三老四少都叩拜。同心協力興家邦」。
- (十四) 送小祖詞。「小祖本是一散仙。修行得道陝甘間。大發慈悲來保護。送祖回山受香煙」。
- (十五) 送王降祖詞。「我送王降祖。立刻離東土。駕雲西方去。忠義傳千古」。
- (十六) 送蕭降祖詞。「我送蕭祖回仙山。幫中老少喜非常。下次領人再請煉。世代子孫永馨香」。
- (十七) 總請祖詞。「弟子請祖跪塵埃。三老四少兩邊排。衆位祖師雲端站。我把祖師迎進來」。
- (十八) 總懸祖詞。「阿彌陀佛善門開。金銀財寶玉樓台。珍珠瑪瑙結寶蓋。祖師牌位懸起來」。
- (十九) 總送祖詞。「弟子送祖跪平川。衆位祖師起雲端。羅祖回歸紫雲洞。陸祖駕返五台山。翁錢潘祖回家鄉。小祖護駕回浙江。王降祖師也回去。黃表焚化送祖完」。
- (二十) 討慈悲詞。「陀到九江支起桅。八面威風把蓬催。前人在此我不問。師父去後又問誰」。

(七) 各種歌詞雜錄

- (一) 請達摩詞。『遙望金陵下三參。迎請始祖降香堂。棉幫子弟多興旺。義重如山世代傳』。
- (二) 願達摩詞。『阿彌陀佛法門開。紅毡鋪地走金階。黃金白玉香香貴。道義相傳千萬載』。
- (三) 迎達摩詞。『雙膝跪塵埃。焚香朝五台。祖師度北海。臨壇把道開』。
- (四) 請金祖詞。『風送香烟五台山。金祖蒲團正參禪。玄機一動凡塵染。脚踏祥雲到香堂』。
- (五) 送金祖詞。『阿彌陀佛善門開。金銀財寶墊金階。珍珠瑪瑙結寶蓋。我送祖師上五台』。
- (六) 願金祖詞。『阿彌陀佛佛門開。金銀財寶鋪金階。珍珠瑪瑙珊瑚樹。弟子把祖題起來』。
- (七) 迎羅祖詞。『一支信香到五台。迎接羅祖下山來。領道弟子把幫進。萬朵蓮花地遍開』。
- (八) 願羅祖詞。『羅祖修道五台山。大明朝中把道傳。說退番兵數百萬。收伏陵祖在江邊』。
- (九) 送羅祖詞。『羅祖本是開道尊。一盞渡過紅江村。棲霞山前成大道。普渡後世萬萬春』。
- (十) 請羅祖詞。『阿彌陀佛法門開。金銀鋪地步希台。淨清祖師蓮台座。萬朵金蓮遍地開』。
- (十一) 請陸祖詞。『香烟透入棲霞山。明末清初把國安。說退回回兵百萬。脚踏蘆葦渡過江』。
- (十二) 迎陸祖詞。『阿彌陀佛山門開。金銀如土鋪瑤階。說退番兵民感動。踏蘆渡江返蓮台』。
- (十三) 願陸祖詞。『陸祖虔心來求戒。蘆芽穿膝雪血山。師徒美名流千古。永世相傳安青幫』。
- (十四) 送陸祖詞。『陸祖本來傳道尊。紅字江口入佛門。五台山上修真道。翁錢潘祖降臨門』。

- (十五) 迎翁祖詞。「阿彌陀佛善門外。紅毡鋪地走金階。黃金白玉香燭資。我迎翁祖上蓮台」。
- (十六) 懸翁祖詞。「雙手舉起一爐香。香烟杳杳透佛光。信士弟子來受戒。終身不忘安青幫」。
- (十七) 送翁祖詞。「佛生西域往東天。恭請翁祖至堂前。安青祇有一條路。進幫容易出幫難」。
- (十八) 懸錢祖詞。「祖爺靈光臨神壇。跪獻清香求平安。但願同幫皆吉慶。香烟不斷子孫昌」。
- (十九) 迎錢祖詞。「迎請錢祖張公橋。劉氏庵前波浪搖。天庾正供收弟子。勝似羣仙赴蟠桃」。
- (二十) 請潘祖詞。「手捧信香上香堂。先敬佛祖後下參。三家老少均到此。恭請祖爺受香烟」。
- (二十一) 迎潘祖詞。「眼望甯州青龍山。迎拜潘祖黃氏庵。三家祖爺正中座。老少一起把祖參」。
- (二十二) 懸潘祖詞。「一支長香跪堂前。我祖堂上受香烟。九支大香都點過。五枝包頭在中間」。
- (二十三) 送潘祖詞。「師弟子送祖回杭州。武林門外把道修。三位祖爺端走。常請常送永傳留」。
- (二十四) 迎三家祖師詞。「遠望杭州青龍山。海水不住波浪翻。三家祖師蓮台座。弟子請祖把禮參」。
- (二十五) 懸三家祖師詞。「三家共議善門開。金銀財寶入樓台。珍珠瑪瑙遮寶蓋。我把祖師懸起來」。
- (二十六) 迎王降祖詞。「異姓堂中把道修。寶華山前度春秋。風送香烟早知道。腳踏祥雲離杭州」。
- (二十七) 迎蕭隆祖詞。「香烟杳杳透九天。蕭隆師祖下高山。聞知今日收弟子。來到香堂受香烟」。
- (二十八) 請家法詞。「祖師靈光坐蓮台。弟子請法跪塵埃。用手接過法一根。雙手捧在頭頂心」(又詞)
- (二十九) 頭頂家法。身披袈裟。站立壇前。替祖代法。命令一下。不敢不打。從此以後。毋再犯法」。

(八) 達摩集(見清門考源初版)

- (一)「離開西域到凡間。梁王立志結佛緣。吾今破衣台城進。道看誰識妙中文」。
- (二)「一街二巷許多人。未見葫蘆祇見聲。誰人指透玄中義。勝過焚香拜廟門」。
- (三)「福壽二字有來因。善根才遇老胡僧。摸頂受授一百歲。爾可不見十閻君」。
- (四)「皇覺寺內許多僧。那個假來那個真。如能現出真面目。必是西方羅漢身」。
- (五)紅與白來一般同。念佛看經什麼功。寬袍大袖汝恭敬。破衣衲襖不相逢。佛法平等無高下。都是混元一氣生。識得西來真妙意。諸佛神聖一體同。

- (六)「此山九九八一灣。一灣無緣難上山。其人要往灣中去。脫却前山入後山」。
- (七)「進一步來退一步。八卦乾坤腳踏住。雖人能知生死苦。急還尋我淨土路」。
- (八)「你問真經我問心。真經那箇比真心。真經讀破有何用。那及真心到佛塵」。
- (九)「二人說話衆人聽。休笑西來黑臉僧。佛法若將容貌比。釋迦何必拜燃燈」。
- (十)佛境真經本屬無。全憑覺悟用功夫。不看經典不恭禪。也無廟產也無田。饑餐渴飲皆隨便。到處隨臥心安然。

- (十一)達磨一生懶參禪。平時吃飯午時眠。你今問我我問你。月缺月圓到那天。達摩自幼在佛門。禪機押挑卸乾坤。若問我年許多歲。資河共有九回清。捏不成團推不開。吾從極樂到苦海。祇因東土

無宗派。惹得老僧帶法來。

- (十二)「八卦爐中妙法玄。區區斤鐵何足言。若不入爐七七煉。難逃劫運入黃泉」。
- (十三)「盤古出世樹棄披。軒轅才製皮外皮。超凡成佛設何用。破納何必用假底」。
- (十四)「希奇希奇真希奇。神光今天太無理。東土如無明白者。肩担鐮杖又往西」。
- (十五)「梁王雖然有善根。無奈魔高成見深。百般點化終無用。以待後人傳前人」。
- (十六)「達摩西來路遠遙。江洋深處釣金鰲。連上二鉤皆無效。枉自徒勞走一朝」。
- (十七)「東往西來不用舟。腳踏蘆柴水上游。世人問我因何故。華渡江村聖跡留」。
- (十八)「我不去來你不留。志僧無有度人舟。河乾水淺鉤難下。此處無魚別處求」。
- (十九)「吾茲來東土。妙法將人度。一花生五鬚。佛法傳千古」。

第十一章 清門法規

(一) 十大幫規解說

(一)不准欺師滅祖 所謂欺師者。一切行爲言語是有不利於前人。而有反抗的行爲。滅祖者。乃是不遵幫規。倒行逆施。或則否認是幫中弟子。忘却入幫時的情形。這許多不規則行爲。均是欺師滅祖。按幫規處治。應縛在鐵鏈上。用火燒死。輕則用香板責打。或驅逐出幫。此後幫中。不論何人。均不准再行收之。如查出何人收了開革的人爲徒弟。按幫規連引進人一樣的受處分。如不遵行。以叛幫

論罪。必致悔改而後已。

(二)不准藐視前人

所謂藐視前人者。凡在幫弟子。不論本幫的外幫的。凡是幫中前人長輩。都要恭敬孝順。不得以富貴之限。藐視貧困的前人。幫中格言云。「窮安青。富道情」。只有狀元學生。毋有狀元先生。不論是王侯或是乞丐。都要一律看待。尤其對本命師。格外要服從要恭順。如不遵守幫規。輕則警誡。重則香堂責罰。或斥革之。

(三)不准爬灰倒籠

所謂爬灰者。乃將自己人祕密的言辭或行爲。潛行告訴別的人。或是共同做一件事。不守信義。個人圖功謀利。以致涉訟。這就是爬灰倒籠的行爲。諸如此類者很多比例。總之。凡在幫的人。不難粉犯此條。如有犯者。按幫規。要燒死在鐵錘之上。

(四)不准奸盜邪淫

所謂奸盜邪淫者。凡在社會的人都該避。絕對不能做的。何況在幫的人。是講仁義道德的呢。况這四個字。都是有殺身之禍。聖人云。「萬惡淫爲首。百善孝爲先。」不獨不能有奸盜邪淫這種行爲。連這種萬惡意思都不可起。方不愧是在幫修道的人。如犯了這四個字之一。不但是要受國法懲治。佛法亦不容之。幫中查出當縛在鐵錘上燒死。或是活埋在土中。絕無姑惜寬貸。

(五)不准江湖亂道

所謂江湖亂道者。是不分長幼。尊卑。而講話毫不知序。一味橫蠻好勝。以小稱大。以卑稱尊。凡事略爲糊塗。不遵幫規。不顧信義。這種人。與幫中名義大有關係。如查出有這樣人。應由引進人。負責。拘到香堂。用家法嚴加責罰。以警下次。再犯者斥革出幫。如仍在

外間名招搖。必致處火燒活埋之刑。

(六)不准引法代跳

所謂引法代跳者。是已在幫中有了地位的。因後來發達。而嫌所占字派小。或是前人無顯明聲望。或因不喜於前人行爲而求人另行介紹有聲望有勢力者。再去孝祖。這種行爲。不獨欺師滅祖。簡直搗亂幫規。應由引進人負責。而第二次之引進人。亦同犯欺師滅祖之罪。按幫規應重重斥革併通知各幫。不准將這種人再收入幫。如有故意收者。當以叛幫論罪。(昔日孝祖須戒口三年。所以云。師訪徒三年。徒訪師三年。不想現今。一見就可做師徒了。且孝祖時。香堂中。慈悲三幫九代。就是在幫憑證。按三幫。乃本命師傅道師引進師三人之三幫幫頭。與三人的三代。共爲九代。祖師爺傳留。並不准三師同幫。故隔幫調衛。方可作傳道引進)。

(七)不准擾亂幫規

所謂擾亂幫規者。是不遵幫規行事。不受前人教訓。不聽幫中長輩指教。一意孤行獨施。將香堂中所慈悲的五字。(另詳後章)拋棄不顧。故昔日祖師爲整理幫規留下家法。如有違犯。用香板責打。後來乾隆欽賜一對盤龍棍。上寫欽賜兩字。下面批明。『違犯幫規。打死無論。』從此後人懲治幫中子弟。即先立香堂請祖。再請家法。即用棍責。而香板從此不用。嗣後改訂章程。輕則香板責。重則用棍打。

(八)不准以卑爲尊

所謂以卑爲尊者。乃以小冒大也。名曰爬樁子(詳後)或另行投師孝祖。以謀字派高大。不顧倫常。不守信義。幫中最忌此事。如查出。立即處治。併通知各幫。共同懲治。

昔日祖師與帝時云。「字大人不大。字小人不小。」凡在幫者。是講信義。絕對不可忘恩負義。字大何用。如不講仁義。空空字大。如能以仁義道德處世。字派再小也有人恭敬。俗云。「幫出於藍勝於藍」。何必要字大呢。況自大是個臭字。

(九)不准開開放水

所謂開開放水者。是祇顧自己的便利。不顧衆人性命。俗云。「祇要羊卵子。不顧羊性命」。是也。自知劈竹。不知傷筍。這種自私自利的事。不是在幫的人應做的。凡在幫的人。要以天下爲公。博愛衆衆。以公德心做事。如有因私利而開開放水。淹沒了大衆田地家產。按幫規處治。必撓死鐵錘之上。或活埋土中。重則斥革。永遠不准再入幫中。

(十)不准欺軟凌弱

所謂欺軟凌弱者。乃恃強壓迫欺弱也。大爲幫中規則之不許。按祖師傳道宗旨。應救濟孤寡殘廢。扶持弱小貧困。才是道義。凡在幫的人。絕對不准以威臨人。以勢欺人。以力壓人。應抱有英雄豪傑之心扶持正義救濟貧苦扶弱制強方是丈夫。如若不遵規則。濫用勢力。爭強鬥勝。即是犯了幫規。按法懲治。輕則斥革。重則土埋火燒。

(按以上十大幫規。凡幫人各應遵守。古云。德者本也。財者末也。總宜以道義行事。可持久遠。否則果報循環立時而至。敢不慎乎)。

(一一)十禁解說

(一禁)一徒不准拜二師

古人有云投名師。訪高友。爲在未進幫前。須要師徒互相訪明

。否則悔之晚矣。蓋師徒恩情最重。務要敬尊。不可輕視。再者爲徒。亦非輕易事。遺註云。『一字入清門。九牛拉不出』。若拜二師。是汝自取其咎。世人未見有二位父母者。如若不然。則犯欺師滅祖。有擾亂幫規之罪。詩曰『師生情義重如山。去此就彼非奇男。忠臣何肯保二主。自古反叛無收場。』

（二禁）父子不准同一師 夫安青之幫規。最忌父子投拜一師。至親者莫如父子。拜一師卽是同參兄弟。有亂人倫。祖師有鑑於此。特立幫規。十大禁止。以免紊亂字派。否則有擾亂幫規之罪。詩曰『至親莫如父子情。若拜一師卽弟兄。祖師昔日幫規定。不教後世亂人倫』。

（三禁）師死不准再拜師 既入安青。必須謹守幫規。師徒如同父子之情。師過方。不准再投他師。理應繼其宗脈。如若棄舊另投他人門下。猶如父死。另投他人名下爲子。此爲不孝之子。否則爾師。香烟斷絕。宗脈無續。其罪難容。並犯欺師滅祖之罪。詩曰『師徒如同父子情。道義徒應繼師宗。棄故若投別門下。宗脈斷絕罪非輕。』

（四禁）關山門不准重開 夫關山門者。是因已收子弟太多不願再收弟子。公開將山門關閉。坐享清福。從此不能再收徒。祇可讓徒弟收弟子。接續香烟。而傳其宗脈。師如若再收弟子。其後人豈能敬重。關山門既通知三老四少。如若復開山門。實爲自卑。失却尊嚴。否則。師徒互生疑忌。可不戒之哉。詩曰『香高徒衆關善門。不准復開再收人。復再開門收弟子。慘遭焉得敬師尊。』

（五禁）徒不收不准師收 夫安青之道。最重綱常倫理。故立幫規。十禁十要十條者。無非

勸諭後人。改惡向善。舉正道。抬高人格。不能做出非理亂倫諸事。徒弟不收。不准師傅收者。是免去師徒交惡。況不肯收者當有緣因。如做師者收了徒弟的弟子。即是亂倫。自討其賤。或是一脈亂傳。有壞幫規。致干衆怒。倘被查出。趕出香堂。永不許再進幫。詩曰。『弟子既不收此人。師父若收爲亂倫。混亂次序幫規壞。趕出香堂休進門。』

（六禁）兄弟字派有高低 證兄弟者同胞手足之分。如兄徒弟師於理不合。按俗而論。人倫已亂。若安青而言。爲之欺師滅祖。按家裏幫規。絕不能容此敗類存在。凡我三老四少。慎之慎之。詩曰『兄弟本是手足情。同參即是合正宗。弟若爲師兄做徒。安青幫規實難容。』

（七禁）本幫與本幫引道 夫家裏規矩。是祖師傳留最重者。是以三幫九代爲在幫的憑證。（三幫九代解證詳前）如若本幫的人替本幫做引進或傳道。那就無有三幫九代分別了。所以本幫傳道引進三人。非隔幫調衛不可。現在幫意義。是廣結交購仁義底。今天你爲我做引進傳道。明天我替你做引進傳道。久之。感情日深。勢力擴大。豈不美哉。否則單幫行運了。能不禁乎。詩曰『家規本是滿祖留。三幫九代傳千秋。彼此互相引進道。安青義氣萬古留。』

（八禁）師過方代師收徒 安青最忌是師傳過方多年。弟子代師收徒。如徒代師收徒。有失在幫體面。且新進幫者受不到教訓。而臉上亦無光彩。簡直有私買安青大罪。理宜糾正。而在墓前孝祖。及立牌位孝祖。皆在例禁犯者就是欺師滅祖與違前孝祖（詳後）則不同。幫中老少統宜糾正幸甚。詩

曰。「師傳過方既仙游。弟子何能代師收。三教傳流皆一理，飛昇焉能教訓徒。」

（九禁）在道不准誹謗道

安青是佛教闡宗臨濟派之一支派。爲代襲修行。方便法門。古云。道不破道。僧不罵僧。何能自復修道人格。幫中理應禁止誹謗任何道門。以及罵道罵僧。誹謗諸仙諸佛諸菩薩。而對外道如同教。耶穌教。天主教等等均不准誹謗。才是我清門大雅大量。「臨濟宗派非等閑。佛家豈可罵人神。毀謗本教與外道。查出斥革不徇情。」

（十禁）香頭低不准爬高

遺註云。字大人不大。字小人不小。就是說明在幫不在香頭高低。要有真正道德仁義。走到天邊海外都有人恭敬。如若因字派高低。爬香（詳後）自高。就有欺師滅祖。出賣幫規的大罪。所以爬香頭是幫中嚴禁的。希諸戒之。詩曰「香頭雖高人不高。香頭雖低人不低。在幫原是講仁義。爬香自高無臉皮。」

（三）十戒解說

（一戒）萬惡淫亂

萬惡淫爲首。百善孝爲先。凡真求道者。以戒淫。爲入手之基礎。何況。淫亂無度。既干國法。又犯幫規。故爲十戒之首。宜戒之。詩曰「自古萬惡淫爲首。凡事百善孝爲先。淫亂無度干國法。幫中十戒淫居前」

（二戒）截路行兇

凡我幫中之人。多屬英雄豪傑。慷慨好義之士。應濟人之急。救人之危。是義氣所鍾。而執杖打劫。殺人取財。則爲幫中所禁。詩曰「幫中雖多英雄將。慷慨好義性本善。濟人之

急救人危。打劫殺人非好漢。」

（三戒）偷盜財物

蓋偷盜財物。最爲下賤之行爲。上辱祖先之德。下遺子孫之羞。幫中青年宜多讀進賢之書。但是英俊之士。亦不乏人。要知安齊道德君子。萬不留此敗類。而遺醜史。詩曰「最下之人竊盜偷。上辱祖先下遺羞。幫中俱是英俊士。焉能容此敗類徒。」

（四戒）邪言咒語

蓋邪言是邪而不正之言。咒語者是精神上受人打擊或已遭冤受累以致咒人洩憤。要知多屬品行不端之列。故宜戒之。詩曰「四戒邪言並咒語。邪而不正豈利已。精神降殃洩已憤。咒已明冤皆不許。」

（五戒）訟棍害人

蓋調詞架訟是費時耗財。多有傾家敗產者。累及子孫。無所衣食。喪心敗德。莫甚於茲。故爲十戒之要。詩曰「調詞架訟耗財多。敗產傾家受折磨。喪心之人莫甚此。報應昭彰實難姑。」

（六戒）毒藥害生

凡得他人資財。而欲替人害人身死。要思草木昆虫。仁人者猶不忍傷。凡我幫中老幼豈能暗施害人毒計。傷天害理此爲甚焉。宜戒之戒之。詩曰「得人資財願人忘。毒藥暗殺昧天良。昆虫草木猶可惜。此等之人難進幫。」

（七戒）假正欺人

凡君子記恩。而不記仇。俗語云。仇宜解。不宜結。許多人云。既把將軍做。便把令來行。假公濟私。要想害其素所嫉恨者。謂之假公欺人。詩曰「君子記恩不記仇。假公濟私無

概由。勸人積德行善事。假公欺人臭名留」

（八戒）聚衆欺寡 安貧不分遠和近。進了清門是一家。不獨對於在家者言之。就是普通的平民。亦不得持黨。欺壓良善孤寡。詩曰「休倚安清幫中人。持我之衆欺平民。倚衆欺寡君須戒。欺壓良善臭名存」。

（九戒）倚大欺小 蓋欺者關也。安貧道義。是老者安之。小者懷之。長於我者恭而敬之。幼於我者友而愛之。不許以其幼小智識不及於我。即施欺騙。大失爲長者之義。詩曰「安貧道義最爲純。少者安之長者尊。欺騙幼小失祖義。少者焉能敬長尊」。

（十戒）烟酒罵人 蓋烟酒最易亂人之性。誤人之事。惟一亂性。容易失口亂言，任意，漫罵。所以家裏。莫不禁止烟酒。鑑於酒後之滋事。是非層出不窮。故列於十戒之末。終宜減免爲要。詩曰「烟酒最易亂精神。容易失口漫罵人。家體亦宜禁烟酒。十戒之末要謹遵」。

（四）十要解說

（一要）孝順父母 蓋人生一世。惟父母之恩情。實難報答。自幼父母養育。費盡心機。倘若不孝。人倫何在。古聖云。（家有父母在。何必遠燒香。人能行孝順。衆神必佑護。）又云。百善孝當先。孝敬父母。是人子者之要務也。凡古聖先賢。均以孝悌爲先。若人孝敬父母。萬古流芳。故十要謹遵。以孝敬父母爲首。詩曰「父母養育恩難言。骨肉情義重如山。自幼教育非容易。孝敬雙親禮當先」。

（二要）熱心做事

凡一切世事。須熱心。不能退縮。如鄰居鄉黨。以及同道人等。各種公益事項。必須誠心辦理。不避一切。均要以義氣。聯合久遠。自三祖留傳大道。是以仁義禮智信。爲宗旨。何況其他。勿論何時。皆要熱心從事。詩曰「凡事公益要熱心。家裏義氣須常存。三祖傳留安智道。仁義禮智信要行」。

（三要）尊敬長上

蓋長上理宜尊敬。故安青之道。首要尊師敬祖。孝順父母亦然。師有教訓之責。父母有養育之恩。不能不尊敬。夫師徒，在五倫之內。其理甚爲明顯。詩曰「崇師敬祖求鑒親。師傳教訓要謹遵。長幼有序人欽敬。當報尊長教育恩」。

（四要）兄寬弟忍

蓋兄弟手足之情也。然吾道之同參。亦如同胞兄弟。凡事，須兄有寬宏大量。爲弟者須忍耐方妙。上恭下敬。還註云。和睦同參。是安青之根本切要。義氣相合。按俗家兄弟。本是同胞手足。更要恭敬。故書云。兄則友。弟則恭。兄弟友愛。名垂千古。如桃園三結義。而吾三位祖師昔日結盟。爲異姓兄弟。才造下千載不朽基業。何況吾輩同參弟兄有手足之親乎。詩曰「凡我同參爲弟兄。友愛當效手足情。寬忍和睦真銘訓。安青義氣美名存」。

（五要）夫婦和順

古云。夫正婦賢。又曰。妻賢子孝。以上爲家庭之幸福也。凡夫婦。須要和順。遇事互相商議。夫唱婦隨。夫若不正。婦宜解勸。夫婦和順。家庭快樂。爲人第一幸福也。詩曰「夫婦之間要和順。夫唱婦隨實堪欽。夫賢子孝家庭樂。富貴榮華萬萬春」。

（六要）和睦鄉里

夫鄉里。爲人衣包之地。必須要聯絡。俗云。近鄰鄉中寶。遇事有相助。與人方便即是自己方便。凡有不平之事。均以鄉里證之。是白自分。不受小人之擾亂耳。詩曰「和睦鄉黨勝遠親。近鄰老幼須同心。長存義氣善聯絡。凡事不受小人侵」。

（七要）交友有信

交友有信。是對於友誼上要有信實之心。異姓兄弟。猶如骨肉之親。義氣常存。不得朝秦暮楚。互相毀謗。凡事均以義字爲重。夫吾道之宗旨。卽以義氣爲根本。然則亦爲借道交友。蓋信者。卽是忠誠信實。不妄言者爲信也。詩曰「交友以信意要純。誠實義氣却長存。安青遺註須牢記。周遊十方不受侵」。

（八要）正心修身

正心者卽自心除去惡念。而廣積功德之事。要有一心無愧。謝聖云。（無愧心。無愧神。若是欺心。便是欺神。凡事皆以心爲基本。修身者。是言養性命。須保守吾道。則平心作事。遵守祖師遺訓。正其心而修其身。古賢云。壽則常思已過。閒談莫論人非。詩曰「正心常常思已過。修身積善即成佛。陰鷲善事要奉行。放生濟貧惡莫作」。

（九要）時行方便

昔祖師傳留安青之道。首講仁義。以方便爲本。與人方便自己方便。蓋方便二字。用度最廣。遇事忍耐容讓。凡公益之事均要時時施行與人方便。詩曰「三祖傳流安青道。時行方便爲緊要。義氣千秋傳萬古。吃虧容讓無窮妙」。

（十要）濟老憐貧

蓋安青之道。專講。幫。助。婚。濟。老。憐。貧。救。困。扶。危。無論在安青。

或不能安甯者。遇有三災八難。必須竭力相助。夫吾道，三老四少。皆要發慈悲之心。普濟衆難。廣結善緣。以流芳千古。詩曰「老弱飢寒與貧苦，孤獨鰥寡身無主。濟老憐貧功德重。轉生來世必報補」。

(五) 傳道十條

(一) 遵法律 法律是有形的制止諸惡。重在懲戒奸盜邪淫殺人擄掠等類。道德是無形的制止諸惡。重在感化一切。聖云。「法律根據原道德。野蠻性質寓文明。」道德是法律根本。法律是道德保障。要知遵守法律。卽是尊重道德。凡我幫中老少。不可輕視法網。戒之勉之。幸甚福甚。

(二) 孝雙親 人於初生之時。父母頗費苦心。在嬰孩時代三年乳哺。朝夕提抱洗滌縫紉。耗盡精神。長大之時。諸師教讀。成人之後。學業垂親。費盡萬種心機。花費許多金錢。方能教子成人。爲子弟者。須要刻刻孝敬。方能稍報養育之恩。倘若不孝父母。天理難容。定難發達。所以孝上爲人生最要之事也。

(三) 敬神明

天地神明祇文武二聖。歷代祖師。每逢聖誕之期。以及初一十五。各大聖誕。須要虔誠恭敬。焚香頂禮。至於孔聖爲萬世儒宗。須當尊敬。凡士農工商。諸色人等。興家發達。若無孔聖文字禮儀。開通智慧。何能功成名就。所以每逢春秋二祭。尤加要尊敬也。

(四) 習正道

人生在世。各事要循規蹈矩。習學正道。以爲成德君子。切不可自甘輕薄。爲人所不齒。

(五)保身體

古人云。身體髮膚。受之父母。不可毀傷。無論何刑何法。不能沾染到身。倘身體有傷。如美玉生瑕。無可寶貴。所以要保身體也。

(六)善改過

人生在世。難免無過。但要知道過必改。人生自己之過。自己不知。如有嚴師益友指教。須要立時改過。保全名節。

(七)立品行

凡人品行要端莊。衣服要整齊。帽子戴正。行走要規矩。免人謾誚指爲下流。

(八)慎言語

凡與朋友交際。往來言語要和平。不可狂妄妄語。不可說長道短。不可妄談人過。免得取怨招禍。

(九)務正業

人生在世。三十六業。各有一業。務須研究本業。精益求精。不可荒廢。更不可遊手好閒。爲失業之遊民。

(十)戒嗜好

爲人在世。除飲食衣服。爲日用不可少。其餘如烟酒等物。最傷腦筋。宜少吸爲妙。至於嫖賭。是損財傷身之事。切宜戒之。

(六) 家法緣起

糧幫。在翁錢潘三位祖師領導期間。雖訂有家法刑杖。然因三位祖爺教導有方。家法已就等於廢物一樣。自石小祖違犯幫規在杭肇禍潛逃之後。乃訂家法十條。並以香板爲刑杖。藉之保障幫規。趙王降祖繼統糧幫時。乾隆帝南巡。在金山寺皈依佛門後。化裝潛至杭州。往家廟及糧幫公所參觀。見王降祖辦理

清運。雖然井井有條。惟幫中子弟太盛。難免滋事。除傳諭嘉獎之外。並欽賜盤龍棍一條。上寫「違犯幫規，打死無罪，」八個字。以爲幫中鎮山法寶。從此凡遇重大事故。卽依法請棍責罪。云云。

(七) 家法制度

家法有二。一曰香板。又名黃板。爲翁錢潘三位祖爺所置。樟木質。長二尺四寸。(按一年二十四節氣)寬四寸。(按一年四季)厚五分。(按五方)長方形。上端有一圓洞。(按天圓地方)貫穿繩一棍。常掛於佛堂香案右端。板上一直寫「護法」。一面寫「違犯家規，打死不論，」一曰盤龍棍。又名家法。真木質。爲乾隆帝所欽賜。長有三尺六寸。(按三十六天罡之數)上扁下圓。厚二寸二分。(按仙支十二屬像)繪盤龍一條。龍口內。有「欽賜」兩字。上寫「護法盤龍棍，」五字。背面、上寫「違犯幫規，打死不論。」並註明「上諭時在乾隆卅年季春。」供奉佛堂香案左端。

(八) 家法施用儀式

蓋施用家法。乃有不得已之事時。出此一舉。以息爭端。故限制嚴密。以防濫用之弊。其法。先由本師。會同渠之傳道，引進，兩師。或幫中著名之前人幾位。併傳到本門中弟子若干人。開設香堂。(如同收弟子的香堂一樣。)將家法。(或板，或棍，)供置香案。俟上香，上燭，請祖，參祖，儀註完畢之後。由渠之本師主香(幫中名宿主香亦可)傳犯規弟子進前。參祖。卽命跪在香案前。詢問事由。或令渠之對耗。進前質之。俟情節大白。本師卽請護法師，執法師。或渠之傳道師，引進師等。議處應得之

罪名。專向犯者。詢問是否口服心服。必俟承認後。乃請家法。由執法師。向家法。行三叩九拜禮。將家法棍。頂在頭上誦詞。曰：「家法森嚴鬼神驚。乾絲欽賜棍一根。汝既犯規當責打。下次再犯火燒身。」念畢。即派人執刑。（以其輩或平輩爲限）執刑人進前參拜。跪接家法。頂在頭上。立起站於左上首。並派執堂者二人。站於犯幫規者之左右。又派護法者二人。站在執刑人，左右。以資護法。乃由執法師。吩咐犯規者。向祖下三參。跪叩宣佈罪狀。完畢即命爬臥紅毯以上。雙腿交叉並緊。執堂二人揪住下身。護法二人揪住上身。由執法師傳示。責打幾十家法。執刑人，即向犯規者。曰。我與你，一無仇。二無怨。今天你犯了祖師爺的幫規。我奉執法師命令。責打你幾十盤龍棍。一要你心服。二要你情願。（候犯規者答應心服情願。）執刑人誦詞。曰。「法師堂上犯令行。手執家法不容情。誰人如犯幫規犯。不論老少照樣行。」念畢。即舉棍責之。待打畢。又誦詞。曰。「祖傳幫規十大條。越理反教法不饒。今天香堂遭警戒。若再擄擄上鐵鏈。」念完。將家法送交執法師，轉陳主香者置於原處。此時犯規者。爬起。向祖三叩謝罪。後用二執堂者。扶至堂下休息。主香者即行送祖禮。以完法辦手續。

（按幫中用家法辦人。均以長輩資格來辦晚輩。而執法執刑的人。亦皆長輩。最低限制平輩。絕對不能用。比犯規者字派小的人。因爲在體制上。小不能責大。但是。長輩如犯幫規。又如何處置。以法紀重尊嚴說。王子犯法。與民同罪。當應有所處治。而幫中俗語曰。「孫子有理服太公。」又曰「字大人不大。字小人不小。」況且。幫規乃祖師規訂。而人人又有一師。豈可欺師滅祖。任

呵！長輩倒行逆施，來壓迫晚輩嗎？在時代上說，是不能的。那應以小犯上。藐視前人啊。又是不能的。著者管見，祇有請幾位。賢明中正的前人，很和平與之理論。務使其覺悟。悔過改善而後已。設至不可理論。而長者所犯幫規太重。世人共說是。其罪實難容姑，祇用神秘的手段。可將其活埋。以免貽羞人世。是否應當。如此處治。統希鑒及法治精神的定義。幸甚。再者。還有在香堂中求情一種。及香堂中和解息爭一種。均屬善意美舉。凡主香者。執法者。或雙方當事者。均當儘量的誠意接受。方不失安寧義氣。犯者有自新之路。當不會有羞惱成怒的結仇到底。而旁觀者。必歌頌仁讓謙退之德。世間絕無認仁義者爲怯弱無能之人。塞山大士云。「莫看他眼前富貴。驕抗，邪淫，強暴，搶劫，侵占，奸誘，奢侈，殘忍，惡毒，辣手，小刁，自私，自利，害人，狂暴，誣騙，這許多的得意。你要看他的將來。粉身，碎骨，暴死，破家，流亡，火焚，雷擊，絕嗣，慘死，妻逃，女遁，子孫滅亡的結果如何。日期，亦在眼前。」勸善篇云。「善惡到底有報應。來早來遲終有底。千計萬算難業立。循環一到肉化泥。功名富貴那帶去。美妾給人當玩妻。還有子孫不爭氣。代償父債苦淒淒。惟有忠義是寶貴。孝子賢孫福壽齊。要學仁義禮智信。不愧在幫飯過依。人死名留如關帝。聖壽無疆與天齊。」

(九) 家法十條

(一) 初次，犯了幫規者。輕則聲斥。重則得請家法處治。如再犯時，用定香在臂上，燒「鬼見」二字

，斥革。如犯叛逆罪者。捆在鐵鏈上燒死。

（二）初次忤逆變親者。輕則鞭斥。重則得請家法處治。如再犯時。用定香在胸前燒「不孝」二字。斥革。如犯逆倫罪者。捆在鐵鏈上燒死。

（三）初次，不遵師訓。妄言妄行者。輕則鞭斥。重者得請家法責打。如再犯時。用定香在臂上。燒「頑民」二字。斥革之。

（四）初次不敬長上者。輕則鞭斥，重則得請家法處治。如再犯時。用定香在臂上燒「不敬」二字。斥革之。

（五）初次，以長上資格侵占籍中老少所有財產物件者。輕則鞭斥。重者得用家法處治。如再犯之用定香在臂上燒「強奪」二字。斥革之。

（六）初次，毆打籍中老少者。輕則鞭斥。重則得請家法處治。如再犯時用定香在臂上燒「強暴」二字。斥革之。

（七）初次，做違國法所禁之不道德事者。輕則鞭斥。重則得請家法處治。如再犯重大罪時。用定香，在臂上，燒「誘民」二字。斥革之。

（八）初次，誹謗仙，佛，菩薩以及一切宗教者。輕則鞭斥。重則得請家法處治。如再犯時。用定香在臂上燒「妄為」二字。斥革之。

(九)初次，不務正業，專事敲詐，逞凶鬥毆，不受規勸者。輕則聲斥，重則得請家法處治。如再犯時，用定香在臂上，燒「無義」二字，斥革之。

(十)初次，犯奸盜邪淫，而偽造，虛構，誣栽，殃及幫中老少者。輕則聲斥，重則得請家法處治。如再犯時，用定香在臂上，燒「無恥」二字，斥革之。

「按以上十條。乃請用家法之標準。惟第四五六三條。如不認識。則不爲罪。其第七九兩條。有觸國法。第三八兩條。道遠攸難。幫中縱不懲辦者。豈能逃出法網。俗云。「常在水上走。難保不失脚。」幫中老少。有則速改。不愧丈夫。無則加勉，才是君子。」

第十一章 家廟傳錄

家廟中房屋。前後大小共計九十九間半。(無半不成間)大門高五尺八寸。(按五行八方)寬三尺六寸。(按三十六天罡)門檻高七寸二分。(按天下七十二個碼頭)門簾。至門檻。上下六尺三寸一分。按三山六水一分田)頭門外。石獅子一對。計重十萬八千斤(按十萬八千嘍囉鬼)大門外。左有青松綠柳。右有天竺海棠。前門大殿十三間。(按天下十三省)四面青磚牆。皆石根脚。屋上簷魚鱗瓦。中間大殿二十二間。(按清代天下二十二省)上用漢式磚瓦蓋造。下用白礬石鋪地。欄杆雕刻各種花草。樹木。山水。飛禽。走獸之紋。製法頗爲精細。八角天井。四面整齊。後面大殿十五間。用紅木造成。雕樑畫柱。頗爲雅觀。祖師堂九間。畫樑粉壁紗窗。十分清潔。上供三尊大佛。中列歷代祖師牌位。後有

大會議廳一間。普通客堂四間。裝璜格外幽雅。天井沿石上。擺列四時盆花。另有茅舍香堂五間。飯堂五間。戒堂五間。藏經樓五間。宿舍五間。灶堂五間半。共數九十九間半。

(一) 各殿門匾對聯

(一) 頭門匾額乾隆御賜「安清門」三字。(按此匾。傳說乾隆孝祖時。所欽賜)。原名(安靜門)。(二) 大門橫匾「阿彌陀佛」。(二) 大門對聯「禪門深似海。佛法廣無邊」。後又更換聯句「日月鉤天轉。山河隨地安」。後王降祖改大門橫匾曰「與佛同修」。後又改謂「義信堂」三字。近代又改「萬象同春」四字。又添門上對聯。「一氣千秋。百年萬象」。(三) 乾隆御筆欽題二門匾「天庾正供」。又對聯曰「荷花不離青梗放。三姓皆是藕中生」。二門橫匾「極樂世界」。後又改匾曰「正大光明」。後改聯句曰「紅花白藕齊荷葉。三教原來是一家」。(四) 乾隆御筆寫三門橫匾「異姓堂」。對句「君恩臣應報。父業子當傳」。三門橫匾「我佛如來」。對句「父子丈夫出入歸海川地上。君臣聖賢左右在堯舜天中」。又三門橫匾「通德門」。(廣足鎮太平鎗匙)對曰「長幼尊卑莫忘五個字。親疏遠近都是一家人」。五個字者。(按係仁義禮智信。即清門學說。敬求學吃怕五字之義也)。(五) 四門橫匾。「薛卡之門」。左右對句「九曲三灣灣哪王廟。千層萬頂頂佛爺宮」。後改橫匾「真是福地」。又改聯句曰「佛法無邊慈壽爲本。靈光在上福庇均沾」。(六) 正殿外抱柱上對句「澄澤長流思其源飲其水。恩波廣被過者化存者神」。(七) 正殿內抱柱對句「珊瑚瑪瑙現寶蓋。明月清風見道心」。(八)

祖殿橫匾「無憂無恨」。對聯「安靜原是清淨體。逍遙自在樂神仙」。(九)祖殿抱柱聯句「安肯不分
遠和近。一祖傳留到如今」。(十)祖殿掛屏「阿彌陀佛法門開。滿地黃金到玉台。傳道教爾歸正道。
務須心口兩相偕」。(十一)禪房門對句「自古清門同一派。至今祖庵共三堂」。(十二)關帝殿橫匾
「忠義傳心」。對聯「九伐威名震夏政。千秋正統懷晉王」。(十三)龍王殿橫匾「四海應酬」。對聯
「宗臣遺像肅清高在地成形在天成象。山川出雲作霖雨有仙則名有龍則靈」。(十四)金龍四大王殿橫
匾「江河靈神」。對聯「志節慕睢陽憂國讀者尙記金龍山在。英靈同伍相飛駕輓輿正須白馬潮來」。(十五)風神殿橫匾「風威顯赫」。對聯「作雨成霖都成清景。阜財解恨更諧虞琴」。(十六)雷祖殿橫
匾「畏威祇懼」。對聯「雷霆雨露無非教。戒慎恐懼所不聞」。(十七)三寶殿橫匾「寶座尊嚴」。對
「法身常現寶塔品。空界似聞曼珠香」。(十八)老君殿橫匾「紫氣東來」。對聯「百丈金身開翠壁。
五聯文字闔瑤緘」。(十九)倉門(家廟旁有辛祖糧倉一所)。門上對句「其穀宜稻既堅既好。自天降
康乃積乃有」。(二十)大殿鐵香爐上刻四個字「三姓同宗」。第五進藏經樓。樓藏定國天書五部。石
匣天書一部。以及各種經典。歷代祖爺遺像。家譜。暨家廟碑序。均於咸豐十年。兵燹燬失。後由歷代
前人。陸續追憶記錄。所以各家傳說不同。卽是此故。

(二) 家廟香爐分量

頭一座香爐。計重七十二斤。(按週天七十二地煞)。第二座香爐。計重三十六斤。(按三十六天罡)

• 第三座香爐。計重二十八斤。(按二十八宿)。又有香爐一座。係江西官窖白磁。計重十三斤五兩四錢。(按內地十三省五湖四海)。傍邊有燭台一付。計重九斤八兩四錢。(按九洲八方四面)。大殿之天井內。有寶鼎鐵爐一座。計重八百斤。(按八百里長江)。祖師爺諷經香爐一座。是一根檀香木雕成。上刻四個。「金佛銀漢」。

(三) 燭台分量

第一付燭台。計重二十四斤。(按一年二十四節氣)。第二付燭台。計重十二斤。(按一年十二個月。又按一晝夜。十二個時辰)。第三付燭台。計重九斤。(按九曜星宿)。又有燭筒一把。二斤八兩。(按南北二京八省調兌)。

(四) 家廟內用物器具數目分量

廟內藏有草鞋一雙。計重二斤十三兩五錢四分。(按南北二京十三省五湖四海)。香堂門檻。九步到蒲團。(按九叩首)。蒲團計共九個。(按禹貢九州)。每個計重九斤。共計八十一斤。每個蒲團。用蒲草一百二十八根半做成。半根蒲草收頭。(按的糧船一百二十八兩半)。

(五) 家譜 (上冊)

字派	姓名	道號	法字	籍	貫籍	名	備	註
清	金	純	碧峯	清源	應天府麒麟門外金家堡	俗字雲岫尊謂悟道禪師		

淨淨淨道德德德

林山陳寶清陸遠翁岩錢堅潘清

淨修 福建連江移居金陵
淨覺 廣西桂林縣南浦水
淨清 甘肅渭源縣羅家莊
道元 原籍廣東移住鎮江
德惠 江蘇常熟
德正 江蘇武進
德林 浙江杭州

翁佑堂八大子弟

俗字宜林尊謂萬繼禪師
俗字松聲尊謂萬空禪師
俗字愛泉尊謂萬壽禪師
俗字方逸尊謂道行禪師
俗字佑謙尊謂進修禪師
俗字保興尊謂進覺禪師
俗字世安尊謂進壽禪師

文文文文文文文文

潘如虎黃鶴司馬秋匡宜朱小金趙成斌于鵬喬長清

雲山 文道 浙江杭州武林門外
雲祥 文匯 安徽合肥
清泉 文光 湖北漢陽
志誠 文良 湖南長沙
文英 江西南昌
文輝 安徽正陽關
文裕 安徽鳳陽
文憲 四川成都

錢保堂二十八弟子

玉華 文德 四川成都紅砂崗

幫中文牘後入道督幕 開山門弟子
糧船切幫富家 頂山門弟子
全 上 關山門弟子
全 上 閉山門弟子
全 上 護法弟子
全 上 全 上 全 上

開山門弟子

文 文

樂有年 洪月山 馮龍翔 姜玉培 孔 謙 吳小成 王玉德 王興隆 程三禧 葛馬西 張繼賢 水澤澄 沙 龍 何再東 海月波 門玉泉 閻長有 郝成龍 華清

鼎
門
考
源

子康 岫雲 四保 成警 王明

文 文

安徽懷遠 江蘇江甯 山東兗州 河南懷慶 山東兗州 湖北武昌 安徽臨淮關 皖北宿州 山東東昌 湖南岳州 浙江紹興 山東臨城 陝西長安 安徽合肥 江蘇徐州 江西南昌 安徽鳳陽 江蘇徐州 安徽正陽關

賴
幫
當
家
全
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

一
八
七

頂山門弟子 關山門弟子 關山門弟子 譚法弟子 同
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

文 文 文 文 文 文 文 文 文

趙軍 白南文 金元軍 張鴻濱 李占標 裴永年 牛步千 姚月誠

天興

文志

江蘇江浦

全上

同上

白南文

文錦

山東東平

全上

同上

金元軍

文燭

安徽臨淮關

全上

同上

張鴻濱

文林

山西汾州

全上

同上

李占標

文彬

直隸靜海

全上

同上

裴永年

文昌

安徽巢縣

全上

同上

牛步千

文鶴

山東臨清

全上

同上

姚月誠

文田

湖南長沙

全上

同上

三 潘安堂 三十六大弟子

文

王伊

降祥 德隆

文宜

浙江杭州西門外

糧稱領幫總當家

關山門弟子

文

蕭隆山

玉德

文祥

山東東昌府聊城鼓樓街糧幫當家

關山門弟子

文

趙廣林

文誠

浙江南潯

全上

頂山門弟子

文

車尙武

文謙

直隸通州

全上

閉山門弟子

文

姚發

文銓

浙江杭州

全上

守座弟子

文

石士寶

文傑

台灣遷居杭州城內

全上

護法弟子

文

黃潤生

文雄

江蘇丹徒

全上

全上

文

劉玉誠

文俊

山東青州

全上

全上

文

宿慶祥

文訓

皖北清州

糧幫當家

全上

女 文

王良魁 化文龍 穆四奇 閻月芝 黃彬 許三全 龍有泉 沙振三 彭愛賓 李文年 張霸 匡玉泉 喬月成 王育山 李友 袁振海 牛頤 蕭作南 岳捷三

清
門
考
源

士
光

文朝	文龍	文堂	文仙	文鈺	文瑞	文漢	文高	文璽	文年	文藻	文琴	文璧	文強	文悅	文標	文善	文海	文江
直隸靜海	江西九江	山東臨清	安徽臨淮關	江蘇銅山	山東濟甯	安徽巢縣	江蘇江甯	山東登州	江蘇銅山	山東泰安	浙江嘉善	山東東平	山東東昌	山東武城	山東濟南	山東武城半莊	浙江紹興	河南南陽

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

一
八
九

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上

成 成 成

馮永泰
石 鉅
丁樹清

成康 山東兗州
成德 浙江紹興
成章 浙江湖州

同 上
同 上
同 上

同 上
同 上
同 上

成

東方世明

振山

成忠

湖北漢陽

同 上

開山門弟子

成

華元章

成仁

直隸東光

同 上

開山門弟子

成

李文

玉書

成義

湖北漢陽

同 上

開山門弟子

成

岳振南

子賢

成信

河南鄆城

同 上

開山門弟子

成

沙雲峯

成體

直隸天津

同 上

開山門弟子

成

張一珍

成孝

山東臨清

同 上

護法弟子

成

程世合

成廉

江蘇浦縣

同 上

同 上

成

蕭少山

子強

成毅

山東聊城

同 上

開山門弟子

成

趙 翊

雲山

成英

浙江南潯

同 上

開山門弟子

成

朱 能

少泉

成剛

江蘇桃源現改泗陽

同 上

開山門弟子

成

李翊江

澤武

成志

直隸通州爛婁子莊

同 上

開山門弟子

以上是王降祖之四大弟子。餘均未詳

成

王 均

子祥

成傑

浙江杭州

同 上

開山門弟子

清門考源

七 蕭隆祖共收弟子三千六百五十一人

成 成 成

清門考源

一九二

花逢雨 俊霖 成芳 江蘇海州
 阮如先 逸三 成南 山東沂州
 黃海 湧泉 成浩 浙江紹興

以上是蕭隆祖之四大弟子餘者未詳

頂山門弟子
 彌山門弟子
 閉山門弟子

(六) 乾隆進帮之三帮九代

代三師本

幫前鎮

師太	師爺	師傅
成	佛	法
王均	悟道	碧蓮
子祥	佛獻	法敬
成毅		
浙江杭州	湖北武昌	四川成都
粮帮領帮當家	杭州靈隱寺方丈	鎮江金山寺方丈
	俗姓陸名隆	俗姓嚴名凱

代三道傳

六武興

師太	師爺	師傅
成	佛	法
花逢雨	馬騰	陳有泉
俊霖		
江蘇海州	山東東昌	直隸通州
粮帮領帮當家	船行當家	船行當家

代三進引

酒淮江

師太	師爺	師傅
成	佛	法
李渭江	修原	禪修
澤武	佛軒	法廣
直隸通州	四川仁和	山東兗州
粮帮領帮當家	雲游四海	金山寺住持
	俗姓龔名三金	俗姓聞名山

(七)家譜(下冊)(計十四代凡無考據者不錄)

字派	姓名	字	號	籍	貫	幫名	職業
佛	悟道	佛猷(俗名陸隆)		湖北武昌		杭州靈隱寺方丈	
佛	修原	佛軒(俗名龍三全)		四川仁和		雲遊僧人	
佛	馬驥			山東東昌		綢緞當家	
佛	姚大鵬			山東東昌府聊城縣		江淮四領幫當家	
佛	劉鐵珊	半截寶塔人稱劉三爺		山東東平州		江淮五領幫當家	
佛	蔣榮	慶祥		瀋陽小北關		老堂船領幫當家	
佛	王春	石人膀子		山東東昌府聊城縣		老堂船領幫當家	
佛	洪振邦			湖南岳州		老堂腰船當家	
佛	洪振海			湖南岳州		廬州幫領幫當家	
佛	佟信仔			直隸通州環南鄉		鉛山所領幫當家	
佛	翁玉欽			山東濟南府		濟前領幫當家	
佛	萬馬元章			未詳		東平領幫當家	
佛	馬合義			陝西長安		蘭山半幫領幫當家	
法	蕭二成			浙江杭州		江淮衛領幫當家	
法	郝長春			江蘇銅山		江淮二領幫當家	
法	張雲山			浙江紹興		江淮三領幫當家	
法	黃世杰			浙江杭州		江淮三頭船領幫當家	
法	張岳			山東臨清		江淮三腰船領幫當家	

法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

秦三世 何文章 諸葛謙 白獻龍 于玉春 沈合成 于占鑒 化元龍 郭成玉 王元章 何元 万馬變成 朱金科 馬德 張友和 王會甲 鍾世保 王德泉 李彥林 毛文譜

置文

(別稱火叉棍)

浙江紹興	江蘇銅山	河北順德府	山東兗州府	安徽南宿州	江蘇揚州江都縣	山東濟寧州	浙江嘉興	江蘇徐州銅山縣	浙江杭州西門內	江蘇丹陽縣	江蘇清江	山東曹州府	直隸倉州	直隸清河	山東武定海豐縣	浙江紹興府	山東東平州	直隸青縣李家營	山東兗州府
江淮六領幫當家	江淮八領幫當家	江淮九領幫當家	興武衛領幫當家	興武二領幫當家	興武四領幫當家	興武五領幫當家	興武六領幫當家	興武九領幫當家	北 漕領幫當家	鎮前幫領幫當家	淮安頭領幫當家	揚州頭領幫當家	揚州三領幫當家	嘉興衛領幫當家	嘉白幫領幫當家	腰 船領幫當家	香火船當家	嘉海衛領幫當家	杭三幫領幫當家

法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

楊月勝 曾玉文 王潤章 陳露泉 岑石 翁松濤 馬玉翔 牛大化 張隱漁 黃月亭 方占秋 黃武杰 何鵬 洪奎 洪俊 張天成 姜毓冲 謝瓊雲 胡玉章 張源

清
門
考
源

直隸清河 江蘇海州 浙江杭州西門內 直隸武清縣 河南汝寧府 江蘇蘇州 安徽南宿州 山東濟南武城縣牛莊 籍貫未詳 江蘇江甯 江蘇銅山縣南關外 山東濟寧州 陝西西安 湖南岳州 湖南岳州 安徽巢縣 江西南昌 湖北孝感 湖北新堤 山東東平州

香伙船當家 紹前幫領幫當家 杭海衛領幫當家 湖白頭領幫當家 處前幫領幫當家 溫後幫領幫當家 金衢衛領幫當家 圖山所領幫當家 福山所領幫當家 崑山衛領幫當家 陽城衛領幫當家 江淮衛領幫當家 腰船領幫當家 後半所領幫當家 蘆府頭領幫當家 蘆州三領幫當家 宣州衛領幫當家 建陽衛領幫當家 興安衛領幫當家 頭船領幫當家

法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法 法

車雲冲 魯秋山 王宣 范雲升 賂世增 楊見萌 寶元江 林 茲 蕭均合 黃玉農 嚴 秋 岳德俊 王海泉 趙 友 洪連山 潘澤源 熊世通 丈白光 崔玉章

明仇

直隸天津紫芽 河南信陽州 直隸大名府十字街 山東東昌府 安徽正陽關 直隸河間府 山東曹州李家窩 安徽潁州 山京臨清州 山東臨清州 湖南岳州 河南鞏縣 江蘇徐州沛縣 直隸青縣盤古村 湖南長沙龍家堤 江西南昌 安徽懷遠縣 安徽臨關 直隸河間府

腰 船領幫當家 九州前領幫當家 頭 船領幫當家 九州後領幫當家 安福所領幫當家 撫州所領幫當家 永建所領幫當家 濟 右領幫當家 臨 前領幫當家 汝寧前如汝衛領幫當家 江前幫領幫當家 揚州二領幫當家 海鹽衛領幫當家 台後幫領幫當家 丹陽所領幫當家 後半所領幫當家 池州幫領幫當家 泗州前領幫當家 南南二領幫當家

于允德 祁斌 余德洪 金根生 修遠 牛元盛 范風熙 邱林 寇大元 江志 史小元 薛水林 薛方林 洪振江 黨振海 仁齋 張文霖 岳文生 程斌

(俗姓鮑名干)

清門考源

江蘇徐州豐縣	湖北正陽衛領幫當家
江西	頭船當家
直隸保定定安	腰船當家
江蘇常州	香火船當家
直隸焦河	德州二領幫當家
山東濟南武城八里屯	淮寧所領幫當家
直隸保定高陽縣	後半所領幫當家
江蘇揚州府	江淮七領幫當家
江蘇徐州沛縣	興武三領幫當家
江蘇常熟	興武十領幫當家
山東臨清州	興武八領幫當家
山東東昌聊城縣	蘇州前領幫當家
山東東昌聊城縣	南漕領幫當家
江蘇蘇州齊門洪家浜	蘇州後領幫當家
山東武城	鎮後幫領幫當家
江蘇揚州	香火船當家
江蘇江陰	淮安二領幫當家
河南黃山	淮安三領幫當家
山東臨清州	江後幫領幫當家

仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁

華 豐 李 金 山 郭 潤 朱 元 光 魏 青 稱 玉 泉 薛 華 林 門 瑞 雲 李 大 海 司 馬 林 岳 芳 尙 金 增 黃 如 龍 張 月 林 孔 祥 麟 王 可 斌 蘭 三 保 黑 龍 鎮 史 燕 岐

直隸正定府	腿 船當家
浙江嘉興州	香火船當家
浙江湖州	後半所領幫當家
江蘇淮安府	香火船當家
籍貫未詳	腰 船當家
浙江紹興府	海寧衛領幫當家
山東東昌聊城縣	朝 北領幫當家
山東濟南武城縣	紹後幫領幫當家
山東登州福山縣	湖白二領幫當家
江西	湖白三領幫當家
直隸東光縣	處後幫領幫當家
山東曹州府	台前幫領幫當家
江蘇丹陽縣	溧前幫領幫當家
山東臨清州	寧波前領幫當家
山東兗州府	寧波後領幫當家
江蘇無錫王家木橋	常州前領幫當家
山東臨縣	靖江所領幫當家
陝西	武進所領幫當家
江蘇徐州府	無錫所領幫當家

仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁

刁景川 李德賢 范雲亭 李樂三 仇子臣 何玉錦 張三喜 水 源 潘佐賢 饒玉文 章阿成 龍在泉 李又權 李源泉 龔三全 樂雲翔 于鴻賓 左 闕 彭金舟

滑 門 考 游

山東濟南城內 直隸天津楊柳青家後 山東登州 山東臨淄州 河南榮陽縣 河南開封府 山東曹州府 山東兗州府 江西南昌 安徽寧州 江西九江 江蘇淮安高郵 安徽安豐縣 山東日照 安徽滁州 直隸大名府 安徽蕪湖 河南開封 江蘇宿州

蕪山所領幫當家 虞山所領幫當家 常州後領幫當家 廬山衙領幫當家 常熟衙領幫當家 常陰衙領幫當家 太倉衙領幫當家 瀏河衙領幫當家 雙州衙領幫當家 上 水領幫當家 下 水領幫當家 蘆州二領幫當家 下 水領幫當家 下 水領幫當家 蕪平前領幫當家 蕪平後領幫當家 蕪大衙領幫當家 滁州前領幫當家 滁州後領幫當家

仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁仁

莫靈濤 李天熊 蘇全增 商元峯 阮樂林 宇文明盛 吳維江 裴澤三 朱海翔 劉古村 周廷德 許相三 何樹清 周成淵 張澤東 王恩榮 李元春 唐 羣 劉振海

江蘇徐州 江西九江 湖北武昌南湖 江西漢州 江蘇蘇州盤門外 湖北黃陂縣 山西汾陽 山東青州府 湖北黃陂 直隸武清縣魚口村 安徽鳳陽府 安徽六安 江蘇徐州郝集 山東濟寧府 浙江興波 山東兗州魚台 河南鞏縣 河南汝寧唐寨 湖北孝感縣

泗州後領幫當家 湖南頭領幫當家 湖北頭武昌衛領幫當家 湖北二河陽衛領幫當家 零火船領幫當家 象州衛領幫當家 贛州衛領幫當家 腰 船領幫當家 饒州所領幫當家 腰 船當家 吉安所領幫當家 廣信所領幫當家 南昌衛領幫當家 濟 後領幫當家 濟 左領幫當家 東昌領幫當家 汝寧後固始衛領幫當家 安山衛領幫當家 光州衛領幫當家

仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 仁 智 智 智 智 智 智 慧 慧 慧 本

尹樹魁 海文澄 呂金興 強林 強深 強風 強魁 石耀明 魏樞謨 方振莊 彭萬興 高世昌 陶仲明 黃河 王正紀 冉文元 冷天祿 孫秉鈞 朱晏春

清門考源

智惟 黃大天爺 清門教教主 八卦教頭目 八卦教頭目 慈本 別號千斤鉗

山東武定府 直隸天津縣芳鎮 河南滎陽縣城南呂嶺 直隸天津倉州 直隸天津倉州 直隸天津倉州 直隸天津倉州 直隸天津北倉 直隸天津靜海縣 浙江杭州 江西龍虎山沙崗 直隸東光縣 原山東移居河南滑縣 河南汝寧 山東滑縣 四川重慶 安徽壽州 山東濟南歷城 江蘇揚州

沈邱所領幫當家 商水所領幫當家 息縣所領幫當家 桐船蘆包頭幫領幫當家 桐船蘆包二幫領幫當家 桐船蘆包三幫領幫當家 桐船蘆包四幫領幫當家 西河漕領幫當家 前牛所領幫當家 湖南三領幫當家 南後所領幫當家 德州頭領幫當家 經前幫領幫當家 江浦泗領幫當家 濟前幫弟子民族英雄 濟右幫弟子反清義士 正陽衛弟子反清健將 濟前幫領幫當家 江淮泗領幫當家

本

胡秉輝

清

河南開封

嘉白領幫當家

本

朱毛俚

（明室後裔）

江西南昌

興武六弟子民族英雄

來

方榮升

湖北黃陂

興武四弟子民族英雄

來

鍾繼

山東濟南

嘉興衛弟子民族英雄

來

宿再興

皖北宿州

雙鳳幫弟子民族英雄

自

性空

（常州天寧寺方丈）

江蘇上元

鎮前幫弟子民族英雄

自

洪泰鈞

廣西桂林

杭海幫弟子民族英雄

自

蘇蘭奇

回回教徒

甘肅渭源

蘭山半幫弟子民族英雄

自

胡文耀

清水會首領

福建廈門

台前幫弟子民族英雄

性

張宗禹

別號小閻王

皖北潁州

鎮前幫弟子民族英雄

性

賈復

再興

山東濟寧

杭三幫領幫當家

性

胡耀從

光漢

福建閩侯

濟前幫弟子（清水會會長）

圓

劉殿彬

江蘇揚州江都縣

（江淮泗）

領船

圓

黃瑞生

安徽六安州西門內

（江淮泗）

耕讀

圓

趙仁祥

江蘇淮安山陽縣

（嘉白）

腰船當家

圓

蔡文舉

江蘇揚州甘泉縣

（興武四）

領船

圓

馮德功

原籍安徽移居江蘇松江

（興武六）

領船

圓

秋紹華

浙江紹興

（嘉海衛）

領船

「以上白蠟字派王正紀舉義失敗後清門（根米幫）奉諭解組即第一次停運時在太平軍興咸豐元年」

圓 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 行 行 行 行 行 明 明 明 明 明 明 明

趙含德 張振升 高玉林 賈雲澤 郝占魁 鄧龍標 魯士瀾 魯景賢 秦公 戴玉芝 戴玉清 古 鴻 黃守法 趙會武 劉振標 李春和 劉松亭 紹運 楊 成

寬亮 乙衡 戴二光棍 錫鈞 金鎗劉標 同玉

清 門 考 源

江蘇淮安清河縣 江蘇揚州城內 江蘇金陵城內 安徽壽州東門內 江蘇淮安 河南歸德 山東兗州滕縣魯家寨 山東兗州歸縣 山東汶上縣 直隸玉和縣油坊鎮 山東兗州泗水縣戴家納房 江蘇淮安清河縣 原籍江蘇鎮江移居山東濟寧 江蘇鎮江城內 江蘇甘泉縣荷花池 浙江杭州北關 江蘇睢寧縣移居揚州荷花塘 江蘇南京城內 江蘇淮安高郵邵伯鎮

(杭 三) (江淮酒) (江淮酒) (江淮酒) (江淮酒) (嘉 白) (嘉 白) (興武四) (興武四) (興武四) (興武四) (興武六) (嘉海衛) (嘉海衛) (杭 三) (江淮酒) (江淮酒) (郵碼頭) (江淮酒) (江淮酒)

領船 領船 領船 學界 領船 領船 前清進士 政界 政界 領船 領船 米行 領船 香火船當家 領船 領船 船業 前清四品都司

[illegible]

理	明秀	江蘇徐州羅祖廟僧人	(嘉海衛)	住持
理	李太	安徽合肥縣	(嘉海衛)	領船
理	鄭長發	江蘇銅山縣禮房	(嘉海衛)	長課
理	張茂林	浙江紹興府城東十里陳家崗	(嘉海衛)	商界
理	胡傳序	江蘇省人	(嘉海衛)	船行
理	孔紀泰	南京城內	(嘉海衛)	船行
理	李通清	山東省人	(嘉海衛)	商界
理	王虎山	安徽亳州移居上海	(嘉海衛)	船行
理	馬鳳山	山東魚台縣移居嶧縣黃連莊	(杭三)	理門公所領
理	張萬起	山東嶧縣合兒莊	(杭三)	領船
理	鄭宗恩	江蘇清河縣北關路西鄰昇德行	(杭三)	領船
理	李燭賢	江蘇沛縣城內姚家灣西李家營	(寧波後)	領船
理	嚴有富	山東滕縣人移居江蘇吳淞	(鎮前)	領船
理	周寶榮	山東濟南人移居揚州	(湖州頭)	領船
理	袁清彥	江蘇沛縣城東姚家灣西袁家巷	(雙鳳)	領船

(以上十代祖爺姓名籍貫均見安親系統錄。及清譜經選。清代逸史。)

(按以上自清字派。至成字派止。爲家譜上冊。其佛法能仁智慧本來自性圓明行十四代字派。編爲家譜下冊而大通無學四字。至覺字編爲近代家裏知聞錄。(詳後))

(八) 祖師生誕紀念表 家譜下冊

金祖諱純字碧峯道號清源明嘉靖帝冊封金光佛祖 爲清門第一代祖師(八月十五星誕)

林祖諱山道號淨修 爲清門第二代第一位祖師無傳(四月十二日生誕)

陳祖諱震道號淨寬 爲清門第二代第二位祖師無傳(二月初一日生誕)

羅祖諱清道號淨清 爲清門第二代第三位祖師清康熙冊封一清禪師(三月初三日生誕)

陸祖諱遠道號道元 爲清門第三代祖師清康熙冊封開元真人(五月初五日生誕)

翁祖諱岩字福亭又名進修道號德惠 爲清門第四代第一位祖師(五月二十八日生誕。八月十三日得道)

錢祖諱堅字福齋又名進覺道號德正 爲清門第四代第二位祖師(七月十三日生誕。八月十三日得道)

潘祖諱清字福軒又名進海道號德林 爲清門第四代第三位祖師(九月二十日生誕。十一月十三日得道)

(九) 十二庵堂師紀念表

潘如彪 號青山。法字文道。浙江杭州人。(翁佑堂開山門弟子)。七月十三日 誕生。(三月初三日得道)。(黃氏庵)

丹秀 號玉華。法字文德。四川成都人。(錢保堂開山門弟子)。九月初九日 誕生。(正月十日得道)。(劉氏庵)

王伊 號德降。法字文宣。浙江杭州人。(潘安堂開山門弟子)。十二月初八 誕生。(十月初十日得道)。(朱氏庵)

司馬秋

號清泉。法字文光。湖北漢陽人。(翁佑堂關山門弟子)十一月十五日誕生。(八月十六日得道)。(石氏庵)

洪月山

號岫雲。法字文清。江蘇金陵人。(錢保堂關山門弟子)九月二十日誕生。(四月初九日得道)。(文氏庵)

趙廣林

法字文誠。浙江吳興南潯人。(潘安堂關山門弟子)正月十三日誕生。(十二月十五日得道)。(韓氏庵)

蕭隆山

號玉德。法字文祥。山東東昌人。(潘安堂頂山門弟子)四月初四日誕生。(六月十九日得道)。(楊氏庵)

匡宣

號志誠。法字文良。湖南長沙人。(翁佑堂閉山門弟子)三月初四日誕生。(六月二十日得道)。(戚氏庵)

黃鶴

號雲祥。法字文匯。安徽合肥人。(翁佑堂頂山門弟子)十月初一日誕生。(十二月二十四日得道)。(呂氏庵)

姜玉培

號四賢。法字文講。河南懷慶人。(錢保堂頂山門弟子)正月初八日誕生。(五月十三日得道)。(岳氏庵)

樂有年

號子康。法字文華。安徽懷遠人。(錢保堂閉山門弟子)五月初一日誕生。(七月二十九日得道)。(史氏庵)

車尙武

法字文謙。直隸通州人。(潘安堂閉山門弟子)七月初七日誕生。(二月二十一日得道)。(鄭氏庵)

備一以上十二庵堂師。皆三家祖爺之高足。後人每逢各師之誕生得道兩日。均須沐浴齋戒。虔心舉行祀典。傳云十二庵名。均藏有恩想民族意義。

(十) 家譜前二十四字派增註 (此是陸祖傳述)

清	佛	本	行
清心 乘正	佛日 出世	本來 面目	行止 端正
淨	法	來	理
淨土 法門	法輪 常轉	來去 光明	理通 天地
道	能	自	大
道之 以德	能屈 能伸	自由 意志	大千 世界
德	仁	性	通
德者 爲本	仁懷 爲懷	性堅 柔和	通功 易無
文	智	圓	無
文思 廣義	智圓 行方	圓通 自如	無卑 無抗
成	慧	明	學
成人 之美	慧心 慧目	明明 于德	學聖 學賢

「查以上二十四字。爲明代禪門臨濟派北京西山錫頭禪師所演派。事見宗教律諸家演派等書。近聞南北諸家通抄。以及各埠幫中老少。口述筆誌。均多悞以能字字爲(倫)字。性字爲(信)字。圓字爲(元)字。行字爲(興)字。理字爲(禮字)。無字爲(悟)字。學字爲(覺)字。刊載舊本。殊屬不當。設再以悞傳悞。難免引起外人誹謗。茲特根據經典逐一糾正。以符先賢仿用錫頭禪師所演字派之旨。是

(十一) 家譜後二十四字派增註 (此是王降祖續撰)

萬	象	販	依	戒	律
萬家 生佛	萬象 更新	販依 三寶	依依 於仁	戒犯 五戒	律例 律宗
傳	寶	化	度	心	回
傳子 傳賢	寶維 忠孝	化色 五禽	度量 轄達	心性 和平	回頭 是岸

臨 臨濟宗派

持 持志於恆

廣 廣結廣交

泰 泰山石堂

普 普濟衆生

門 門可羅雀

開 開宗明義

放 放生戒殺

光 光復山河

照 照及萬方

乾 乾元爲首

坤 坤德載物

第十三章 幫中雜誌

(一) 天庾正供

天庾正供者。迺清廷雍正三年。振興漕運之定名也。凡翁錢潘三家所領糧船。悉皆是天庾正供之船隻。是年七月七日。新船下水。旋即開幫行運。統受漕督指揮。計船九千九百九十九隻半。劃成一百二十八幫牛幫。三家分領。各收徒衆。由此子孫興盛。道傳千古不休。此之謂天庾正供者也。幫中有一歌曰。『千枝萬葉一根生。異姓結成骨肉親。若敝安肯分遠近。三家豈有遺兒孫。』

(二) 旱碼頭孝祖

山東運河台兒莊至陳莊一段。無法開濬。茲因潮來砂至。潮退而淤。水淺河寬。上行之船不易。計水程八十三里。置有水閘八座。而北上糧船又是重載。駛至此境。縱遇順風。亦不迅速。爲之借重繙工之力。方能上行無阻。否則。到韓難定期矣。因此各船均用繙工。船上人又不敷用。不得不臨時雇用繙工。始由附近農人。僉事背牽。久之成例。收入工資不惡。由之各處閑散農人。候到繙船入魯之日。卽蜂擁齊集。來作繙工。因之時起爭奪。互相關毆。後由幫中規訂辦法。始有旱碼頭孝祖之例。繼而車夫驢夫

。以及與米業有關之工商。爲生計起見。均樂於孝祖。由斯早碼頭。祖人更多矣。此後。凡未在船上服役而孝祖者。統稱早碼頭孝祖。故幫中有名言曰。早上孝祖。不盤水上船。水上孝祖不問早上倉。半個碼頭。鳴鑼開船即曰半個碼頭。此是有名無地乃幫中之難人的一種問語。半隻船。脚划子名曰半隻船。

(三) 潘祖雀籠問答

(問)將軍(指畫眉說)。生於何處。(答)崑崙山(問)能飛多高。能飛多遠。(答)高能飛到天外。遠能飛到天邊。(問)什麼眉。什麼眼。(答)龍眉。鳳眼。(問)大毛多少。小毛幾根。(答)大毛一百二十八根半。小毛九千九百九十九根半。(問)何故。(答)大毛按一百二十八幫半。小毛按九千九百九十九隻半船。(問)尾毛長短。各有多少。(答)長者三十六。短者七十二。(問)腿毛多少。(答)兩腿共計三百六十根。(問)吃的什麼。喝的什麼。(答)吃的金銀米。喝的三江五湖四海水。(問)將軍一天叫幾聲。(答)知音則叫。不知不開口。(問)雀籠多高。(答)二尺四。(問)方的圓的。(答)有方有圓。(問)骨有幾根。(答)骨有一百零八根。(問)幾根跳棍。(答)三根。(問)那三根。(答)東一根。西一根。中間一根。(問)何故。(答)東跳西跳。跳上高的不跳。(問)幾個食缸水缸。(答)兩個水缸。兩個食缸。又名曰四大金剛。(問)籠頂有無蓋。(答)空子有蓋。(問)籠鈎什麼說法。(答)有金的。有銀的。有銅的。見架即掛。無架即拾。到了機會就捧。(問)捧多高。(答)手與肩平。籠與頭平。(問)籠鈎朝內朝外。(答)朝外。所謂鈎外不鈎內。按籠

本是活的。四面八方都可轉動。(問)何人所造。(答)魯班所造。(問)何人所裝。(答)張班所裝。(問)能多重分量。(答)二斤十三兩五錢四分。(問)箱內幾柱。上下幾圍。(答)上下三圍。按三才。箱內五柱。按仁義禮智信五字。云云。如再盤問。仍可答之。總以天時地理人事三者之成語答之。彼必無話再說。此是尋事生非之秘訣。故誌之。俾資養鳥者。不爲人所難也。

(四) 漕斛

漕斛。亦名倉斛。收兌漕米所用者。其形方。上窄下廣。自元代以來。爲糧制之標準。二斛爲一石。清代戶部鐵斛。內積營造尺。一千五百八十寸。面方六寸六分。底方一尺六寸。深一尺一寸一分。見(清會典)

(五) 徐州小分支

徐州府各縣。糧船四十五隻。運米十萬八千三百石。計三百九十八里路程。蕭豐兩縣。米一千三百七十石。邳州睢寧宿遷銅山各縣。共歸河南省汴梁調遣。

考「徐州小分支。不在分幫兌調之額。時在三次行運所派江淮四湖運船四十五隻。由楊永發李甲三二位領帶。(籍貫詳前)江蘇二十一幫以江淮四爲總幫。浙江二十一幫以嘉興衛爲總幫。江廣十九幫以武昌衛爲總幫。湖南十八幫以湖南頭爲總幫。山東十幫半以濟前爲總幫。河南九幫以汝襄衛爲總幫。(杭三是嘉白分支。滿運船六十四隻。因江淮四老堂船損壞。王均祖希將運船撤回。晉字派祖爺黃柯。拉走嘉

白糧船四十二隻。（松江九幫。以興武衛爲首幫。一二三三幫。歸興武四統帶。七八九三幫。歸興武六統帶。興武七又名新河六。興武六原造船八十六隻半。歸王降祖之開山門弟子趙順統帶。後損壞九隻。下餘七十七隻半。歸法字派華元龍祖爺統帶。後又零星損壞八隻半。下餘六十九隻歸本字派朱晏泰祖爺統帶。時在，前清咸豐年間。太平軍興之際。南方漕運均皆停頓。）迨至光緒十八年。三次行運。招集船行二十三家。內有圓字派馮德功者。統帶漕運船五十四隻。至庚子年。京津事變後。祇餘糧船二十八隻。當家爲理字派趙寶元。與前半所朱標。後半所沈盛泰三位統帶。迨至光緒二十九年。六大幫一律裁撤。從此各幫指船爲業。趙寶元拉船十隻。在江口河港運商。朱沈二位拉去糧船十二隻。在海州等處運鹽。漕船在揚州小河港。該處遠望船桅如十二根柱子。矗立天空，後人以此名其地曰十二圩。近代該地繁盛。已爲淮鹽之中心區矣。

（六）拖駁船

拖駁船又名尾幫船（即幫中所云半幫船）船較糧船小。裝糧祇三百石。（其實能容七百石左右）船爲幫中人私造。乘便潛載南北雜貨。隨糧幫米船進京。沿途經營商業生意。（避免沿途關卡釐稅）又順搭載江湖上各種技術人等。隨船沿各碼頭作點生意。船開即隨船走。所以糧船到處。地方異常熱鬧。商業利市幾倍。幫中人指伊輩名曰「幫混子」。諸如巾。皮。李。瓜。以及唱戲。說書。賭博。戲法。各種魔術等類。桅杆上懸銘有八個字「四方都見。萬福來朝」。湖蘆上四個字「天地三才」。長二兩房。船

身兩頭高。三房船身兩頭平。自通州運糧米倉起。至揚州甘泉縣大門止。（糧倉之舊址）計程二千四百二十一里半路。

（七）漕糧所經河道

浙漕糧船由上海入江。由江入淮河。由淮河入運河。由運河入黃河。博興河衛河至通州壩。江蘇松江安徽常州江西五處糧船。行五河無海。江北揚州汜水泰州興化四處。船行四河無江無海。河南信陽汝溝等處。船行三河無江海淮。山東德州濟寧臨清等處。船行三河。由鹽河入漳河。轉入運河至通州壩。各省分糧調衛所有御糧。由分糧出運。後來庫糧豐足。亦就不添船矣。

（八）銅錢關

銅錢關。又曰金錢關。俗稱一個錢關。在淮河中之高郵。糧船抵關。須報關驗糧。納稅一個銅錢。查其意。乃運庫關稅起見。故曰皇糧都要報關。其他人等不必論矣。昔日關稅之嚴不想可知。

（九）分水龍王廟

龍王廟（又曰金龍大王廟）在山東汶上縣南。南旺鎮。汶水對廟直冲，至廟前河岸而分。七分水入運河。三分水入黃河。世人。不知神功作用。乃取草一捆。分十段。棄水中。即時七段向運河。三段向黃河。故汶水至此。分爲南北兩流。古稱是白英老人點七十二泉之地。迄今尚有古寺。勝跡存焉。

（十）三位祖師成績考

翁祖造倉廩共有九千九百九十九間半。分立漕河水陸交通之處。錢祖造七十二碼頭又建七十二水閘。修理沿運河堤工。長有千里。潘祖造船有九千九百九十九隻半。通行天下。

(十一) 七種孝祖名稱

凡在和尙庵內設香堂。名曰圓門孝祖。在道士觀內設香堂。名曰方門孝祖。在糧米船上設香堂。名曰艚門孝祖。在監獄內設香堂。名曰絕門孝祖。(又曰老盛門。亦名曰壽房門。在祠堂內設香堂。名曰正門孝祖。在居家住宅內設香堂名曰宅門孝祖。在店舖內衙門內設香堂。名曰財門孝祖。在以上七門之中。那一門進幫。即謂那一門孝祖也。

(十二) 幫中三位當家

幫中三位當家是潘祖過方之後所立大房當家錢標。二房當家東方世明。三房當家蕭少山。

(十三) 三教九流

三教者、儒釋道也。九流者一流(文武舉子)。二流(醫士十三科)。三流(地理一名堪輿)。四流(五星推命)。五流(丹青繪畫)。六流(道莊麻衣相法)。七流(和尚)。八流(道士)。九流(琴棋)。詩曰「一流舉子二流醫。三流地理四流推。五流丹青六流相。七僧八道九琴棋。」

(十四) 花頭駁子

花頭駁子。亦糧船名也。平底無桅。鴨蛋形。由杭州內河小港裝糧。運至蘇州。或上倉或過越船行。用

半篷風。以櫓行船。櫓名魚尾。（即備梢櫓也）

（十五）過閘神戲

糧船至三大閘時。先在大王廟內。焚香唱戲謝神。人集如山。百官照料。而後過閘。過閘船由下而上。非神功不能做到安渡危境。

（十六）太平艙

大桅下面之艙。名曰太平艙。此中專放銀錢。及一切行李物件。爲船上最重要之所在。關防甚嚴。

（十七）祖爺草鞋

祖爺草鞋一雙云。計重有二斤十三兩五錢四分（按南北二京十三省五湖四海）俗云赤脚開船穿鞋上岸。

（十八）小祖糧船

姚小祖率船一百六十四隻。行駛淮河。裝載雜糧百貨。以及乾隆御賜之十六帶。計船有六百四十五隻。均不在正幫糧船數目之內。

（十九）糧幫公所

糧幫公所在南京鼓樓妙相庵（現改爲暨南學堂）及桃花庵。長壽庵。祖師庵。均有碑誌可考。又揚州便益門。三茅庵內。亦有糧幫公所。大門外。尙有大鐵錐可考。

（二十）半幫船

清門考源

半幫船又曰隨通尾幫船。此乃糧幫中之混混也。藉糧通勢力。潛運京貨雜貨。沿途販賣。其主義乃便利各幫糧船中途之需要。南來運北貨。北去運南貨。自太平軍後。尾幫船兼保護糧船糴務。凡糧幫有糾紛。均由伊輩調解公斷。

(二二) 三位祖爺夫人姓氏籍貫堂名

翁祖夫人朱氏山東東昌府聊城縣鼓樓大街人氏。後移居河南南陽府南陽縣北門城外杷子橋。又遷移江蘇常州府武進縣居住。(堂名)時安堂。錢祖夫人劉氏安徽徽州府歙縣北門外張公橋人氏。後遷居江蘇蘇州府常熟縣城內南門大街。(堂名)流水堂。潘祖夫人黃氏浙江杭州武林門外羊街橋又名狀元街人氏後遷移啞吧橋畔居住(堂名)碧嵐堂。

(二二二) 各幫鎮名

一(江淮潤)用陰陽紫金所。二(興武四)用陰陽虎溝所。三(嘉海衛)用金衛所。四(興武六)用洪海應天所。五(嘉興衛)用林溪所。而八卦如意所。(嘉興衛閩月領用)。(嘉海衛後改領定海所)。(興武五)用洪湖雙林所。通左鎮。東平所。太平所。應天所。沂山半所。所謂五幫三所。分幫調兌。暫分二所。又有閩月所用如意所。共計十三所。(此乃按內地十三省。又按一年十二月。加之閩月如意所。共十三所。正謂此也)。

(二二三) 五幫五所名稱

江淮泗總幫掛如意所。興武四分幫掛定海所。興武六幫掛湖北應天所。又太平所。嘉海衛分幫掛林溪所。白糧分幫掛原鱗所。

(二四) 三把鑰匙及三杆名稱

三把鑰匙。廣豐鑰匙。平浪鑰匙是也。其三桿者。紫竹鑰匙。前曰篙杆。中曰桅杆。後曰舵杆。

(二五) 三木四柱

三木者。一牙木。二替死木。三桅木。四柱者。一將軍柱。二保桅柱。三桅柱又曰圓柱。四棧柱。

(二六) 三個鐵錨地點

傳云是昔日興幫承運時所造。蘇州一個。清江一個。通州壩一個。(現今不知有無此物。姑記於此)

(二七) 原有船廠名稱及地址

原有天善第一廠。在山東濟南府歷城縣東門外。地德第二廠。在浙江湖州府德清縣西門外。人和第三廠。在江蘇江寧府上元縣上新河堤。新立四廠。直隸廠。山東廠。金陵廠。浙江廠。

(二八) 翁錢潘三祖祠堂

翁錢二祖祠堂在山東東昌府。聊城縣南門內。文彬橋下首。迄今仍有聖蹟。(即大王廟也)香烟甚盛。潘祖祠堂在浙江杭州府錢塘縣武林門外。鹽吧橋右首。即家廟舊址。

(二九) 家祖爺坟墓制

翁祖坎面前無樹，錢祖坎面前樹兩顆。潘祖坎面前後共四顆（參觀前影片），潘祖之墓。東自大江。西至家廟。共計三萬。六千。七百。七十。零半步。路程。

（三十）半節大桅

半截大桅是潘祖座船之大桅。被風拆斷。潘祖在黃河渡口遇險過坊迄今。半截大桅仍在鳳林閣下。

（三一）幫中三從四德說

三從者。在朝從君。在家從父。在幫從師。四德者。崇奉道德。心存功德。遇事積德，不忘恩德。

（三二）運糧三不到三開對三宮

一楓林閣不到二七河口不到三潘閣外不到三開對三宮者。楓林閣對正宮。天妃閣對西宮。天清閣對東宮。

（三三）三錨鎖三開

每錨重一百二十八斤半（暗對一百二十八幫半之典）碼頭纜子長十三丈重三百六十五斤撈三百六十五度

（三四）船上三堂三老四少

前有燒香堂。中有羅漢堂。後有拜師堂。三老是翁錢潘三位祖爺。四少是朱黃劉石四位小祖也。

（三五）僧道八司

（明代嘉靖時始分立僧道官階）僧錄司（省立）。僧綱司（府立）。僧會司（縣立）。僧正司（州立）。道錄司（省立）。道紀司（府立）。道會司（縣立）。道正司（州立）。

(三六) 幫中十大說

君王福大。宰相量大。小人心大。窮人氣大。惡人胆大。賤人計大。日月光大。名山高。江內船大。海內潮大。人不知已過。牛不知力大。

(三七) 新立五戒

盜(盜爲害人之事。切不可爲)殺(殺人者。終被人殺。更不能做)。狂(狂爲猖狂。易招人厭。宜戒之)。花(花者女子也。見人女子。不可生妄想之心)。酒(酒爲穿腸毒藥。頗能亂心戒之爲佳)。

(三八) 老堂六處領慈孝祖

當家爺處。纓頭爺處。燒香爺處。頭緯爺處。拜師爺處。令號爺處。昔年祇以上六處可孝祖討慈慈。

(三九) 糧船行時風浪

迎京風浪三尺三。用京風浪一尺八。(按三十三天十八層地獄之比喻)這是一種秘語暗藏翻天覆地用意。

(四十) 潘祖遺像

潘祖遺像。藏在家廟藏經樓中。據傳說云。潘祖面貌清奇。身材適中。其圖中繪潘祖挺立荷花池旁。池中紅花綠葉。頭上白日青天。歪帶金邊鞋。腳穿一雙四錢三套填鞋子。長袍大袖。上懷不扯。下服不扣。腰束白巾。左肩擔錢十串。(每串一百文)錢串兩頭無結。「此項繪意寄意甚深。有云。錢爲身外之物。勸人不要貪而無厭。或以金錢勢力壓人。或云。指示錢應聽人用。人不應被錢驅使。其不打結者

。是揮金如土之意」。左手拾一飽雀子。鳥名畫眉。（詳前）右手自握髮辮。（前清時。人人都有一條辮子）。作絨獸形狀。云云。考「此像繪意。與提倡民族革命。頗有興奮意思。查潘祖一生事跡。與雞中雀龜。草鞋。等段紀載。足使閱者尋味。而潘祖究有其人否。以及金。羅。陸。各祖爺之傳說清代史略之查考。與清水會。清門教等之行爲。頗相同類。本賢雖未評論。但是盡載各端。統希閱者研究。當不難知其底蘊」。

十四章 山海河洛溯源（幫中所謂糧船經過風景）

（一）二十四條半河

一，黃河

黃河中國第二大川也。古時。祇稱河。後人以其多沙。而色黃。謂之黃河。源出青海。巴顏哈喇山之喀達素齊老峯下。東流瀾爲扎陵鄂陵二海。曲折東入甘肅境。又東北出長城。循賀蘭山東麓。陰山南麓至綏遠之托克托縣。西折而南。成一大曲。是爲河套。又南入長城。經壺口龍門諸山。爲山西陝西之界。折東流入河南境。始由高地流行平地。折東北。經直隸山東至利津縣。奪大清河。於道入海。長八千八百餘里。下游自河南以下。常爲水患。上游水性重濁湍急。不利行船。惟河套一帶。以資灌溉之利。且通舟楫。入河大川。著者爲山西之汾水。陝西之渭水。河南之洛水。此河下游。挾沙淤濁。此淤彼決。

歷有變遷。今黃河下游。由河南開封。東南歷直隸山東。奪大清河入海。於滿清咸豐四年。銅瓦箱決口所致也茲舉其故道凡有六（一）禹河故道。卽由萊蕪東北行至濰縣東河南北。合濁漳水。入河北。由天津入海。（二）周定王以後黃河故道。卽由河南濬縣。東北經漯川。東北歷直隸山東天津入海。（三）東漢以後黃河故道。卽由滑縣。東北歷河北山東。由利津入海。（四）宋時黃河故道。卽由河北開州。合永濟渠。東北歷河北山東。由天津入海。（五）金時黃河故道。卽由河南陽武東行。入山東梁山。灤南北流。北流入北清河。卽濟水。東北歷山東。由利津入海。南流入南清河。卽泗水。歷山東江蘇入於淮。（六）元明以來黃河故道。由河南武陟東南行。經汴泗入淮。歷河南山東江蘇。由安東入海。

二、淮河（又名淮水）

淮河。古四瀆之一。源出河南省之桐柏山東流入安徽境。緒於江蘇。安徽間之洪澤湖。其下游本由江蘇連水縣入海。金元以來淮河自洪陰縣西南清江入淮。淮水下流。遂爲黃河所占。清咸豐初。黃河北徙。淮水下流亦淤。其幹流遂自淮陰縣合於運河。

三、衛河

衛河（一）卽永濟渠。以導源河南輝縣。爲春秋衛地故名。（二）在直隸魏縣東北。卽禹貢。恆衛既從之衛也。東南流四十里。入於沙沁。按衛在恆陽特爲小水。而名見禹貢及漢書。當時蓋爲大河。禹貢雖指衛水。卽古之澤沱也。

四、灤河

灤河。古濡水。上源曰上都河。出察哈爾獨石縣東北黑龍山。北流。經多倫縣北。折東南流。始曰灤河。經承德縣南入邊。又經盧龍縣治西合青龍河東南。經灤縣。樂亭。分流入海。

五、汴河

汴河。亦曰汴渠。卽汴水。其上游爲古之漿水。又曰南濟。肯受黃河。在滎陽曰浪蕩渠。東流曰宣渡水。又東流。大梁城北曰陰溝曰汴水。其在大梁城南。分流者曰鴻溝。按汴渠故道有三。爲古汴河故道。由河南之舊鄭州。開封歸德北境。經江蘇舊徐州合泗入淮。卽水經注。汴獲二水之道。元時爲黃河所奪。今淤。一爲隋以後汴河故道。由前故道至商丘縣治南。改東南流。歷安徽之宿縣靈璧泗縣入淮。隋煬帝入江都唐宋漕東南之粟入京師皆由此。今久湮廢。惟泗縣尙有汴水之斷渠。

六、白河

白河（甲）在直隸。卽古沽水。源出邊外獨石口外之土山。至密雲縣。與潮河合。南至通縣。爲北運河。又南至天津。與衛河合直沽入海。（乙）在甘肅古呼蘆水。亦曰洮賓河。發源青海之祁連山。流經酒泉。與黑河合。入蒙古額濟納河之居延海。

七、汝河

汝河。一曰北汝河。出河南嵩縣西南天息山。東北流。經伊陽臨安。又東南。經陝縣襄城。與沙河卽潁

水合。遂稱沙河。名流歷郛城南水合於潁。一曰南汝河。上游曰沙河。出河南泌陽縣黃山。東北流。經遂平又東南流。受汝河故道水。爲南汝河。經汝南。新蔡合洪河。即古憶水。東南由息縣入於淮。按南北汝。古本一河。自元時作碣。舞陽汝水始中斷爲二。且多非復舊時水道矣。

八，潞河

潞河。即古潞水。關中八川之一。出陝西郿縣。南北流合諸水。東北入咸陽。西南境。注於渭。

九，澧河

澧河（一）源出河南桐柏縣西北胎簪山北麓。西北流至泌源縣。折東流入唐河。（水經注）澧水與淮河源而別流。西注。故亦謂之派水。（二）源出湖南方城縣西北鄧鳴山。東流經葉縣鳳舞陽入許昌。與唐河合注於北汝河。（山海經）「雅山。澧水出焉。」今亦稱澧河。

十，澮河

澮河即少水。源出山西翼城縣澮西烏嶺。西流經絳縣曲沃納絳水。又西南經新絳會汾河。（左傳）「有汾澮以流其思」即此。（又）即渙水亦曰澮水。古之大川也。與睢水齊名。（述異誌）「澮渙二水謂之澮水」今曰澮河。故道多湮。舊出開封。今出水城西北。北受沙河。東南流經宿縣靈璧五河會沱水入淮。

十一，鄆河

鄆河即鄆水。俗稱南沙河。源出山東滕縣。西南流至江蘇沛縣入運河。（春秋）「取鄆田自鄆水」即此。

·(又)在京兆通縣之南。自咸溝流至此。更入白河。遂置滌陰縣於其地。

十二，潁河

潁河。出河南登封西境潁谷。東南流經禹縣臨潁西華商水與沙河(即古潁水)合而東流。是爲沙河。東至淮陽之周家口。會賈魯河。東南流經沈丘是爲大沙河。而東南流入安徽。經太和和阜陽潁上至西正陽關入於淮。

十三，潞河

潞河。即白河。爲北運河之上遊(水經注)「沽水謂之西潞水。鮑丘水。世謂之東潞水。會流南運潞縣爲潞河。今尚稱北運河。爲潞河潞縣。後漢置。明代廢。故城在今京兆通縣東。

十四，渭河

渭河。源出甘肅渭源縣西北鳥鼠山。東南流至滑水縣入陝西境。經鳳翔納雍水東流。經省治南納黑水。勞河及豐澁諸水。北納涇水漆沮水。東北流至朝邑。納洛水東至潼關入黃河。

十五，湟河

湟河。即西齊河。上游曰博克克河。出青海東北境噶爾藏嶺。南流折東南入甘肅湟源縣。又東南經西齊伯與大通河合。入黃河。

十六，滋河

滋河卽「水經注」之資承水。源出山西五台縣東烏牛山東流入直隸至邢縣南會沙河。入豬龍河。爲大清河南支。上游按「山海經」山高是之滋水出焉。南流於滹沱卽此。但源委已改耳。

十七，漯河

漯河。源出山東莊平縣西南。東北流經禹城縣入徒駭河。按古漯川爲黃河支流。其故道自河南武陟縣分支。行今黃河之北。經直隸至山東。改行今黃河之南。東注於海。

十八，潮河

潮河卽古之鮑丘水也。源出古北口外。舊自密雲至順義縣牛欄山與白河合。今自密雲縣東南卽入白河。水流湍悍。其聲如瀾。故名之。俗稱薊運河。曰潮河。

十九，漳河

漳河，上游曰清漳。濁漳。清漳源出山西平定縣沾嶺。濁漳源出山西長子縣鵝山。二水分流至河南涉縣之治漳村。始合爲一。又東南經直隸大名縣治南入衛河。按舊有老漳河小漳河。皆漳水故道。今併濁。爲楚之漳河。發源湖北漳縣西南之蓬萊洞。東南流經鍾祥當陽合沮水。又東南經江陵縣合於江。（右傳）江漢沮漳。楚之望也。

二〇 汶河

汶河。在山東。爲運河上源。正流。曰大汶河。源出萊蕪縣東北原山。西南流經泰安縣治東石汶水。自泰山東麓。東南流來會。牟汶水。自萊蕪東山。合清汶瀛汶諸水。西流來會北汶水。自泰山西麓分流。來會小汶河。即柴汶水。自新泰縣東北龍堂山合諸流來會。匯以西流。界舊泰安兗州二府間。至東平縣與入黃河之大清河小清河合會。又西至汶上縣西南入運河。

二一，沙河

沙河水名。(甲)爲直隸之榆河。古濕餘水。(乙)爲直隸沙河縣之沙河。古鴻水。(丙)爲直隸豬龍河上游之沙河。古派水。(丁)爲河南北汝河下游之沙河。古穀水。(戊)爲甘肅之郭河。入於魚海。古谷水。

二二，泗河

泗河。出山東泗水縣陪尾山。四源並發故名。胡渭曰。泗水。自泗水縣。歷曲阜滋陽濟寧鄒縣魚台滕縣沛縣徐州邳州宿遷桃源至清河縣入淮此禹跡也。今其故道。自徐州以南。悉爲黃河所占。(清一統志)「明萬歷以前舊漕河。至徐州歷沛縣以北。即泗水也。其支流與汴水合。下接於淮。則泗水淌入淮也。自萬歷二十二年開湖河以避黃河之水險。由是泗水轉入運。不復達淮」。按泗水之入淮故道。舊亦稱南清河。金元以來。嘗爲黃河所占。舊兗州徐州二府間之舊漕河。及舊徐州淮安二府間之淤黃河。皆其故

跡。今之泗河。歷泗水曲阜滋陽濟甯東流入運河。乃古泗水之上游也。

二三、洗河

洗河在山東甯陽縣埧城壩西南。本汶水支流。自元人遏汶入之。其流始盛。今河由滋陽縣西流。至濟甯縣。會泗河由馬場河入運。

二四、潯河

潯亦作潯河名。潯出山西繁峙縣東之秦戲山。由代縣寧縣定襄五台孟縣境。入直隸。歷平山正定深澤安平饒陽獻縣合堤陽河。東北爲子牙河。至天津。會北運河入海。

二五、榆河（即半條河）（如云雪林是半條河則錯誤）

榆河一名濕餘河。俗名官河。自居庸關南流至通縣。（北通州）北入白河。（漢書）「軍都縣濕餘水。東至濕西入沽。」榆林者塞名也。今蒙古鄂爾多斯。黃河北岸。即秦長城所在也。（漢書）蒙古爲秦侵胡數千里。以河爲境。累石爲城。樹榆爲塞。又衛青定河之南地方爲界。乃按榆谿舊塞。（水經注）榆林塞。世謂之榆林山。自谿西去。悉榆柳之藪矣。

以上除黃河外。共計二十五條河。以榆河爲半條河。合共二十四條半河。（見水母經及山川河洛大全）

（二）七十二道半閘名稱

嘉杉青閘。常老八閘。京口驛閘。三溝閘。金門閘。淮安板閘。臨興閘。通濟閘。河定閘。惠濟閘。鹽

河開。雙塘開。徐漢流開。亭濟開。和惠開。和城開。清河開。俊山開。楊莊開。丁顧開。山東萬年開。張莊存開。楊家樓開。玫瑰開。邦莊開。利達開。南陽開。靈林開。施家莊開。仲家莊開。淺開。新店開。佛在開。前鋪開。趙春開。不城開。井開。草稿開。虎頭溝開。南旺下開。開河老口開。荆家安前十八家廟開。荆門上開。荆門下開。河城上開。河城下開。七奶奶廟前開。七奶奶廟後開。周家莊開。東海總開。通濟開。梁家鄉開。土橋開。永濟開。須叟板開。十八家廟開。上關度豐開。南京金陵開。谷亭開。魯橋開。沽頭開。金溝開。移風開。昭靈開。天妃開。楓林開。呂梁上開。呂梁下開。南旺上開。楊家灣開。武家塾開。半個開在蔡涇孟渡間。(因不啓閉。只留水洞。故曰半開)。古云三開五場之間。有八個漏洞滴水。七十二個半開。二十四州。二十四條半河。再舉於後。

(三) 茲將個半碼頭名稱

順直大碼頭。河南福甯碼頭。中州水碼頭。順興永安碼頭。東土莊西玉碼頭。黃河渡漕運碼頭。徐屬四岸碼頭。宿遷漢河莊南碼頭。清江浦石碼頭。江淮平全碼頭。宣城官碗頭。高郵北門外王碼頭。邵伯大碼頭。太招里東鎮碼頭。廣寧江碼頭。鎮江大開口水輪碼頭。常州西莊接引庵碼頭。金沙早碼頭。常熟招陽碼頭。蘇州閶門太子碼頭。金陵水西門官渡碼頭。淞江立海口接運小碼頭。北通州大碼頭。天津水旱碼頭。水莊渡口小碼頭。江陰江渡碼頭。安慶西臨玉碼頭。開漕正碼頭。湖州歸安碼頭。永官所碼頭。大通內河渡糧碼頭。川河招城盛碼頭。武林太子碼頭。江慶學東運港碼頭。漢口通京紫金碼頭。安

慶四慶湖水四碼頭。南州大碼頭。甘介菜城玉碼頭。藍時六安吉碼頭。泰州碼頭。建台歸海口碼頭。陵屬車侯碼頭。大名太子碼頭。廣州西門大碼頭。江西平州水碼頭。湖北蚊子磯頭。浙甯永慶碼頭。嘉城南關口河碼頭。北川碼頭。太湖大碼頭。杭州漕河碼頭。江安平瀾碼頭。太倉井碼頭。通州呂市碼頭。小鎮碼頭。歷城渡口平碼頭。銅城水碼頭。漢陽西碼頭。福州東莊白樹碼頭。武昌大碼頭。達安西門大碼頭。泗州太子渡口碼頭。相山碼頭。徐州石碼頭。沙漫洲大碼頭。鹽城東內河渡江碼頭。大城水北碼頭。川陽東莊玉石碼頭。台州西莊渡河碼頭。白州碼頭。甘歷碼頭。臨鎮抽布碼頭。徐家口。半個碼頭。(又云隨船到處小夥計做生意。算半個碼頭)

(四)五洲

世界五大洲在東半球者。亞細亞洲。歐羅巴洲。阿非利加洲。海洋洲。在西半球者。亞美利加洲。而亞利美加洲。又分爲二洲。曰南亞美利加洲。與北亞美利加洲。佛教所傳之五大洲者。東勝神州。南瞻部洲。西流賀洲。北翼盧洲。中央特摩洲也。

(五)九江

(一)浙江 古浙水。以其多曲折。故曰浙江。又曰之江。上游有二源。北曰新安江。亦曰歙港。水滑南曰蘭溪水濁。二水合於建德縣東南。東北流至桐廬曰桐江。至富陽曰富春江。至舊錢塘江縣境。曰錢塘江。江之二岸。有龍結二山。南北對峙如門。廣五十里。曰。龍子東。舊曰江水。由此分三道入海。

。潮汎爲龜豬二山所束。勢極湍悍。其來如萬馬騰。八月望日。午潮尤甚。清乾隆時。江勢北趨。由豬山北入海。龜豬間及龜山二水道涸成田也。

(二) 閩江 一名建江。有三源。皆出縣建西。仙霞嶺山脈中。北源曰建溪。西曰角屯溪。總稱西溪。西南曰沙溪。西溪與沙溪。合流於南平縣西南之沙溪口。又東北流。至南平縣城東之劍津。與建會。三源既合。東南流曰閩江。經閩侯至長樂縣北。出急水門下流。成三角江入海自源至委。長約一千三百里。閩清縣之水口而上。水愈灘多。水口而下。江寬水緩。江口島嶼無數。最崢嶸者。五虎門。

(三) 珠江 在廣東境。本名粵江嶺南諸水所屬也。以廣東省城。南江中有圓沙洲。曰海珠。故有珠江之名。上游有三。曰西江。北江。東江。三江會於波羅之南海神廟。下由虎門入三角江。注於海。自海口溯西江而上。至廣西蒼梧。可通汽船。其上游支流之鬱江。水量足。利於舟楫。總珠江流域。包有廣東廣西全部。及雲南貴州之南部。水利之饒富。次於長江。

(四) 澧江 即澧水也。源出廣西興安縣陽海山。與湘水同源。至興安縣北匯爲二流。東北而匯於洞庭湖者湘水也。澧水則西南流至桂林。曰桂江。又南經陽朔平樂昭平至蒼梧。與潯江合。東流爲西江。此江自桂林至蒼梧。凡三百六十灘。平樂以上。險惡尙少。以下則兩岸懸崖中。多碎石。水極湍急。漢滅南越。使歸義侯爲戈船將軍。出零陵下澧水卽此也。

(五) 沱江 在四川境。岷江之支流也。一稱外江。又名離江。自瀘縣南分岷江。東流經犍爲。鄞縣。

新繁。成都。新都。金堂。簡陽。資陽。資中。內江。富順各縣。至瀘縣入江，即爲資州之沱也。又禹貢荊州之沱。爲今湖北江陵縣之夏水。

(六) 潯陽江 在江西九江縣北即大江也。沈約曰。潯本水名。在江北。南流入大江。漢因以名縣。而江遂得潯陽之稱。唐白居易送客作琵琶行於此。在晉爲潯陽郡。隋爲九江。唐改曰潯陽。元廢之縣名。唐置南唐改爲德化。即今江西九江縣治。

(七) 白龍江 卽岷江。源出甘肅岷縣東南分水嶺。東南流至武都兩河口。與白水江合。江上有橋。造舟爲之曰。白龍江橋。亦曰南橋。在武都南。

(八) 吳淞江 太湖支流之最大者也。一名笠澤。一名松江。亦名吳江。又名吳淞。俗名蘇州河。自湖東北流。經吳江。吳縣。崑山。青浦。松江。上海。嘉定。合黃浦入海。江口曰。吳淞口。爲揚子江之咽喉。江防之要地也。

(九) 贛江 名章江。上游爲章貢二水。章卽古豫章水。貢卽古湖漢水。至贛縣城北合而北流。始名贛江。經萬安。泰和。贛廬。吉水。峽江。新淦。豐城。新建。至吳城鎮。入鄱陽湖。上游自新淦至萬安中。有十八灘。惶恐灘最惡。然水清可鑑。碎石如鋪錦。夾岸青輝如屏。風景絕勝。下游自新淦以下。深廣平流。可通巨舶。

(六) 八河

八河者。永濟河。大清河。白洋河。會通河。惠濟河。薊運河。永定河。大汶河。是也。

(七) 天下一山(崑崙山)

崑崙山。亦作崑崙。亞洲最大山脈之一。起自帕米爾東境之蔥嶺。沿西藏新藏之境。東走入內境。東西之綿亘。約經度四十度。分西中東三部。西崑崙。起帕米爾分二支。一經後藏。爲哈喇崑崙山脈。一由後藏新藏間。逕東經青海前藏間。爲唐古刺大山脈。唐古刺大山脈之北。爲中崑崙。亦曰北巴顏哈喇山脈。橫貫青海全部。江河之源皆出於此。由中崑崙分支。東北走爲祁連賀蘭諸山。至綏遠察哈爾境爲陰山。又東。屬於內興安嶺。分布於滿洲朝鮮。長白山脈其著者也。我國古史所謂崑崙山。專指中崑崙之南部。在甘肅新疆之間者也。中崑崙之南端。直下者爲橫斷山脈。又東入內地。爲東崑崙。分爲兩支。一曰北嶺。自巴顏哈喇分出。東至四川爲岷山。自岷山又分二支。相並東來。一支爲漢南諸山。至荆山而極。一支爲終南桐柏大別諸山。至天柱山而極。一曰南嶺。自橫斷山脈分出。東南入雲南。東出而爲雲嶺五嶺武夷山仙霞嶺至東海濱而極。逾海而舟山羣島起焉。合臺灣及日本四島。皆其餘脈也。按東崑崙山脈。古說分北條中條南條三派。北條自陝西崤山起。北行遼河套。東行至山西。接太行山脈。又東屬於恆山。中條自北條山起。盤結黃河長江間。爲華山嵩山。東逕爲大別山脈。南條自岷山巴山二脈。逾江而南。至於衡山。直至長江下游而止。與今說稍異。又有喜馬拉雅山。爲崑崙山者。如分史稱駐大雪山時。雪深二丈。詔封崑崙山爲玄極山是也。(又)廣西有崑崙山。又按越南輿圖說。北圻太原省。有

崑崙山。其源自上國而來。經高平而太原。橫峯壁立。峻嶺摩空。人迹所不到。高平地接廣西。是廣西之崑崙山。連綿而至安南也。（又云）島名。在東京灣中。近安南南部海岸。（星槎勝覽）崑崙山節然瀛海之中。與占城及東北竺。鼎峙相望。海人名曰崑崙洋。凡往西洋。販舶必待順風。七晝夜可過俗云上怕七洲。下怕崑崙。

（八）四大名山

一 五臺山

五臺山。在山西五臺縣東北。五峯聳立。高出雲表。山上無林木。有如疊土之臺故。（元和志）道經以爲紫府山。內典爲清涼山。今縣名。漢慮厖縣。後魏驪夷縣。隋改五臺。清屬山西代州。今屬山西雁門。
二 普陀山
普陀山。在浙江定海縣東海中。梵名補陀洛迦。華言小白華也。亦名補陀山。又名梅岑山。相傳以梅福名。四人之族吾國者。多以此爲避世之地。

三 九華山

九華山在安徽青陽縣西南四十里。（寰宇記）亦名九子山。山有九峯。如蓮花削成。唐李白改名。明王守仁讀書其中。悟得致良知之理。近世傳云。地藏王菩薩。得道於此山。而每年香期甚盛。

四 峨嵋山

峨嵋山在四川峨眉縣西南。兩山相對。如蛾眉。故又名蛾眉。（博物志）以爲牙門山。其脈自岷山綿延而來。突起爲大峨中峨小峨之秀峯。三山相連。故曰三峨。大峨山巖洞重複。龜谷幽阻。登山者自麓而上。及山之半。又歷八十四盤。山徑如縲者六十里。而後至於峯頂。山中有石龜一百十二。大洞二十八。若伏羲女媧鬼谷諸洞。其最著名者又爲雷洞時出雲雨俗以爲雷神所居。中峨山在縣南二十里。小峨山在縣南三十里其福建之歸化泰甯。廣西之崇善。河南之郊縣。皆有峨眉山名同而地別。非大四名山之列。

（九）九州

九州。古分天下爲九州。而制各不同。（一）禹貢九州。曰冀。青。徐。豫。荆。揚。雍。梁。此爲夏制。（二）爾雅九州。曰冀。豫。徐。雍。荆。揚。幽。并。此爲周制。創制九州。或以爲人皇氏。或以爲黃帝。或以爲顓頊。（冀。兗。徐。青。荆。揚。豫。梁。雍。）冀州現河北省各地皆是。兗州現山東省魯南魯西各地皆是。徐州現江蘇省屬舊治淮上各地皆是。青州又名益都州現山東膠東濟南各地皆是。荊州現湖北省鄂西各地皆是。梁州又曰涼州古之西涼現即甘肅省。雍州即現今陝西甘肅二省。及青海額濟納之地皆是。東晉時湖北襄陽亦曰雍州。此九州乃堯時所分。至舜王時將冀州分爲二。一名幽州。二名并州。又將青州分爲二。一仍名青州。二名曰營州。遂有十二州。

(十) 三山

一 龍虎山

龍虎山。今江西貴溪縣西南八十里。兩峯對峙。如龍昂虎踞因名。漢張道陵。修鍊於此。其子孫世居於兩山間之上清宮。即俗所謂張天師也。

二 太行山

太行山。亦名五行山。連亘河南河北道。山西冀甯道。及直隸界。山以百數。隨地異名。實皆古太行也。（述征記）太行山首始河內。北至幽州。凡百嶺連亘十三州之界。（摺地志）「太行連亘河北諸州。凡數千里。始於懷。而終於幽。爲天下之脊。」按今地輿家以汾河以東。碣石以西。長城黃河之間諸山爲太行山脈。山西晉城縣南有太行山乃山脈之主峯也。

三 天台山

天台在今浙江天台縣北。仙霞嶺脈之東支也。形勢高大。西北接四明金華。蜿蜒東海之濱。如衣有緣。北有石橋。長數十丈。度兩樹間。自古號爲飛仙所居。漢劉晨阮肇入天台採藥。遇二女子。留半年求歸。抵家已七世矣。

(十一) 三個半島

一 蓬萊島

蓬萊。仙山名。（史記）蓬萊方丈瀛州此三神山者。在渤海中。蓋嘗有至者。諸仙人及不死藥在焉。其

物禽獸盡白。而黃金白銀爲宮闕。

二 舟山島

舟山島。(即舟山羣島最大者。)位於浙江杭州灣口南。起六橫島。北迄大戩山。大小島嶼二百餘。最大者。曰舟山島。形勢穩固。便於停泊。可爲運糧留棧。島東即普陀山也。

三 崇明島

崇明島。當黃海東海之交。長江出入之口。江水至此分二道入海。北口水淺多沙。不利航駛。南口輪船進出要道。交通甚繁。在唐時本島祇一沙洲。了無人煙。其後江沙沖積。逐漸高廣。始成島形。今則長百二十里。廣十五里。至二十五里。面二千方里。

四 秦皇島(半島)

秦皇島。爲我國直隸省不凍之港。在山海關東。西元一九〇一年開港。唐山之煤。由此輸出。灣內水淺。冬期無冰結之慮。船舶亦於近岸碇泊。然往往有風害。貿易未盛。故曰半島。

(十二) 五嶽

東嶽泰山在山東。濟南府泰安州。又曰天孫。爲五嶽之長。又曰岱宗。王者受命。恆封禪之。高四十餘里。山頂東南巖的名曰觀。鷄一鳴時見日始出。(一)西嶽華山在陝西西安府華陰縣。上有石池。生千葉蓮花。服之羽。高五千仞。片石壁立如削成。昔年。李白登華山落雁峯。曰。呼吸之氣。相通帝座矣。

(二) 南嶽衡山在湖廣衡州衡山縣。周圍八百里。又名岵嶽山。軒翔聳拔。九千餘丈。其峯最高者。曰祝融。羣祝融於此故名。常有缺板道人。夜半登此以觀日出。仰天大呼。雲漢盪吾心胸。(三) 北嶽恆山在山西大同府渾源縣。水母經。謂之玄嶽。高九千九百丈零七尺。有太玄泉。神草十種。服之可度世人。(四) 中嶽嵩山在河南府登封縣。有三十六峯。有玉女塢崩石。立秋前一日中夜常聞杵聲。有吹笙聲。相傳王尹曾吹笙處。(五) 東嶽神名黃飛虎。封齊天仁聖帝。西嶽名神蔣雄封金天順聖帝。南嶽神名崇黑虎封中天昭聖帝。北嶽神名崔英封安天玄聖帝。中嶽神名閻聘封中聖崇聖帝此謂五嶽大帝。

(十三) 三江

三江其說有五。(甲) 以吳淞江其江東江爲三江。皆太湖之支流。吳地記虞仲初揚都賦注。水經註皆同。(乙) 以南江北江中江爲三江。見(漢書地理志)司馬貞以毗陵之北江。蕪湖之中江。吳縣之南江當之。(史記索隱)北江卽今長江正幹。中江卽深水。南江卽今吳淞江。禹貢孔傳云。自彭蠡江分爲三入海。周禮賈疏云。江至尋陽合彭蠡復分三入海。按其地均皆在今長江之下游。(丙) 以吳淞江錢塘江(江爲三江。見(國語韋昭註)(丁) 以浙江浦陽江剡江爲三江。見(吳越春秋)浙江(浦陽(戊) 以岷江浙江吳江爲三江。見(爾雅郭註)(又) 蜀有三江。岷江滄江沱江。今長江上游之支流也。(又) 廣西亦有三江。黔江鬱江桂江。皆西江之上游也。(四) 江蘇江西安徽三省。合稱三江。

(十四) 四洋

海門 考源

(一) 太平洋。(二) 大西洋。(三) 南冰洋。(四) 北冰洋。太平洋包廣甚大。占陸地十分之七。西連大西洋。北連北冰洋。南連南冰洋。東連中國。爲世界最大之海洋也。輪船由中國開輪。約五十晝夜。方達太平洋之西邊界爲美國。

(十五) 五湖

(一) 饒州鄱陽湖。在江西南康府東南。一名彭蠡湖。波揚瀾闊。四十里。長三百里。亘浸瀾漫。西抵南昌。東抵饒州。會江水流入於海。(二) 岳州青草湖。在湖廣岳州府一名包邱。北連洞庭南接漢湘。東納汨羅之水。南有青草山。故名青草湖。(三) 潤州丹陽湖。在鎮江又曰練湖。周圍三百餘里。自臨天漂陽縣接太平當塗縣界。(四) 鄂州洞庭湖。在湖廣鄂州。相傳湖中有巨蚌。夜塗展一殼。如帆蓬一般。吞吐明珠。與月爭光。(五) 蘇州太湖。在蘇州。乃禹貢之西澤湖也。此之謂五湖。

(十六) 四海

東海南海西海北海。博物志曰。天地生方。皆海水相通。地在其中。蓋無幾也。東海(在海神名補河地界)。西海(海神名垣良地界)。南海(神觀音普陀岩地界)。北海(在濟各昂強地界)。東海至西海距離二萬八千里。南海至北海距離二萬六千里。南爲子午。東西爲卯酉。經長緯短。故南北長。而東西短其君諱神名。東海之君姓馮諱修。南海之君姓祝諱赤。西海之君姓勾諱大邱。北海之君姓禹諱清。東海之神廣德。南海之神廣利。西海之神廣間。北海之神廣鎮。氣候自古海水無增減泛溢。乃因海底

有四寶鑲之。性極猛烈。飲宿百川。其寶。一曰出沒。二曰離順。三曰火燄光。四曰變無餘。每日子時陽生。陽交於陰故潮水起。午時陰生。陰交於陽。故汶水漲。早潮曰潮。夜潮曰汶。至每月初三日生明。乃陽生之時如一日之內。子時之後的陽生一樣。故潮頭分外勢大。至十六日始生魄。乃陰生之時。如一日之內。午時之後。陰生之時。故海水潮勢亦大。此乃天地陰陽之造化。實有莫知其所以然也。天地間。若無鹽吸之功。則日月無盈矣。陰陽無寒暑。多夏無長短矣。夫潮汐兩水。一消一長。乃天地陰陽。一進一退。亦日月之一出一入也。

(十七) 二十四州

二十四州者。濟寧州。湖州。通州。青州。徐州。德州。六安州。滁州。高郵州。杭州。蘇州。揚州。泰州。和州。海州。太倉州。常州。福州。揚州。岳州。兗州。宿州。是也。

(十八) 四衛四碼頭

四衛者。北京天津衛。南京金陵衛。山東臨清衛。湖北荊州衛也。四碼頭者。北京文武頭碼。南京水旱碼頭。山東夫子碼頭。江西天師碼頭。是也。

(十九) 三關五壩

三關者。黃河渡口楓林關。清江天妃關。直隸居庸關是也。其五壩者。北京通州壩。黃河永安壩。秦郵車羅壩。皖北五湖壩。淮河淮安壩。是也。

(二十) 三關六操

淮安淮關。揚州操關。三汊河瓜關（近年改名楊由關）車羅漕台兩操。灣頭漕台兩操。揚子橋漕台兩操。

(二十一) 七汊九灣

七汊者。台州望海汊。分界三川汊。黃河井平汊。余連齊南汊。蓮口關井汊。安國開水汊。武泰陽家汊也。其九灣者三界馬棚灣。淮南野鷄灣。三吳濁水灣。岳陽趙家灣。歸林章家灣。信陽太平灣。雙河傳家灣。景州柳樹灣。岳東遁道灣。是也。

(二十二) 八塔七橋

八塔者。玻璃塔。紫薇塔。清流塔。黃龍塔。萬佛塔。龍虎塔。金沙塔。玉山塔也。其七橋者。葛佛橋。長壽橋。迴龍橋。池河橋。淮河橋。誅龍橋。金沙橋。

(二十三) 上下八府

江蘇省。蘇淞常鎮。江揚淮徐爲下八府。安徽省。徽寧池太。廬鳳穎安爲上八府。所謂上下八府者此也。按黃河兩岸。淮河四棧。三十六洞。七十二閘。洞洞涵水。開閘長流。半開水。或修或不修。三年兩頭走。此極窮中。昔日喜談之事。近代謬論更多。故不辭繁雜一一考據糾正統希鑒宥。毋責辨毫幸甚。

第十五章 問答要義（假設二個。三房的通字派問答）

（問）貴稱頭（答）（假定）江淮泗。（問）貴字派（答）通字。（或答二十二）。（問）令尊祖。或

貴前人。尊姓上下。(答) 敝家 卽姓某上某下某(生前稱家師。如過方稱先師。過方者已死也。(另詳切口類)(問)令師尊姓上下(答) 敝家 尊姓某上某下某。(問)令師太尊姓上下(答) 敝家 師太姓某上某下某。(問)請問老大貴姓。答者遂卽立起垂手(答曰)好說。敝姓潘(問)請問，還是本姓潘。頭頂潘。(答)頭頂潘(問)老大在幫(答)沾祖爺靈光(問)你老大在會。好說沾點靈味(問)請問老大貴庵(答)黃氏庵(問)請問老大占那個字(答)好說。兄弟占通字(問)香頭多高(答)二丈二(問)香頭多重(答)二兩二錢(問)身背幾爐香(答)二十二爐(問)頭頂幾爐(答)二十一(問)手攬幾爐(答)二十三。問者如詳細盤問時。答者必須先整衣肅立。垂手曰。兄弟在香堂。聽傳道師慈悲。在家子不敢言父名。出外徒不敢言師姓。若有招呼不到。不知者不遭罪(口稱)敝家師或敝前人某姓上某下某，字某某。那省那府。那縣那村人氏。是某幫。(問)請問貴爺爺是那位(答)好說。敝爺爺某姓上某下某。字某某。○省○府○縣○鎮人氏。(問)請問貴師太是那位。(答)好說。敝師太他老人家。某姓某字。上某下某。係某省○府○縣鄉(氏。接近世不良。某有懸問幫名。船隻。旗號。等事。相難。)茲擇一例。列下以供閱者研究。(問)老大貴幫頭何名。幫中什麼旗號。吃什麼水。撈什麼柴。什麼所名。裝的何人糧。糧有多少石。什麼地方卸糧。有什麼記號。幾隻太平。幾隻停修。共計有多少糧船。初一十五打什麼旗。旗上形式。有無飄帶。(答)(假定興武四)『敝幫江准泗分幫興武四幫頭。白旗紅鎖邊。玉色飄帶。紅黑亮月。初一十五打龍鳳旗。玉色飄帶。進京。打五色日月龍鳳旗。』

。出京。打杏黃旗。過黃河。打紅孩兒。金鼻琥珀雀棒。玉色飄帶。三星斗頭。琥珀陰陽所。船五十六隻。兌糧五十一隻。裝白糧六千六百六十担有零。運糧。一萬三千二百担。三隻太平船。二隻停修。在淞江領票。至湖北東門外。小石橋兌糧。吃的梢後水。燒的崑山柴。』如問的人。說不對。即可反問他一句。你老大。有何憑證。（按各家傳說不同。皆因年久。以誤傳誤之故）。（問）請問貴引進師尊姓大名。何處人氏。係何幫頭。（答）在香堂口聽得敝引進師慈悲道某姓。上某下某。○省○府○縣人氏。是○○幫頭。（問）請問貴引進爺是那位。及何省人氏。（答）他老先生○姓。是個雙字上○下○。某字○○某省○府○縣○莊人氏。（問）請問貴引進師太是那位那處人氏。（答）好說。敝引進師太○姓上○下○係○省○府○縣城內人氏。現下移居○府○縣○村莊。（問）請問傳道師是那位。及何處人氏。（答）好說。敝傳道師是個雙姓○姓○上○下○字○○是○省○府○縣人係。（問）請問貴傳道爺爺姓甚名誰。何處人氏。（答）好說。敝傳道爺爺。他老家○姓○上○下○字○○係○省○府本城人氏。（問）請問。貴傳道師太是那位。及何處人氏。陽答答敝傳道師太姓○上○下○字○○係○省○府○縣○鎮人氏。（問）請問老大貴引進師幫頭何名稱中有多少船進京。（答）敝引進師（假定）「興武六幫頭。雀棒上紅下黑。金頂雙飄帶。四鈴鐺。湖北應天紫金所。上為嘔嘔葫蘆。上紅下黑。進京打龍鳳旗。初一十五打黃旗。白領邊。太極圖為記。糧船三十六隻。兩隻太平。三隻停修。三十三隻進京。船名紅繡鞋。裝的正官糧。兌糧。在蘇州關門外。太子碼頭。卸糧。在北通州碼頭。小紅橋地方。用雙風

票照驗。」（問）請問。貴傳道師幫頭。幫中有多少船運糧朝北。（答）敝傳道師（假定）「鎮前幫頭。丹寧所。派船八十三隻。三隻太平。七隻停修。七十三隻運糧朝北。頭船幽銘。雙合海獅子滾繡球。雙龍抱柱。金頂銀雀。扯的杏黃旗。四根月白飄帶。鎮江府丹徒縣本支本兌。揚州鐵林寺轉頭。金山河灣船。通州壩小紅橋卸糧。每船裝票半。每票七百五十石。船名大卡子」若再問不休者。卽對曰。老大你聽清，在外三分安青七分交情。你老大。要提起自己人。祇有出五服的本家。沒有出五服的安青。教多一位前人多一條路。多個兄弟多條膀臂。一師皆師。一徒皆徒。安青有三准有三不准，准充不准賴。准打不准罵。准借不准偷。祇有埋安青的鑿。沒有斫安青刀。若提起道情。兄弟欠學。教絃不盡的安青。講不完的道情，如今金斗不在家。雀擇不貼頭。糧船不行運。兄弟是旱碼頭孝祖投師時來得慌。去得忙。香爐未冷，燭台未乾。賊家師少慈悲。傳道師少教誨。幫中之事兄弟一概不知。望你老大要恕過我兄弟。你老大是幫四衛幫中規矩盡知。要請多多慈悲。（問）老大進幫幾年。（答）好說老大進家七年。（問）何爲七年。（答）好說老大。師訪徒三年。徒訪師三年。進幫一年共合七年。（問）老大你在何處扎根。（答）好說我於某年某月在某省某縣某村鎮。某某前人擺設吉慶香堂。有隔幫諸位三老四少。齊成扎根才進家裏。（問）老大你因爲何故進幫。（答）好說。老大。蒙我敝引進師。慈悲。才得進幫。（問）老大幾爐香進幫。（答）好說。老大我是二十爐香進幫。頭頂某字。身披某字。手拉某字（按班輩說）（問）老大。何爲家裏根本。（答）好說老大。三幫九代船支旗號爲家裏根本。（未上

大香者無三帮九代。對於幫中根本上道法。是不傳的。(問)老大、你上過大香否。(或上過錢糧否)。(答)好說老大於某年某月某日。在某處某地方。某吉祥道場。受過三老四少慈悲。供奉諸祖家師轉求我傳道師。他老人家。慈悲與我上錢糧。(問)老大。幾份錢糧。(答)好說老大。三份錢糧。(問)老大。何爲三份錢糧。(答)好說。老大翁錢糧三祖各一份共有三份矣。(問)老大上大香供奉多少祖師桌上甚麼款式。(答)好說老大上供七尊八利。龍牌聖旨三道。桌上三爐。六蜡。壇香爐中有銀桿五枝包頭香。奉經家法。(問)老大何爲龍牌聖旨三道(答)好說。老大。第一道。奉不孝之子。第二道奉惡霸土豪。第三道奉不守幫規之人。(現在改爲。中華民國萬歲牌應乎潮流)。(問)老大何爲五枝包頭香。(答)好說老大敬學吃怕求五字。(問)老大從何處來。(答)好說老大。遠從浙江杭州來。(問)老大往那裏去。(答)好說老大。長繙通州壩。短繙楓林岡。(問)老大從何處起繙。經過何處。走的何處。(答)好說過狀元橋。出武林門。走的壓吧橋。踰虎嶺。青龍山。左寄龍潭。右竄華山。前紫雲洞。杭州府。家廟起繙。路上走的三關。五壩。七十二個半碼頭。七十二道半關。二十四條半河。(問)老大上通州壩有何事。(答)好說。老大奉命拉糧。(問)老大現在停運。拉的甚麼糧。(答)好說老大。晚生腿短。早碼頭進幫。沾祖爺靈光。借前人的路走。替祖傳道。(問)老大在會嗎。(答)好說老大。會是臨濟會。(長房翁祖在會)。(傳謂是一字金花會)。(問)老大在觀麼。(答)老大在觀不在觀。觀是老官。次房錢祖爺在官。(問)老大。在幫麼。(答)好說。老大弟子。(

或稱弟子）腿短趕不上沾租爺靈光。借前人路走。頭頂潑字。懷抱義字。心存禮字。（問）老大貴寶剝。（答）好說。老大。官剝吏剝安青不剝（問）老大何爲五錢六錢（答）好說老大五錢是仁義禮智信亦是金木水火土。六錢是六氣（問）老大爐有多重。（答）好說老大。接駕爐二斤十三兩五錢四分九厘八毫。（問）老大二斤十三兩五錢四分九厘八毫。是何意思。（答）好說老大。二斤是南北二京十三兩。是前朝天下十三省。五兩是五湖。四分是四海。九厘是九江。八毫是八河。（問）老大。香有多重。（答）好說。老大。有三十六兩重。按三十六天罡。（問）老大。臘台。每個有多重。（答）好說老大。九斤八兩四錢。（問）老大。何爲九斤八兩四錢。（答）好說。老大九州八方四面。（問）老大臘每支多重。（答）好說老大。蜡每枝半斤。按八卦。（問）老大錢糧多重。（答）好說老大。每份九斤八兩四錢。（問）老大。何爲九斤八兩四錢。（答）好說老大。按九宮八卦四方。（問）老大。何爲安青。（答）好說老大。安青是按天庾正供。漕運總督。承運漕糧。出力報效國家。上能裕國。下能便民。三教傳法。卽爲安青。卽是織樹不開花。安青不分家。又謂。安青不分遠和近。三祖傳流到如今（問）老大。安青在何經何典。那三教所傳。什麼根派。（答）好說老大。道分三千六百門。人各有條根。傳流安青。出自佛門。臨濟根派。稱爲代髮和尚。講道德。說仁義。守幫規。學務本。謹遵師訓。名爲在家修行。此道不亂不邪無偏無僻。因時制宜。種種條款。一一指出。卽爲勸善者之雲梯。亦稱超凡入聖之正路也。遵守正道。吃虧讓人爲上。擇其善者而從之。其不善者而改之。正道則進。非道則退。良有益

也。進安青以仁居心。以義治事。以禮持身。以智明瞭。以信交友。謹守仁。義。禮。智。信五字。學聖則聖。學賢則賢。由此可見五字之奧妙矣。（問）請問老大知道白鷹點泉故事否。（答）閣下不要多心生氣。余下稍知一點。在太古時代。夏禹王治水。乃開江淮河濟。使洪水輪通入海。免患水災之故。山東汶上縣。南旺鎮。高於四方。（詳分水龍王廟條）被水包圍中該。一時無法處治。禹王夜夢白髮老人。言名白英。指示開河路線。翌日禹王親自出巡察看。見有一白鷹飛翔頭頂。旋嘴掘地。連點七十二處。禹王覺悟。乃按之開築。得成大功。此之謂白英點泉故事。惟幫中老少。強言硬說。是乾隆夜夢白英。派劉鏞開運河。其謬論無稽耳。

第十六章 各項切口

夫。近代人事日非。暗號隱語日多。不獨秘密黨會。利用切口交通。而商賈小販。均以隱語交易。江湖術士更不須論矣。所謂內行人。須講內行話。譬如。軍中有軍語。電報有密碼。決非不學之人可以知也。俗云。一門不到一門黑。誠然。不學不知。不見不曉。江湖上云。長到老。學不老。還有多少見識未學到。由斯可知。社會上黑幕重重。大有一事一物。一舉一動。皆有代替之暗號密語。鄙人不辭煩雜。茲將各個社會的切口。擇効廣行者。分別略舉一二。以資閱者臨境不迷。略作一點小貢獻也。

清門類

海底（幫中一切規則，切口歷史，典故等類之秘密抄本也。）又曰（金不換亦名通抄。）**孝祖**（幫

也。**前人**（師傳也。又曰老頭子。）**弟老**（徒弟也。）**爺們**（上下談話。彼此之稱。）**老大**（平輩之稱。）**小爺們**（指晚輩之稱。）**老師太**（尊敬長輩之詞。）**沾祖靈光**（在青幫之謂。又曰有門檻。）**難過**（不和睦也。）**脫節**（作錯事也。）**家裏爺們**（幫的人又曰自己人的總稱。）**領人**（收徒也。）**在家裏**（在幫也。）**老的**（指師而言。）**偽幫**（冒充在幫。）**老幫**（資格老者。）**小的**（指徒兒言。）**四衛**（衛是保護糧船之軍衛，言某人在幫很有勢力的。）**會下**（就是名下。）**老幫四衛**（是恭慰在幫年多資深之稱。）**四衛**清代漕運之四大軍衛。（官名）**家裏**是同幫的人稱呼自己。**家外**是不在幫的人統稱。**小老大**是稱本身前人長子。**領人**是收徒也。**還小帖**是前人開除徒弟藉籍。**記名香**上小錢糧之謂。又曰上小香。即記名也。**上小錢糧**是上記名香。又曰上小香。**上大錢糧**是正式入幫受戒。又曰上大香。**斷香**是師徒中途失散。不能完成師徒手續。又曰香斷。**沾鹹味**是表示在幫意思。**小小**是重孫之稱。又曰老法師。**小三**是徒孫之稱。又曰法師。**弟老**是三房徒弟之稱。二房則曰侍奉。大房則名每三。**小弟老**是徒孫之稱。**末弟老**是重孫之稱。**老官**是二房師傳之稱。**過方**幫中人死之謂。**開碼頭**是出門去。有**風火**是有危險之稱。**避風火**避開之謂。**灣船**是停止不走之謂。**三家**翁錢潘三家。**打招呼**（通知也。安慰也。賠禮之意。）**不客氣**（直接言行可也。）**道情**（幫中歷史。及規模也。）**江湖**（空手求財之人。）**老江湖**（久在外奔走之人也。）**放生意**（不正當之營業也。）**軟相**（

和平謙恭之江湖生意。〕**硬相**（以暴道詐財之道。〕**進門檻**（進幫也。〕**相夫**（江湖人也。〕
架相（替相夫鼓吹而又擁護。〕**不相架**（與相夫爲難也。又曰噉相。〕**吃相**（靠江湖人衣食也。〕
 〕**避風頭**（受人告發而逃也。〕**大鍋飯**（聚集同黨也。〕**賭軟把**（以術賭博騙取錢財。〕
開碼頭（出門求財之說。〕**拉網**（僞以喜慶慶吊之請書。宴客。欲人送禮金財物之謂。〕**桃頭**
 （聚賭抽頭也。〕**開銷**（分發賄賂及酬勞同類。〕**開香堂**（又曰擺香堂收弟子也。〕**開山門**
 （第一次收人也。〕**閉山門**（最後收人。自此不再收也。〕**下參**（叩頭也。〕**幫諱**（名號也。〕
幫頭（所占之幫。幫的名稱。〕**家法**（幫中刑杖。〕**幫規**（幫中紀律。〕**孝敬**（押膝之錢。又是供奉財物之謂。〕**上錢糧**（正式入幫之謂。〕**連毛僧**（未上錢糧之稱。〕**上大香**（上大錢糧也。〕**上小香**（上小錢糧也。〕**小條子**（記名牒子。〕**趕香堂**（參加觀禮。〕**保牛子**（保護未在幫之人。〕**小刀碼子**（袖手旁觀之人。〕**同山弟兄**（同門也。又曰同參。〕
 〕**家磨**（訓誡也。〕**隔幫不敘**（比如大房中人。不與二三兩房談道情也。〕**討慈悲**（口頭訓練。即求指導之語。〕**兜得轉**（又曰跑得開。交游廣闊。〕**灣脚碼頭**（即結異姓弟兄。〕**吃閉**（橫蠻無懼。〕**碼樓子**（叩頭也。〕**扒樓子**（以小稱大也。〕**老娘**（大二房老官之妻。〕
娘娘（師之妻也。〕**師爺**（師之師。師之父。統稱師爺。〕**師太**（師之爺。師之祖。統稱師太。〕
親阿叔（師之弟兄也。〕**徒肯**（又曰少爺即是學生之稱。〕**師娘**（師之妻也。〕**大師兄**（師

之子也。〕大師妹（或曰大師姐乃師之女也。〕頂香爐（反對前輩收人。在香堂中將香爐頂去。〕走帮運（子孫興旺也。〕採荷（赴上水也。奉迎權貴之謂。〕赴蟠桃（赴會也。〕

洪門類

背公事（秘密收人也。洪門中之字號大爺也。〕拉拐子（行禮也。〕小噴筒（手鎗也。〕大片子（大刀也。〕小片子（小刀也。〕烘天（炮也。〕春點（又曰切口。即暗號也。江湖各門。巾。皮。李。瓜。等類均稱之。〕種三節竹（洪門三合會收人之謂。〕栽李桃樹（洪門中哥老會。收人之稱。〕斬條（又曰斬紅香非常嚴重。洪門中香堂。宣誓用之。〕困槽子（將衣服什物去當質。〕傘窖（飯店也。又曰紛子窖。〕羅漢窑（浴堂也。又曰開海窖。〕馬子（官吏差役也。〕啞吧窖（廟宇也。〕滾盤子（車子也。〕威武窖（衙門也。〕古子（官也。〕圍夥已（金姓也。〕受薰（吃鴉片煙也。〕燠桿子（烟槍也。〕黃蓮子（茶也。〕勒子（鴨子也。〕底子（船也。〕四脚子（馬也。又曰死肚子。〕橫夥已（姓王也。〕擺夥已（姓俞也。〕跑夥已（姓馬。〕紫夥已（李姓也。〕拱夥已（姚姓也。〕沙夥已（周姓也。〕烟夥已（陳姓也。〕蝴蝶（馬掛。〕大篷（長衫。〕裹衣大篷（皮袍子。〕裹衣大蝴蝶（皮馬褂。〕穿心子（馬甲。〕叉兒（褲子。〕土筒（套褲。〕八狗子（棉襖。〕拖風（棉被頭。〕踢頭子（鞋子。〕頂官子（帽子。〕望鄉子（樓也。〕八面子（風也。〕

(花花子(紙幣鈔票也。)) 寶蓮子(燈也。)) 鵝毛子(雪也。)) 擺清(雨也。又曰掛丁。
 (扇面子(人臉也。)) 爪雞子(手也。)) 金剛子(腿也。)) 定盤子(心也。)) 才條子
 (牙齒也。)) 羅漢子(肚腹也。)) 櫻桃子(口也。)) 踢土子(脚也。)) 招子(眼睛也。))
 氣桶子(鼻也。)) 帥拂子(頭也。)) 順風子(耳也。)) 口條子(舌也。)) 裕子(酒也。
 (粉子(飯也。)) 擺尾子(魚也。)) 江片子(肉也。)) 鳳凰子(雞也。)) 扁嘴子(鴨也。
 (灣腰子(蝦也。)) 溜子(龍也。)) 爬山子(虎也。)) 更頭子(猴也。)) 鵝眉子(月
 也。)) 跳加官(取好於人。俗云拍馬屁。)) 起發(由貧而富。)) 打埋伏(隱藏而瞞人也。))
 找財喜(是我意外之財也。)) 捲旗(即是撒銷也。)) 透開(展開也。)) 開花(罵人也。)) 鬪
 霸(毆打也。)) 叫樸子(調和息爭也。)) 叫粉子(解釋誤會也。)) 報赤壁(復仇也。)) 找
 皮絆(尋事生非也。)) 碰到丁子(遇見對頭也。)) 盤桃子(請人來會。即衆人扶持一人也。
 (占攏(叫人集在一處。)) 跳高(向外交接也。)) 換季(更換新衣。)) 花起來(細縛也。))
 在水邊(困乏之中也。)) 打起發(忽然富貴也。)) 樹上火(身上衣服新鮮闊綽也。)) 樹上
 清秀(身上清潔也。)) 樹上(尤言身上。)) 調將(請人相助也。)) 料高(自誇自大之謂。))
 一槍藥(只有一次本錢也。)) 半壺水(又曰半吊子。即不講情義人也。)) 帶彩(受有刀槍傷也。
 (雙掛號(立等同信也。)) 丟拖(又曰丟點子暗示其意。)) 下卡(派人防守要隘。)) 老裏

(言其假的又曰裏大興。)(**丟當頭**(宣誓也。)(**靠牌頭**(借人之力量。)(**受夾**(受人逼也。)(
在玄(又曰在圈子。洪門中人云其在會也。)(**開光**(洗面之謂也。)(**一根堂**(一人也。多則以
數類推。)(**作擔子**(作喜慶事也。)(**辦指識**(當面介紹也。)(**墊底**(墊資本之謂也。)(

江湖類(巾皮李瓜)

巾行(凡算命。相而。拆字等類。總稱曰巾行。)(**皮行**(江湖。生醫。賣傷膏藥。等類。總稱曰皮
行。)(**李子**(撒戲法者。總稱曰李子。生意。)(**瓜子**(打拳頭。跑馬賽解。總稱曰瓜子生意。又曰
掛子行。)(**黑頭**(字也。即賣字。)(**念課**(病也。)(**麻念課**(治病也。)(**念課響**(病好了。)(
(**鬼頭念課**(瘡疾也。)(**春漢**(賣春藥。)(**六黑**(六壬課也。)(**小黑**(測字也。)(**八岔**(
奇門也。)(**追子巾**(雀鳥腳牌算命。又名雀巾。)(**量巾**(用繩量手算命也。)(**灣巾**(敲鐵板算
命也。)(**斬盤**(相面之總稱。)(**啞巾**(不開口相面。)(**圓頭**(文王課也。)(**八黑**(批張算命也
)。)(**袋子巾**(隔夜算命也。又曰燈下梅花數。)(**草巾**(用草量手算命也。)(**柳條巾**(彈弦子算
命也。)(**夾絲巾**(拉和琴算命也。)(**掛張**(在廟內。或祖屋。出生意也。)(**陽地**(祖屋桂張。)(
陰地(在廟宇內掛張。)(**搶巾**(立於牆邊門首相面也。)(**硯地**(在地上測字也。)(**踏青**(走茶
館測字也。)(**混板**(板上用墨畫測字者。)(**蚰黑**(寫蛤蚧測字也。)(**橋樑**(在露天設台子測字算
命也。)(**藍板**(板上用藍墨畫測字者。)(**嶺**(真也。好也。)(**念月**(無母也。)(**稀希**(小兒也

托爪（手也。）採球子（摸婦乳也。）千張生（鄉間人也。）金鋼子（脚也。）念
 上（無兄也。）海欠（有子也。）珠子（婦乳也。）搔麻子（頭也。）歸帳（被也。）念
 下（無弟也。）念日（無父也。）念（無也。）坤宮（地也。）月宮（母也。）下宮（弟也）。
 官生（夫也。）日宮（父也。）乾宮（天也。）上宮（兄也。）欠宮（子也。）天球（眼中星也）
 天衣（眼中衣也。）點子（瘡也。）市平（抬上設藥瓶。無多者。）捻子（檯上設藥瓶。而並
 有銼鏗藥者。）占谷（壇上設藥瓶。無多者。）推包（手搖虎掌。走街上。用長布招牌。）推子
 （虎掌也。）邊漢（賣膏藥。用鐵鎚自打者。）青子圖（賣膏藥。用刀自割膚者。）龍宮圖（
 賣象皮夾紙膏。）香工（賣膏藥。不取錢。但要香者。）收包（專走鄉間自稱戲子。而治病者。）
 草漢（有攤草藥攤者。）狼包（賣吊虫丸。挂虫于竹竿上。）倒毛水（吊虫丸。不挂虫。先行
 將飯粒和虫或銅錢和啖水。倒在地上。以作嘔吐狀。揚言病者所吐。）根根子（賣參三七也。）三
 光鞭（畫符。用火爐燒鐵條。）劈斧頭（走鄉間。先送符取錢。後向病者詐財。）羽頭子（視
 由科。畫符治病。）患子（血也。）喝患子（吐血也。）瑞條吊（牙痛也。）漢子（藥也。）
 羅漢（賣飯也。）班漢（賣飯也。）引春水（賣春藥也。）追李子（賣黃色起楞頭浸酒可
 治病也。）淒涼子（賣假龍骨也。）梗賬（浸瘡癰。賣春藥也。）超包（敲鑼賣糖也。）小
 包甜頭（預作糖成長段。而臨用鏹片也。）聚麻（先做戲法。後賣藥。）義李子（畫符治病。）

能知病緣。海李子（作戲在茶館內檯上。）湯李子（散藥入水成丸。）招子（賣眼藥也。）彈弓圖（賣膏藥。打彈子者。）甜頭（賣藥糖也。）劉木甜頭（劉藥入糖。當面熬煎。舖貨捻地（空松之藥糖也。）皮行小包（一應賣藥總稱。）做小賣（挂布招牌。專傳授人戲法。）對包李子（作戲鳴鑼。聚衆。吞劍。吃蛋。）烘當李子（作戲法。有婦女頂紅。走繩索也。）末漢（末藥也。）九丁十三參（江湖霸道治病。秘方也。）念希子（米也。）杜琴頭（住客棧也。）念月（無母也。）元良（先生也。）搨戲篷（作戲法。用布圍地。中間另有小蓬者。）銀子篷（傀儡。牽絲。木人戲也。俗名地裏戲。）帳子篷打連箱。人在布帳內唱曲也。邊瓜子（賣拳者。）高架子（傀儡。用小鐵高掛。人居檯下。在布帳內者。）割筍子（賣小西洋鏡者。）青插（做扒手。竊物也。）白懇子（銀也。）皮子（衣服總稱也。）留配鼠（一百文錢。）越配鼠（二百文錢也。）留片詳（一文錢也。）黃懇子（金也。）琴工（洋錢也。）留梗鼠（一千錢也。）留（一個。）越（二個。）汪（三個。）則（四個。）中（五個。）仁（六個。）信（七個。）張（八個。）愛（九個。）足（十個。）配（百個。）梗（千個。）「餘皆倣此類推。」山根生（賣玉器者。）招子包（賣眼鏡者。）冊子（講書也。）邊（打也。）留足詳子（十文錢。）幾足詳子（幾十文錢也。）留片琴工（二塊洋錢也。）班（看也。）開邊（開打也。）描（寫也。）海（大也多也。）失（小也。）

(熱太陽(晝也。))昏太陽(夜也。))鬻頭(鬻也。))龍宮(水也。))哀六子(鬼也。))
 (天王(戲也。))詐子(錢也。))班天王(看戲也。))扇子(門也。))閉(開也。))登
 子(肚皮也。))吊(痛也。))瓜(拳也。))櫻桃子(口也。))桃源(洞也。))苗(線也。))
 (丁(嘔也。))參(瀉也。))千條子(絲也。))搖子(罐也。))汊子(針也。))三光窰
 子(自來火廠也。))希(嘆也。))希筒(牛角筒也。))興興子(當當也。))時工(回却他人
 便手也。))推送(使人無詞而去也。))守土(本地作生意也。))匹琴(分銀錢也。))過賬(開
 碼頭也。))統(借也。))匹(分也。))統詳子(借洋錢也。))訓(相責也。))再扛(假謂
 好處也。))封扛(應人意。進言相攻也。))開條賦(向人借貸。))羅漢窰(浴堂也。))散
 子窰(飯館也。))槽子窰(當典也。))跳窰(妓院也。))快窰(牢獄也。))軟相(專以術
 騙人財也。))修道運(又曰初出頭初出世。作事很好也。))吃相(取相夫之財也。))架相(架
 捧人也。))識相(知相也。))硬相(是公開的江湖生意。看相算命等類。))破相(破相人事也
 。))混老(夢也。))張飛子(橋也。))烘隆(生意好也。))清冊子(說大書人也。))黃
 亡(虛而假也。))回窰堂(回家也。))大興(假的。))爬山子(虎也。))開花子(傘也
 。))千缸(用話打動人。使人就其範也。))洋盤(乃常人非相夫也。))混老脫(配也。))根斗
 子(猴子也。))柳冊(說小書人也。))空子(不在幫人也。))尋風者(用副相。即另用一人

作引誘之贈也。○**樸哉**（用活絡句借用字又名十八條捆仙繩。）○**梨園**（戲館也。）○**閔**（吃也。）○**閔散頭**（吃飯也。）○**觀頂生死**（這個人也。）○**海柳子**（龍也。）○**柳子**（蛇也。）○**才字頭**（稱人之妻）○**才大興**（婦人也）○**多花子**（少女也。）○**蒼才**（老婦也。）○**海**（有也。）○**攀**（女陰也。）○**谷念**（無也。）○**柳葉生**（兵也。）○**金星子**（男陰也。）○**葵生**（秀生以至官長之統稱也。）○**朝陽生**（生意人也。）○**條子生**（販賣婦女之人也。）○**亂巴生**（賭徒也。）○**穿心子**（馬甲也。）○**頂宮子**（帽子也。）○**踢頭子**（鞋也。）○**千筒子**（機子也。）○**喝血**（短衫也。）○**水生**（窮人也。）○**火生**（富人也。）○**水天水地**（窮極也。）○**筆管生**（讀書人也。）○**流巴生**（討飯之乞丐也。）○**大篷子**（棉襖也。）○**板頭子**（布也。）○**汶兒**（褲子也。）○**擺龍**（落雪也。）○**青子**（小刀也。）○**勳筒**（烟鎗也。）○**查飛**（帳子也。）○**工**（走路也。）○**士店生**（死人也。）○**念四**（道士也。）○**穿樑子**（老殿也。）○**抽頭子**（貓也。）○**留于兒**（猪肉也。）○**球子**（圓物總稱也。）○**亮亮子**（燈也。）○**亮工**（逃走也。）○**念三**（和尚也。）○**水念三**（尼姑也。）○**中巴**（烏龜也。）○**疋水子**（魚也。）○**得公子**（鷄也。）○**尊老**（菩薩也。）○**官生**（夫也。）○**滿天子**（霧也。）○**斗色子**（風也。）○**擺乾**（落雨也。）○**審包**（房錢也。）○**青亮子**（茶壺也。）○**漢**（飯也。）○**勳漢**（煮飯也。）○**青巴**（茶錢也。）○**春漢**（點心也。）○**李大興**（假也。）○**拋盤**（偽稱何物利何願賤價讓之。）○**拋錨**（下卡。預作主脚也。）

（滑下去（又曰滑倒。被捕也。）血（錢也。）拋下青龍子（丟下江也。凡下水均是。）

市儈類

開呵（吃食物也。）上搶（尋仇也。）臭子頭（鉛桶也。）財神（又曰娘舅。有錢人也。）

套龍（洗浴也。）背娘舅（騙人入投資也。）括勞（剃頭也。）一只牌（大也。）一只

豆（小也。）一只角（中也。）吃大殺蟹（反拷。）舊貨生意切口數目一二三四五六七八九十口人工比才

傳寸根本金剃頭生意（營業為數甚微。曰剃頭生意也。）打票（至錢莊。匯兌銀票名。曰打票

。）跳打莊（滬上。有一種小錢莊。居然代客出票。惟毫無實在資本。全憑客款週轉。並不入大同

行者。謂之跳打錢莊。）擺丹老（商人。言擺丹老。即拆爛河也。）挑扁担（商人。以商品向

人抵押現金。以便週轉靈通也。）順風貨（奸商。以賤價購得物品。而莫名其貨之來源者。名曰

順風貨。）就地拿（以現款交易。然毫不得拖欠。曰就地拿。）步步緊（交易成就。不取現款

。訂明分期繳納。曰步步緊。）長短（市儈之言長短。猶言多少也。如言某物須要水餅長短。不言必

要銀元多少也。又每銀十元。曰水餅一兩。每銀百元水餅一斤。千元一担也。）圈圈（周回之意也。

如言一年。曰大。名曰打棒。）圈圈。一月曰小圈圈。）打棒（對於不相識者。談話。以便脫售貨物

野雞生意（當日不做此項買賣。偶一為之。名曰野雞生意。）箱書老蟲（鼠在書箱無物可食。

野雞生意（當日不做此項買賣。偶一為之。名曰野雞生意。）箱書老蟲（鼠在書箱無物可食。

只可食膏。俗稱。書一冊爲一本。商人自噓坐食資本。曰膏籍老蟲。

私販拆白類

走砂狼（販私盜也。）**狼家**（販賣婦女幼童之稱。）**開條子**（販賣婦女。）**花路**（娼門也）**下土**（賣於鄉村中也。）**配親**（賣與爲妻妾僕役也。）**回爐**（妓女從良。復爲娼也。）**沐浴**（先爲從良得錢了解債務。後借故離開。復又嫁人。或自主。近世妓女。都如此。惜色迷者。不知其僞。）**亮的**（又曰燈前明也。來去清白。有親族主持。）**黑的**（又曰燈後暗也。善誘騙拐帶之婦女幼童也。）**來手人**（說合之人。即販賣人口之經紀人也。）**駁張子**（因被拐婦女幼童。恐被人盤問。露出真情。故駁張子。即教授說假話也。先以利誘之不從即用恫嚇手段。必使就範而後已。）**橫頭錢**（販賣婦女之中用錢也。其他事項之中用。亦曰橫頭錢。）**白螞蟥**（專門販賣人口之經紀人也。）**討賬**（買來的。）**代賬**（妓女以身借貸。合作爲娼也。何時還本。何時自由。）**包賬**（承包幾年。期滿。方能解約。）**斷賬**（賣斷也。永爲受者所有。）**贖身**（以售價之款。贖取自由。）**押賬**（以身押款若干。爲娼幾年。期滿方能自主。）**拆賬**（限期內。營業之收入賬互相分拆也。）**細賬**（活期押與妓院。限期滿後自由。）**放條子**（專門放婦女。僞賣於人。或妓院。六個月後。該婦即行逃之。）**放白鴿**（與放條子同意。）**賣漢火**（漢火毒藥也。私販毒藥統名曰漢火。）**拿攀法**（女陰。切口爲攀。交媾切口。爲拿攀。賣春宮者。統名曰拿攀法。又名軟賬。日漢火。）

（**嬰花子**）（鴉片。取嬰花汗。提煉而成。凡販鴉片土者。統名曰**嬰花**。）（**滾子生意**）（販賣紅丸金丹者。製造者亦同此名。）（**蔡陽**）（彼云昔年關雲長過五關斬六將。蔡陽爲六將之一也。私販。謂關卡人員爲蔡陽。如言某處蔡陽。去通關節。即言某卡人員。已通關節也。）（**坐底子**。坐轎子）（由水私運曰坐底子。由陸私運曰坐輪子。）（**放花**）（私販物件。被關卡扣住充公。名曰放花。）（**板頭行**）（板頭子。切口綢布也。凡私販綢布者。統名曰板頭行。）（**騎青牛**）（私販運物。安然渡過關卡。名曰騎青牛。）（**救命圈**）（私運物件。若被關卡查獲。即行賄賂。名曰救命圈。）（**玉盤**）（拆白黨。見富有之婦女。爾足以有術勾引入教者。謂之玉盤其進行勾引之手段。則爲吊玉盤。）（**哺豆牙**）（拆白黨。如遇經濟困難。只得將一人。長衣當去。化用。命其一人在棧房內哺豆牙。哺豆牙者身無長衣。日以被中之謂也。）（**掬鋼叉**）（吃盡當光。將身上衣衫當質盡淨。謂之掬鋼叉也。）（**擒把**）（拆白黨。找錢名曰擒把尋到錢。而分販。名曰匹把。）（**抱腰**）（抱腰拆白黨。互相援助。曰抱腰。）（**背阿大**）（女拆白黨。謂男子之多財。而易於勾誘者曰阿大。該黨實施誘人。謂之核背阿大。）（**有風頭**）（有人欲控告也。）（**石頭**）（小孩也。）（**條子**）（婦女也。）（**打水戰**）（窮困也。）（**戲牌頭**）（以別人之勢。以壯己威。又曰撐頭。）（**開條子**）（販賣婦女也。）（**打炮**）（白日行淫也。）（**搬石頭**）（販賣小孩也。）（**開門口**）（役妓院也。）（**對光**）（折白黨入手之時。即見功效。謂之對光。意謂兩方目光相對也。）（**合串戲**）（女男折白黨。共同誘騙人財。謂之合串戲。）（**後台老班**）（折白黨中

有之勢力者。其他黨員。多聽其指揮。謂之後台老板。

螞蟻王（男女拐匪之領袖也。）

通（拐匪之幫忙人也。）

一盆花（被拐之女。養在家曰一盆花。）

遮得密（與同黨評判婦女醜美價值也。）

東流水（將婦女以售出之名。）

一口吞（拐匪將婦女賣絕之稱。）

見世面（拐匪將婦女送入妓院也。）

大家胖（將婦女售得之錢大家分用也。）

過昭關（挾拐之婦女送出口也。）

母舅反臉（拐案敗露。人被捉去。吃官司也。）

反牛口（拐匪在法庭。供詞狡滑也。）

棺材釘（吃官司辦定期也。）

拍灰塵（拐匪被責打。被私詐刑拷打曰吃黃連。官方受賂。責後釋放。即曰拍灰塵。）

送波羅（將甘言誘惑婦女也。）

齊根起（婦女已拐到也。）

斷藤繩（得而復失也。）

咬舌頭（同爲拐匪。從中作梗也。）

途三更（痞棍知匪。拐得婦女。來敲詐之名也。）

賭博類

挑頭牌九（邀人聚賭抽頭也。）

將軍（骰子也。）

揚方（假骰之一惟稍扁也須功夫不變）

節筒（偽骰子中之黃金者。可運用八功。遂意而出點子。）

獨門（偽骰中之一種。與出一色。必須另有一真骰作替身。）

替子（即真實之骰子。名爲替子。）

對筋（竹牌上筋紋相對。計三十二張。有十六個樣同。）

亂筋（三十二之筋紋不同也。）

頭花（竹牌頭。用針或他物。作一記認也。）

邊花（竹牌邊上作一記認也。）

恨斑（用顏色之斑。在牌上作一記認也。）

看生配（任何牌。可識也。此非一日之

功。)(頂門掛(亦牌頭作記認也。)(叫張(二人耍牌也。)(敲更(四人看牌。另一人在旁邊傳信也。)(代重頭(另濟一張牌。作替換也。此謂武場先生。)(取本土(不須另外帶牌。祇在原有之牌內掉換也。)(起霉張(麻將中常用在自己打出之牌內。偷換一張也。)(扶琴(扶琴兩人結合。用密語。或各種手法耍牌也。)(起牆子(將牌密置如牆。用骰子開門。本人可起大牌。)(發地雷(用脚傳信耍牌。)(盤角(桌角坐二人。秘密傳遞二家之牌。)(掌心雷(手中藏一張牌也。以備掉換。)(脫龍梢(在牌尾偷牌。能還原。)(敲張(秘法贏牌。)(燥面(假骰子之一種。兩湖人賭單雙。常用之。乃聽聲音。可知單雙點子。)(擋拖(以言語搪塞也。)(起臭子(偷熟牌也。)(釣魚(偷生牌也。)(上雲頭(與偵班同。)(小加三(原設法認識。)(大加三(定製假賭具。)(上賬(牌九作上莊也。)(下賬(在下面拿賬。)(發拖(暗示也。)(郎中(賭徒中之有法術者。能運用眼力手法。賭必贏之。名曰郎中。)(倒脫靴(設局誘賭。用賭術騙人財物也。)(妄貨(賭徒作弊曰妄貨。)(頂板(賭博並無弊竇。名曰頂板。)(賭象(久賭成癖。而又精賭術者。)(媒子(為賭徒幫忙。誘人致賭也。)(挑頭場(每年新正。一般輸了錢的請牌抽頭。無一定地方。名曰挑頭場。)(總小(為賭場幫忙人之酬勞費。名總小。即俗挑小頭。)(賣(賭徒結為死黨。凡非黨人與之賭者。必用法術。譬其囊裏。名曰賣。)(耍(譬如黨與非黨賭。黨中人。既有大牌。適缺某張。不克成對。成順者。則施其動作符號。執有此張之黨人。即以飛張送之。名曰耍。)(飛張(由彼方

飛到此方之謂。有台下運遞。又輪遞之法。帶（賭徒夾帶賭具之謂也。）叫（向同台賭者。以秘法要之也。）照（以平面極小之鏡。置諸掌心。執牌時。目注掌心牌。即見。人不覺也。）天開眼（拍面上以暗包爲之。局中人一閃眼已了然。胸中不察者。熟視無恙也。名曰天開眼。）蛤蟆來（匪徒知照同黨曰。蛤蟆來矣。蛤蟆者。指捉捕人也。）新弟兄（賭徒引入入博場。謂其同黨曰。此是新弟兄。君須善視之。其人不察。以彼等優待。熟知賭徒之謂新弟兄。即不精賭術者。）紡棉花（作的歇事。偽賭騙財。）拿張（主使用偽局騙財者。）亮公（使人不疑。僞示正大）

盜竊類

操股子（打官司也。）通監（通勸獄卒之優待。）通風（送信也。）佛壽（以錢財贈送差役之謂。）看金魚（凡不通監之犯。置于獄中之尿坑處。）對買（以空手巾包。換人銀錢也。）探底子（在船上挖包之竊賊也。）闖審堂（白日隱身在人家竊物也。）劈堂（殺人也。）放人（暗殺人也。）開花（分贓也。）上雲頭（畫花面也。）水蛤蟆（水巡捕也。）相腳頭（盜匪看路道。）蓬索（衣飾也。）鵝場（擄人收票之地。）養鵝生意（票匪也。）鵝閉（綁票也。）文差事（串徧也。）武差事（搶劫也。）避風頭（逃走也。）虫蟻子（無用人也。）得水（得了財也。又曰打起發。）石獅子（看門巡捕。）子仙繩（手拷也。）豆腐干（擄也。）步線（腳線也。）旱烟袋（撻棍也。）游花園（牢內散步也。）

看野景（又名望城圈。即匪被殺。懸頭示衆。）
 磋頭子（獄中犯人。以紙取火之謂。）
 光頭（自來火頭也。）
 滑板（洋火砂皮也。）
 銅匠老板（上鑲也。）
 跑大割（即人送傳也。）
 匹大割（寫情開條賦也。）
 脫稍（犯人刑期已滿。出獄以謂。）
 初差（初入獄也。）
 老差（常到獄中之老犯人也。）
 老四（老吃官司人也。）
 袋鼠（保釋人也。）
 失風（破案被捕。）
 抗風（抵抗官兵拒捕。）
 告一狀（扒手也。）
 五將軍（手也。言手保護袋也。）
 開天窗（將人衣服挖破。攫取錢物也。）
 康熙皇（用錢磨得如刀。破人衣服之利器也。）
 彎耳朵（扒手藏有剃刀。專爲截斷表鍊等物用也。）
 頂飯盤（扒手借錢。給同黨用也。俟扒後加賄要還。）
 傳子孫（扒手領徒弟也。）
 道規（扒手首領。所訂各種例規也。）
 看操（小扒手偷得錢物。應送首領分派也。）
 晝卯（扒手竊物。有一定時刻也。）
 土台掘（挖掘人家土窖。隱入竊物也。）
 挖桃源（掘壁洞也。）
 攢布袋（南方竊賊。掘壁洞之切口也。）
 明巢（大胆入宅竊物也。）
 置台（以自己之物。藏蓋他人之物。竊取也。）
 萬引（以物藏秘也。）
 隱拋（將竊之物。拋置隱處。代防人搜查也。）
 搭台（串同設局騙財也。）
 燒路頭（事逆手。殺一禁之謂。或用香燭神紙焚化。）
 聯當（又曰聯黨。串同騙財。）
 窠裏炮（同局之中相吵相鬧。）
 搭山頭（故意向人白話。）
 老鍾（又曰鍾巴生。久作搶劫。）
 燈花（黃昏時行竊。）
 露水（天明時行竊。）
 登雲（上房行竊。）
 發扇子（盤門也。）
 劈扇子（劈門也。）
 橫燈蛾（初曉時入人宅行竊。）

余條（自己下水也。）拋臭子（出賊也。）搪拖（詳作不知。故意掩蓋。）架子樓（又曰高涉行。收賄賂販賣。）跑混子（在街上行竊也。）跑滾子（乘車行竊。）掌桿（主行其事也。）舵把子（盜賊之領袖也。）洗（殺頭也。）體書（在押吃官司也。）頂頭子（替犯罪人吃官司）過比（官司勒限破案。差役至期不獲。而責之謂）邊風頭（盜竊手下之使從。又名。小象。又曰小偷淘。）豆腐板子（前清有竹板打屁股之刑。）敲生意（差役。向江湖及饕餮兩相。索賄之謂。又曰找開銷。）慙皮（窮乏無聊之輩。）上新差（拷詐新犯之財）毛布頭（獄中犯人之領袖）橫風（差役與匪通也。）掛號（新到之匪。必先刺差役處報到）銷號（凡離碼頭他去。向差役辭行也。而事辦到亦曰銷號也。）混水碼頭（地方不清。黑幕盛行。差役與匪通也。）清水碼頭（地方安逸。盜竊不生。差役廉潔也。）放水（送信於對方人也。）吃豆腐（欺壓無能人也。）撲風（盜匪拒捕也。）丟拖（遺禍於人也。）裝木鈴（偵探自稱也。如同其同儕曰某界現於木鈴多少。即於探夥多少也。）裝木爬弟兄（偵探。稱強盜為硬爬弟兄。）長江弟兄（偵探。稱輪船上之跑底子者。為長江弟兄。）單面照會（過犯也。）闊克雷（命其同黨。迅速辦事。曰闊克雷。）硬過門（如有某甲。素安本分。偵探搆成空中樓閣。偽造証憑。栽贓誣陷之意。）裝箱頭（偵探。誣指人犯罪。捕而打之。硬逼口供。）短可接（云可增加也。）翻門檻（誨約也。與前題不同。另作一說。）百

結（鋪蓋也。）散頭子（飯也。）通相（是知各相內容。而不作相夫也。或與相來往。）放籠（洩露秘密。報告人也。）割腰（竊賊也。）拉台子（請客宴會也。）拱火底子（炮船也。）堂食（飲食也。）相公（昆精也。）赤壁（受過也。）皮條子（中國巡捕也。）烏木桿子（印度巡捕。）火腿繩（專好逢迎之人也。）老虎皮（軍服號衣也。）掛朵子（幹有差事也。）財頭（空子）

窮家行類

頂鬚頭（各樣器具頂鼻子上。向人討錢。又曰西行。）送出（賣耳挖者又名色聞。）杆子（衙頭也。）元字（地甲。）疊金磚（窮家行之一也。用磚錘胸擊頭。向人討錢。）盤花杆子（舞蛇頭。）釣金鰲（用線吊一物於舌上。或頂上臂上等類。）策份一（用刀斫破頭也。）按（窮家行之技術。計有七十二行。又分東西兩派。另詳於社會秘密日記之江湖類內。）「以上所述。為近世秘密社會中通用之切口。本辭故從略。其各個的黨會之特種切口暗號。搜羅千種。分門別類。另行詳述。舉中國秘密黨會全史。及洪門秘笈。希愛閱者諸君。購閱。方知近代有萬般社會。各有各的背景在也。而又各有各的符徵。其所謂秘密者此也。茲特介紹。凡關心社會者。希毋輕視。是為幸」。

回教類

（俗語儀規馬錦訪君來稿）

爸爸（祖父）太太（祖母）益馬勒（道德也云人死無益馬勒不見聖人）。多司弟（招呼也表示是教門）。聖人（回教教主也名穆罕默德）。顧那海（罪過也代死人贖罪曰向聖人顧那海）。亡人（死人也）。川布（纏死人之白布）。羅候（鬼也）。槨（棺槨也。惟三面。如一長方單子。五塊板。無有底。回教本土葬。因防地下水。而用之）。池（人死用之裝尸。如盒子。底活的。到發將底一抽。死人入土棺。此物名池。禮拜寺則有。爲人死必用之物）。棒兒香（敬聖人用的）。壽香（敬亡人也）。盤香（亦是敬亡人按例點四十天）。油香（有二種一用糯米做是病人許願病愈以此了願似慶賀重生之意。一用麵粉做是人死請老師念經。做此油香以慶亡人升天爲聖之意）。了意（許願了願也）。沙依勒（乞丐也）。支干（謝聖人也）。人死七天內。將每天供飯。給沙依勒吃。名曰支干）。做支干（請老師傳念經也）。口喚（聖人教之也。凡無口喚之物不食。云無口喚之物污穢或爲偷竊）。交歡（男女結婚由老師傳證明）。換水（未結婚前沐浴）。大洗（洗全身）。小洗（洗七竅也）。

「按回教每逢三五七。誦經。或十天。一百天。一週年。三年除孝。每逢年節。誦經名曰謝主（聖人也）求福曰做支干經名下度經。亡人經等稱死人用棉花洗。男尸由老師傳洗。女尸由師娘洗。送葬用傘及香亭。用香不用燭。凡無翅之物不食。如蚌螺絲黃鱸脚魚皆不吃。豈獨豬也。回教徒云。豬爲忘恩負義之最情意。最污穢動物故不食。自唐太宗時人中國。（另詳中國秘密黨會野乘）因功

賜名。清真教。禮拜寺又曰清真寺。教義與耶穌教彷彿。回教國如土耳其是其一也。東西各國。皆有回教徒。惟不與教外開親結婚。子女隨父母信教徒。非儒道佛耶可任人自由進教耳。而教徒叛教者則無。實較任何宗教高一籌也。參閱回教經典。即知一切。

第十七章 芻言

按清門中云。有親銀親。有友銀友。無親無友。方銀安青道友。以此數語而論。即可概知在幫之人。仍應先序五倫之親。如無親友。才銀到安青幫中大小。照這一看。很明白的。是主持道德。爲一般無依歸的孤苦伶仃人們。謀幸福作保障。誠然。不枉普度衆生之意義。茲將幫中俗語。略加管見。列舉於後。

前人領進門 交情在於人。（進幫。是求道義上的指導。所謂代幾修行。不可依前人勢力。欺人。且終有離開前人的日期。故曰交情在於人。是要自己前去努力。）三分安青。七分交情。（安青三分是講道義。七分是靠自己修行。俗云。種善善報。種惡惡報。自多少交情於人。人必以多少情義報之。）千金買不進。萬金買不出。（要遵重幫規也。不可遂便。就可進幫出幫的。昔有徒訪師三年。師訪徒三年。現今此制已壞。尙望幫中最好毋濫收。）只有狀元學生無有狀元師父。（青出於藍。青勝于藍也。俗云。後人要比前人高。方是男兒大英豪。）安青不分遠和近。（是說不分長二三房。以及隔幫也。）窮安青。富道情。（

安得講仁壽。不講富貴。幫規輕如鴻毛重如泰山。（是說。幫規很嚴厲的。不犯則輕。如犯則重。）不來不怪來要受戒。（不在幫則已。既在幫。應守幫規。違重道義。）光棍立如松——坐如鐘——行如風。（是說在幫的。要講品行。一切行動。都要保存禮貌。有理光棍。不作無理勾當。（即不作無理的事也。）光棍不在大小。只要頭得好。（輩分不在大小。只要有義氣也。）光棍以禮爲先。（不論何事。以禮讓當先。）光棍能殺人。能救人。（能救人于水深火烈之中。能救人于銅牆鐵壁之內。）光棍不交無益友。（無益之友。交之有害。）光棍知道光棍苦。（是勸在幫的人。毋尋同道的過錯。凡事都要原諒。）在幫方知幫中難。（如失了業。或受窮困。實有惡負環境難處。凡不在幫的人。決對不知在幫的苦。）在家不打人。出外無人打（是教人。講仁義。對于外埠旅客。異鄉人們。要格外看待。不可欺壓。將來出門。不獨無害。且有許多便宜。）光棍私德。以簷前水。（能敬上愛下。子孫也能照樣仿行。如屋簷之水。滴滴入舊窩。決不會錯的。俗云待人好即待自己好。）光棍劈竹。須愛筍（凡事須留餘步。毋辜累別人。）光棍點到而知。空子棒打不退。（光棍見機應變。空子不聽人勸。）光棍受教不受壓。（倍不受任何壓迫。）吃一根魚翅。拖三年航船。（就是受人點水之恩。必報湧泉的意思。又如沾染一點污班。要留千古遺恨。）三年河東。三年河西。（人窮富。不是永久不改的

•俗云。窮無根。富無苗。三年河東爲舊戶。後三年到河西求食。故勸人修德爲本。•請將莫如急將。•（這是一種詭術。用言挑剔。使人自去爲之。如論道義。應當戒之。）老虎下山拜土地。強龍不壓地頭蛇。•（言初到一個地方。須先結交當地之人。以及凡事。都要讓當地人居先）安清許充。不許賴。•（只要三幫共九代。）（是講在幫之人。不可不認長上。蔑視一切。不論前人如何困窮。都要恭敬孝順。）光棍有四得。•（要苦得。受得。窮得。富得）光棍要兩清。•（財帛分清。女色分清。）光棍有三讓。•（讓老。讓小。讓婦女。毋與爭論。）三家賺錢五家用。•（意爲錢要公平用也。）字大人不大。字小人不小。•（是教人。毋自大自鄙。應有正氣。）頭髮縛老虎。情理服人。•（是遵法。講理。論人情。不是恃蠻橫行。）光棍賺錢大家用。•（要均等分配也。不可一人獨得。）光棍進門看臉。出門看天。•（要識人事。要識天時也。）光棍不用背後錢。•（是不用事後的錢。）真光棍不擋財路。•（不必阻攔。別人生財之道。）真光棍不阻色路。•（毋阻攔。別人戀愛。）先清後洪。名曰鯉魚變龍。•（是說以國爲家的行爲。）先洪後清。名曰知機達命。•（是說皈依佛教之道。）鐵樹不開花。清洪不分家。•（清洪兩幫。都是保國護民秘密團體。應視爲同仁。共同奮鬥。不能異視。爲敵爲讎。）有洪有清。才成革命。•（深知一切社會情形。方可言改革事業。）天下烏鴉一般黑。•（是天下光棍人。皆是同一個意

思。故曰光棍愛光棍。惺惺惜惺惺。）

光棍不占無理之地。（是不做違理背義之事。）

光棍要占碼頭。（是在幫的人。應占在水陸交通要埠。做一件事業。尤要得地方人士親善。

故曰得天時。地勢。人事。三和既得。當然名立功成。）

識相不識相。全在招子亮。

（是說。眼睛應識事識人。不可藐視一切。）

光棍須戒三椿事。（吃嫖賭本人生樂趣之事

以呈過分之貪。而免墮落也。）

願扶青竹竿。不扶乾大腸。（善輩幫友。難免有杖談行

俠。代抱不平之事。但須慎重而行。如所助之人。如青竹竿之挺立可扶則行。如乾大腸之軟弱不可樹則止。否則必定吃力不討好。及爲所累。不外光棍眼竿之例也）

願替光棍背包。不與空子

同道。（光棍人做事爽快。是有決斷的。與之共事。縱受點小害。是有感報的希望。如替空子同道

做事。是成則無功。失敗有過。且多後悔。怨天怨地。）

祇有千里交情。沒有千里威風

。（凡人以仁義行天下。到處無害。如以力大強暴不仁。到處都要吃苦。是不通行的。）

千里不

帶柴和米。萬里不帶燈油錢。（是講學問是寶貴。與在幫的義氣一樣。走到天下。都有

人接待的。如在家不交人。則出外無人交也。凡有真學問的。是不帶錢出門也。）

光棍吃肉毛

朝裏。（光棍人吃了人的苦。是不說的。乃忍氣吞聲也。）

孫子有理服太公。（幫規是一

律平等待遇。不論何人都要遵守。如有犯了幫規。是一樣的嚴辦。並且有孫子可質問祖爺條例。不過只准口上和平質問。不是打罵犯上的行爲。凡我幫人注意。）

光棍頭上有風車。（識時事也。隨

風陣花處事。是相歸皮皮歸水。（相夫皮水已詳於前。任何相夫。會賺錢不用。生了病不能

不要醫吃藥。醫生又將錢送給女人用。那就歸於水了。是勸人毋將錢太看重。）萬相歸鸞鸞歸

娼。（相要賭。將錢送給鸞把生用。鸞要嫖。就把錢送給娼門用。）皮絆皮絆。三年不談

十年不爛。（是有何糾葛。一天不和解。是仍然存在的。總以解決為良。）人空心不空。

（俗云。人空心不空。乃人不在幫。心能知幫中諸事。如誤認空子不懂陰陽變化。目空一切。恐事出意外。不及防範。就要被害。那時才知空子厲害。宜慎防之。）許願須還願。許願不還立

見災殃。（世人不可許人的財物。許之必須履行贈之。如不實行。必致不睦成仇。結果必有禍事相

生。）鐵樹不開花。安青不分家。（天子下清門弟子。俱是一家。何必分門戶之見。）江

湖三代無老少。（是言。處世不應自大。自大是臭字。凡事都要謙恭相讓。）光棍無錢常

帶孝。（乃避兔人。輕視之計。故常穿孝服。使人不知其窮也。）光棍避困常出門。（

常常出門。以免人議無業。且可得人迎送機會。）光棍常思已過。（閑座無事。自己細想所做

之事。究有何過。有則改之。無則加勉。）是相不開口。神仙難下手。（凡事不亂開口。

人必不知知弱點。縱有窺窺者。亦無法下手也。）光棍軟如棉。空子硬如鐵。（光棍作事

。凡事和平。見機進退。總無大功。亦無大敗。空子作事。一味任性猛進。不受忠告。不納人言。終歸

失敗。自尋苦吃。）光棍三場勿到。（火場殺人場。喪會場。免惹意外禍殃。）光棍窮急不

當衣。（長衣不可當質。短襖不能見人。）光棍氣死母告狀（俗云。告官由官。官斷十條路。九條人不知。總宜息訟爲善。古人云。奸人不告狀。）光棍背後要人罵。當面要人怕（是以大義行事。幹作幹爲。）光棍閑談不提人非。（談話。莫說朋友之過）光棍教徒如教子（子弟行爲言語不好。當面糾正之。毋姑惜寵愛。養成伊之大惡。）光棍勸人如勸妻（夫妻間。重愛情。如有不良之虞。暗中勸之。要保存他的廉恥。否則羞惱成怒。反生大害。）光棍借錢不借路。（又曰。應送十串錢。不送一句言。）（不借路者乃防止人有問路斬樵行爲。）光棍請將要謝將。（請人幫忙。不論事之成敗。都要酬勞相謝。否則必有怨言。）師徒如父子。（師徒如父子一樣。同在五倫之列。要父敬子孝。師友弟恭。）同參如手足。（同參乃一師相傳之弟兄也。亦在五倫之內。宜兄寬弟忍。以行仁義事。）真光棍不交貧婦人。（不與窮極無賴來往）光棍投師是尋生路。無力量莫收徒。（拜師是求生路。無力切莫收徒。誤人誤己。）光棍大要人鷄。（俗云。花花轎子人抬人。大光棍。是小光棍總起來的。俗云。人鷄人無價之寶。水鷄船波浪上飄。）光棍人怕三敬。（受了人的敬重。任何事都可負責去作。）光棍受打不受罵。不受人辱。（故幫中有船頭打架。船艙說話。俗語。）光棍人五子要清潔。（註）鞋子帽子襪子褲子褂子。光棍不言飢寒。（不向人說自己苦處。）光棍做事四方圓。還要帶腰子式。（教人圓滑應事。勿堅持一人之見）三年可考一個舉人。十

年難學一個光棍。（言光棍。較舉人難作也。）光棍要名不要命。（命祇一世名可萬世

人生能活幾年。如能成名。雖死猶生。故光棍人。輕生命。而重名義。就是要求一名垂千古。）光棍

可大可小（是求實事。不要虛名。故做事不開大小。都要做的。是免座吃山空之害。）光棍能

屈能伸。（是說光棍人。能受辱。能伸雪。故有三年吃個糞子。五年才吐核。又曰。光棍不吃眼前

苦。）光棍無事幹到處找皮絆。（因無事做。要到處尋事生非。幫人應痛改之。立求正當出

路。不必計較大小好壞。如實無事可做。不妨換個地方。再去謀之。）光棍手內好拔刀。（光

棍人做事爽快。祇要說明。都可做到。）光棍三怕三不怕。（怕誤死。怕生病。怕做錯事。不

怕因正義而死。不怕惡勢力之上。不怕窮斷筋骨。）古云好事胆不可小。壞事胆不可大。）有事毋

怕無事毋尋。（事是非也。有事臨頭不可怕。怕之無益。無事時。不可生事招非俗云多一事不如

少一事爲安。）忠義之士不怕死。（爲大義而死。殺可成仁。）廉潔之人不愛財。（古

云。橫財不發命窮人。）君子愛財必有道。（應得取之。不應者不要。）小人被財驅使

。（小人只要錢。任何事。只要有錢就做。）錢爲人所用。人不可爲錢用。（錢是社會上代

臂之物。貴在流通。不是收在土裏的。應拿出來做點事業。凡人不可受人之錢。行不義事。應以仁義爲

主。無錢也要幹去。）一處能求人萬處能教人。（同一人叩求學問。學會之後。有千人萬人向

你求學）既借之要捨之。（借之不要必還。要還不必借之。）既教人勿望報。（光棍教人

。不求人報酬。天然自有好處。如向人索酬報。乃失去佛祖濟世慈悲之心也。不獨無好處。而反成怨生仇。醜妻陋田無價之寶。〔妻醜無人垂涎。陋田無人爭奪。可永久爲己有。〕濫交朋友有損無益〔交友不可濫。應選擇而交。既交了朋友。須永久以仁義待之。〕士可殺不可辱〔世上讀書人最狠最毒。須要留心共事。古云殺之可。辱之不可。此乃防彼暗害。〕古云筆如刀也。近代文人。尙用袖中之刀。更加陰惡。務要謹慎。防之。無米不留客。〔無力量。不要担任人事。恐作不到。反使人怨。〕病急勿薦醫。〔凡人病重。不必薦醫。恐薦病者死。〕小不忍則亂大謀。〔小不忍。必壞大事。〕破船勿攬重載。〔船破已險。如再莊重物。必會沉沒的凡人作事。須自量力而行。不可貪功任性。魯而無厭。〕身不入官無家之寶。〔俗云。有子萬事足。無官一身輕。〕行動三分財不動財不來。〔是勸人。勤勞耐苦。不可懈怠。〕重寶之下必有勇夫。〔任何事。如能懸之重賞。當有投効。〕良藥苦口利於病。〔藥是味苦。要病全瘥。苦已要吃。病方可好。〕忠言逆耳利於行。〔好話不好聽。但是利於行事。雖惡聲。亦要聽之。力可成事。〕奢侈乃貧乏媒介。〔人好闊大。不自量力。終於破產受窮。〕勤儉乃富貴之門。〔勤可補拙。儉可成家。久則富貴。〕望梅何能止渴。〔凡人不可望人相救。總要自己奮鬥。〕畫餅不能充飢。〔凡人。不可依靠人力量。爲得計。要知實力在人。終無主權。還是自創爲是。方不失授師孝祖的精神。〕君子以德待友。〔以好事善舉待友。引友入善。〕

境福門。小人以色敬人。（不可以財色敬友。路友於不義之地。）君子交友淡如水（一天。十年。都是一樣。俗云。淡淡相交。）小人交友親如蜜。（小人初見。恨之相見太晚。親密異常。結果變親為疎。反恩成怨。）盜爲標上君子。（盜有扶危急救之心。故稱君子。）若要進幫。須先明白在幫利害。（不知利害不必進幫。）在幫言幫須知幫規。（是在幫的人要守幫規。）師之敬之才有人敬。（既拜這人爲師。必要恭敬這人。）既收這人爲徒須栽培這人。（既收爲徒弟。必要攜帶他。方不失作師的資格。）狐假虎威終有禍。（不可借勢力欺壓人。）收徒不濫方有高徒。（須慎重而後收才可無後悔。）貪官比強盜不如。（強盜劫財。搶的現金。貪官詐財。連田地。房產。子女。都要賣完。仍不能休。故曰比強盜凶世人當本此意。）人窮志毋窮。（人窮。是一時的運劣。志窮是終身大害。凡人應作逆來順守之道。）勤能補拙儉可成家。（勤學勤工。就可補拙。省吃儉用。就可成家。）明哲保身知機而退。（是勸人要急流勇退。如能學張良一樣。方免受韓信之禍。）老練治世和平當先。（凡事都能和平。可稱老練之士。）文不借書武不借將。（不借書者。是防洩露。恐人偷學其法。不借將者是防自己力量分散也。）能遭人忌必是良才。（凡有忌妬人。必是有用之才。須要以道義輔之。方可免害。）能受折磨方算鐵漢。（能受一切痛苦。纔有成就之日。）怨家宜解不宜結。（俗云。恩人以多爲妙。仇人以少爲宜。恩人雖多無害。

然怨家有了一個。就要傾家破產。且有生命之虞。云云。世人應本此意。切勿輕予開罪於人。）**敵可化仇亦可解。**（昔。岳飛曾云。化敵爲友。根本制勝之道。以德待仇。仇人感德。必以死報德。故王佐斷臂。促成武穆戰功。）**聰敏人應學糊塗。**（鄭板橋云。難得糊塗。是勸世人。毋以聰敏用事。凡事宜退一步想。放一著看。不獨當下心安。而後福愈大也。）**知恥近乎勇。**（人能知到羞恥。必不會醉生夢死。任人宰割。）**有志竟能成**（俗云。天下無難事。祇怕不用心。如人能抱定主義。立志求進步終有成功之一天。）**灰心是自亡之病。**（俗云。失敗是成功之母。世人不應因失敗而灰心。如果真的灰心。那就永無揚眉吐氣的日期）**生不帶來死不帶去。**（是指錢而說。人生是空手。死是空手。一文錢都帶不去。何苦把錢看得太重。但是無錢。又無飯吃。總必得過且過。不必重財輕義。使錢多反受其害。）**德者本也。財者末也。**（凡世上一切人類。都應以德爲本。不應因財損德。方不失做人之道。）**毋求有功。但求無愧。**（凡人不能替國家社會謀福利。心已够愧。再遭禍地方。豈是普度衆生之旨。鄙人不敏。藉此奉勸幫人。凡事莫求有功。祇求無愧。則近道矣）**紙糊箱子指破不值錢。**（表面殷實。其實內幕空虛。不過周轉靈便。如一旦失信用。則指破箱子。便不值錢了。）**想做領袖要知必要七件事。**（一，品行端正，二，學識過人。三，敢作敢爲。四，剛柔果決。五，爲公衆服務。六，任怨耐勞。七，最寬捨己。有以上七個資格。豈獨可爲一般領袖。即天下領袖亦可爲也。）**求人先要求己。**（如求人。不如先求自己，

實行刻苦。勤儉。奮鬥。）**責人先要查己**（我責人之短處。先要自己檢查本身。有無過處。）
我敬人人才敬我。（我敬人。人亦敬我。我欺人人亦欺我。恭敬人是自抬自高的妙法。紙糊老虎指破不得。）（儀表莊嚴。人皆畏而敬之。如一旦失其莊嚴。則被人輕視。你就不值錢了。）
光棍裁花不裁刺。（祇可以好意待人。不能以惡意待人。）**光棍交以禮結以讖。**（交友須講禮節。結合須認識清楚）**有春風才有秋雨。**（待人好。才有好報。）**既是幫人應守幫規。**（是說在幫的人。不能違背十大幫規。）**好聽無好話。**（要謹防。會說話的人）
掛羊頭賣狗肉。（表面做事。很正大光明。暗裏卑鄙惡毒。不顧道德仁義。）**烏佔鵲巢如盜強。**（是侵佔別人的創立公產。不顧道德仁義。用欺天欺人方法。強佔為私有。或是奪人之房屋皆如強盜一樣。在幫的人。是不可有此舉動。有之速改。無則加勉。）**狼吞狗噎賊行爲。**（貪而無厭。專門鯨吞別人錢財。不顧廉恥。）**淫人妻女。以妻女還之。**（古云。萬惡淫爲首。我誘奸淫淫人之妻女。人必淫我之妻女。要知天理循環）**奪人之物子孫還之。**（依勢力奪人之物財。雖本身未還。而到達子孫之手。還是要清償這筆債。）**欺人是自欺之道。**（我欺人。人亦欺我。乃引禍招殃之道。）**光棍投紅不投黑。**（今天投拜張姓。不論李姓如何。是不去投他的。所謂一臣不保二主。）**一徒不拜二師。**（是指幫中孝祖弟子。師徒如父子。若有二個本師。還成話嗎。豈不被人笑罵。此點幫中不能不明白。）**光棍說話如釘釘。**（凡所說

的話必要有信用。不反復無常。所說的話。如釘釘不動。）一日爲師終身如父。（既拜之爲師。不論貧賤。及任何環境。都要講師徒禮。不可輕視。自辱自賤。）兄弟有話須面講。（兄弟間有事。須面談爲佳。可避免被人利用。及離間的弊端。）交友凡事要信實。（朋友在五倫之列。凡事要信實。才無誤會）龍門要跳狗洞要鑽。（好事要做。壞事亦要做。有利就有害。有害就有利。要一樣做去。）捧人卽捧己。（我捧人的場。人亦捧我的場。）

近代家裏知聞錄（大通無學四代）

江淮四 大字派

姓名	號	籍貫	職業	姓名	號	籍貫	職業
丁玉振		台兒莊	政界	王兆		移住揚州	政界
王源		移住揚州	政界	王殿甲		山東濰縣	政界
李景林	芳宸	河北藁城	軍界	李鳴		移住揚州	政界
高士奎	步揚	山東魚台移住泗陽	軍界	張維祥	汝林	江蘇宿遷	商界
張振英		山東聊城	軍界	徐蓮		移住揚州	政界
徐良	寥霄	江浦	軍界	徐林		移住揚州	政界
閃星奎		山東聊城	軍界	馬秋圃		河南羅山	政界
馬泰山		安徽移住南京	政界	陶鳳昌	玉清	江蘇徐州	軍界
陸鳳卿		奉天	政界	曹進	幼珊	山東歷城移住上海	政界

清門考源

清門考源

省三

溫學會
榮華亭

子蘭

謝寶勝

應慶丞

薛寶仁

鐵雲路

關長庚

河南歸德移住山西

湖北荊州移住南京

安徽渦陽

寧波慈谿

南通

山東

南京城內

理門

軍界

軍界

政界

湯鵬飛

郭度

關錫五

經山和尚

錢永發

薛繼文

叔完

山東移住蘇州

江浦

江蘇揚州移住天津

北平

山東

江蘇連水

軍界

軍界

軍界

政界

興武四 大字派

左青

李廣秀

吳鵬舉

周光甫

胡少亭

馬玉祥

馬俊

陳雲忠

楊奎

畢永

劉鳳儀

廖玉

敬堂

湖南移住江都

山東移住南京

江蘇沛縣移住濟南

揚州移住南京

江蘇丹徒

山東移住上海

山東

浙江甯波移住上海

江蘇江都

江蘇江都

山東移住蘇州

江蘇江都

政界

商界

軍界

政界

商界

商界

政界

政界

政界

政界

政界

米傳忠

阮憲傳

沈桂森

周道榮

洪泰

馬良

孫瑞堂

陳應龍

楊長富

趙德成

劉開

謝彬

劍華

慕白

坤山

拿爾

山東移住上海

江蘇儀徵移住上海

南京下關

江蘇江都

江蘇江都

山東

江蘇儀徵移住南通

江蘇江都

江蘇揚州

山東樂陵移住蕪湖

江蘇江都

江蘇江都

國術

政界

商界

商界

政界

政界

航業

政界

商界

軍界

政界

政界

興武六 大字派

王德鄰	王炳文	王永安	王世清	王廣四	孔慶邦	田潤泉	朱秉政	朱鈞甫	杜心五	李勝奎	李潯	汪禹丞	宋銑清	沈銘	吳棟成	步章五	袁克文
安徽合肥移住上海	江蘇江都	湖北移住上海	河北天津	山東嶧縣	山東移住揚州	台兒莊	上海	江蘇揚州	西安	河北宛平	湖南移住上海	安徽婺源移住上海	山東移住南京	江蘇江都	鎮江旗人	河南項城移住上海	河南項城移住天津
商界	政界	商界	商界	商界	商界		耕讀	伶界	商界	政界	政界	政界	政界	政界	政界	政界	政界
王德志	王鴻壽	王有仁	尹鑑堂	王玉岷	白玉山	朱績成	朱秉元	朱儀青	李春利	李零堂	李鳴	宋煥崙	宋漢文	吳省三	周蕙臣	馬玉山	袁德標
善之																	
江蘇儀徵	河北移住上海	山東移住揚州	江蘇江都	海州	上海	上海	江蘇桃源	安徽移住蘇州	河北宛平	江蘇丹徒	山東移住揚州	河北天津移住清江	山東滕縣移住南京	江蘇吳江移住上海	江蘇丹徒移住上海	河北河關移住上海	山東移住揚州
商界	伶界	商界	商界				政界	商界	伶界	商界	政界	商界	商界	耕讀	商界	商界	政界

清門考源

清門考源

二八四

袁樹德	杭州	政界	柏玉山	竹平	江蘇丹徒移住上海	商界
梁紹棠	山東東平移住上海	政界	梁兆安	良才	江蘇江都移住天津	商界
梁世樞	江蘇徐州移住青島	商界	夏廷棟		山東滕縣	商界
夏錦全	東光		孫發		山東移住南京	政界
孫少江	南京		徐斌		山東移住南京	政界
高桐	山東移住揚州	商界	高聿溥		江蘇六合	政界
張有才	江蘇泗陽	商界	張之江		河北鹽山	政界
張蔚齋	河北靜海	軍界	張仁奎	錦湖	山東滕縣(領導仁社)	政界
張樹森	河北滄縣	國術	張萬友		江蘇江甯	商界
張玉貴	山東滕縣移住南京	政界	張德鈺		江蘇江都	政界
張錫臣	河北移住上海	警界	張英華	月星	河北	政界
張濤	江蘇江都	政界	張英華	連寶	北平西城	政界
翁鐵樵	上海	警界	湯世炳		南京南門外	商界
陳永康	江蘇鹽城移住上海	警界	陳樂山		浙江移住天津	軍界
陳標	連陞又字 煥卿	商界	陳萬興		泗陽移住上海	商界
陳錫恩	安徽壽州移住上海	商界	陳銘		江蘇江都	政界
屠光昭	南京城內	商界	黃錦		安徽蕪湖	政界
馮亮	江蘇江都	政界	馮子琴		江蘇江都	商界
裴雲瑞	山東移住揚州	商界	殷坤		山東移住揚州	政界
郭振祥	山東移住蕪湖	政界	賈長慶		江蘇江都移住吉林	商界

程孝周 楊西園 傅慎恆 趙泰財 鄭元松 劉盛茂 劉德 蔣孝亭 潘標 鮑丕坤 魏子庸 戴鏡銘 蕭元才 龔梓安

王鳳枝 任鴻恩 李紹白 邱祥高 周振聲

宗漢

毓珊 達三

棲梧 聘三

吉甫

嘉海衛 大字派

安徽合肥移住上海

江蘇鎮江

山東移住揚州

山東移住南京

江蘇江都

江蘇南京

江蘇江都

揚州移住北平

山東移住揚州

山東嶧縣

江蘇丹徒

安徽壽縣

揚州移住蕪湖

安徽蕪湖

政界

商界

商界

商界

商界

政界

政界

政界

政界

商界

政界

軍界

商界

政界

姬彩臣

旋祥

趙福奎

樊瑾成

劉學義

劉德柱

蔣隸盈

蔣萬春

穆恩魁

謝亮

魏永安

韓青舫

蕭朗

蕭達三

僧臣

伯器

筱亭

星武

山東移住南京

山東移住揚州

江蘇揚州

安徽蕪湖移住上海

山東汶上

山東移住揚州

浙江移住上海

安徽移住北平

天津移住上海

江蘇江都

山東移住南京

河北天津

湖南移住南京

蕪湖

商界

政界

商界

商界

糧船

商界

軍界

商界

警界

政界

商界

商界

政界

佩衡

濟南 江蘇淮安移住無錫

浙江杭州

徐州

山東移住上海

商界

道教

商界

政界

任政平

宋炳章

吳龍圖

吳西鸞

邱現燦

佩衡

濟南 江蘇淮安移住無錫

浙江杭州

徐州

山東移住上海

商界

道教

商界

政界

任政平

宋炳章

吳龍圖

吳西鸞

邱現燦

清門考源

清門考源

二八六

邱瑞祥 孫懷義 徐漢卿 張紹祥 許禮州 馮守義 楊馨一 穆廣鳳

吉甫 雲甫 離亭 子玉

南 京 山東嶧縣 江蘇銅山 靜海 鎮江 濟寧 江蘇清河移住無錫 山東濟南移住南京

政界 理門 商界 商界

吳勳臣 段燮臣 張璧 張伯英 華德餘 馮緯卿 厲大森 鄭長庚

玉衡 憲臣 紹肯

江源六合移住南京 江蘇清河移住上海 霸縣 淮陰 江蘇清江 淮陰 河北天津 北平

商界 政界 商界 軍界

嘉興衛 大字派

王九皋 呂文彪 劉登階 邊懷周

江蘇桃源移住上海 江蘇泗陽移住常熟 江蘇泗陽移住上海 安徽壽縣移住上海

商界 商界 政界 政界

米占元 趙岑樓 劉海峯

山東濟南移住上海 江蘇清河移住上海 江蘇泗陽

軍界 商界 政界

嘉白 大字派

丁福讓 王廣鑫 尹緒山 李步霄

壽三 峻峯 錦漢

山東濟南 山東嶧縣 肥城 山東金鄉

商界 耕讀

于德有 王兆林 尹同愈 宋殿邦

春一 玉馨 柏寒 小亭

山東臨清 江蘇徐州 江蘇泗陽 山東聊城移住北平

船業 商界 軍界 理門

沙月坡 周湧源 修萬選 剛慶元 陳嘉謨 馮守義 曹鳳林 張文孝 張廷吉 張泰昌 張薦秋 楊文科 鄭蘭亭 劉少如 劉長慶 錢培業 謝玉田 魏大可 顧瑞年

來東 硯亭 瑞臣 梅香 介臣 景山 金榜 寶亨 漢卿 韓輔

臨清 臨清 天津移住鎮江 山東臨城 任邱 山東濟南移住清江 山東桓台 江蘇宿遷 江蘇宿遷 遼寧昌圖 北平鼓樓西 江蘇宿遷 山東鄆城移住青島 南京 山東濟寧 北平大興 台兒莊 山東鄆野移住北平 北平市

商界 商界 商界 商界 政界 政界 軍界 商界 耕讀 道門 商界 商界 政界 政界 軍界

沙景鴻 邱廣法 明遠 徐朗西 陳書農 賀文朝 張大泰 張永昌 張永貴 張魁之 賈長清 楊錫恩 劉子餘 劉占標 劉錫珍 盧斌臣 閻崇德 魏少青

耀亭 開亮 崧雲 秀峯 萬年 建廷 蘭山 愛朋 幼卿 漢卿 來修 筱亭

台兒莊 山東臨清 江蘇銅山 陝西 山東濟寧 江蘇清河移住上海 山東臨城 山東濟寧 山東濟陽移住濟南 廣東南雄移住南京 山東 山東濟寧 山東濟寧 山東嶧縣 河北河間 南京 安徽壽州 山東濟寧

船業 僧門 政界 政界 商界 船業 農桑 商界 政界 商界 道門 道門 軍界 軍界 軍界 學界

鎮前大字派

清門考源

清門考源

二八八

谷良友
張樹聲

山東萊州
江蘇桃源移住上海

軍界
理門

胡金魁
張正才

江蘇常州
江蘇宿遷移住蘇州

商界
商界

吉瑞

潤之

江蘇江都

政界

杭三 大字派

王納

墨仙

山東青島

商界

王子青

山東濟寧

商界

王學曾
王寶善

子斌

檣次
台兒莊

王廣濬

山東嶧縣

政界

尤佳誠

華亭

濟寧
台兒莊

史家驤

槐庭

江蘇江寧移住濟寧

政界

呂振英

麟閣

山東嶧縣

李汝弼

輔臣

山東嶧縣

學界

李光霖

鼎菴

江蘇徐州

鹽務

李震榮

譽廷

北平

商界

李炳章

大真

山東濟寧

商界

吳士奎

裕智

山東嶧縣

軍界

畢崇三

平三

台兒莊

商界

姜學信

柳溪

台兒莊

政界

鄭良昇

鏡湖

台兒莊

商界

賀進禮

義門

台兒莊

政界

馬志林

徽三

山東嶧縣

商界

賈有德

魯信

山東嶧縣

政界

張聘卿

祥園

山東嶧縣

商界

孫茂奎

月秋

山東嶧縣

政界

郭效孔

竹泉

山東嶧縣

商界

張桂軒

金泉

山東嶧縣

政界

陶福恩

山東嶧縣

商界

陸幹章

山東嶧縣

商界

陶福恩

山東嶧縣

商界

趙冠鑫

蔣學曾

劉長榮

劉瑞豐

謝源彭

龐應泉

閻際銘

子洲

山東濟南移住徐州

軍界

蔣學曾

省三

山東臨城

商界

華亭

山東歷城

軍界

劉書生

漢卿

山東濟南

鹽務

蕭亭

江蘇銅山

理門

謝傳有

新平

山東汶上

船業

濟寧

謝玉春

益三

江蘇海州

船業

馬超凡

慕青

杭四 大字派

船業

安徽壽縣

山東滕縣

軍界

林樹和

松亭

湖州頭 大字派

理門

福建移住天津

王登蟻

西領

甯波後 大字派

耕讀

山東濮陽

雙鳳 大字派

王長林

周長林

鍾三和

山東移住海州

山東濟南

安徽合肥移住上海

清門 考源

孟廣有

正大

山東移住上海

山東東河

安徽合肥移住蘇州

理門

船業

軍界

江淮四 通字派

王琦 景涵
王堅理 守臣

山東濟寧移住北平

軍界

王玉山

山東鉅縣

商界

王寶泉

山東移住上海

商界

王國祿

江蘇宿遷

商界

田其香

南京移住鎮江

政界

石桂盛

江蘇江都

商界

李紹武

江蘇阜寧

商界

呂海山

安徽壽縣

工界

李鴻順

浙江甯波

商界

李福林

河北天津

商界

李文卿

安徽渦陽

商界

李桂春

河北天津

伶界

杭辛齋

浙江海寧

政界

何伯春

湖北移住南京

商界

杭石君

江蘇揚州

律師

宋子祥

河北天津

商界

周筱清

廣東移住上海

商界

金九林

江蘇阜寧

警界

岳雲龍

江寧

商界

邵振祥

安徽移住上海

商界

宣振軍

江蘇東台

商界

胡思德

山東蓬萊

商界

胡彥昇

山東諸城

警界

孫慶增

江蘇蘇州

商界

柳錦霖

江蘇鎮江

商界

馬祥生

江蘇武進

商界

馬集雲

河北天津

商界

馬星耀

山東諸城

商界

馬耀光

江蘇丹陽

商界

原洗凡

江蘇揚州

新聞

姚吉光

江蘇南匯

新聞

高夢琴

山東泰安

軍界

張鴻祿

河北天津

商界

張海山

河北天津

商界

張孟才

山東滕縣（領導才社）

商界

張榮照

江蘇鎮江

商界

英三

幹師

鼎臣

誠齋

張叔良
張繼光
張茂齋
陳世昌
楊仁銓
趙瑞芝
劉漢亭
鄭錫民
鄭爲綏

王金榮
王秀文
牛開泰
牛麟
李長義
李友發
宋桂山
何柏森
周正秀
周鐘秀

鐵君

興武四通字派

山東滕縣
安徽鳳陽
河北天津
江蘇蘇州
浙江甯波
河北天津
陝西長安
山東鄆城
江甯

河北天津
河北移住上海
安徽鳳陽
河北天津
江蘇鎮江
江蘇淮安
北平
江甯
北平
北平
清門考源

政界
軍界
軍界
商界
商界
商界
警界
政界

軍界
政界
工界
軍界
商界
商界
軍界
律師
律師

張天奇
張仁珩
盛金貴
馮鶴亭
董學義
劉福堂
劉正鵠
錢均
魯有才

王樹棠
王夢萍
毛子安
李清泉
李志泉
李鴻卿
杜正德
周海泉
周幹如
周祺祿

壽山
珠林
雙生

江蘇揚州
江蘇上海
江蘇高郵
湖北移住上海
江蘇江甯
山西大同
江蘇江都
江蘇上海
東海

江蘇江甯
江蘇嘉定
江蘇徐州
河北移住漢口
江蘇江甯
江蘇揚州
安徽合肥
安徽
江蘇揚州
安徽無爲

商界
商界
商界
商界
律師
軍界
新聞
工界

商界
影界
警界
警界
商界
政界
軍界
商界
商界
商界

清門考源

林春亭	江浦	政界	杭啓才	江蘇揚州	商界
孟明欽	江蘇淮安	警界	馬凱臣	山東移住江西	軍界
柏壽山	安徽移住上海	警界	徐爾雲	揚州	商界
浦裕坤	江蘇清江	商界	高風樵	河北	政界
高慶奎	北平	伶界	陸長春	江蘇蘇州	軍界
黃鴻舉	安徽蕪湖	商界	陳安貴	海州	軍界
陳國屏	江蘇江甯	政界	梁志林	山東	商界
梁啓盛	鹽城	商界	徐錫候	江蘇江都	商界
陳佑齡	江蘇淮安	政界	夏玉棠	江蘇江都	軍界
張靜一	河南	政界	張村穀	江蘇淮安	軍界
張漢章	安徽無爲	商界	張克泉	安徽蕪湖	軍界
張玉田	安徽	工界	曾九如	江蘇揚州	政界
賈寶山	天津	政界	鈕義賓	上海	商界
楊錦森	泰興	政界	楊彩亭	河北	商界
楊書田	河北平	商界	楊德春	河北	商界
趙九洲	河南	政界	趙虎臣	安徽	警界
趙錫九	山東	政界	劉曉雲	江西九江	政界
劉永福	北平	政界	劉惠林	蕪湖	商界
劉華堂	山東	政界	管伯英	江蘇揚州	商界
劉俊傑	河北	商界	戚壽芝	江蘇揚州	商界

樊文蔚
魏子文
湯銘鏡

天津
天津
揚州

政界
商界
商界

鍾柳溪
魏恩華
蘇瑞麟

江蘇江甯
河北
安徽蕪湖

商界
政界
商界

興武六通字派

丁士杰

(仁社)

湖北襄陽

商界

丁發卿

于文舟

山東蓬萊

商界

王貴生

王筠清

天津

政界

王璧華

王鳳樓

(仁社)

揚州

警界

王雲翔

王璽伯

上海

商界

王彬彥

王植三

北平

商界

王權庭

王伯以

江都

醫師

王毓賢

毛雲

浙江

政界

左麟南

史桂澄

江蘇溧陽

商界

包金生

石金榮

寧波

商界

白鍾祺

江政卿

(仁社)

商界

朱錫珍

朱海山

(仁社)

商界

朱善夫

朱運森

甯波

商界

朱萬沅

朱景芳

揚州

商界

朱少山

任鶴山

上海

國術

李劍虹

李成章

上海

商界

李鴻發

清門
考源

(仁社)

上海
江蘇鹽城
北平
揚州
江蘇武進
寶山
江寧
南京
清江
安徽合肥
蘇州
安徽寧國
揚州
揚州
安徽
江都

新聞
政界
政界
商界
慈善
商界
軍界
商界
警界
商界
商界
警界
商界
政界
商界
商界

李桐村	(仁社)	江蘇	商界
阮餘三		江蘇儀徵	學界
汪大燮	(仁社)	安徽旌德	商界
呂蒼岩	(仁社)	江蘇無錫	商界
何裕泉	(仁社)	浙江紹興	商界
何六良		浙江紹興	政界
沈叔玉	(仁社)	福建	商界
吳萬章		湖北	商界
吳作鈞	(仁社)	山東	商界
周思忠	(仁社)	江蘇寶山	商界
周國石		廣東潮州	商界
林孟鳴		定海	學界
金廷霖		寧波	商界
胡春霖		江蘇鎮江	醫師
俞逸芬		海鹽	商界
俞汝鑫	(仁社)	浙江上虞	交通
范紹曾	(仁社)	四川	軍界
韋作民	(仁社)	浙江吳興(領導文社)	政界
姜豪		上海	政界
徐逸民	(仁社)	廣東(領導逸社)	醫師
徐謝康	(仁社)	江蘇吳縣	商界
李繼昌	(仁社)	安徽	商界
汪英賓		江西	政界
汪孟俠		安徽休寧	商界
何競武	(仁社)	浙江諸暨	商界
何創夏	(仁社)	浙江杭縣	商界
余燮坤		安徽	商界
沈宗慈	(仁社)	浙江寧波	商界
吳偉伯		蘇州	商界
吳樂天		平湖	學界
周濟之	(仁社)	吳縣	商界
尚永發	翔芝	安徽	商界
邵育才		揚州	政界
胡智甫		休寧	政界
胡寶祥		河北	政界
俞天凱	(仁社)	安徽	商界
姚書紳	(仁社)	江蘇寶山	商界
施榮良		青島	政界
姜懷素	(仁社)	江蘇鎮江	法界
侯仲良		寶山	醫師
徐鶴林		鹽城	商界
徐敬直	(仁社)	廣東中山	建築

徐昭誠	(仁社)	浙江慈谿	商界
徐劍蒼	(仁社)	江蘇江都(領導劍社)	商界
高致祥		揚州	商界
唐伯香	(仁社)	浙江吳興(領導康社)	商界
夏光宇	(仁社)		
夏大棟	(仁社)	江蘇吳縣	商界
孫以癭	(仁社)	安徽壽縣(領導怡社)	商界
張彬人	(仁社)	浙江海甯(領導文社)	商界
張竹平	(仁社)	上海	新聞
張公起		河南開封	商界
張慶雲		江都	政界
張雲生		吳縣	商界
張季藩		山東膠縣	學界
張鳴岐		江都	商界
曹志功	(仁社)	安徽休甯	政界
梅慕陶		揚州	警界
梁其田	(仁社)	廣東	商界
莊錦九	(仁社)	江蘇武進(領導鼎社)	商界
許開南		杭州	學界
許漢明		歙縣	商界
陸桂山	(仁社)	南京	商界

清門考源

徐學禹	(仁社)	浙江紹興	交通
徐德潤		鎮江	政界
馬新東		泗陽	工界
唐季珊	(仁社)	廣東	商界
夏秋堂		揚州	醫師
孫鶴皋	(仁社)	浙江奉化	商界
孫伯掌	(仁社)	安徽壽縣(領導羣社)	商界
張瑞瀾	(仁社)	上海	商界
張如山		海鹽	商界
張錦文		江都	商界
張益齋		休甯(領導謙社)	商界
張永林	(仁社)	江蘇上海	商界
張較波		河北天津	商界
張鏞	春庭	江蘇江甯	警界
曹福海		山東	商界
梅福堂		湖北	政界
強德勝		上海	警界
莊叔還	(仁社)	江蘇武進	商界
許冠羣		常州	商界
陸梓樵	(仁社)	湖北	商界
陶伯育	(仁社)	上海	商界

陳應箴	(仁社)	浙江吳興(領導團社)	醫師
陳元達	(仁社)	江蘇上海	商界
陳漢麟		河北	軍界
陳季波	(仁社)	南京	商界
羅融海	(仁社)	江蘇無錫	商界
程程芝		揚州	商界
黃華	(仁社)	廣東東莞	法律
黃意中		安徽	政界
曾煥堂		廣東	政界
楊嘯天	(仁社)	安徽	軍界
楊元麟	(仁社)	江蘇上海	建築
楊蔭屏		上海浦東	商界
葉煒山		上海	商界
榮立生		湖北荊州	商界
趙慰先		湖南	政界
趙茂高		貴州	政界
劉德祥		山東鄒縣	商界
劉玉梅		山東	政界
潘振聲		上海	法界
蔡鴻生		蘇州	商界
鮑炳均		山東	商界
陳守志	(仁社)	江蘇上海	商界
陳夢漁		嘉定	學界
陳世賢		貴州	學界
崔叔仙	(仁社)	揚州	商界
程俊觀	(仁社)	江蘇武進	商界
黃金榮	(仁社)	江蘇吳縣(領導榮社)	商界
黃毓斌		實山	軍界
焦鼎鑑		江蘇江都	政界
馮善生		浙江海鹽	政界
楊德昭	(仁社)	廣東	政界
楊俊堂		江蘇寶山	政界
董綱光	(仁社)	浙江奉化	政界
榮廣亮	(仁社)	江蘇無錫	政界
趙篤乙	亭鳴	山東	政界
趙班斧		湖南	政界
劉志高		揚州	政界
劉正康		蘇州	政界
蔣建白	(仁社)	江蘇	政界
鄭希濤	(仁社)	浙江南波	政界
鮑定邦	(仁社)	浙江奉化	政界
錢寶華		安徽	政界

謝惠元 鍾秉鋒 蕭宗俊 韓春山 戴步群 魏立功 關頌聲 龐道宗 顧嘉堂 顧丕善

(仁社) (仁社) (仁社) (仁社) (仁社) (仁社) (仁社) (仁社) (仁社) (仁社)

浙江 廣東中山 湖北 南京 江都 湖北 蘇州 上海 浙江寧波

商界 商界 商界 政界 商界 醫師 建築 商界 商界 商界

謝東昇 鍾漢傑 韓雲波 戴同鈺 聶鴻昌 魏四海 關宗灝 顧雲亭 顧潤杰 劉文藻

鳳五 效頤 (仁社)

揚州 湖北 河北 南京 濟南 河南 湖北 河北 上海 上海 上海

政界 軍界 軍界 商界 商界 商界 商界 商界 政界 商界

尹安清 曲蓮舫 李文清 孟慶雲 東玉方 唐庚辛 馬雲龍 張玉林 陳雁南

靜遠 春芝

江蘇蕭縣 山東蓬萊 徐州 山東周村 濟南 無錫 河南歸德 江蘇沛縣 河北天津

理門 道教 商界 理門 商界 商界 軍界 理門 政界

石振江 李士清 吳煥章 趙紫宸 范南泌 孫萬林 莊孝揆 楊祝農 陳樹澤

連科 獎村 桂庭

河北 河北 山東 天津 山東 廣東 廣州 徐州 河北靜海

軍界 軍界 理門 商界 理門 軍界 政界 商界 政界

清門考源

嘉海衛通字派

清門考源

湛劍高
劉盤公
劉玉清
嚴靖臣

冰如

鎮江
南京
山東肥城
北平

工界
政界
政界
理門

樊子仲
劉鳳山
鮑子英

鳴岐

山東烟台
山東濟南
湖北荊州

商界
理門
警界

嘉興衛通字派

任同興
金煜
陳陸
張鴻運
楊品三
趙金川
鮑子康
顧竹軒

立人

天津
甯波
清江
山東定陶
江蘇泗陽
河北天津
河南
江蘇鹽城

政界
律師
商界
商界
工界
軍界
醫師
商界

周耀庭
紀文彬
黃雲霖
程永年
劉在壽
鄭子良
衛成甫

揚州
濟南
餘姚
嘉定
江蘇揚州
廣東潮州
江蘇南匯

警界
商界
政界
商界
工界
政界
政界

嘉白通字派

王化一
王瑞五
向春亭
李桐賓
沈鈞甫

北平
山東泰安
鎮江
山東濟南
山東烟台

學界
道教
商界
理門
學界

王裕德
白雲生
任壽之
戈聲甫
邱連元

北平
山東濟南
安徽
山東濰縣
山東聊城

理門
政界
政界
理門
商界

邱仰藩 孫楚 閻效然 常聖照 張清泉 張崇吉 馮鵬鸞 德子清 管松泉 潘蔭虬 檀自新 王君珊 方鳳岐 朱世榮 李陽生 周緒林 夏雲飛 楊卿仲 解壽昌

樊然 擢三 効武 子雲

子信

惟光

鎮前通字派

山西太原 山西 山東煙台 河南唐河 河北文安 山東 山西太原 北平 北平 浙江 奉天瀋陽

清門考源

河北正定 河北正定 江蘇嘉定 北平 河北正定 江蘇青浦 河北任邱 河北任邱

商界 軍界 醫界 政界 學界 商界 軍界 理門 商界 軍界 軍界

商界 商界 商界 理門 商界 軍界 理門 醫界

周玉田 徐紹庭 張少武 常玉照 張敬塘 黃悅賓 楊登科 趙福梅 劉百川 邊文華 鄧洗元

王張品 朱景雲 李鑫廟 邢官正 徐福益 冀永水 楊林海 趙廣玉

永年 望三 第三

德勝

河北天津 北平 安徽毫縣 河南唐河 山東煙台 北平 江蘇鎮江 江蘇清江 安徽合肥 河北文安 山東離縣

浙江紹興 江蘇青浦 河北天津 河北正定 江蘇江都 河北正定 河南臨潁 北平

理門 理門 軍界 學界 學界 理門 政界 警界 軍界 商界 商界

政界 商界 政界 政界 商界 商界 商界 商界

劉鳳山

清門考源

河北正定

警界

蔣福田

江蘇嘉定

三〇〇

商界

馬殿臣
董捷江

江蘇淮南
江蘇清江

商界
空門

張宗昌
費德芳

阿陶

山東掖縣
江蘇江都

軍界
商界

丁念祖

呂政

宋古帆

周殿珍

郭儀臣

范海亭

夏蔭樸

舒鵬林

劉潤齋

蕭泰林

孫振榮

杭三 通字派

江蘇徐州

山東東

山東蓬萊

山東煙台

綏遠包頭

山西太原

山西太原

河北密雲

綏遠包頭

綏遠包頭

政界

理門

政界

商界

商界

軍界

軍界

政界

政界

商界

白希峯

李英堂

邵成志

侯進元

馮勉之

梁耕五

婁雲鶴

劉清彥

盧耀東

子寬

綏遠包頭

山東煙台

河南南陽

山東嶧縣

陝西蒲城

綏遠包頭

河北正定

綏遠包頭

綏遠包頭

政界

道教

政界

政界

軍界

政界

軍界

政界

商界

政界

杭四 通字派

安徽壽縣

商界

鮑玉廷

山東曹州

船業

林介堂

湖州頭 通字派

河北宛平

理門

歐振生

華國

江蘇丹徒

商界

王建業

敬之

河北漢陽

商界

王錫和

碩晉

河北漢陽

耕讀

王常裕

子恆

河北漢陽

商界

卞鳳謙

敬臣

河南內黃

耕讀

朱振華

岩菴

山東

學界

谷慶餘

衍齋

河北正定

商界

杜調仁

慶泉

河北漢陽

學界

鄒明堂

敬齋

河北漢陽

耕讀

張文標

茂修

河北漢陽

商界

張清明

鴻亮

河北漢陽

商界

張德林

茂修

河北漢陽

商界

劉士傑

代耕

河北正定

軍界

雙鳳 通字派

王金發

紹儀

浙江紹興

軍界

李春浦

安徽壽縣

商界

周鴻卿

紹儀

江蘇蘇州

商界

孫鎮

河北霸縣

商界

郭繼汾

紹儀

河北漢陽

政界

張國權

江蘇泗陽

政界

賈金標

紹儀

江蘇清江

工界

劉國彪

湖北

軍界

江淮四 無字派

牛漢卿

登盤

河南開封

商界

王家璧

上海

商界

王海山

登盤

湖北移居上海

商界

王雨梅

奉天移居上海

理門

清門 考源

創業

白亦亭
田鎮西
河北正定

鹽界

白人傑
李克雄

月笙

山東
浙江紹興

商界

李景棠
李東海

商界

杜鑑
沈克明

上海高橋（領導恆社）

商界

林阿模

安徽壽縣

軍界

周文元

浙江崇德

商界

胡定均

甯波移居上海

商界

胡雲周

甯波移居上海

商界

紀增壽

甯波

商界

孫慶芬

蘇州

商界

高晉典

漢卿

甯波

商界

陳嘉麟

被帆

北平

伶界

陳瑛

甯波

商界

郭少榮

鹽城

學界

張小盈

河北

警界

張文祥

鎮江

政界

楊果森

江蘇泰縣

商界

楊清

江蘇山陽

警界

熊定華

煜焜

湖南益陽

政界

劉玉修

淞泉

河北移居開封

政界

劉振木

江都

警界

劉錦田

海州

軍界

謝岳嵒

紀勝

浙江甯波

工界

繆鳳池

江蘇江甯

商界

薛青萍

無錫

商界

稽阿發

甯波移居上海

商界

費福之

山東移居上海

商界

顧文魁

國樞

蘇州移居上海

警界

興武四無字派

卜德元

江蘇江都

政界

朱文龍

江蘇高郵

政界

李桂林

江蘇南通

商界

孫麟書

江蘇泰縣

商界

黃福生

江蘇吳縣

商界

楊進喜

江蘇丹徒

商界

楊 軾
劉玉泰
劉長生
戴世璋
蘇柳法

江蘇無錫
河北北平
江 都
句 容
上 海

律師
伶界
司法
商界
工界

劉錦貴
劉松林
錢菊堂
錢桂卿

江蘇江都
江 都
吳 縣
江蘇邵伯

商界
商界
商界
商界

興武六 無字派

丁武華
丁寶貴
王昌久
王正廷
王伯康
王文亮
王堯明
王金祥
萬誠忠
包宗嘉
朱如山
朱寶珩
仲雪邨
李文清

江蘇江都
江蘇江都
無 錫
江 都
澄 縣
金 台
紹 興
天 津
雲 南
鎮 江
浙江南潯
廣 東
浙 江
河南移居上海

商界
商界
商界
商界
商界
商界
商界
商界
商界
政界
商界
商界
黨務
軍界
警界

丁 祿
于 泳
王則平
王祖鑑
王鶴齡
王東海
王文舉
方振武
永 祥
朱朝錫
朱華山
朱根福
李春霖
李慶久

江蘇江都
天津移居上海
澄 縣
澄 縣
天津移居上海
天津移居上海
武 進
東 台
揚 州
鎮 江
上 海
江 蘇
河 北

商界
航業
航業
航業
航業
航業
政界
佛門
商界
商界
商界
警界
警界
政界

(醒社)

清門考源

(鼎社)

三〇三

李汝勳 李千木 李宗義 呂兆昌 余子卿 汪煥章 沈永興 沈懷陳 金雙麟 彭雙龍 吳瑞亭 邵生榮 東寅明 孫介昭 洪寶順 范恆德 侯少章 計金鎰 馬玉璽 耿全昌 袁文會

鐵臂

清門考源

廣東 河北 安徽 天津移居上海 江寧移居上海 安徽和縣 澄縣 江蘇江都 江蘇江寧移居上海 崇明移居上海 山東濟南 紹興 南通 上海虹鎮 甯波 甯波移居上海 天津 澄縣 上海 河北移居上海 天津

黨務 政界 軍界 警界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 軍界

李子峯 李才 李祖慶 車崧山 杜恩玉 宋安銀 沈楚英 沈金祥 周錫全 吳國治 吳冠英 饒家餘 東雲龍 苗阿玉 洪慕青 范耀庭 俞壽山 施朗清 馬青山 姚永福 姜鳳崗

積成

正驅

河北 天津 澄縣 揚州移居上海 天津 含山 崇明 澄縣 無錫 江蘇江都 澄縣 山東嶧縣 南通 無錫移居上海 上海 澄縣 江蘇江都 澄縣 江北 河南南陽移居重慶 山東棲霞

三〇四

政界 航業 商界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 軍界 軍界 商界 商界 商界 商界 商界 商界 警界 商界

徐春南 徐茂國 徐康生 秦學屏 高永泰 高永安 高陵雲 陶澧清 許金清 張金泰 張傳山 陳嘯雄 陳長壽 陳心驥 章達成 黃鴻山 郭錫賓 章文俊 宣守一 須志成 鄒烈昌

江 北	靖 江	武 進	江 蘇 徐 州	上 海	天 津	澄 縣	上 海	南 通	天 津 移 居 上 海	海 州	澄 縣	順 天	南 湖	燕 湖	澄 縣	和 州	澄 縣	河 北	武 進	甯 波 移 居 上 海	清 門 考 源
--------	--------	--------	------------------	--------	--------	--------	--------	--------	----------------------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	----------------------------	------------------

商界 商界 商界 商界 商界 政界 警界 商界 商界 工界 航業 司法 工界 商界 警界 商界 軍界 商界 商界 商界

徐勤堂 徐景塘 畢兆富 時慶軒 姚席珍 高祖英 鄧鴻春 孫惟普 許憲君 張繩卿 陳伯英 防鍾鶴 國文瑞 陸虎臣 崇兆周 崔福棠 張秉欽 商林元 馮偉屏 鄧伯翔 楊寶生

揚	吳	澄	靖	四	南	鎮	潮	天	澄	常	上	無	天	山	南	湖	天	江	崇	山
州	興	縣	江	川	通	江	州	津	縣	州	海	錫	津	東	通	南	移	蘇	明	東
													移	日		湘	居	鎮		
													居	照		鄉	上	江		
													海	縣			海			

商界 商界 商界 航業 軍界 軍界 商界 警界 商界 商界 商界 商界 軍界 商界 商界 商界 商界 商界 軍界

王守庭	顧竊江	韓濟人	謝錫榮	薛燾志	魏兆雲	鄧淦泉	潘宗義	蕭澤民	蔣袁輔	鄭誠遠	樊良伯	劉裕昌	劉煥倫	劉廣海	劉大奎	葉麟	裴帥雲	黃發孟
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----

山東	崇明	揚州	澄縣	無錫	江都	澄縣	鎮江	四川合江	崇明	天津移居上海	嘉定	河北	無錫	河北	鎮江移居上海	餘姚	無錫	甯波
商界	商界	中醫	商界	軍界	商界	商界	商界	商界	商界	航業	政界	商界	印刷	軍界	商界	商界	律師	商界

王連生	嚴仁寬	謝貴洪	繆鵬飛	戴叔賢	龍清泉	蔡則英	蕭子雲	蔣德政	鄭德林	鄭寶魁	閻龍保	劉寶林	劉漢卿	劉桐芬	虞阿文	葉茂松	黃長富
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

無錫	南通	澄縣	泰興	河北	山東聊地移居上海	江蘇宿遷	無錫	奉化	河北	天津	重慶	河北	河北	江北移居上海	甯波	崇明	南通
商界	商界	商界	商界	政界	國術	醫界	商界	政界	船業	航業	商界	商界	政界	商界	商界	商界	商界

朱文元
李度
高鳳翔
陸高昇
張椿賢
褚金舫
謝昌麟
羅遠先

夢蘇

兆祥

無錫
漢口
北平移居西安
甯波
湖南
山東邱縣
山東曹縣
湖南

商界
教育
記者
商界
商界
警界
商界
政界

汪維達
邱子嘉
梁寶義
曹國釗
程煥文
劉月亭
韓明
顧錫金

飛青

黑龍江移居西安
江蘇吳縣
河南
湖南
河南
山東泰安
天津
無錫

記者
商界
商界
警界
商界
軍界
交通
商界

李福壽
鄭美堂

嘉興衛 無字派

阜甯
南波

國術
商界

趙坤甫
顧傳朝

江都
江都

商界
商界

嘉白 無字派

王丕衡
李東齋
周慶祥
郭海山
郭春生
彭毅山
賈鳳山

春農

軒之

潤甫

鳴岐

河北南宮
河北長垣
山西高平
海州移居常熟
山西高平
湖北
江蘇沛縣
清門考源

理門
政界
政界
政界
政界
鑛業
交通
農業

李保成
李長福
唐忠山
郭治安
張汝寬
賈寅年
新增文

萬泉
壽山
海泉
仁山
仲卿
旺軒
彬卿

商邱
山東
湖北老河口
湖北樊城
河北神池縣
河南武安
河北南宮

商界
商界
理門
理門
政界
政界
郵政

清門考源

三〇八

潘開文
關占魁

江蘇泗陽
山西平遙

軍界
政界

蔡文成

河北宛平

警界

鎮前幫 無字派

王君珊
周緒林
冀永年

河北正定
河北正定
河北正定

商界
商界
商界

邢官正
陸鏡
劉鳳山

河北正定
上海
河北正定

政界
政界
警界

杭三幫 無字派

王建勳
王漢丞
谷俊三
周紹鏞
孫瑞甫
郭守先
張務寅
鄒仲揚
趙振剛
閻松亭

河南中牟
陝西長安
陝西長安
綏遠包頭
河北正定
河南溫縣
河南博愛
河南鄭州
河南魯山
河南孟縣

商界
軍界
警界
政界
政界
商界
理門
商界
理門
商界

王得立
李占元
吳景彬
馬清華
郭春
張書志
楊露清
雷寶亭
魏邦俊

陝西長安
熱河
河南沁水
河北隨縣
河南溫縣
河南禹縣
河南郊縣
河南信陽
河南甯晉

軍界
軍界
軍界
理門
商界
商界
商界
工界
政界

杭四幫 無字派

方家鎮

安徽壽縣

商界

湖州頭 無字派

韓品卿

天津堤頭

商界

甯波後 無字派

朱振華

山東德州

學界

杜訓仁

河北漢陽

學界

劉士傑

河北正定

軍界

雙鳳 無字派

王璽發

山東

商界

朱耕彥

安徽

理門

施廣德

山東

商界

蔡漢餘

江蘇溧陽

商界

興武九 無字派

朱祥林

山東濟南

商界

江淮四 學字派

王寶生

上海

商界

清門考源

阮學仁

河南橫川

商界

谷慶餘

河北威縣

商界

張文祿

河北漢陽

商界

卞金樑

鎮江

商界

李玉亭

山東

商界

湯才高

甯波

商界

嚴青雲

山東

軍界

清門考源

林洪水 侯習文 秦杏元 陳君實 陳鳳祥 劉國安 蕭連生

浙江定海 河北順德 上海浦東 河南開封 河南開封 河南開封 湖南

商界 商界 商界 商界 商界 農界 商界

祝連成 郁志根 夏連良 張連生 許志成 趙永福 顧文達

河北南和 浙江定海 上海 江蘇瀏河 江蘇海州 河南開封 寧波

工界 商界 商界 商界 商界 商界 商界

興武四學字派

王恩光 安錦榮 邱金虎 呼光榮 孫榮耀 郭根寶 雷鳴夏

羅先 子仁

山西介休 山西平遙 山西平遙 山西平遙 河南鄧縣 浙江 山西平遙

商界 商界 工界 商界 軍界 商界 工界

李朝清 吳保元 孟宗昌 武景福 張肖五 楊寶和 鄧步高

嚴修

山東汶上 河南開封 山西文水 山西平遙 安徽合肥 山西平遙 山西平遙

軍界 學界 商界 商界 交通 商界 商界

興武六學字派

尹起貴 李榮卿 李春棟

關殷 振驥

河北宛平 河南南陽 山西平遙

商界 商界 商界

王世宗 李發耀 李秀

祥甫

山西平遙 山西沁縣 河北

商界 醫師 商界

李永寬
李文漢
邵連廣
馬鳴和
雷元世
顧金生

雙子

震卿

河北大興
江蘇江都
浙江舟山
山西祁縣
山西平遙
江蘇南通

工界
商界
商界
政界
學界
商界

李景懋
邢學富
金耀宗
傅忠魁
鄧康成
顧爭青

子謙

堉陶

河北宛平
河北漢陽
浙江寧波
河北大名
山西平遙
浙江杭州

商界
政界
商界
軍界
軍界
商界

王翠樓
任本遠
李鳳台
唐白屏
黃世恩
張應銘
彭福興
閻憲章

惠晉

河北遂平
河南汝南
河南汝南
河南汝南
山東曹縣
河南汝南
無錫
河南臨潁

商界
商界
商界
商界
會計
警界
商界
商界

任大嘉
李鴻珊
谷鍾嶠
項瑞芳
張誠善
程國英
劉忠顯

香圃

子豪

河南鄆城
山東曹縣
山東定陶
河北寶坻
河北東麟
湖北黃安
天津

商界
警界
理門
商界
商界
商界
商界

嘉興六衛 學字派

方英
監小亭

湖北
貴州

工界
政界

劉小安

江西

商界

滑門考源

嘉白學字派

王占恩

國賓

山西介休

工界

白本純

山西介休

商界

宋光鼎

子平

山東萊州

醫界

杜宗傑

山西介休

學界

孫忠海

玉書

河北昌平

商界

姚兆蘭

河南唐河

西醫

梁宗超

張其宵

河北冀縣

學界

郭紹先

山西介休

商界

陳啓麟

雲亭

山西介休

學界

張曙青

山西介休

學界

張其宵

安徽寧國

中醫

張永祥

山西介休

軍界

董兆麟

凌雲

山西介休

學界

趙有奎

山西介休

學界

韓學良

子才

安徽寧國

中醫

趙有奎

山西介休

軍界

鎮前學字派

侯戊辰

侯戊辰

河南臨潁

商界

侯戊辰

河北任邱

理門

楊林海

楊仲卿

河南臨潁

商界

楊仲卿

河北任邱

商界

解壽伯

醫師

河北鉅鹿

醫師

杭三學字派

方志祥

理門

山東萊陽

理門

王玉珊

河南舞陽

學界

安士龍

學界

山西靈縣

學界

陳啓亮

河北昌平

商界

程樹華

學界

山西太原

學界

葉世哲

河南魯山

學界

謝富洋

學界

河南魯山

學界

葉世哲

河南魯山

學界

雙鳳學字派

王吉夫

湖北

工界

重子卿

浙江寧波

商界

董吉慶

江蘇徐州

商界

興武九學字派

沈菊林

上海

商界

曹安昌

山東

警界

清門考源跋

我清門書籍，俗名通漕，蓋這輪漕米時代之祕寶也，洪楊以後，清廷查禁，所有遺乘冊籍，損失殆盡，偶有抄存，亦屬東鱗西爪，欲求完整之篇，必待我同道之努力於沙裏淘金之工作，完成重訂我清門冊籍之使命。

溯自民國九年發公東髮入幫以來，即隨清門先進，楊公長標，參加航船公會組織，後又襄辦航政局文書事宜，民國十七年又從事於整理全國帆船登記工作，公務之暇，得聆楊公及各幫先進講述，吾清門道義，運漕史略，漸知梗概，引起發公研究清門道義之興趣，後在滬濱，聯閩世界書局出版清洪幫演義一書，為虞山吳公雄所編，篇中所述，與發公耳濡目染，完全不同且多向壁虛造，跡近挾嫌侮辱，發公經此打擊，更增研究道義正本空源之決心，於是不惜重資，搜羅清門道義書籍，不辭跋涉，到處訪道求師，以期博採周諮，有所廣益，先後拜讀，（通漕寶筏）（清譜彙選）（漕運指南）（清門統鈔）（道義詮真）（運漕外史）（道義彙編）（安清通考）（通漕寶鑑）（道義金鑑）（通漕概要）（清門真傳）（學道須知）（簡明通漕）（漕運探原）（道義指南）（清幫道義）（義氣千秋）（安清系統錄）（清門通鑑）（安清易知錄）（清門通史）（進道證書）（道義綱要）（學道宜覽）（清史精華）（清門溯源）（道義正宗）（三菴全書）（渡世寶筏）（三菴寶鑑）（渡世金針）（安清家語）（萬善同歸）（禮門義路）（道義摘菁）（清門史乘）（安清史稿）（進家譜摺）（清史撮要）（安清秘笈）（道義千秋）（安清道義）（道義初階）（通漕綱要）（安清統鈔）（清門考源）（漕運正宗）（青幫通漕匯源）等書數十種，又借觀私家秘藏珍本，各地手抄稿藉，零金碎玉，斷簡殘篇，以數計之，當在一百二十種之多，拜讀再三，雖觀堂異，或失之繁複，或流於簡漏，大都詳於掌故，略於典義，最令人不解者，歷代祖師姓名年籍，亦竟人各異詞，莫衷一是，至於術數名冊，船隻數目，宗譜演派，幫規儀注，則

更各說不同，以訛傳訛，真義盡失，而自金非，推原其故，皆因習俗相沿，悉憑口傳心授，或有家藏冊籍，視為祕寶，珍藏而藏，不獨不易轉示問道，卽本門弟子，亦不容拜閱，莫測高深，偶一二得意弟子，叩請慈悲，必待其酒酣耳熱，信口發揮，不復東顧西顧，略焉不詳，甚至有頭無尾，鑿鑿全豹，有因南北語言隔閡，音字相訛，以致亥豕蒼魚，依稀彷彿，資質聰穎之人，尚可揣摩推想，知識愚竅之徒，遂奉爲金非玉臬，甚至有頻加渲染，編爲神話，牽強附會，無從考證，真正之清門道義精神，轉至湮沒淨盡，蓋公口擊心傷，自維力薄，本不敢以略知清門道義自許，第以進幫廿餘年，見聞所及，得知佛教臨濟宗派，與吾清門宗譜，實同根源，前廿四代，並無異同，後考佛教之禪門日誦，亦有載明，方知我清門今日所傳，已是音同字異，全失本真，如（興）（禮）（悟）（覺）實係（行）（理）（無）（學）之誤，後得前清漕運總督楊公錫綬所編訂之（漕運則例纂）手抄祕本全部十冊，再與清門通漕書籍，互相考證，詳加校對，對於銜幫名稱，船隻數目，更有根據，並知（江淮漕幫）實係江淮第四幫之簡稱，祇應稱江淮四幫，不應加三點水旁，（新五六幫）（新河溜幫）均係與武衛第六幫之字誤。

今者，陳國屏道兄集各地通漕冊籍之大成，重印清門考源三版行世，拜讀之餘，甚佩鴻才碩學，裕後光前，清門道義精神，從茲發揚光大，傳之無窮，不亦庶乎，是爲跋。

民國卅五年七月

通道劉整公謹跋